捃拾帖

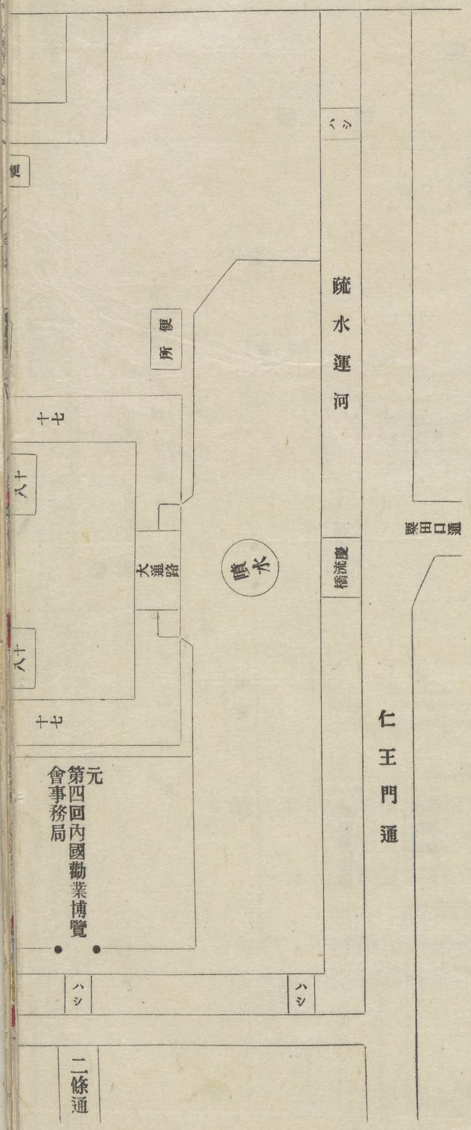
明治二十八年分

丗五

A 00
6010

明治廿八年十月廿二日平安神宮ニ於テ平安遷都千百年紀念式擧行ニ付
左圖ノ場所ニテ宴會及餘興其他各會等開設スル左ノ如シ

一ハ　玉座　　二ハ　便殿
三ハ　皇族親任官仝待遇者着座　　四ハ　外國公使着座
五ハ　高等官仝待遇者貴衆両議院議員府會議員着座
六ハ　市參事會員市會議員紀念祭委員外國來賓協賛會員諸員着座
七ハ　舞樂　　八ハ　受付
九ハ　紀念式參列員休憩所　　十ハ　外國來賓休憩所
十一ハ　紀念祭宴會席　　十二ハ　樂隊
十三ハ　競馬　　十四ハ　紀念祭事務所出張所
十五ハ　市醫出張所　　十六ハ　京都美術協會展覽會
十七ハ　五二會京都品評大會　　十八ハ　來賓車夫溜



A00-6010
東京大學圖書之印
B 61009
男爵田中美津男氏寄贈
先代田中芳男旧蔵書
昭和七年

平安遷都千百年紀念式次第

十月廿二日

當日午前九時式場ヲ裝飾ス

御名代御臨場龍尾壇ニ於テ御下乘府知事御先導便殿ニ御着

市參事會員市會議員紀念祭委員及協贊會長幹事ハ御車寄ニテ奉迎

次　來賓ハ休憩所前ニ於テ御通過ノ節敬禮

次　同十時市參事會員市會議員紀念祭委員西步廊ニ着ク

次　外國來賓協贊會幹事評議員委員西步廊ニ着ク

高等官同待遇者兩院議員府會議員諸會社長東步廊ニ着ク

次　皇族親任官同待遇者殿上東側ニ着ク

外國公使同西側ニ着ク

御名代御着座　此間奏樂（軍樂隊）

京都市參事會知事奏文ヲ上ル

次　勅語

内務大臣祝詞

紀念祭協贊會總裁祝詞　此間奏樂（軍樂隊）

次　舞樂ヲ奏ス　賀殿　長保樂

次　御名代便殿ニ御退座

御名代御退出　市參事會員以下御車寄ニテ奉送

次　來賓ハ東西步廊ヲ下リ敬禮

來賓退散

正午饗宴

餘興

舞樂

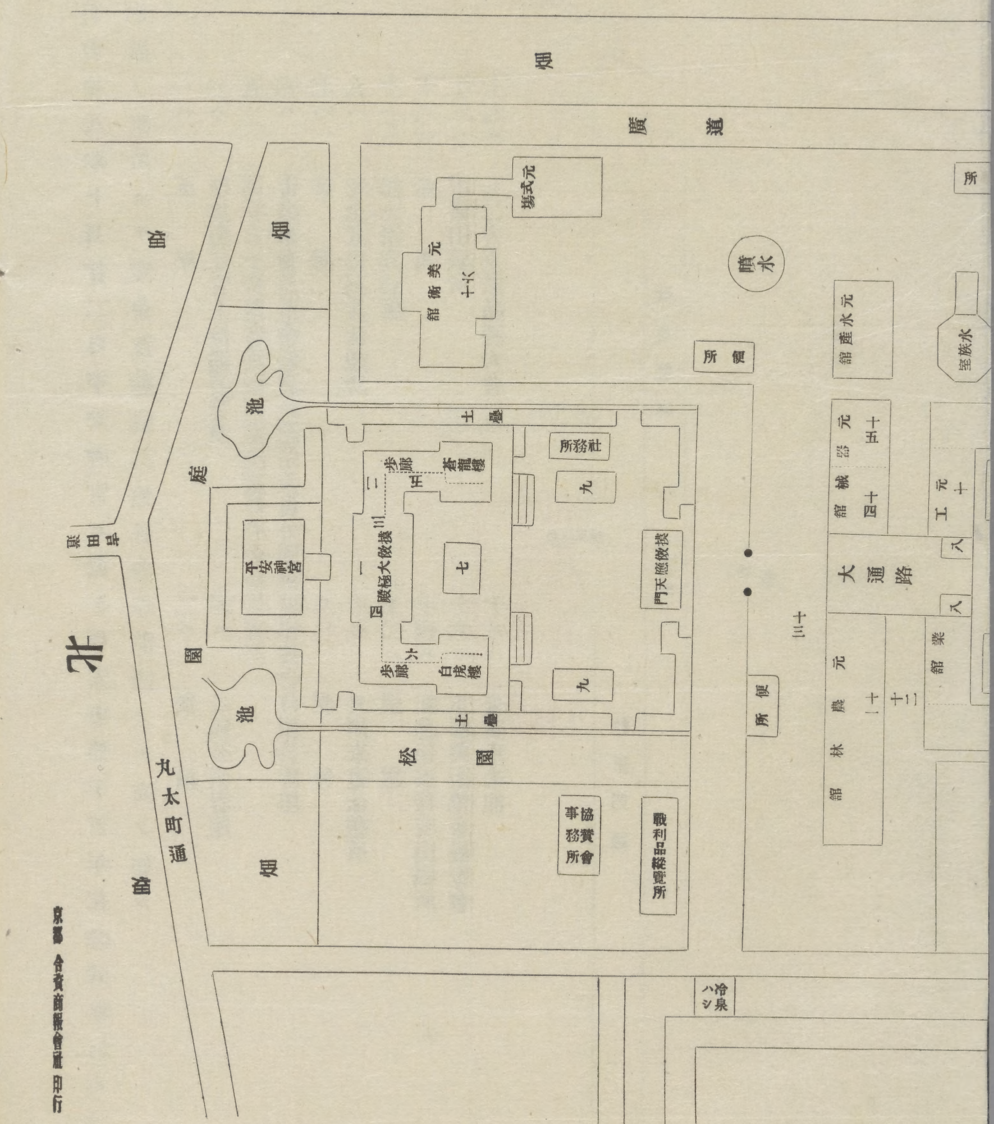
打毬樂

狛鉾

競馬

紀念祭上案内

差出被下度候



京都 合資商報會社 印行

明治二十八年十月廿二日

平安遷都紀念祭舞樂目錄

振舞
萬歲樂　延喜樂
賀殿　長保樂
打球樂　狛鉾

二節

舞樂說明

振舞 凡ソ舞樂起ラントスルノ初メ此曲ヲ舞フ初中後ノ三節アリ天地ノ神祇及ヒ先靈ヲ祭ルノ意ナリ

萬歲樂 用明天皇御製ニ係ルモノナリト云フ凡ソ行幸船樂賀儀等ニ用ユ

延喜樂 醍醐天皇延喜年中笛師和邇部道麿ノ作ルトコロニシテ式部卿敦實親王舞ヲ作リ年號ヲ以テ曲名トスト云慶莚ニハ必ス之ヲ奏ス

賀殿 此曲ハ仁明天皇ノ承和年中ニ遣唐使掃部頭藤原貞敏琵琶ヲ以テ習ヒ傳ヘタリシモノナリ同天皇ノ嘉祥年中ニ從五位下笛師和邇部太田麿勅ヲ奉シテ嘉祥樂ヲ作レリ是ニ於テ嘉祥樂ヲ破トシ賀殿ヲ急トシ迦陵頻急ヲ道行トシテ此三曲ヲ合シテ一樂トナシ林眞倉ヲシテ賀殿ノ舞ヲ作ラシメタリ　堀河天皇嘗テ閑院ニ幸シ相撲御覽ノ時萬歲樂ヲ奏セシコトヲ命シ給ヒシニ大江匡房ハ賀殿ヲ奏セント請ヒ則チ狛光季ヲシテ之レヲ舞ハシム時人謂ラク匡房蓋シ閑院ノ新成シタルヲ以テ之レヲ奏セシメタルナリト今　神殿ノ新成ニ當ツテ此曲ヲ奏ス倘ホ其意ナリ

長保樂 高麗樂ノ一ナリ長保中傳來ス因テ樂ニ名ツクト云

打毬樂 武德殿騎射ノ後唐ノ衣冠ヲ着ケ馬ニ乘リ毬子ヲ走ラス其時此曲ヲ奏ス因テ名ツクト云フ

狛鉾 高麗樂ノ一ナリ傳ヘ云フ高麗國ノ人本邦ヘ渡航ノ時船ニ棹サスノ狀ヲナリト云

京都 合資商報會社印行

差出被下度候

平安遷都千百年紀念式
四月三十日
午前九時三十分來會諸員參着
仝　十時來會諸員式場へ着席
以下式ノ次第ハ當日配布ス
式了テ來賓休憩所へ退ク
正午　饗宴
餘興

謹啓陳者本市平安遷都千百年紀念祭擧行ニ就テハ厚ク御賛襄被成下深ク感謝ノ至ニ候即本月三十日平安神宮ニ於テ紀念大祭執行致候間萬障御繰合セ同日午前九時御來會被下度希上候右御案内申上度如此御座候敬具

京都市參事會
明治廿八年四月一日　京都府知事渡邊千秋

田中芳男殿

追テ當日御來會ノ節禮服フロックコート又ハ羽織袴着用ニテ神宮應天門前受付ヘ御名刺御差出被下度候且乍御手數御來會ノ有無共四月廿五日迄ニ御一報相煩シ度候

平安神宮時代祭行列圖

十月二十二日競馬番組

階下 左方 星野眞直
後見 中大路季滿
肝煎 山岡本本清右政顯

階下 右方 增澤季宴
後見 山本孝氏
肝煎 中山大本路經商顯生

番	方	騎手	
壹番	左	堀內清明	藤井駒吉
	右	岡本季照	辻庄三郎
貳番	左	關目琴季	山本長五郎
	右	山本善顯	山本榮次郎
參番	左	中大路季令	小林幸三郎
	右	堀內辰千代	佐竹甚五郎
四番	左	藤本賴直	岡田淺右衛門
	右	西岡世清	吾川捨次郎
五番	左	山本吉若	蔭山庄右衛門
	右	岡本清員	木村彌助
六番	左	藤木兼直	中村源之助
	右	藤木永吉	中村久五郎
七番	左	岡本福若	大東清右衛門
	右	山本忠清	山本九兵衛
八番	左	中大路賢顯	川久保孫左衛門
	右	西池氏明	谷川興七郎
九番	左	錦部保歎	田邊寅次郎
	右	岡本清之	谷口重右衛門
拾番	左	岡本保善	澤田作右衛門
	右	藤木鶴三	伊佐駒次郎

差出被下度候

十月二十二日競馬番組

平安遷都千百年紀念祭は十月十五日より十一月十五日まで執行ある者にて、其間大祭擧行其他種々の催し者の期日は大要左の如し

◎**紀念大祭**　十月廿二三四の三日間に擧行あり

◎**市中滿飾**　廿二三四日間戸々家々大に飾り立つ

◎**祇園祭**　十七日宵祭にて鉾山の囃しあり十八日本祭りあり

◎**時代行列**　十月二十五日市中を練り行く

◎**武德祭**　廿五日武德大會　廿六七八日の三日間

◎**新古美術展覧會**　十月十五日より三十一日間開會

◎**日本青年繪畫共進會**　十月十日より三十五日間開設あり

◎**五二會物産品評大會**　十月十五日より三十二日間京都の製産品を陳列し販賣及品評す

◎**征清軍戰死者追悼大法會**

西本願寺　十月十九日より三日間

東本願寺　十月廿五日より三日間

◎**戰捷大祝賀會**　十月廿九日

東本願寺舊境内に於て擧ぐ

余興には能狂言、烟火、樂隊、角力、擊劍、抹茶、生花、作物等を始めめざましき新奇珍妙なる趣向物多々あり境内一般無數の國旗毬燈もて滿飾する筈なり

◎**社寺寶物展覧會**　十月十五日より三十日間各社寺に開設あり

◎**都踊**　十月二十日より十六日間　**温習會**　十一月九日より五日間興行

以上

拾番

左　右

岡　藤

本　木　伊

時代祭行列
前列
第一列 延暦文官参朝式
第二列 延暦武官出陣式
第三列 藤原公卿参朝式
第四列 城南流鏑馬式
第五列 織田公上洛式
第六列 徳川城使上洛式
第七列 市名誉委員 数十人
第八列 軍楽隊
此外各町従代 麻上下着用 六千人以上
一 延暦式 文官行列ノマヽニシテ優々迫ラサル姿

差出被下度候

テ當日御來會ノ節禮服（フロックコート又ハ羽織袴）
用ニテ上京區岡崎町疏水慶流橋北受付へ御名刺御
差出被下度候

○平安遷都千百年紀念祭

十月十五日ヨリ十一月十五日迄

大祭ハ十月二十二日ヨリ三日間

○紀念大祭ノ節ニハ

天皇陛下ノ行幸請願中ナリ

古代ノ舞樂東遊等ヲ奏ス

古代ノ競馬ヲ催フス

能狂言ヲ催フス

相撲ヲ催フス

○十月二十五日左ノ行裝ニテ時代祭ヲ行フ

延暦時代文武官式

藤原時代文武官式

城南流鏑馬式

織田信長上洛式

德川時代諸侯入京式

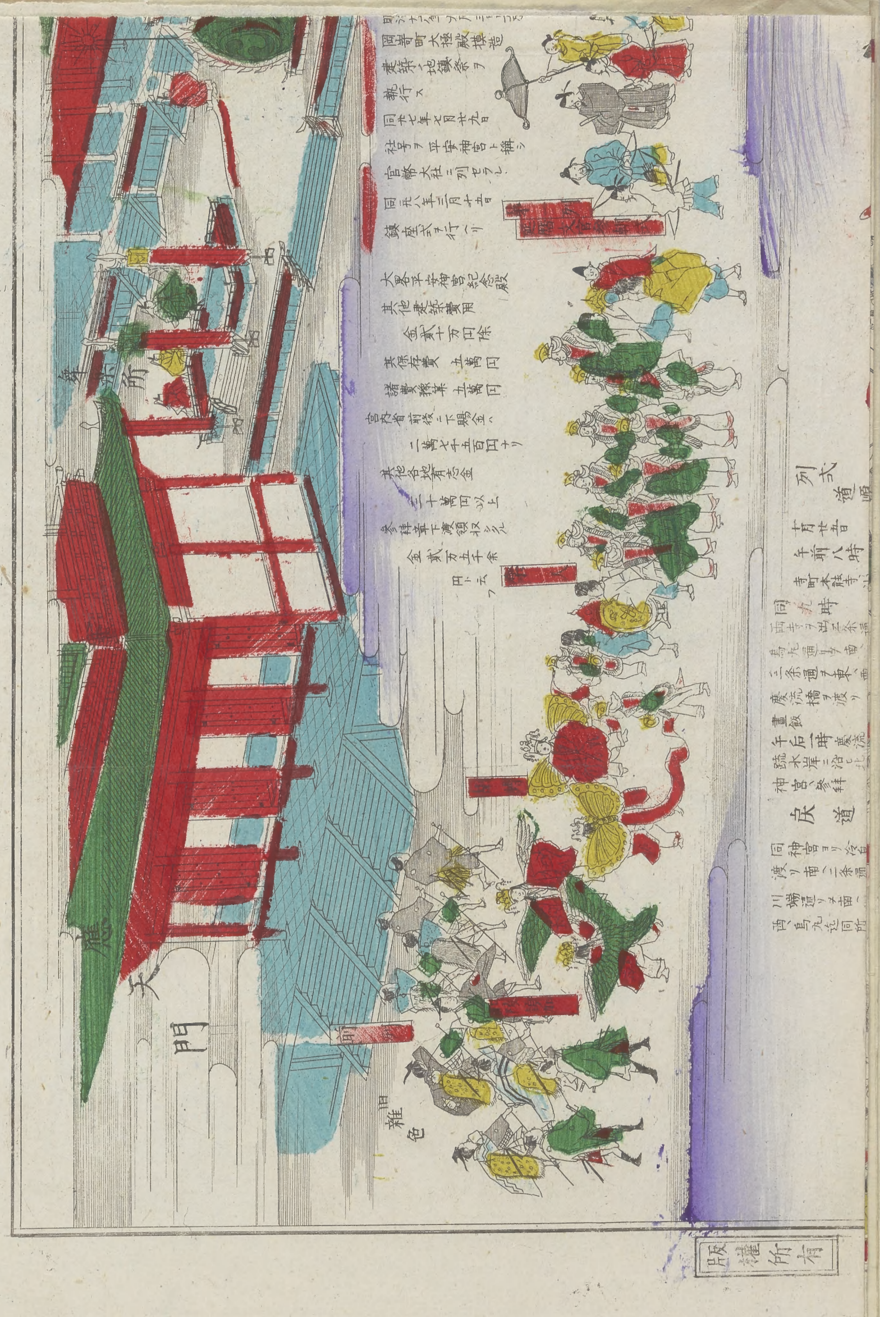
○十月二十五日ヨリ三日間武德祭ヲ行ヒ各地名士ノ武術ヲ演ス

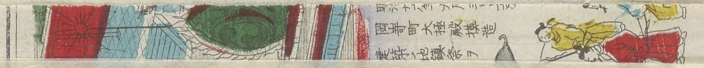
○十月十日ヨリ十一月十五日マテ日本青年繪畫共進會アリ

○十月十五日ヨリ十一月十五日マテ新古美術展覽會アリ

○祭典ノ期限中ニハ京都及ヒ接近ノ神社佛閣ニ於テ臨時祭典法會ノ執行寳物ノ

展覽多シ





近府縣ニモ種々ノ催フシアリ
京都近邊ニ於テ松茸狩ノ遊ヨロシ
又高雄嵐山等紅葉ヲ染メテ風景最モヨロシ
○紀念祭ノ爲メ京都ニ來ラルヽ節協賛會ヨリ發行セシ割引票ヲ差出ス人ニハ滊車滊船賃ノ割引アリ其ノ大畧左ノ如シ
○十月十五日ヨリ十一月十五日マテ更ニ割引ヲナス分
官設鐵道（二割引）日本鐵道（二割引）炭礦鐵道（五割引）甲武鐵道（二割引）両毛鐵道（二割引）參宮鐵道（三割引）
九州鐵道（二割引）日本郵船（五割引）
○八月六日ヨリ十一月十五日マテ引續キ割引ヲナス分
山陽鐵道（二割引）播但鐵道（二割引）阪堺鐵道（二割引）關西鐵道（三割引）大阪鐵道（二割引）奈良鐵道（二割引）
總武鐵道（二割引）筑豊鐵道（二割引）讃岐鐵道（三割引）關西同盟滊船（二割引）土佐郵船（二割引）淀川滊船（三割引）
大津大湖滊船（三割引）熱田日本共立滊船（三割引）宮津丹州滊船（二割引）阿波共同滊船（二割引）石川縣下加能滊船（二割引）石川縣下春陽丸（五割引）
石川縣下第二能登丸（五割引）
但關西同盟滊船ハ大阪商船會社、共榮滊船會社、宇和島運輸會社、伊勢滊船會社、伊万里運輸會社、太湖滊船會社、大川運輸會社、尼ケ崎滊船取扱共同組、山本組取扱滊船、朝日運輸商店取扱滊船ノ十社ナリ
○紀念大祭ノ順序次第書ハ參拜ノ節受付ニ於テ進呈ス
○紀念大祭ヲ始メ神社佛閣祭典法會寶物展覽及ヒ遊覽所等詳記セル小冊子ハ參拜ノ節受付ニ於テ進呈ス

京都合資商報會社印行

謹啓陳者本市平安遷都千百年紀念祭擧行ニ付テハ厚ク御賛襄被成下深ク感謝ノ至ニ候即十月廿二日平安神宮ニ於テ紀念大祭執行致候間萬障御繰合當日午前九時御来會被下度希上候右御案内申上度如此御座候敬具

京都市參事會

明治廿八年九月廿五日　京都府知事渡邊千秋

田中芳男殿

追テ當日御来會ノ節禮服（フロックコート又ハ羽織袴）着用ニテ上京區岡崎町疏水慶流橋北受付ヘ御名刺御差出被下度候

拜啓益御清穆奉賀候陳ハ来ル四月一日本會倶樂部開舘候ニ付午後七時夜會相催候間萬障御繰合ノ上御来臨被成下度此段及御案内候敬具

三月廿八日

祇園花見小路待賓協會
會長　渡邊千秋

拜啓陳者来ル廿三日午前第八時京都市議事堂ニ於テ本會開會式擧行可致候間御貴臨被成下度此段御案内申上候敬具

明治廿八年五月　日

帝國教育大會長　渡邊千秋

田中芳男殿

追テ當日御貴臨ノ節本状御携帯被成下度候

來ル四月一日ヨリ本會開設ニ付
御來觀ノ為メ優待券二葉致
進呈候敬具

明治二十八年三月廿五日

第四回内國勧業博覧會副總裁子爵榎本武揚

拝啓陳者來ル廿五日當場ニ於テ時代品展覧會開場式執行候ニ付萬障御繰合同日午前十時御臨場被成下度此段御案内申上候也

明治廿八年三月

博覧協會々長 三井八郎次郎

田中芳男殿

追テ御臨場ノ節本書御携帯被成下度候

THE 4th. NATIONAL INDUSTRIAL EXHIBITION.
Okazaki-machi, Kyoto, 28th. Year of Meiji.

COMPLIMENTARY TICKET
ADMITTING ONE PERSON DAILY.

The Bearer of this Ticket will please show it to the attendant upon entrance.
NOT TRANSFERABLE.

第四回内國勧業博覧會
明治二十八年
開會中入場ヲ許ス入場ノ際門衛ニ示スヘシ
優待券
一枚一人ニ限ル他ニ之ヲ貸與スルヲ禁ス
貴族院議員 田中芳男殿
京都岡崎町

列ノ栄諾ヲ得候然ルニ本
年紀念祭擧行ノ際モ
随分多数ノ参拝者可
有之見込ニテ其節モ本
會發行紀念章乎又モ
参拝章佩用無之方ニ
ハ御待遇上自然敬禮
ヲ相缺候事有之哉モ難
計候仍テ参拝章御手
許迄差出置候間御参
拝被為在候節ハ御佩
用被成下度匆々不宣

明治廿八年二月七日
紀念祭協賛會
小室信夫
伊丹重賢

田中芳男殿

平安遷都紀念祭協賛會

東京市京橋區木挽町一丁目十一番地

拜啓冱寒之候彌御清穆奉恭賀候陳者御承知モ被為在候通リ本年ハ平安遷都千百年ニ相當シ候ニ付京都市民ハ紀念祭擧行ヲ企テ來ル四月ヲ期シテ盛大ナル祭典ヲ擧行セント專ラ準備罷在候該祭ハ實ニ千歳ノ一遇ト相考ヘ全國有志者ノ賛同ヲ得テ紀念祭協賛會ナルモノヲ組織シ延暦ノ當時桓武天皇ノ殊ニ御心ヲ留メ玉ヒシ大極殿ヲ摸倣建築仕候仍テハ四方參拜ノ便ヲ得セシメン為メ參拜章製シ及往來ノ便ヲ求メン為メ全國滊車滊船賃割

桓武天皇
平安遷都
千百年紀念祭協賛會
京都事務所
京都市上京區

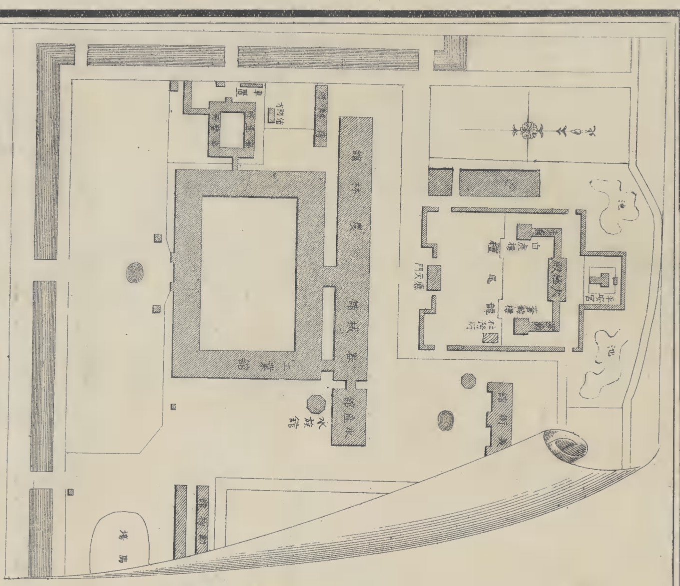
東京市京橋區木挽町一丁目十一番地

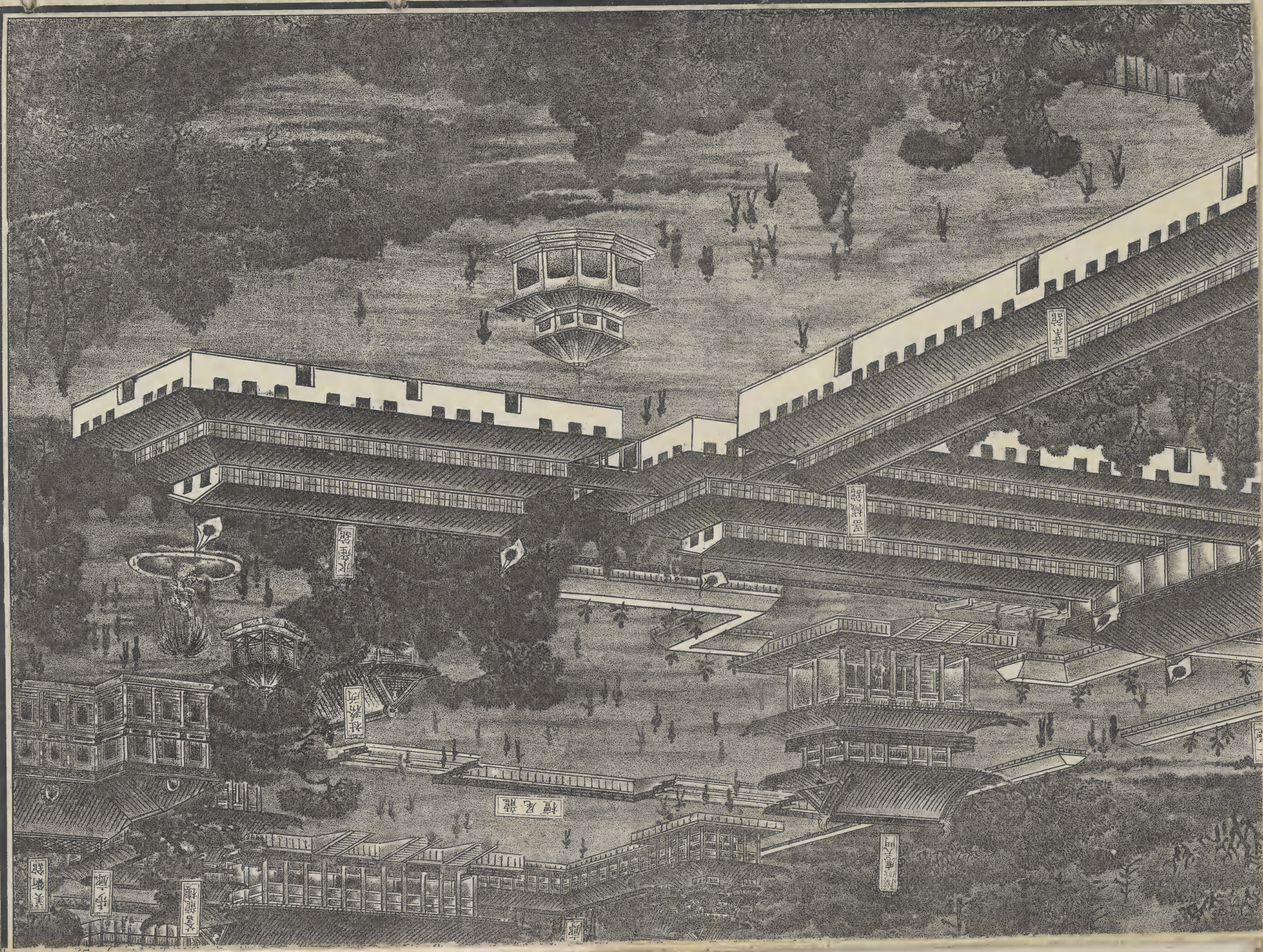
拜啓沍寒之候祢御清穆奉恭賀候陳ハ御承知モ被為在候通リ本年ハ平安遷都千百年ニ相當セシニ付京都市民ハ紀念祭擧行ヲ企テ来ル四月ヲ期シテ盛大ナル祭典ヲ擧行セント專ラ準備罷在候該祭ハ實ニ千歳ノ一遇ト相考ヘ全國有志者ノ賛同ヲ得テ紀念祭協賛會ナルモノヲ組織シ延暦ノ當時桓武天皇ノ殊ニ御心ヲ留メ玉ヒシ大極殿ヲ模倣建築仕候仍テハ四方參拜ノ便ヲ得セシメン為メ參拜章ヲ製シ及往来ノ便ヲ求メン為メ全國滊車滊船賃割

桓武天皇平安遷都
千百年紀念祭協賛會
京都事務所
京都市上京區岡崎町

平安神宮建築一覧表

	桁行及梁間	坪數
本殿	桁行廿七尺八分 梁間廿八尺三寸五分	廿一坪三合三勺
透塀	長二百八十六尺	
祝詞屋	桁行廿尺三寸八分 梁間十一尺八寸四分	六坪七合
後門	柱間九尺	
摸倣大極殿	桁行百十尺 梁間四十尺	百廿二坪二合七勺
歩廊	桁行三百卅八尺 梁間十三尺	百廿二坪。七勺
蒼龍樓	桁行卅二尺四寸八分 梁間卅二尺四寸八分	廿九坪三合
白虎樓	桁行卅二尺四寸八分 梁間卅二尺四寸八分	廿九坪三合
龍尾檀	長三百八十尺	
摸倣應天門	桁行六十尺 梁間廿四尺	四十坪
土壘	二千。。四尺	





大極殿 平安宮 博覧會全圖

明治廿八年五月　日

著作人　金久兵助

明治廿八年十月廿三日廿四日於旧内國博覧會場
平安遷都千百年紀念祭協賛會夜會餘興

番組

祇園新地女紅場

寿

風流

舞

頃

唄 森 君相
〃 鈴木小三
〃 地方 武田たか
〃 小野君静
〃 渡辺久菜
〃 高澤勝路
〃 辻 はな
三弦 平田小藤
〃 三上光
小鼓 同 小雛
大鼓 同
太鼓 小光

祇園新地女紅場

長谷川るき
笛 桐村市福
〃 村岸小松
三弦 吉田静
〃 御園市松
〃 中谷玉菜
〃 村岸秀路

囃子

寿

上七軒女紅場

やまや光

獅子

唄 長谷川まき
〃 竹内菊鳥
〃 山口市子
三弦 村岸千栄
〃 小林志な
〃 岡田吾栄
〃 松本玉路

唄 山本光千代
〃 大藪くに
〃 岩橋菊雪
〃 平田かつ川
〃 内田菊吉
鼓 有岡花吉
〃 吉岡春吉
〃 多 朧尾
三弦 植松鶴雪
〃 西根たけ
〃 森谷菜菊
〃 山崎一
大鼓 山本小福
小鼓 岩崎小柳
〃 吉岡梅尾
太鼓 大藪てる
〃 出雲花香

拜啓陳者第四回內國
幷ニ水族館工事落成
場(和田岬和樂園)
右日時御參場相成
明治二十八年三月
兵

田中共

第三回藥物展覽

凡ソ學術ノ奬勵推輓ハ新誌時報ト集會討論トノ介助ヲ籍ルヲ常トス、日本藥學會亦夙ニ兩者ノ設アリト雖モ、我藥學攻究及ヒ應用ノ成果タル實物ヲ一堂ノ中ニ排列シ、新誌集會ノ外親シク斯學ノ進步ヲ目徵シテ將來擴張ノ地步ヲ造ルハ我同志者ニ於ケル最モ緊切ノ責務ナルニ非ラスヤ、我日本藥學會ハ去ル明治二十三年ニ於テ第一回藥物展覽會ヲ東京九段坂上富士見軒ニ設ケ、第二回ヲ同二十六年帝國大學小石川植物園ニ開キ共ニ鮮カラサル學益ヲ享受セリ、而〆第二回ノ成績之ヲ第一回ニ比スレハ大ニ斯學進步ノ實ヲ示セシヿ頗ル吾人ノ欣喜スル所ナリキ、只憾ム已上兩度ノ展覽會ハ共ニ之ヲ東京ニ開設シタルガ爲メ日本藥學ノ利益ヲ企圖スルニ就テ聊カ偏頗ノ嫌ナキニアラサルヿヲ、我輩玆ニ感スル所アリ後來開設ノ地ヲ轉換シ或ハ關東ニ或ハ關西ニ或ハ北海道ニ或ハ九州ニ逐次循環汎ク本邦藥學ノ普及ヲ計ラント決シ先ツ明治二十八年ヲ期スル第三回ノ開會地ト〆京都市ヲ選定シタリ、抑モ京都ハ桓武天皇奠都以來一千有百年ノ勝地ニ〆本邦文華學術ノ產出地タルノミナラス、全國商工貿易ノ一大中心タル阪神ノ地ニ接近シ、現今ニ於ケル藥業界ノ近況ヲ視察スルノ便亦尠シトセス況ヤ今年內國勸業博覽會ノ開設亦此地ニ在リテ內外人士ノ雲集期シテ待ツヘキニ於テオヤ、今ヤ此好機ヲ空フセス我會員及同志者諸氏ノ出品ヲ蒐集シテ玆ニ第三回藥物展覽會ノ開設ヲ遂クルヲ得タリ、此擧ヤ藥學進步ノ勝事ヲ幾旬中樞ノ勝地ニ觀ル我邦藥學藥業ノ面目之ヨリ益〻開進スルノ一大動機タランカ、玆ニ藥物展覽會目錄ヲ調製スルニ臨ミ謹テ一言ヲ冠ス

第一區　圖書部　第二區　自然產物部　第三區　生藥部　第四區　化學品部
第五區　製劑部　第六區　衛生化學部　第七區　裁判化學部　第八區　器械裝置部

◎日本藥學會規則ノ摘要ヲ示シ同會現任役員ノ氏名ヲ附記スルヿ左ノ如シ

第一條　本會ハ藥學篤志ナル者ノ會同ニシテ斯學ノ進步ヲ圖ルヲ以テ目的トス
第二條　本會ヲ日本藥學會ト稱シ之ヲ東京ニ置ク
第三條　第一條ノ目的ヲ達センカ爲メ每月一回藥學ニ關スル雜誌ヲ發行シテ會員ニ頒ツ
第四條　本會ノ主旨ヲ贊成履行セント欲スル者ハ會員トナルヿヲ得
第五條　入會セント欲スル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ其氏名族籍住所職業ヲ本會事務所ニ通知シ會員證

謹啓陳者明二
區河原町四條
催粗酒差上度
成下度此段得
明治廿八年五月

第二次內國獸醫公會頭
全國畜產集談會頭
前田正名

田中共男殿

追テ御賁臨ノ有無御手數恐縮ニ候得共本日中共樂舘宛ニテ御一報ヲ乞フ

伯爵　正親町實正

to the Pharmaceutical Exhibition

the 15th May from

…esired, that this card is to be
…e entrance of the Exhibition.

[illegible]

チ受クヘシ

第七條　本會ハ藥學上直接或ハ間接ノ功勞アリト認ムル内外國人チ名譽會員トナスコトアルヘシ

第八條　會員ハ會費トシテ一ケ年金貳圓チ一月七月ノ兩度ニ分チ納ムヘシ

第九條　會費トシテ金貳拾圓チ一時ニ納ムルモノハ終身會員トナスヘシ

第十三條　本會ニハ會頭副會頭各一名幹事二名常議員十名編輯委員五名チ置ク

第十九條　會頭副會頭幹事及常議員ハ全會員ノ投票チ以テ在東京會員中ヨリ公撰ス

第二十條　編輯委員ハ會頭之チ特撰シ又ハ評議會ニ於テ撰定ス

第廿一條　役員ノ任期ハ滿一ケ年トス

但再撰スルモ妨ケナシ

第廿二條　總會ハ毎年一月例會及編輯會ハ毎月一回臨時會及評議會ハ隨時之チ開クモノトス

但一月、八月ハ例會チ開カス

第廿四條　例會ニハ藥學上ノ研究説チ報道シ及談話チナス

第卅八條　本會通常ノ出納ハ幹事之チ扱ヒ臨時ノ支出ハ評議會チ開テ之チ定ム

第卅九條　會費ハ本會一切ノ費用ニ充テ尚ホ剩餘ノ金員アルトキハ遞信省貯金預所、日本銀行又ハ第十五國立銀行ヘ預ケ置クヘシ

本會役員氏名

會頭　長井長義　副會頭　下山順一郎

幹事　丹波敬三　幹事　山田董

常議員　上野金太郎　常議員　丹羽藤吉郎

同　平山增之助　同　古屋恆次郎

同　田原良純　同　高橋秀松

常議員　平野一貫　常議員　堀鉞之丞

同　村井純之助　同　曾根二郎

編輯委員　村井純之助　編輯委員　上野金太郎

同　古屋恆次郎　同　岸田吟香

同　平山增之助

明治二十八年五月

東京市牛込區新小川町二丁目八番地

日本藥學會

拜啓陳ハ第四回内國勸業博覽會附屬水族部水族放養場并ニ水族館工事落成候ニ就テハ來ル三十一日午前十時ヲ期シ本場（和田岬和樂園）ニ於テ竣工式執行候間萬障御繰合セ右日時御參場相成候樣致シ度此段及御案内候匆々敬具

明治二十八年三月二十七日

兵庫縣神戸市長　鳴瀧幸恭

田中芳男

第四回内國勸業博覽會
附屬水族部放養場
兵庫共濟株式會社長

武岡豊太

謹啓陳者明二十三日午後五時ヨリ東京區河原町四條上ル共樂館ニ於テ小宴相催粗酒差上度候間萬障御繰合御貴臨被成下度此段得貴意候也敬具

明治廿八年五月廿二日

第二次内國獸醫公會會頭
全國畜産集談會會頭

前田正名

田中芳男殿

追テ御貴臨ノ有無御手數恐縮ニ候得共本日中共樂館宛ニテ御一報チ乞フ

伯爵　正親町實正

拜啓陳ハ來ル五月九日ヨリ同[illegible]五日迄七日間（從午前九時至午後五時）京都東山南禪寺前金地院ニ於テ本會第三回藥物展覽會相設候間御貴臨ノ榮チ賜リ候ハヽ幸甚ノ至ニ御座候敬具

明治廿八年四月廿三日

日本藥學會々頭
理學博士ドクトル　長井長義

田中芳男殿

追テ御來臨ノ節此ノ招待狀御携帶被下度候

Dr. Wilh. Nag. Nagai, the President of Japanese Pharmaceutical Society, requests the honor of inviting

to the Pharmaceutical Exhibition to be held at Konchi-in

the 15th May from

…esired, that this card is to be

…e entrance of the Exhibition.

チ受クヘシ

第七條　本會ハ藥學上直接或ハ間接ノ功勞アリト認ムル内外國人ヲ名譽會員トナスコトアルヘシ

第八條　會員ハ會費トシテ一ヶ年金貳圓ヲ一月七月ノ兩度ニ分チ納ムヘシ

第九條　會費トシテ金貳拾圓ヲ一時ニ納ムルモノハ終身會員トナスヘシ

第十三條　本會ニハ會頭副會頭各一名幹事二名常議員十名編輯委員五名ヲ置ク

第十九條　會頭副會頭幹事及常議員ハ全會員ノ投票ヲ以テ在東京會員中ヨリ公撰ス

第二十條　編輯委員ハ會頭之ヲ特撰シ又ハ評議會ニ於テ撰定ス

第廿一條　役員ノ任期ハ滿一ヶ年トス
　但再撰スルモ妨ケナシ

第廿二條　總會ハ毎年一月例會及編輯會ハ毎月一回臨時會及評議會ハ隨時之ヲ開クモノトス
　但一月、八月ハ例會ヲ開カス

第廿四條　例會ニハ藥學上ノ研究説ヲ報道シ及談話ヲナス

第卅八條　本會通常ノ出納ハ幹事之ヲ扱ヒ臨時ノ支出ハ評議會ヲ開テ之ヲ定ム

第卅九條　會費ハ本會一切ノ費用ニ充テ尚ホ剩餘ノ金員アルキハ遞信省貯金預所、日本銀行又ハ第十五國立銀行ヘ預ケ置クヘシ

本會役員氏名

會頭	長井長義	副會頭	下山順一郎	常議員	平野一貫
幹事	丹波敬三	幹事	山田董	同	村井純之助
常議員	上野金太郎	常議員	丹羽藤吉郎	編輯委員	村井純之助
同	平山增之助	同	古屋恆次郎	同	古屋恆次郎
同	田原良純	同	高橋秀松	同	平山增之助

常議員	堀鉞之丞
同	曾根二郎
編輯委員	上野金太郎
同	岸田吟香

明治二十八年

東京市牛込區新小川町二丁目八番地

日本藥學會

拝啓陳者第四回內國勸業博[illegible]

竎ニ水族館工事落成候ニ就テハ來ル三十一日午前十時ヲ期シ本場（和田岬和樂園）ニ於テ竣工式執行候間萬障御繰合セ右日時御參場相成候樣致シ度此段及御案内候匆々敬具

明治二十八年三月二十七日

兵庫縣神戸市長　鳴瀧幸恭

田中芳男

第四回內國勸業博覽會
附屬水族部放養場
兵庫共濟株式會社長

武岡豊太

謹啓陳者明二十三日午後五時ヨリ上京區河原町四條上ル共樂館ニ於テ小宴相催粗酒差上度候間萬障御繰合御賁臨被成下度此段得貴意候也敬具

明治廿八年五月廿二日

全第

田中芳男

追テ御賁臨ノ有無日中共樂館宛ニテ

拝啓陳ハ來ル五月九日ヨリ同十五日迄七日間（從午前九時至午後五時）京都東山南禪寺前金地院ニ於テ本會第三回藥物展覽會相設候間御賁臨ノ榮ヲ賜リ候ハヽ幸甚ノ至ニ御座候敬具

明治廿八年四月廿三日

日本藥學會々頭
理學博士
ドクトル　長井長義

田中芳男殿

追テ御來臨ノ節此ノ招待狀御携帶被下度候

Dr. Wilh. Nag. Nagai, the President of Japanese Pharmaceutical Society, requests the honor of inviting to the Pharmaceutical Exhibition to be held at Konchi-in (Nanzenzi) in Kyoto, during the 9th to the 15th May from 9 a.m. to 5 p.m. every day.

It is desired, that this card is to be shown at the entrance of the Exhibition.

拜啓陳者来ル五月十二日午後一時大阪府會議事堂ニ於テ工學會第二臨時大會ノ式ヲ擧ケ同六時中之島大阪ホテルニ於テ祝宴相開候條定刻右兩所ヘ御貴臨被下度此段及御案内候也敬具

明治廿八年五月一日

工學會長子爵山尾庸三

田中芳男殿

追テ御貴臨ノ有無ハ来八日迄ニ大阪西成郡曽根崎村工師會内工學會第二臨時大會事務所ヘ御通知被下度且ツ御貴臨ノ節ハ式場幷ニ宴會接伴員ヘ此案内状御示被下度此段申添候也

拜啓陳者今般本會ノ發起ヲ以テ来ル五月廿一、廿二ノ兩日間京都市會議事堂ニ於テ第二次内國獸醫公會相開キ候間何卒御繰合ヲ以テ御臨席被下度此段御案内申上候也

明治二十八年五月

中央獸醫會々頭前田正名

○第二次内國獸醫公會順序

五月廿一日午前八時開會
一、第二次内國獸醫公會開會ノ主旨及報告
二、農科大學御雇教師ヤンソン氏ノ演說
同午後一時開會
一、討議
屠獸場規則及乳牛取締法準則ノ件
獸醫開業試驗規則改正建議案ノ件
獸類傳染病豫防規則改正建議案ノ件
畜産試驗場設置請願ノ件
斃獸取締法ニ関スルノ件

一、學術參考品展覽
五月廿二日午前八時開會
一、本會々頭ノ祝詞
一、京都府知事閣下ノ挨拶
一、勝島農科大學教授ノ演說
一、　演說
一、　演說
一、討議前日ニ同シ
同午後一時開會
一、談話
同午後六時閉會式
以上

拜啓陳者左ノ日割ノ通寺町通御池上ル市會議事堂ニ於テ各實業大會ヲ開設相成候ニ付テハ御繁劇ノ折柄ニハ可有之候得共全國實業者一同ノ所見尊聽ニ達シ置度切望罷在候間御差繰御貴臨被成下度懇禱之至ニ御座候先ハ右御案内迄如此ニ御座候草々敬具

明治二十八年四月一日

全國各實業大會々頭前田正名

田中芳男殿

第二回全國蠶糸業大會　四月[illegible]、四、兩日　午後正一時

第二回全國農事大會　四月六、七、兩日　午後正一時

第二回全國實業各團體聯合大會　四月八、九、兩日　午後正一時

第二回全國燐寸業大會　四月十一日　午後正一時

大日本商工會 日本貿易協會 聯合大會　四月十三日　午後正一時

第二回五二會大會　四月二十日　午後正一時

全國綿フラ子ル大會　四月二十二日　午後正一時

前田正名

全國各實業大會事務所

鎮西館開館式 招待券

田中芳男殿

御来館の節は此券御持參可被下候

京都市新門前仲ノ町
鎮西出品協會
委員長 松尾寛三

拝啓春和之候益々御清穆奉賀候然者博覧會開場以来日尚淺きも頗る好景況に有之遷都紀念祭も亦近つき且つ征清媾和談判も其局を結ひ候に於ては更に一層の盛況を覩るに至るへく邦家之慶事不過之候扨て豫て仰御配慮候我協會の事業も着々進捗鎮西館陳列等粗整頓候に付来る五月三日午后一時開館式擧行仕度幸に御貴臨之榮本懐之至に御座候御案内迄草畧如此御座候敬具

明治廿八年四月 日

鎮西出品協會
委員長 松尾寛三
副總裁 前田正名
總裁 子爵 佐野常民

田中芳男殿

追啓御来館の方々には諸般の祝意を表し紀念の為め我か九州産物進呈仕度の處其種類饒多なるか上に一定の品にては各生産者の意向に乗き且興味薄きに依り數百千種を集合し置き福引を以て進呈可致候間御家族方御全伴にて御来館の程奉待候

御来否乍御面倒折返へし御一報被成下度候

拝啓時下暖氣相加ハリ候處益御清榮奉賀候陳者今般第四回内國勸業博覧會開會ヲ機トシ来ル十日ヨリ十三日迄當市々會議事堂ニ於テ別紙ノ日割ニヨリ本會大集會講談會其他開會候間御来臨被成下度此段御案内申上候也

明治廿八年五月七日
大日本水産會幹事長
村田保

田中芳男殿

追テ御来臨ノ節ハ此狀必ズ御持參被下度尚ホ十日ニハ會頭殿下御臨場ニ付フロックコート又ハ羽織袴御着用相成度此段申添候

拝啓来ル十五日午後三時ヨリ聖護院ニ於テ本會々頭御代理山階宮殿下ヨリ園遊會催サセラレ候ニ付拙者共ヨリ御案内申進候様御沙汰有之候間御貴臨相成度御来否来ル十三日迄ニ黒谷山内浄源院大日本水産會事務所迄御一報煩シ度右御案内候也

明治廿八年五月十日
山階宮別當男爵 真木長義
大日本水産會幹事長 村田保

會員田中芳男殿

追テ御来臨ノ節此狀必ズ御持參被下度尚ホ當日ハ殿下御臨場相成候ニ付フロックコート又ハ羽織袴着用且必ズ本會々員章御佩用相成度此段申添候也
但晴雨ニ拘ハラス開會ノコト

拝啓

日々御執掌御繁労之程[illegible]

水産大會擧行順序

來ル十日ヨリ十三日迄當市々會議事堂ニ於テ左ノ通リ擧行ス

五月十日　午前九時ヨリ會議　會則改正

第十三回大集會　午后一時ヨリ開會

會頭殿下ノ令詞

幹事長答詞

事務報告

京都府知事祝詞

京都市會議長祝詞

來賓演説

有効章贈與式

仝十一日

講談會　午前九時ヨリ午后四時マテ

當日講演者及ヒ演題左ノ如シ

開會ノ趣旨	幹事長	村田保君
北海道ノ水産	會員　農學士	和田健三君
水産食品ニ就テ	醫學博士	坪井次郎君
水産教育	會員	松原新之助君
文明國ノ漁業	仝　理學博士	岸上鎌吉君
水産養殖ニ就テ	仝　理學博士	箕作佳吉君
水産貿易	仝	下啓助君

其他未定　（姓名ハイロハ順ニ據ル）

右終ッテ午后七時ヨリ水°産°幻°燈°ヲ催フス

仝十二日

集談會　午前九時ヨリ午后四時マテ

左ノ各問題ニ付談話若クハ議事ヲナス

農商務省諮問案

一各地漁業組合設置以後ノ成蹟並ニ組合組織及規約等ニ付キ改良ヲ要スル点

本會提出問題

一新規使用セル漁船漁具ノ成蹟及其改良創造ニ就テノ意見

一外國又ハ遠洋出漁ニヨリ得タル成蹟及將來ノ方針

一新規ニ製造ヲ創メタル物品若クハ改良シタル製品ノ成蹟及其改良創造ニ就テノ意見

一新規ニ移殖若クハ養成シタル魚介ノ成蹟及其改良創設ニ就テノ意見

一水産物貿易ノ現況弊害及進歩ヲ圖ル方法

一内外國水産物及製品ノ販路ヲ擴張シタル成蹟及其原因

一共同規則ヲ結ヒ水産事業ニ裨益シタル規約及其成蹟

一貯蓄ノ現況及奨勵法

一遭難救助法

一水産教育ノ現況成蹟及其普及ノ方法

一製鹽法ノ改良及販路擴張ノ方法

以上十二問題

仝十三日

朝鮮近海漁業者聯合第三回協議會　午前九時ヨリ午后四時マテ

田中芳男殿

前納足下
平民
井上幸九

田中芳男殿

明治廿八年五月廿九日

京都第四回総会組長

野村用明

二十二日

規
就
方
製
改
及
其

書ノ部

一鳥

黒甚太郎

軽気球

仙洞作

明治廿八年五月[illegible]

京都菓子商組合組長

野村[illegible]

明治廿八年　月　日

京都市下京區麩屋町通三條下ル町

京都菓子商組合事務所

及規

三就

ノ方

ル製

其改

頭及

其

以上總計

本月二十八日

鴨川河原ニ

下加茂ノ橋

加茂川ノ高

野川ノ合流

中洲ニ〔記〕

宮番重隆

閑院

御通知候

宮番重事

同八年五月二十七日

祝ノ部

出品府縣

度

一白鶴仙

二尭 口 人

一白菊

一鶴壽福禄壽

[illegible]

一 [illegible] 人

一 [illegible] 人

一 [illegible] 人

[illegible]

大阪府

愛知縣

岡山縣

岐阜縣

一形星花火 五人　一萬花火 三人

六月十日午后三時ヨリ同十時マデ出町橋ト荒神橋トノ間ノ砂川原（前回ト同ク備前）ニ於テ煙花打揚審査挙行 雨天順延 其居林左ノ如シ

煙草ノ部

一 雷 出 [illegible] 煙　人 [illegible]　前田 [illegible]

一 [illegible]　[illegible]　人

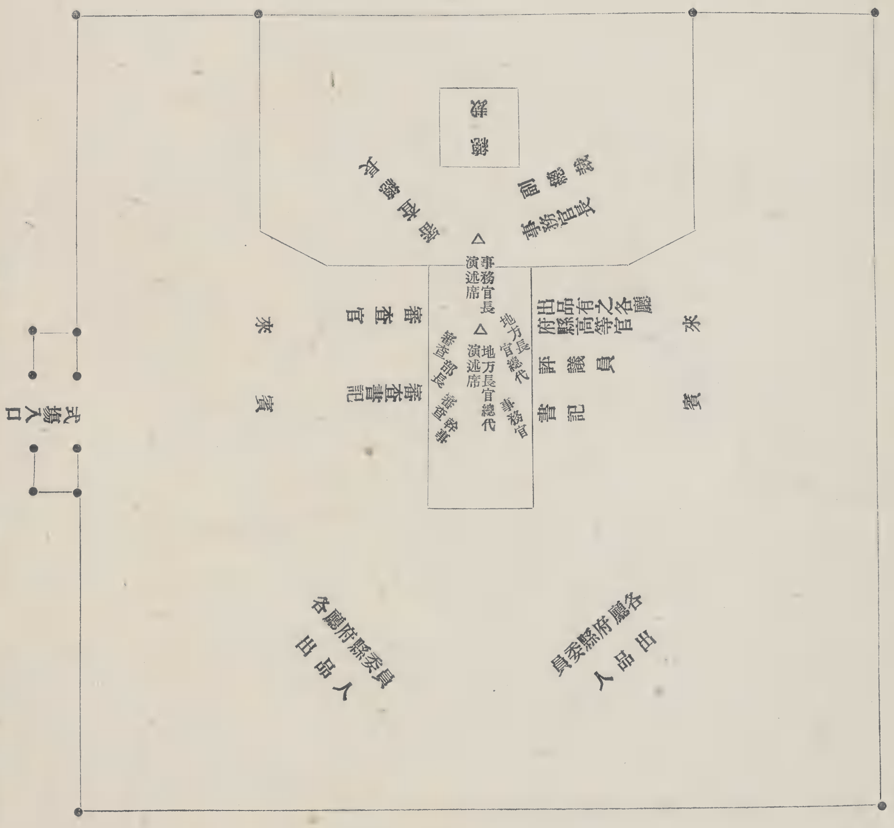
一 黄 煙 [illegible]　[illegible]　人

金 [illegible]

[illegible]

一 [illegible] 煙 [illegible]　[illegible] 人

一 [illegible]　[illegible] 河　五 [illegible]



右之外九名

計五名

第四回内國勸業博覽會閉會式

一本會關係ノ諸員大禮服著用但服制ナキモノハ通常禮服著用
一午後四時三十分審査總長事務官長以下本局諸員及各廳府縣委員出品人參場
一同五時總裁副總裁幷出品有之在京各廳府縣高等官參場
一同五時十五分諸員式場ヘ著席
一同五時二十分總裁ハ副總裁ノ先導ニ依リ式場ニ就ク
　此時樂隊樂ヲ奏ス
一事務官長本會ノ顛末ヲ演テ閉會ヲ請フ
一總裁閉會ヲ告ク
一地方長官總代祝詞ヲ演フ
　了テ樂隊樂ヲ奏ス
一諸員退散

第四回内國勸業博覽會開會式

一本日關係ノ諸員大禮服着用但服制ナキ者ハ通常禮服着用
一午前九時副總裁始メ本局諸官員及各廳府縣委員出品人參場
一同九時各招待員參場
一同九時三十分樂隊ハ式場前南側ニ整列シ御名代山階宮殿下大通路御通過ノ時奏樂ヲ始メ御車寄御着ヲ期トシテ止ム
一同十時參場ノ諸員御車寄ニ奉迎副總裁御先導美術館樓下ニ於テ御休憩
一御休憩所ニ於テ副總裁審査總長及事務官長及拜謁
一參場ノ諸員式場ヘ着席
一式場ヘ副總裁御先導
　此時樂隊樂ヲ奏ス
一副總裁御前ヘ進ミ奏上終テ事務官長會場全圖列品區劃圖及出品目錄ヲ副總裁ヘ付シ副總裁之ヲ奉呈

一勅語
一地方長官總代祝辭ヲ奏上
一右了テ副總裁御先導列品御巡覽此時御通掛ケ本局高等官拜謁
　此時樂隊樂ヲ奏ス
一御巡覽了テ御休憩所ニ於テ御休憩
一御退場副總裁御先導御車寄ニ於テ諸員奉送奉迎ノ時ノ如シ
一御乘車ノトキ樂隊奏樂ヲ始メ大通路御通過ヲ期トシテ止ム
一右終テ諸員退散

謹啓新緑之候愈以御清安奉大賀候陳ハ
當月廿一日ハ宗祖大師降誕之日ニテ毎年
聊祝典ヲ擧ルノ慣例ニ有之候處本年ハ
恰モ日清平和恢復之時ニ際シ候ニ付右
祝賀ト併テ舞樂其他餘興相催候間乍御
苦勞來ル廿一日午後一時ヨリ御來觀被成
下度此段御案內申上候頓首敬具

明治廿八年五月　西六條 本願寺

執行長　日野澤依

田中宇乃助殿

追テ北小路猪熊北詰玄關門ヘ御來車被下度尚御差支ノ御方ハ來ル十九日
中ニ御一報奉願度當日ハ午后七時閉場仕候間是亦御承知被下度候

拜啓
益御多祥之段恭賀不斜奉存候扨テ當組合モ本年ニテ最早三ケ年ノ星
霜ヲ經事務ノ整理モ漸ク其緒ニ就キ幸ヒ日清ノ葛藤モ克復シ國威ヲ
海外ニ發揚スルノ好時期ニ際シ温古懇親ヲ相兼當組合創立後三ケ年
同ノ祝宴ヲ開カンカ為メ地ヲ圓山公園ニトシ來ル十三日午後三時ヨ
リ園遊會相催シ候ニ付強テ狂駕ノ榮ヲ玉ハラハ同業有志者ノ面目不
過之義ニ御座候先ハ御招待マテ得貴意候草々敬白

明治二十八年五月
京都染業組合頭取　石田喜兵衛

田中宇乃助殿

三十五

有樂翁二百七十五年忌追薦會
待
券
仝七月六日午前十時ヨリ午后五時マデ
一葉一客ニ限リ

拜啓倍御清穆奉賀候本部有樂館ハ如御承知織田有樂齋ノ建造ニ相成其名聲江湖ニ聞ヘ候然ルニ本年當市紀念祭ノ大典擧行幷ニ勸業博覽會開設ニ際シ諸君ノ御賛同ヲ以テ内外貴顯紳士ノ款待ヲ爲シ樂翁當年ノ盛事ニ劣ル間敷哉ニ被存候恰モ本年ハ翁ノ二百七十五年忌ニ相當致候ニ付追薦ノ志ヲ起シ来ル七月六日墓前ヲ清掃シ建仁寺長老ヲ請シ焚香讀經ノ佛事ヲ相勤候間御參詣被成下度就テハ生前樂翁ノ遺品文章等御珍藏ニ候ハヽ前日御出品被成下度候右御案内旁得貴意候

草々敬具

明治廿八年七月

待賓協會

幹事

田中芳男殿

佛事 午前
遺品陳列 終日
餘興 午後七時ヨリ

田中芳男殿

拝啓陳者晃親王
殿下来ル四月廿日正午
十二時立食被差出
度候条右時刻御来

佛事 午前
遺品陳列 終日
餘興 午後七時ヨリ

田中芳男殿

明治廿八年七月

[illegible]協會
幹事

臨希望致度此段
殿下之命ニ依リ案内
申進候敬具
明治二十八年三月
山階宮別當男爵真木長義

田中第三部長殿

田中芳男殿

典及第四內國勸業
ハル、ヤ平安城開都以
如キモ開創以來三百
チ德川三代將軍家光公ノ建營ニ豪正シク本邦建築美術ノ粹府下
密ノ園林依然舊觀ヲ
ミナラス美術ヲ誇揚
ニ彼此ノ觀意ヲ表ス
十日ニ至ル一百日間
上仕度就テハ
ノ榮ヲ賜リ度謹テ拜
携帶被下度候
地院住職
尾宗悟

金地院章

田中芳男殿

佛事 午前

遺品陳列 終日

餘興 午後七時ヨリ

明治廿八年

臨希望致度此段
閣下之命ニ依テ御案内

拜請

延暦聖主御遷都紀念ノ大典及第四内國勸業大博覽會ヲ我京都ニ開カル、ヤ平安城開都以來ノ盛儀ニ有之加之本院ノ如キモ開創以來三百年殿麗ノ殿堂（伏見桃山ノ舊殿ニシテ徳川三代將軍家光公ノ建營ニ係リ寶搆ノ美規摸ノ豪正シク本邦建築美術ノ粹府下巨多ノ社寺中稀有ノ傑閣タル由所謂後世ノ撲範ナリトテ内外人來歎シテ不止）鬱密ノ園林依然舊觀ヲ存シ候事獨リ本院ノ幸福ノミナラス美術ヲ誇揚スル本邦ノ慶事ト云ヘシ故ニ彼此ノ祝意ヲ表ズル爲來ル四月一日ヨリ七月十日ニ至ル一百日間貴賓ノ來臨ヲ仰キ粗茶菓呈上仕度就テハ

閣下御出京ニ際シ御來觀ノ榮ヲ賜リ度謹テ拜請仕候敬具

明治廿八年三月

京都東山金地院住職

山尾宗愔

追テ御來臨ノ節ハ本狀御携帶被下度候

田中芳男殿

金地院章

佛事 午前

遺品陳列 終日

餘興 午後七時ヨリ

田中芳男殿

幹事

内國勸業博覧会

田中第三部長殿

拝請

延暦聖主御遷都紀念ノ大典及第四内國勸業大博覧會ヲ我京都ニ開カル、ヤ平安城開都以來ノ盛儀ニ有之加之本院ノ如キモ開創以來三百年殿麗ノ殿堂（伏見桃山ノ舊殿ニシテ徳川三代將軍家光公ノ建營ニ係リ寶搆ノ美規摸ノ豪正シク本邦建築美術ノ粋府下巨多ノ社寺中稀有ノ傑閣ナル由所謂後世ノ撲範ナリトテ内外人來歎シテ不止）鬱密ノ園林依然舊觀ヲ存シ候事獨リ本院ノ幸福ノミナラス美術ヲ誇揚スル本邦ノ慶事ト云ヘシ故ニ彼此ノ祝意ヲ表ズル爲來ル四月一日ヨリ七月十日ニ至ル一百日間貴賓ノ來臨ヲ仰キ粗茶菓呈上仕度就テハ

閣下御出京ニ際シ御來觀ノ榮ヲ賜リ度謹テ拝請仕候敬具

追テ御來臨ノ節ハ本状御携帶被下度候

明治廿八年三月

京都東山金地院住職

山尾宗愔

田中芳男殿

金地院章

田中第三部長殿

中央金庫

中央金庫

書留

田中芳男殿

拜啓陳ハ樺山海軍大将台湾総督トシテ
近日出発相成候ニ付内閣総理大臣始メ
各大臣其他在京各高等官申合セ明十三日
午後六時三十分京都ホテル前市會議事
堂ニ於テ送別會相催候間何卒御賛成ノ
上御操合セ御来會相成候様奉希望候
此段得貴意候敬具

五月十二日

委員
鳥海弘毅
道家齊
鍋島武之助
齋藤孝至
西村千里
真鍋斌

田中第三部長殿

追テ會費ハ勅任官以上一人ニ金六圓奏任官
ハ貳四ノ豫算ニ有之候萬一御差支ノ節ハ
鳥海弘毅迄御一報被下度候本日午後三

時迄ニ御断無之節ハ御同意ト認メ会員中ニ
尊名ヲ加ヘ夫々準備可致候ニ付予メ御承知
置相成度候

来ル三月三十日午後一時
桓武天皇御遷都紀念祭法要執行
候間御繰合ヲ以御参拝被成下度
此段御案内申上候以上

明治二十八年三月

金閣

寺

田中芳男殿

本會規約第四条ニ據リ閣下ヲ本會ノ名誉會員ニ推選候間御承諾アランコトヲ仰ク

明治廿八年五月

田中芳男殿

河東郡岡崎村二百九十番地

田中芳男殿

大日本塩業同盟會

田中芳男殿

謹啓 時下益御健適ニ
被為渉奉敬賀候
陳者大日本塩業同
盟會委員会ニ於テ
閣下ヲ本会名誉会員
ニ推選致シ候ニ付テ
別帋在中写本部
塩業ノ為メ御盡力
被成下度此段偏ニ御

十一日午前ヨリ河原町三条上ル
共楽館ニ於テ同県懇
、将ニ茶会催候旨
仏

之 風 候 し 也

拝啓

春暖之候益御清適

之段奉賀候陳ハ

頃日ハ十月二十二日[illegible]

ニ於テ[illegible]御臨場之栄

大會相開キ候ニ付テハ之

十日ニ於テ河岸町之家

共楽館ニ於テ同景御上之

[illegible]候[illegible]

大日本塩業同盟會

田中芳男殿

御禮申上　恐惶頓首

五月廿五日

塩業同盟会
本部幹事
秋[illegible]貞臣

田中芳男君
侍史

[illegible]

拝啓来ル七月六日午後一時ヨリ川東建仁寺方丈ニ於テ本會第三回總會ヲ開キ左記ノ諸件施行致候ニ付萬障御繰合セ御臨席被成下度此段御案内申上候　敬具

明治廿八年七月　日

大日本實業組合會々頭
子爵　品川彌二郎

拜啓今般伊東聯合艦隊司令長官
歸朝海軍々令部長ニ栄任相成候ニ付
來十八日祇園中村樓ニ於テ歡迎旁
小宴（凡三十名）相開申度右御賛成
被成下候ハヽ同日夕第七時ヨリ御來車
被下度候頓首

水野遵
田中芳男

第三部長田中芳男殿

○大日本窯業協会第三回総会次第

七月六日（土曜）午後一時開會

一　窯業品展覧会

二　總會

常務委員ノ報告

會頭ノ演説、答辞

中澤博士ノ演説

細木東京工業学校教授ノ演説

東廣ノ演説

其他

[illegible]
岡澤精
真木長義
九鬼隆一
佐野常民
福岡孝弟
副島種臣

五月十二日

田中芳男殿

二白成諾否之儀ハ来ル十四日マテニ木挽町廿六番地九鬼隆一
真木長義方ヘ(或ハ一緒ニテ)御報可被下候

呈聰

〇八

駐朝鮮軍ヲ今部長ニ栄任相成候ニ付
来ル十一日祇園中村楼ニ於テ歓迎旁
小宴(九四五十七)相開申度右御賛成
被成下樹ニ同日夕第七時ヨリ御来車
被下度候頓首

水野遵

田中芳男殿

[illegible]

五月十二日

末松謙澄
岡澤精
東[illegible]長義
九鬼隆一
佐野常民
福岡孝弟
副島種臣

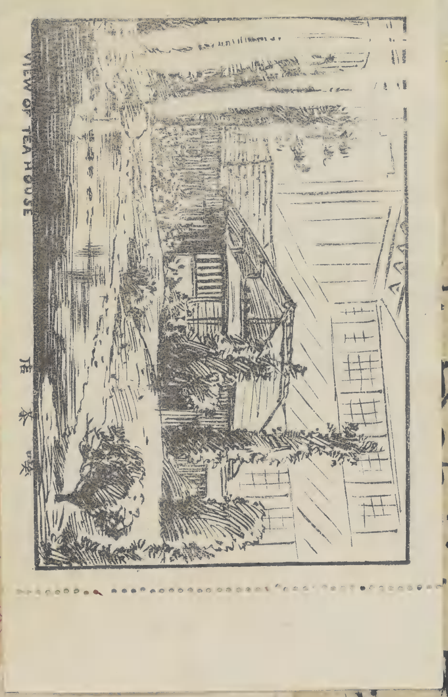
田中芳男殿

副島種臣
福岡孝弟
佐野常民
九鬼隆一
東[illegible]長義
岡澤精
末松謙澄
田中芳男
[illegible]

〇八

拝啓今般伊東聯合艦隊司令長官
歸朝海軍々令部長ニ栄任相成候ニ付
來ル十二日祇園中村樓ニ於テ歡迎旁
小宴（凡四五十名）相開申度右御賛成
被成下樹テ同日夕第七時ヨリ御來車
被下度[illegible]頓首

水野遵



送狀

一 白木箱　弐個

右御送致申上候間御査收可被下候也

明治廿八年十月廿三日

東京兜町貳番地
東京製紙分社

京都市寺町通四条下ル
（宛名不詳）

臨時定期便

御先方配達附

東京 新橋駅前 朝田組 京道新抜寺

京都 ろ第七號
第　號

岡澤精
眞木長義
九鬼隆一
佐野常民
福岡孝弟
副島種臣

送狀

一白木箱　弐個

右御送致申上候間御査收可被下候也

明治廿八年十月廿三日

東京兜町貳番地
東京製紙分社

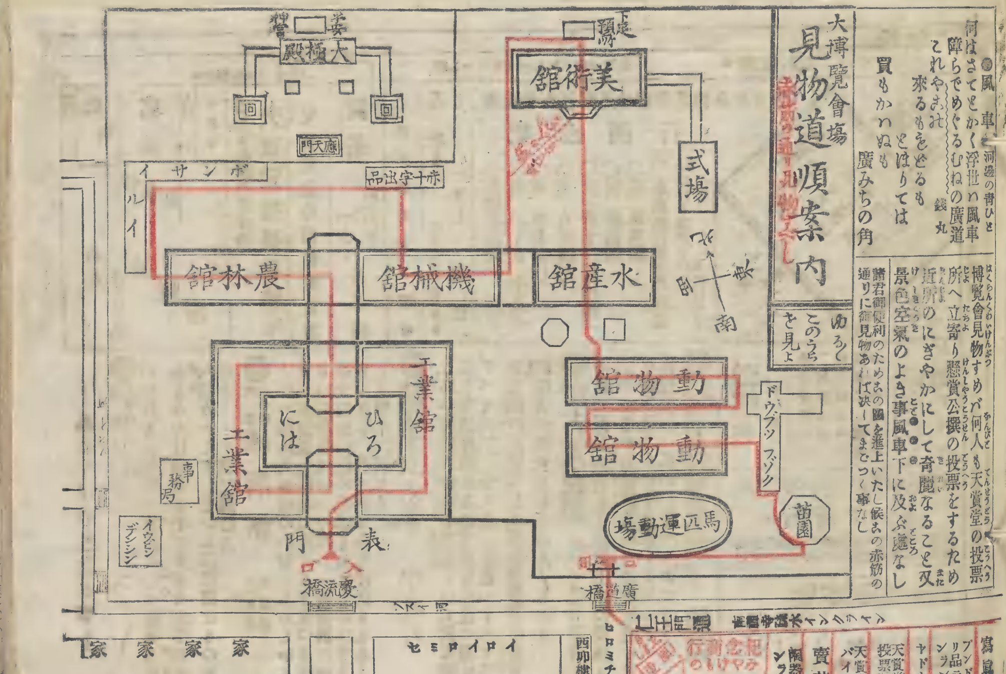
臨時発車便

京都市上京区岡崎町
第四回博覧会
審査事務部御中

ろ第七號
京都
第　號

拜啓陳ハ本會倶樂部ハ待賓協會規則第三條第五項ニ依リ紀念祭博覽會ノ際來京内外紳士ノ交際上ニ便ナラシムル目的ヲ以テ創設シ七月三十一日ヲ以テ閉局可相成之所如御承知紀念祭之義本年十、十一兩月ニ跨リ延期執行相成候ニ付本倶樂部之義モ當初豫期ヲ以テ閉鎖之場合難到候ニ付更ニ本年十一月二十日迄繼續延期候間此段御通知致候也

追テ本會倶樂部支部（万花園）之義ハ本月限リ相廢候ニ付此段申添候也



謹啓

豫テ農談誌上ヲ以テ屢々報告仕候本年七月廿日ヨリ廿二日迄三日間京都ニ於テ開會スル本團大集會ノ義ハ本團同盟員ガ將ニ一萬人ノ多數ニ充チ大革新ヲ圖ル大切ナル會合ニシテ出席者モ頗ル多數ニ可有之豫想ニ御座候間萬障御繰合御出席ノ上御高說御演述被成下候樣渴望之至ニ御座候先ハ右得御意度早々敬具

明治廿八年六月七日

帝國農家一致結合事務弁理
中村和三郎

追テ御出席之有無及御演說ノ問題等ハ可相成前以テ本團臨時京都事務所（京都市三條通粟田廣道中ノ丁廿八番戸）へ御一報被成下度候也

別表小包郵便料

	二百目迄	四百目迄	六百目迄	八百目迄	一貫目迄	一貫二百目迄	一貫五百目迄
二十里迄	六戔	八戔	十戔	十二戔	十四戔	十七戔	二十戔
四十里迄	七戔	十戔	十三戔	十六戔	十九戔	廿三戔	廿七戔
六十里迄	八戔	十二戔	十六戔	二十戔	廿四戔	廿九戔	三十四戔
八十里迄	九戔	十四戔	十九戔	廿四戔	廿九戔	三十六戔	四十三戔
百里迄	十戔	十六戔	廿二戔	廿八戔	三十四戔	四十二戔	五十戔
百五十里迄	十二戔	十九戔	廿六戔	三十三戔	四十戔	四十九戔	五十八戔
二百里迄	十四戔	廿二戔	三十戔	三十八戔	四十六戔	五十六戔	六十六戔
二百五十里迄	十六戔	廿五戔	三十四戔	四十三戔	五十二戔	六十四戔	七十六戔
三百里迄	十八戔	廿八戔	三十八戔	四十八戔	五十八戔	七十一戔	八十四戔
三百里以外	廿一戔	三十二戔	四十三戔	五十四戔	六十五戔	七十九戔	九十三戔

第一條 小包郵便料ハ小包郵便物ノ重量及其差出郵便局ヨリ配達郵便局迄ノ里程ニ從ヒ別表ニ依リ之ヲ徴收ス

第二條 郵便局市外ニ送達スル小包郵便物ハ其重量ニ從ヒ別ニ左ノ郵便料ヲ加徴ス
小包郵便一箇重量六百目迄二戔 同一貫目迄四戔 同一貫五百目迄六戔

第三條 小包郵便物ノ容積及重量ハ左ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ズ
容積長サ曲尺二尺 重量一貫五百目

第四條 小包郵便物ノ登記價額ハ金百五十圓ヲ超過スルコトヲ得ズ

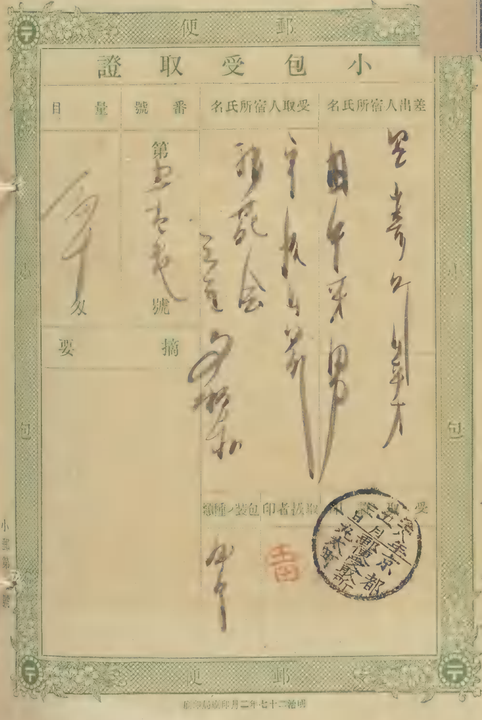
第五條 價額登記小包郵便物ノ保險料ハ登記金額十圓迄金七錢トシ金一圓毎ニ金一錢ヲ加フ

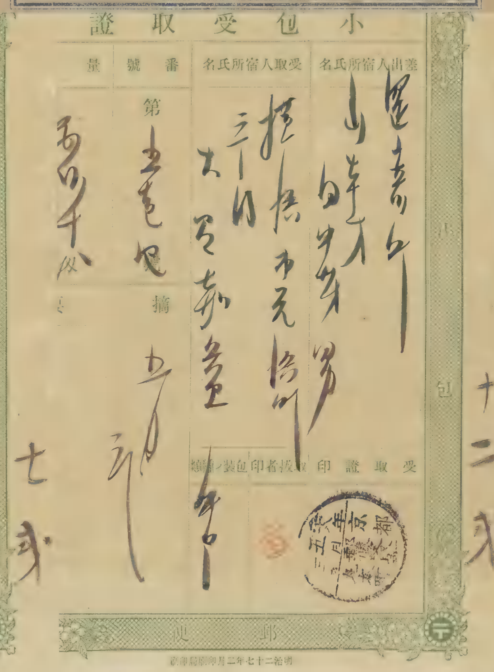
第六條 通常小包郵便ノ損害ニ對シテハ重量百目ニ付キ金拾錢ノ割合ヲ以テ之ヲ賠償シ其一部分ノ損害ニ對シテハ此制限内ニ於テ其損害ノ多少ニ從ヒ賠償ス

第七條 價額登記小包郵便物ノ損害ニ對シテハ其登記金額之ヲ賠償シ其一部分ノ損害ニ對シテハ其登記金額ニテ之ヲ賠償シ其一部分ノ損ニ對シテハ登記額内ニ於テ其損害ノ多少ニ從ヒ賠償ス

附則

第八條 小包郵便物ヲ取扱フ郵便局ハ遞信大臣隨時之ヲ告示ス





奉供天覧

天覧写真

進呈

MATSUMOTOSHOP

奉供天覧

奉供

天覧写真

呈上

MATSUMOTOSHOP

明治廿八年七月廿九日

待賓協會

（印：待賓協會）

祇園花見小路

待賓協會

明治廿　年　月　日

拝啓陳ハ玉木正彦死亡ニ付香資トシテ金五円御投恵被下難有拝受仕候乍略儀以紙上御禮申上候敬具

明治廿八年　月　日

友人　玉井謙三

故正彦妻　玉木八重

田中芳男殿

粗茶

田中芳男殿

茶製

献進糖

宇治

三好徳三郎

山城

久世郡宇治町

[illegible]

三好徳次郎

呈上

[illegible]生葡萄酒

八田達也

大阪朝日　明治二十八年十月二十六日　(四)

次神饌を撤す○此間奏樂○次祭主殿に昇り御扉を閉づ了て西歩廊に復す○此間奏樂○次各退出○饗宴餘興

時代行列

延暦延喜の間制度文物燦然として見るべきものあり大權藤原氏に移るに及んで制度弛廢し百揆道を失ふ下つて鎌倉足利豊臣徳川の時代に至り武臣專横亦言ふに忍びざるものあり此間一千餘年文物制度の遷移風俗人情の變更十百にして足らず、時代行列は此一千餘年間の文物制度に徵して當時の風俗を寫し出し以て其間の史跡を發揚せんとするに在り乃ち各時代文武の行裝を模し十月二十五日一行齊列市中を練行ものなり、延暦式文官行列の如何に醇雅にして優々迫らざる、鎧着たる大將の出陣は東の蝦夷を征伐するにやあらん、藤原家參朝の衣冠楚々として直衣細太刀の華かなる、さては鎌倉時代の狩衣着たる武士の風郎黨までも優しくぞ見ゆめる、信長上洛の式には弓箭厳めしく旗手肩を聳かして騎馬の人の沐猴にして冠せるも可笑し、徳川大名の金紋先箱長柄の傘に四下を拂つて奉行馬廻りの仰々しき生ながら之を一幅の中に見る、行列の次第は左の如し

時代祭行列

○前列

中・座　キリコ座下雜色　ブチ座下雜色　上雜色　從者　加陵頻加
中座　キリコ座下雜色　ブチ座下雜色　上雜色　從者　胡蝶
同附添白丁　壹皷樂人　樂人　同　同　同
同附添白丁　樂人　同　同　同
樂人　樂人　笙火鉢持二人
荷太鼓　荷鉦鼓　胡床持二人
持夫二人　持夫二人　二人

○第一列　延暦文官參朝式

第　號

京都岡崎町舊第四回内國勸業博覽會場美術館ニ於テ十月十五日ヨリ十一月十五日迄開設

一此券壹枚一人ニ限ル
一此券入場ノ節門衛ニ示メサルヘシ
一午前八時開場午後四時閉場
一此券御持參ノ方ハ館内樓上ニ於テ茶菓ヲ呈ス

新古美術品展覽會

優待券

田中芳男殿
貴下

明治廿八年七月廿九日

第六八號

上京區岡崎町元第四回内國勸業博覽會工業館ニ於テ明治廿八年十月十五日ヨリ全十一月十五日迄開設

一此券ハ一票一人ニ限ル
一此券ハ入場ノ節門衛ニ示スヘキモノトス
一午前八時開場午後四時閉場

五二會京都物産品評大會

優待券

田中芳男殿
貴下

第四回内國勸業博覽會

一枚一人ニ限リ開會中入場スルヲ得

京都　岡崎町

特別門鑑

入場ノ際之ヲ門衛ニ示スヘシ

明治二十八年

日本鐵道株式會社ハ明治二十八年京都ニ於テ擧行スル桓武天皇平安遷都千百年紀念祭協賛會ノ事業ヲ賛成シ本票ノ發行ヲ承諾セラレタリ

明治二十八年（往一復）
日本鐵道乘車割引票
平安遷都紀念祭協賛會

一日又燒けにけり後三條天皇延久四年十月五日に造り出されしが後百五年を經て高倉天皇治承元年兵燹に罹りける後は御造營の御事なかりきさて協贊會にて營造しける大極殿及び蒼龍白虎の二樓と應天門とは著しく延曆當時の規模を縮小せしものなれども碧甍丹楹さし昇る旭に映じて佳氣蒼然長へに瓊宮千年の昔を偲ばしめ、淸けき檜皮葺と丸木の柱は玉樹琤々上苑の風麗かに吹き度る心地して坐ろに禁園の春の漏出づる想あらしむ萬民崇敬の宮柱いとも畏てし平安神宮境內の坪數は一萬四千二百四坪にして大極殿及其他の建物に就て原形と模形の差を擧ぐれば左の如し

名稱	原形	模形
大極殿	二六五、三坪	一二三、二二
歩廊	三六七、一	一二三、〇六
蒼龍 白虎 合	八八、七二	七八、六四
應天門	八三、三三	四〇、〇〇
小安殿	八〇、〇〇	―
東西兩朝集堂合	二五〇、〇〇	―
十二堂合	一五〇、〇〇	―
昭慶門 會昌門	一三三、〇〇	―
章嘉門 政宣門	九三、二八	―
翔鸞門 棲鳳門	一二二、〇四	―
合計	四五三三、〇七	三四三、二九

平安神宮每年の例祭は四月十五日月次祭は十五日と定めたり近頃神宮の大祭及建物併びに神苑保存の爲め平安講社と云ふを組立てしものあり協贊會は同會の費用として金員を寄附したる者へ紀念章及參拜章を交附し其數五萬以上に及びたりと云ふ而て協贊會の經費は總て寄附金を以て支ふる事とし未だ其精算を爲すに至らざるも大畧平

隨身同　召具儀戈持白丁同　四位
隨身同　三位　蓋持　召具儀戈持白丁同
召具白丁同　召具白丁同
召具白丁同　五位　召具白丁同　六位
召具白丁同
召具白丁同

○第二列　延曆武官出陣式
弓弓同同　矛　手替一人　矛　口取一人　大將
弓弓同同　旗　矛　矛　口取一人
楯楯　太鼓打一人　弓弓弓
楯楯　荷太鼓二人　手替一人　弓弓弓

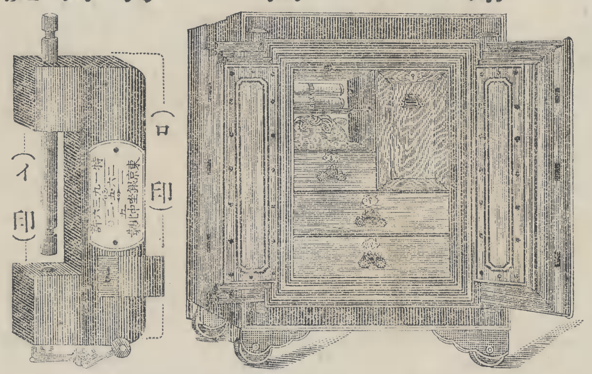
○第三列　藤原公卿參朝式
白丁舍人　公卿居飼　隨身雜色雜色
白丁舍人　隨身雜色雜色
雜色白丁白丁白丁　口取　殿上人　小舍人童
雜色白丁白丁白丁　小舍人童
雜色白丁白丁
雜色白丁白丁

○第四列　城南流鏑馬式
雜兵　口付　狩裝束武士騎馬　郎黨　雜兵
雜兵
雜兵　口付　狩裝束武士騎馬　郎黨　雜兵
雜兵
雜兵　口付　狩裝束武士騎馬　郎黨　雜兵
雜兵
雜兵　口付　狩裝束武士騎馬　郎黨　雜兵
雜兵
雜兵　口付　狩裝束武士騎馬　郎黨　雜兵
雜兵

○第五列　織田公上洛式
從者從者　鐵炮同弓同槍
從者　立入　從者　騎馬　從者　旗手　鐵炮同弓同　幟手　槍　旗手
旗下同長刀與力與力同同同
馬印・織田信長公騎馬　旗下同長刀與力與力　香籠　同同同

○第六列　德川城使上洛式
露拂挾箱手替槍手替長柄傘手替
露拂　小頭　挾箱手替　目付　槍手替臺笠手替

略圖　特許錠



此錠ハ倉庫又ハ大切ノ締ニ用ヒ安全ナリ

日本金庫　元祖山田製金庫幷特許錠

品	寸法	量目	附属	代金
甲品壹號	外高サ五尺 奥行三尺 全間口三尺五寸 内外間厚サ六寸	量目七百貫	文字合器械並ニ錠前付	代金四百圓
仝貳號	外高サ四尺五寸 奥行二尺八寸 全間口三尺三寸 内外間厚サ五寸五分	仝六百貫	仝	代金三百六十圓
仝參號	外高サ四尺 奥行二尺六寸 全間口三尺 内外間厚サ五寸五分	仝五百貫	仝	代金二百六十圓
仝四號	外高サ三尺六寸 奥行二尺四寸 全間口二尺七寸 内外間厚サ五	仝三百五拾貫	仝	代金二百二十圓
仝五號	外高サ三尺 奥行二尺 全間口二尺三寸 内外間厚サ五	仝二百貫	仝	代金百四十圓
仝六號	外高サ二尺九寸 奥行一尺九寸 全間口二尺 内外間厚サ四寸八分	仝百六拾貫	仝　文字合器械ナシ	代金八拾圓　代金七拾五圓
仝七號	外高サ二尺七寸 奥行一尺七寸 全間口一尺八寸 内外間厚サ四寸五分	仝百〇五貫	仝	代金六拾圓　代金五拾五圓
仝八號	外高サ二尺四寸 奥行一尺五寸 全間口一尺六寸 内外間厚サ三寸五分	仝七拾五貫	仝	代金四拾圓　代金三拾五圓
仝九號	外高サ二尺 奥行一尺五寸 全間口一尺五寸 内外間厚サ三	仝五拾八貫	仝	代金三拾五圓　代金三拾圓
番外壹號	外高サ一尺八寸 奥行一尺四寸 全間口一尺四寸 内外間厚サ二寸六分	仝三拾八貫	仝錠付	代金二十四圓
仝貳號	外高サ一尺六寸 奥行一尺二寸 全間口一尺三寸 内外間厚サ二寸五分	仝三拾三貫	仝錠付	代金二十圓

特許錠代價表

號	イ印	ロ印	代價
壹號	イ印三寸五分	ロ印五寸七分	金參圓也
二號	イ印三寸一分	ロ印五寸三分	金二圓五拾錢
三號	イ印二寸八分	ロ印四寸八分	金貳圓也
四號	イ印二寸六分	ロ印四寸六分	金壹圓五拾錢
五號	イ印二寸一分	ロ印四寸	金壹圓三拾錢

明治十四年六月第二回内國勸業博覽會二等進歩賞牌
同　貳十年五月東京府工藝品共進會三等賞牌

安神宮紀念殿其他の建築費用貳拾萬圓、其保存費五萬圓、諸費五萬圓の豫定にて廿六年六月八日以來宮内省より前後貳萬七千五百圓の下賜金あり其他各地有志者の寄附金は已に三拾萬圓に上り參拜章下渡濟代價を領收したる金額は貳萬五千餘圓なりとぞ

紀念祭の次第

平安遷都紀念祭は十月十五日より十一月十五日まで三十日間執行す

右の中十月廿二日より廿四日まで三日間を大祭典期日とす式の次第は左の如し

紀念祭次第

十月廿二日早旦神殿を装飾す○午前九時祭主以下着場○次祓の儀あり○次祭主以下西歩廊に着く○次參列員東歩廊に着く○次祭主殿に昇り御扉を開く畢て側に候す○此間奏樂○次神饌を傳供す○此間奏樂○次祭主祝詞を奏す○次祭主玉串を獻り拜禮○次祭官拜禮○次京都府知事協贊會々長以下玉串を獻り拜禮○次京都府下神職玉串を奉り拜禮

一　官幣社宮司禰宜　二　府社以下社司社掌○次舞樂を奏す○次神饌を撤す○此間奏樂○次祭主殿に昇り御扉を閉づ了て西歩廊に復す○此間奏樂○次各退出○饗宴餘興

十月廿三日早旦神殿を装飾す○午前九時祭主以下着場○次祓の儀あり○次祭主以下西歩廊に着く○次參列員龍尾壇上に着く○次祭主殿に昇り御扉を開く畢て側に候す○此間奏樂○次神饌を傳供す○此間奏樂○次祭主祝詞を奏す○次舞樂を奏す○次祭主玉串を獻り拜禮○次祭官拜禮○次京都府知事協贊會々長以下玉串を獻り拜禮○次參列員拜禮○次神饌を撤す○此間奏樂○次祭主殿に昇り御扉を閉づ了て西歩廊に復す○此間奏樂○次各退出○饗宴餘興

十月廿四日早旦神殿を装飾す○午前九時祭主以下着場○次祓の儀あり○次祭主以下西歩廊に着く○次參列員龍尾壇上に着く○次祭主殿に昇り御扉を開く畢て側に候す○此間奏樂○次神饌を傳供す○此間奏樂○次祭主祝詞を奏す○次東遊を奏す○次祭主玉串を獻り拜禮○次祭官拜禮○次京都府知事協贊會々長以下玉串を獻り拜禮○次參列員拜禮○

明治廿八年七月廿九日

回內國勸業博覽會

同　貳十三年七月第三回內國勸業博覽會ニ二等有功賞牌
當店製作ノ金庫ハ斯ク名譽ナル賞牌ヲ授與セラレタリ

茲ニ今回弊店出品セシ金庫ハ博覽會ニ出品ナス爲メ殊更ニ製造セシ物ニ非ズ平常弊店ニ於テ販賣ナス處ノ普通品位ヲ製作セシ物ナリ其理由ハ即チ內國勸業博覽會ノ御趣意ニ基キ工商業ヲシテ世上ニ知ラシメ永遠ノ進步ヲ計ル爲ナルヲ以テナリ茲ニ又其品物ヲ異ニシ出品ノ品位ニ限リ殊更ニ裝飾的見事ニ製作ナスモ平常其出品ト同一ノ品位ヲ製作シ置カザレバ所謂實用品ノ心意ヲ失フ道理ナキニアラズ然シ美術的裝飾品ハ此限ニアラズ去レバ弊店ハ特別ヲ要スル處ノ品位ハ又特別ニ製造ス故ニ弊店金庫ハ裝飾ヲ背キ價格表ニ記載シアル處ノ眞ニ實用的完全ノ品位ヲ以テ出品セシ者ナリ尙ホ金庫室ニ備ヘル鋼鐵扉製作有罷現ニ東洋第一ノ建築ト稱セラル日本銀行及三菱社等ノ金庫室ニ用ユル鋼鐵製扉明治貳拾參年以來本年ニ至リ數拾個製作納付仕候斯ノ如キ堅牢無比ノ鐵扉一手ニ特命ヲ以テ被仰付シハ常ニ完全ノ品位ヲ製造ナス爲メナリシ猶ホ煉瓦並ニ石藏ニ必用ナル鐵扉及日本古來ノ土藏（俗ニカンノンビラキト云フ）改良鐵扉ヲ製作仕候又專賣特許日本形改良錠ハ從來嘗テ見ザル處ノ堅牢無比ノ良器ナリ右金庫及鐵扉並ニ特許錠等今回當館ニ出品仕候且ツ弊店ハ從來ヨリシテ**大坂市東區平野町四丁目ヒシヒラ商會ト一手販賣**ノ特約ヲ結ビ居リ候ニ付弊店同樣勉勵販賣仕候間御便宜上同商會ニ於テ御購求ノ程奉願上候

●**宮內省金庫製造御用**
●**陸軍省金庫製造御用**
●**海軍省金庫製造御用**
●**日本銀行金庫鐵扉製造**
●**三菱社金庫鐵扉製造**

金庫販賣所
東京市京橋區銀座三丁目
山田屋號　**中北米吉**
電話番號　六百三十二番

謹啓時下秋氣相催候處益御健勝被爲入慶賀至極ニ存候偖第四回內國勸業博覽會モ好都合ニ終局相成之レ全ク諸君ノ御熱心御盡力之効果ト深ク感佩仕候茲ニ京都重要物產七組合員ハ聊カ謝意ヲ表センカ爲メ來ル四日午後第四時祇園中村樓ニ於テ宴會相開候ニ付御繁用ニ可有御座ト奉存候ヘ共何卒御貴臨被成下度右御案內申上候敬具

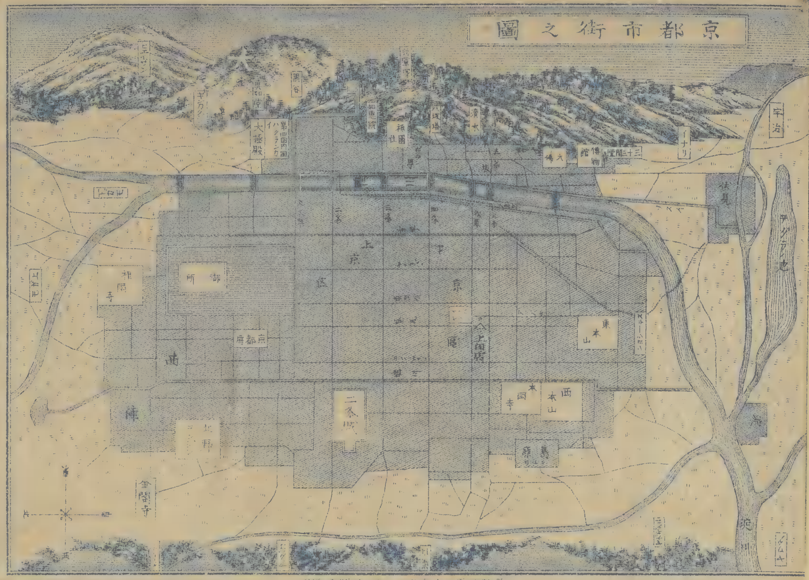
明治廿八年十月一日

京都重要物產七組合聯合會

田中芳男殿

明治廿八年十月一日

京都重要物產七組合聯合會



口演

正札御卸

一関東織物類
一縮緬染地類
一染絹裏地類
一着尺両用類
並模様付とも
一染呉服類
一西陣諸絹
一筑前博多帯類
一尾濃結城類
一久留米絣類

京都あけず松原南
上田清兵衛

仕入所

七度製塩
あられ
菓子形種々
香川縣讃岐國阪出港町
本舗金學軍事
製造販賣 小松金次郎
全縣多度津町
發賣所 西川虎一

修點林堂印刷

KAIRIOSEISEN
商標
大印
今般右商標
相用ヒ物品
一層吟味致候
間不相替御
用向奉願上
候以上
愛知縣名古屋市神樂町
水野伊助
JAPANESE SAUCE

末廣

殉國豫後備兵中憫むべき遺族を扶助せんとする主意

昨明治二十七年八月一日清國に對し宣戰の詔勅を發し給ひてより茲に二百八十有三日にして去る五月十日全國と媾和の條約を交換し給へり天下誰か喜ばざる者あらん之を喜ぶと同時に故有栖川參謀總長宮殿下を始め奉り故大寺旅團長、故坂本赤城艦長以下の或は戰の爲めに或は病の爲めに國難に殉せられたるを追懷せば天下誰か哀まざる者あらん

元來國家の爲めに身を致し命を殞したる軍人に對しては軍人恩給法ありて其寡婦孤兒に毎年若干の扶助料を給せらるゝと雖も遺族の多少を問はずして唯一家に若干を均給せらるゝのみ然るに徵兵令に依りて兵役に服せしめらるゝ陸軍の常備兵は其年齡二十歳より二十三歳(海軍は二十四歳)にして未だ人の子弟たる者多く其死生一家の浮沈を來すこと蓋し少なかるべければ暫く之を他日に讓り先づ豫後備兵に就きて謂はんに豫後備兵は其年齡二十四歳(海軍は二十五歳)乃至三十二歳にして既に一家養育の責任あり其死生に由りて一家の興亡を招く者極めて多く其甚だしき老親は病床に在り嬰兒は飢に泣くの慘狀を呈する者亦少なからざるべし

最近の調査に依れば一家の人口は平均五人三分弱なるに彼の軍人恩給法に依りて陸軍兵卒の遺族に給せらるゝ扶助料は一年金參拾圓(海軍は貳拾四圓乃至參拾八圓)にして之を一日に分てば金八錢參厘強に過ぎず八錢强を以て一家五人餘の衣食住に充つることは頗る難事なれば其筋に於ても他日特別の處置を施さるゝことあるべしと雖も此等遺族中既に窮餓に瀕する者あり由りて其事情殊に憫むべき者を救ひ以て國恩の萬分一に報ぜんと欲するも豫後備兵の殉難者一千二百五十九人の多きに上れるを以て到底少數の微力之を能くすべきに非ず希はくば大方の慈善家同情を表せられて多少に拘はらず御義

運送物受取證

品名	數	量目	價額	摘要

届先 地名 兵名

通例運賃 量目 取 金額 取
特別 增賃
配達賃

右正ニ受取裏面記載ニ基キ運送取扱候也

明治 年 月 日

內國通運株式會社

殿

アサヒビール

アサヒビール

醸造所之眞景

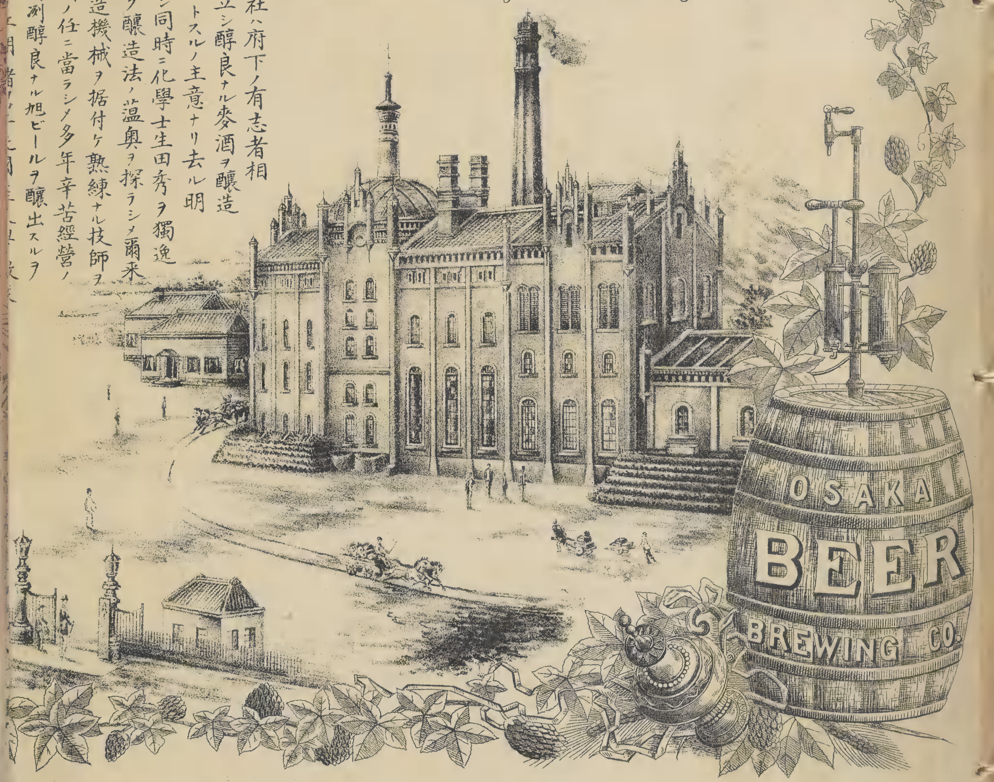
ASAHI-BEER

(Rising Sun)

OSAKA BEER BREWING CO, LIMITED.

View of The Brewery

我大阪麦酒株式會社ハ府下ノ有志者相謀リ一大醸造所ヲ設立シ醇良ナル麦酒ヲ醸造シ以テ國産ヲ振興セントスルノ主意ナリ去ル明治廿年之ヲ創立シ同時ニ化學士生田秀ヲ獨逸國ニ派遣シテ洽ク醸造法ノ薀奥ヲ探ラシメ爾来彼國最新式ノ醸造機械ヲ据付ケ熟練ナル技師ヲ雇聘シテ技術ノ任ニ當ラシメ多年辛苦經營ノ効ヲ積ミ此清冽醇良ナル旭ビールヲ醸出スルヲ



商

宣徳火鉢類

花器燭臺其他宣徳金物類

卸小賣所

京都市高辻通富小路東入

正確 懸引なし

伊村清吉

歸

登録商標

九重櫻ハ壹百廿餘年間引續醸造經驗ノ上熱心ニ改良セシ最上味淋ナリ

九重櫻ハ勸業博覧會ノ褒狀ヲ受ケタリ

九重櫻ハ品質濃厚特ニ甘味多ク料理ノ用ニ適スルコト褒狀ノ薦告文ニ明カナリ

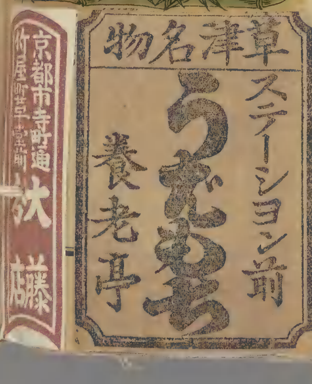
九重櫻ハ割烹ニ用井テ通常品ニ倍スルノ効アリ故ニ其使用上ノ結果ヨリスレバ直段割合ニ低廉ナリ

九重櫻藏元ハ信用ヲ重ンシ德義ヲ失ハサルヲ以テ目的トナス故ニ何同御購求アルモ見本ニ異ナル品ヲ送ル等ノヿ決シテナク且百事親切ヲ主トシ花主諸君ノ御便利ヲ謀ルベシ

醸造元

參河國大濱町

石川八郎治



御國内の人の手業の花咲て都は春の錦なる博覧會の傍に日本心を人間はゞこれと荅へんパノラマ舘其が軒つゞきに搆へしは千世お經ぬらん常磐木の**松濤舘**と名を呼びて酒落と風雅の大本營商ふ品は百藥の長とは過し世の言葉四百餘州を蹈にぢる興奮劑と今は云ふ和洋銘酒の瓶賣小賣外に一服お手前あれば柳櫻の夫ならで上戸と下戸と手を携へ是非に一度は御來駕ありて上戸は酒に勇氣お増し下戸は茶の湯に快味を加へ宇内に冠たる山水を篤と御覧ぜられませうと**松濤舘**の主人に代り池田百八頓首再拝敬ふて管を卷く

「九重の都に春の花見やら
　疏水の舟のくたふれにパノラマ前に
　お茶一ッのがれと待ているわいな
水作

赤十字社主旨

彈丸は霰の如く飛び硝烟は雲の如く起り同僚は傷つき同胞は斃るゝの中をも顧みす二なき生命を犠牲として奮擊し突進し或は金をも鑠す夏の日盛りに或は涙も凍る冬の夜寒に嶮しき山坂を進み蔭なき荒野に屯ろしつゝ貴重なる身體の病めるも傷つくをも厭ひ避けず國家の名譽を汚さじ國民安寧の幸福を失はせじとあらゆる人生の艱難と辛苦とを一身の上に受け荷ひ毅然として耐へ忍び奮然として勉め勵むは戰闘攻守の衝に當れる軍人兵士の常にして人の務の數ある中にも尤も譽れある務めなるは言ふまでもなけれど其辛苦艱難の如何ばかりなるやは察するにもあまりあることなり

抑も又人の人として尊き所以は相愛しみ相助くる慈善の情と君を敬ひ國に報る忠義の心あるに由れるものなるは今更云ふを待たされど此貴重なる感情の最も熾んに最も著るしく煥發するは如何なる場合如何なる時期に在るべきや蓋し一朝不測の變に臨み彼の軍人兵士たる人々が國民一般の義務責任を代表して生命身體を彈丸鋒鏑の間に委ねたるの時より甚しきはなかるべし苟も一國の民として其生を營むもの一旦斯の如き急切の場合に當るも軍人兵士の辛苦艱難を想ひはからず慈愛忠義の心をも動かさず恬然として坐視するに忍び得るものゝ一人としてあるべきかは況して我日本帝國の如き其國體の佗邦に超え勝さり君民の間國民同胞の間尤も忠義慈愛の感情に富めるものに於てをや

斯る大切の場合に於ける至厚至盛の感情義心も施すに其道を得さるときは徒らに熱腸を斷ち空しく暗涙を濺らすに過ぎざるのみか却て人心を動搖し軍紀を紊亂するの結果なしとも期し難し此際一般の國民をして最も忠愛の心情を滿足せしめ兵士をして最も戰爭の艱苦を輕減せしめんとするには果して如何なる手段に由るへきか蓋し矢石に斃られ雨露に犯され痛苦悲慘の境に沈める負傷罹病の兵士を救ひ慰むるより急切なるものはなかるべし故に凡そ軍隊外の人民たるもの老少となく男女となく間接又は直接に軍隊衛生部の職務を幇けて傷病者の救療看護に盡力するを以て國民忠愛の至情を洩すべき最良の方法となすことは理論に於ても實際に於ても爭ふ可からざるの事實とはなりしなり抑も軍隊の制度に於ては醫官を始めとして病院藥餌器具に至るまで傷病者を救護するの準備ある事勿論なれとも戰闘の緩急死傷の多少は決して豫しめ測り知るへきものにあらす事に臨みて看護救療に闕乏を生することあるへきは理の尤も覩易き所なり平穩無事の時尋常房室の內に於ても看護の十分なるを喜ふは病苦に惱めるものゝ常情なるにまして危急の時紛亂の地に於て傷者病者の困苦を減する救療看護の事は誰か其多きを辭し其饒なるを嫌ふものあらんされバ國民たるもの其報國の義心と慈仁の至情とを實際に施し行ふの路あれを措きて何れにかあるべきや

軍隊外の有志者慈善者に於て戰爭の負傷者病者を救護するの事業たるや西曆千八百五十三年(我嘉永六年)有名なる露國「クリメヤ」の戰爭に慈善勇邁なる英國の婦人「ナイチンゲール」氏已下の人々が奮て戰場に赴き傷病者の看護に從事したるより其端を開きたれど其時運未だ一般の人心を感動するに至らさりし次て千八百五十九年(我安政六年)伊國「ソルフェリノ」の大戰爭とて墺佛伊三國數十萬の軍隊が連日連夜北伊の原野に苦戰せるとき「アリリー、ヂュナン」なる瑞西の人士が親しく其戰場に立入りて負傷者困苦の狀を目擊し其景態の悲しく慘ましき限りなるに感動し直ちに一書を著はして世上の注意を促したるより早くも瑞西國「ヂュチーヴ」の「モアニエー」氏など有志の人々は同地に一社を創設し戰地傷病者救護の手段を議することゝはなれり是れ目今歐洲に盛んなる赤十字社の濫觴にして其後千八百六十三年(我文久三年)廣く同志者を招き集め萬國會を開きたる末戰場負傷者救護の事は各自分裂の働よりも衆力合一の大利益ある事を認定して文明諸國に同旨趣の團結を興起せしめ遂には各國の政府をして軍陣衛生隊の中立を認むる萬國公約を結ばしむるにも至りしなり衛生隊の中立を認むるとは戰場の傷者病者は素より其看護救療に從事する人員より屋舍什具に至る迄毫も兵鏑の侵襲を蒙らす敵友彼我の別なく十分傷病者の救療を盡さしむるの美法にして赤十字條約なるもの即ち是れなり其赤十字を以て萬國共用の標章とせしは瑞西の國旗に據れるものにして同國の旗章は赤地に白十字なれば之を轉して白地に赤十字を用うるとも定たり彼の「ヂュチーヴ」の結社は爾來益々其趣意を宇內に擴張

ASAHI LAGER BEER

OSAKA BEER BREWING CO., LIMITED

SUITA near OSAKA

JAPAN

ESTABLISHED 1882 A. D.

President	Mr K. Torii
Director	„ T. Taku
„	„ K. Ishizaki
Councelor	„ S. Toyama
„	„ J. Matsumoto
Manager & Techn. Director	„ H. Ikuta Weihenstephaner-Diploma
German Brewer	„ M. Maelger
Annual Production	2000000 large Bottles

THE MOST PURE and WHOLESOME

BEER

In Japan

FOR SALE AT

ALL THE PRINCIPAL LIQUOR STORES THROUGHOUT JAPANESE EMPIRE

大阪森川石版製

[illegible]ヲ諒シテ我東洋日本國ニ産出セル旭ビールニ最大ノ愛顧ヲ賜ハランヿヲ

大阪府島下郡吹田村

大阪麥酒株式會社

社長 鳥井駒吉
取締役 宅德平
仝 石崎喜兵衛
監査役 外山脩造
仝 松本重太郎
支配人兼技術長(独乙巳威政府学位) 生田秀
技師独乙人 メルゲル

せんと勉め自ら萬國中央社として各國赤十字社の交通を媒介するの任に當り其佗各國の赤十字社も平素の準備こそ大切なれとて亦率ね數萬の社員を有し無數の準備品と數十百萬の資金とを備へ一朝事あるに臨んては更に臨時の巨資を募り各々慈善忠愛の業務を實行し得るに至れり蓋し各國有志者の團結たる赤十字諸社の事業と萬國政府の締盟せる赤十字條約とは公私素より其性質を異にするものなれども一は無形の働きにて傷病者看護者の安全を保護し一は有形の働きにて人力資力を供給し相須ち相助て傷病者救護の事業を大成するの組織とはなりしものなり

本邦に於ける負傷者病者救護事業の發端は實に明治十年西南騒亂の際に在りて其奮戰の劇烈なる死傷の數も甚た多く其慘狀見聞に忍ひさるものありしより三條岩倉の兩公は主として同族を勸奬し佐野大給の兩議官は進んで博愛社を創設し彼我傷病者の看護救療に從事したるに濫觴するものにして爾來

皇后陛下の隆恩と該社の總長たりし有栖川小松兩宮殿下を始め役員議員諸氏の盡力一般社員の協贊とに由り佗日有事の日に於ては益々完全の救護を盡さんとて專ら平素の準備を勉め漸く興隆の運に向ふの際明治十九年我政府の赤十字條約に加盟せられたるの美擧ありしより博愛社も亦大に感奮する所ありて政府の認可を受け日本赤十字社と改稱し「ヂュチーヴ」なる萬國赤十字中央社との交通を開きたり其後本社は益々平時に於て救護事業の準備を擴張し國家事あるの日に備ふるや彌々十分ならんことを勉むるのみならず其力の餘りあるに至ては人類相愛の大主義に基づき戰士報國の衷情を忖度し外國間の戰爭にも進みて救護の任に當らんことを豫期するの場合に進みしなり爰に我日本赤十字社の社業を擴張したるより上は

天皇　皇后兩陛下の御保護を仰ぎ小松宮殿下を總裁に戴き下は役員議員を改選し看護救療の方法を練習するが爲め橋本軍醫總監の盡力にて赤十字社病院を起し次て有栖川宮小松宮兩御息所の御贊助を得て篤志看護婦人會を開き本社の主旨を廣く全國に通するが爲め地方支部地方委員を置くの制を創め又廿年獨逸「カルヽスルーヘ」府に萬國赤十字會の開設せらるゝや政府よりは石黑軍醫監、本社よりは松平子爵を派遣して我帝國と我日本赤十字社とを代表し遂に宮內省より十萬圓の資金を下賜せらるゝの恩典に浴し入社の人員寄付の金額は近頃著るしく增加し有功章社員章を設けて社員及ひ有功者に頒つの條例を裁可せられ社運の興起期して待つへきの期運となれり然れども退て之れを歐洲各國の同社に比較すれは社員の數資金の多寡を始め平時準備の大小に於て尙ほ著大の差異あることを免れす是れ豈國民忠愛慈善の感情我れ彼れに及はさるの結果ならんや只其救護の事業たる本邦に行はるゝの日尙淺くして人々忠愛の心に富めるも深く團結協力の必要を曉らす未た入社の機會を發見せさるもの多きに坐するのみ

抑も傷者救護の業務たるや其實効を戰亂有事の日に期すること勿論なれども戰塵既に漲り鋒鏑已に交るの時に臨み各人各自の働きを以て假に其事に從ふときは徒勞多くして功績少なしまして如何なる方法が最も看護に宜しく如何なる物品が最も救療に適するやに至ては人々いかでか曉り知るに由あらん折角慈善忠愛の眞情より溢れ出てたる人力資金も其目的に合はさるのみか却て軍隊を妨害するの恐れなきにあらざるなりされば赤十字社の事業に於ては衆力を一致して規則正しき運動をなすことゝ資金物品を平素に募り集めて適當の看護救療法を講し習ふことゝは實に第一の要件にして彼の「ヂュチーヴ」の萬國會に於ても直ちに中央結社の必要を議決したる所以なり故に本社の事業を知悉せらるゝ邦內有志の士は益々忠愛慈善の旨趣を擴充して社員社資の增殖に盡力し未た入社の機會を得さるの人々は速に加入を告て忠愛の實を表せられ本社平時の準備をして益々完全の域に進ましめんこと誠に希望に堪へざるなり

終に臨んて特に有志者の注意を喚起せんとする一事は本社第二の總會に於て我淑聖仁慈なる　皇后陛下の親臨を辱ふしたる時　陛下は左の如き厚く有難き令旨を下し賜へり

兵士の軍陣に臨み傷痍を受るは各々其國のために盡せるにて彼我の別なくその憐むべきこと佗に比類なし本社はこの最も憐むべきものをあまねく救ひたすけて慈愛の情を表するものなれは予いかてか喜はさらん諸員よく勉めよ

嗚呼我帝國の臣民たるもの誰か此令旨を奉讀して其本分の慈愛心を發揮するに怠るものあらん慈愛の心を發揮するは聖旨に答へ國恩に報するの道なれはなり偏に祈る本社內外の有志者更に一層の感奮あらんことを

豐　橋

醫長　熊谷幸之輔（兼勤）　醫員　兵頭文　書記　加藤嘉太

會計　齋藤源七　看護人兼使丁　一名

佐世保鎭守府病院　百五十一人　內將校四人

同十二月廿九日三十日ヲ以テ社長佐野常民幹事松平乘承平山成信等東京陸軍豫備病院患者慰問ノ爲本院、第一分院、第二分院ヲ巡回シ士官ヘ手巾三枚ツヽ卷烟草二包ツヽ下士兵卒ヘ卷烟草二千三百四十二包密柑百箱ヲ寄贈セリ其患者總數ハ三院合テ千百七十七人ニシテ內士官六人ナリ又在外各地野戰病院兵站病院等ノ患者慰問トシテ臨時幹事黑田綱彥ヲ差遣シ寄贈品トシテ「フランチル」襯衣手巾各三千枚ヲ携行セシメタリ

一救護視察

明治廿七年十月一日社長佐野常民陸海軍傷病者慰問ヲ兼テ廣島ヘ出張同地豫備病院ニ勤務セル本社救護ノ實況ヲ視察シ同十一月廿二日再出張シ歸路沿道ノ各支部委員部ヲ巡回シ救護準備ノ方針ニ付示ス所アリ又在外救護員視察トシテ戰地各病院患者慰問ヲ兼テ臨時幹事黑田綱彥ヲ朝鮮國ニ派遣セリ該一行ハ明治廿七年十二月七日宇品出帆十一日漁隱洞着十三日平壤廿五日龍川廿八日義州廿八年一月十三日再ヒ平壤ニ反リ十七日航路結氷ノ爲メ陸路仁川ニ向ヒ夫ヨリ第二軍兵站部ヘ渡航シ柳樹屯金州旅順口及ヒ威海衛等ヲ巡回シ其任務ヲ結了シテ三月二日歸朝セリ其一行人名左ノ如シ但醫員大森英太郎ハ歸朝後直チニ廣島豫備病院ノ勤務ニ從事セシメタリ

臨時幹事　黑田綱彥　醫員　大森英太郎

書記會計員兼通辯　田中善之助　看護人　一名

一假病院建設

本社病院ハ戰時豫備病院ノ一部分ニ供スル定規ニ基キ既ニ其準備ヲナセリ然ルニ東京ニ後送セラルヽ清兵負傷者ノ救護ヲ本社ニ托セラルヽ內命アルニ當リ從來ノ建物ニシテハ少シク不足ナルノミナラス我軍人ト敵人トノ負傷者ハ其區域ヲ異ニスルヲ便宜トシ即チ本社病院ノ地續ニ於ケル宮內省御用地一町四反八畝二十五步ヲ拜借シ又紀尾井町同省御用地ニアル舊官報局建物御拂下ケノ恩許ヲ得テ假病院一棟ヲ建設セリ其建坪ハ病室醫員室調劑室手術室看護婦室廚所等ヲ合セ四百二十七坪ニシテ患者百二十餘人ヲ收容シ得ルモノトス

一篤志看護婦人會ノ繃帶材料調製並寄贈

宣戰ノ詔勅下ルヤ幹事長小松宮妃殿下ハ會員ヲ集メラレ兼テ

宮城ニ於テ二十八人（內兵卒二十三軍夫等五）通計百八十人ニシテ概子輕症患者ナリ病類ハ腸加答兒、齒痛、眼病、靴傷、馬咬傷、足關節炎、浮腫等ニシテ足部患者其多キニ居ル中ニ就キ入

海外同盟各社ノ頗ル注目スル所トナレリ就中瑞西中央社ハ金七百拾九圓四拾二錢（二千フラン）蘭領印度赤十字中央委員ハ金千七百七十五圓二十錢露國赤十字社ハ負傷者廿五人ニ對スル衛生材料被服寢具類一式獨國赤十字社ハ外科器械十二函墺國赤十字社ハ佛貨五千フラン（凡我金千八百四拾五圓貳錢但未着）ヲ寄贈シ以テ本社ノ業務ヲ幇助セントセリ其厚志ヤ謝スヘシ本社ノ責務ヤ愈々重キヲ加ヘリト謂フヘシ

一內外國人ノ寄贈

明治廿七年七月以來仝廿八年三月末日ニ至ル間本社救護資トシテ內外國人ヨリ寄贈ノ金件ハ金五萬九千百三十八圓五拾錢二厘物品ハ繃帶材料八千三百十四卷、六千八百七十七反、十五貫二百四十三目、被服類二千百五十六點、醫療具七十九個、藥品九種、書籍二千九百九十四部、食物類二十七種、雜品三十二種ニシテ此人員二萬二千六百五人內、外國人五十八人ナリ

一新入社員ノ景況

明治廿八年三月末ノ統計ニ依レハ本社々員ノ總數ハ實ニ拾四萬千九百四十七人ノ多キニ達セリ之ヲ開戰以前ノ現數ニ比スレハ其增加ハ八萬千三百十八人ニシテ爾來入社ノ申込ヲ受ルコト日々數百乃至千人ニ上ルアリ抑モ本社ハ戰時ニ在テ兩軍ノ傷病者ヲ救護スルヲ以テ其事業トスルコトハ夙ニ世人ノ知ル所ナリト雖未タ其實地ニ遭遇セサルモノヽ遲疑逡巡敢テ進テ協贊ノ實ヲ表スルニ至ラサルモノアルハ情ノ免レサル所ナリトス今ヤ本社ノ實地勤務ノ景況ヲ見ルニ及ンテ赤十字ノ主旨漸ク人心ニ貫徹セシコトハ社員增加ノ一端ヲ以テ之ヲ證スルニ餘アリ各地方ノ本社職員並有志社員此機ニ及ンテ愈々社旨ノ普及ニ勉メ社業ノ擴張ニ汲々タルハ國家ノ爲メニ深ク謝スル所ナリ此勢ニ乘シテ進ミ遂ニ救護ノ全功ヲ收メテ善良ノ結果ヲ見ルヲ得ハ帝國ノ名譽ハ期セスシテ至ルヘク本社ハ幸ニ先進同盟各社ニ對シテ恥ツル所ナキノ盛運ヲ呈スヘシ是レ本社ノ國家ノ爲メニ切ニ希望スル所ナリ

一官民ノ幇助

開戰以來在外救護員ニ對スル本社ノ指揮命令ハ最モ迅速敏活ニシテ業務ノ沮格失機ヲ防クハ頗ル緊要事務ニ屬セリ運輸通信長官ハ夙ニ本社ニ許スニ軍用電信使用ノ便ヲ以テセラレ幸

備の大小に於て尙は著大の差異あることを免れす是れ豈國民忠愛慈善の感情我れ彼れに及はさるの結果ならんや只其救護の事業たる本邦に行はるゝの日尙淺くして人々忠愛の心に富めるも深く團結協力の必要を曉らす未た入社の機會を發見せさるもの多きに坐するのみ

抑も傷者救護の業務たるや其實効を戰亂有事の日に期すること勿論なれども戰塵既に漲り鋒鏑已に交るの時に臨み各人各自の働きを以て假に其事に從ふときは徒勞多くして功績少なしまして如何なる方法が最も看護に宜しく如何なる物品が最も救療に適するやに至ては人々いかでか曉り知るに由あらん折角慈善忠愛の眞情より溢れ出てたる人力資金も其目的に合はさるのみか却て軍隊を妨害するの恐れなきにあらざるなりされば赤十字社の事業に於ては衆力を一致して規則正しき運動をなすことゝ資金物品を平素に募り集めて適當の看護救療法を講し習ふこととは實に第一の要件にして彼の「ヂュチーヴ」の萬國會に於ても直ちに中央結社の必要を議決したる所以なり故に本社の事業を知悉せらるゝ邦内有志の士は益〻忠愛慈善の旨趣を擴充して社員社資の増殖に盡力し未た入社の機會を得さるの人々は速に加入を告て忠愛の實を表せられ本社平時の準備をして益々完全の域に進ましめんこと誠に希望に堪へざるなり

終に臨んて特に有志者の注意を喚起せんとする一事は本社第二の總會に於て我淑聖仁慈なる　皇后陛下の親臨を辱ふしたる時　陛下は左の如き厚く有難き令旨を下し賜へり

兵士の軍陣に臨み傷痍を受るは各々其國のために盡せるにて彼我の別なくその憐むべきこと佗に比類なし

本社はこの最も憐むべきものをあまねく救ひたすけて慈愛の情を表するものなれは予いかてか喜はさらん

諸員よく勉めよ

嗚呼我帝國の臣民たるもの誰か此令旨を奉讀して其本分の慈愛心を發揮するに怠るものあらん慈愛の心を發揮するは聖旨に答へ國恩に報するの道なればなり偏に祈る本社内外の有志者更に一層の感奮あらんことを

豊　橋

醫長　熊谷幸之輔（兼勤）　醫員　兵頭文　書記　加藤嘉太

會計　齋藤源七　看護人兼使丁　一名

計五名　通計十二名

一大坂支部ノ清兵救護

明治廿八年一月十二日大阪支部救護員ヲ大坂陸軍豫備病院ニ派遣シ其第二分院ニ在ル清兵傷病者ノ救護ニ從事セリ其救護員人名ハ左ノ如シ

醫長心得　岡潔　醫員　東藤三郎　助手醫員　内田顯常

調劑員　中野昂一　看護婦取締　田中モト子　看護婦　九名

書記兼會計員　目崎武富　看護人兼使丁　三名

計十七名

一内外各地救護患者ノ數

明治廿七年八月九日ヨリ廿八年一月三十一日ニ至ル間本社幷各支部ニ於テ取扱ヒタル患者ノ總數ハ壹萬千六百四十八人（内清兵五百五十一人）ニシテ之ヲ各地ニ區別スレハ左ノ如シ但平壤ハ土地遠隔一月以後ノ報告未達ニ付廿七年末ノ調査ニ依リ其他從事日淺キ地方等ハ之ヲ畧ス

東　京　六百二十五人　内下士三十人
　内科三百五人　外科百六十一人　其他百五十九人
　清兵五十五人　内將校一人
　内科　三人　外科五十二人

大　坂　清兵百九十五人　内（將校七人 下士十五人）
　内科　百六人　外科八十九人

名古屋　清兵百八十人　内科

豊　橋　清兵百二十一人　内科

廣　島　本社　千二百七十七人　内（將校二人 下士六十五人）
　内科九百十三人　外科三百六十四人
　京都支部千百七十五人内（將校三人 下士三十五人）
　内科八百六十九人　外科三百六人

松　山　百八十四人　兵卒其他
　内科百四十一人　外科四十三人

仁　川　三十八人　内下士一人
　内科二十一人　外科十七人
　外ニ寄港ノ船内ニ於テ繃帶交換ヲ施セシ者八十八人

平　壤　七百八十五人　内（將校四人 下士四十人）
　内科五百八十九人　外科百九十六人
　外ニ外來七百四十二人

義　州　百十二人　種類轉歸報告未詳ニ付畧ス

龍　川　六百一人　種別報告未詳ニ付畧ス
　内科三百三十一人　外科二百七十人
　外ニ外來本邦人七十三人　韓人五十五人

漁隱洞　二十八人　内（將校二人 下士三人）
　内科二十四人　外科四人
　外ニ外來二百二十八人並ニ寄港ノ船内ニ於テ治療ヲ施セシ者二十人繃帶交換ヲ施セシ者十六人

耳湖浦　千十八人　後送ノ際救護補助

柳樹屯　九百四十二人　内（將校七人 下士二十四人）
　内科六百九十九人　外科二百四十三人

金　州　百五人　軍夫其外
　内科六十四人　外科四十一人
　外ニ外來三十二人往診一人屍體檢按一人

船内護送二千九百五十一人
　但第一回勤務

一在外軍隊寄贈

明治廿七年七月十四日其筋ノ承認ヲ得テ在外陸海軍隊ノ慰勞トシテ手巾一萬枚ヲ寄贈セリ但陸軍ヘ九千枚海軍ヘ一千枚トス

一患者慰問及寄贈

明治廿七年九月十一日幹事松平信正ヲ患者慰問トシテ廣島豫備病院ニ差遣シ橋本少佐ニ乾餅二器一般患者ヘ「ラムネ」七十六ダースヲ贈遣セリ同十月一日社長佐野常民陸海軍傷病者慰問且救護事務實視ノ爲メ廣島ニ出發シ四日廣島豫備病院五日呉鎮守府病院十一日佐世保鎮守府病院ニ各入院ノ傷病者ヲ慰問シ手巾烟草及ヒ書冊等ヲ贈レリ當時在院ノ患者ハ左ノ如シ

廣島陸軍豫備病院　八百廿五人　内將校十三人

呉鎮守府病院　百四十三人　内將校一人

（内將校一兵卒五十八軍夫等二十一）宮城ニ於テ二十八人（内兵卒二十三軍夫等五）通計百八十人ニシテ概ネ輕症患者ナリ病類ハ腸加荅兒、齒痛、眼病、靴傷、馬咬傷、足關節炎、浮腫等ニシテ足部患者其多キニ居ル中ニ就キ入院ヲ要シタルハ軍夫ニテ窒扶斯患者一名本社病院ニ一名ハ足關節捫挫患者ニシテ兵庫縣立病院ニ入院セシメタリ其他各地ニ於テ施療セシ患者ノ數ハ報告未詳ニ由リ畧ス此擧ニ於テ得タル効果ハ各地方社員ノ熱誠ナル忠愛心ニヨリ一般ノ感情ハ遠征軍隊ノ慰勞一片ニ止マラスシテ大ニ軍氣振興ヲ促スニ至リシモノヽ如シ犒軍ニ與リタル箇所ハ本社ノ外京都大阪兵庫名古屋岡山宮城福島滋賀靜岡ノ九支部栃木岩手青森ノ三委員部ナリ

一恤兵寄贈品送達取扱

明治廿七年七月十日陸軍省ニ恤兵部ヲ置カレ全國有志者ヨリ征清軍隊ニ寄贈スル物品ヲ處理セラルヽニヨリ本社ハ報國恤兵ノ主義ニ依リ官民ノ便ヲ計リ其送達ノ勞ニ當ランカ爲メ其手續書ヲ草定シテ一面ニハ各地方支部委員部ニ通牒シ一面ニハ鐵道局ヲ初全國鐵道會社滊船會社及内國通運會社等ニ協議シテ無賃遞送ノ特約ヲ結ヒ得タルヲ以テ陸海軍省ヘ屆出其事ニ着手セリ其送達地ハ陸軍ハ下ノ關集積倉庫貨物廠ノ二ケ所海軍ハ佐世保呉ノ二鎮守府トス而後十二月末ニ至リ陸軍省ニ於テ地方ノ便宜ヲ計ラレ從來指定サレタル官衙ノ外軍隊用品ハ陸軍省經理局第二課各師團監督部宇品陸軍糧秣豫備倉庫患者用品ハ陸軍省醫務局各地陸軍豫備病院要塞病院等ニ送付スルコトヲ得セシメラレタルニヨリ全國寄贈者ノ便宜ヲ得ル少カラス既ニ本社取扱ノ必要ナキニ至リシノミナラス本社ハ目下其本分タル各地救護ノ事務益々繁劇ヲ加ヘ其餘暇ナキニヨリ爰ニ本社ハ本年一月十八日ヲ以テ各會社ト無賃遞送ノ特約ヲ解キ全國ニ廣告シテ寄贈品取扱ノ事務ヲ廢止セリ本社及各支部委員部ニ於テ七月廿三日已來取扱荷數五萬五千二百三十七個ニシテ内陸軍ノ部四萬八千五百十四個海軍ノ部六千七百二十三個ナリ右寄贈品取扱ニ關シ本社及各地方部ニ於ケル費額又各會社ノ負擔額ハ未詳ニヨリ追テ報スル所アルヘシ

一各支部ノ準備

京都大坂兩支部ノ外兵營所在ノ各支部即北海道兵庫長崎新潟群馬名古屋宮城愛媛熊本ノ各支部ハ戰時一病院（患者百人）ニ對スル衛生材料被服寢具等ノ準備ヲ整ヘ何時モ其地豫備病院ノ勤務ニ差支ナカラシメ其他ノ各支部ハ看護婦二十名乃至三十名ヲ養成シ且醫員調劑員等ヲ豫約シテ不時ノ需要ニ應スルノ計畫ヲナセリ

一看護人ノ養成

戰時準備ノ一トシテ看護婦ノ養成ハ本社ノ夙ニ着手スル所ナリト雖今回ノ如キ其對手國ハ只ニ未タ野蠻ノ風習ヲ脫セサルノミナラス赤十字同盟以外ニ在テ軍紀紊亂文明ノ公戰ヲ蔑視スル所ノ彼地ニ渡航セシムルニハ孱弱ノ婦人ハ遂ニ其凌辱ト危險トヲ免レサルノ恐レアリ故ニ陸軍省ノ許サレサル所ナレハ戰地派遣ニ適スル男子ノ看護人ヲ募リ急速之ヲ教成スルノ必要ヲ生セリ其撰擇法ハ第一陸軍看護手ノ經歷アリシ者第二醫學生第三篤志者等ニシテ既ニ其教成ヲ施シタルモノ百八十三名ニ及ヘリ

○一帝室ノ恩賜

皇后陛下カ畏クモ日夜傷病者ノ慘苦ヲ憫マセ玉ヒ常ニ優渥ノ御沙汰アラセラルヽハ軍民ノ感泣措カサル所ナリ殊ニ御手カラ繃帶御調製遊ハサセラレ宮城女官一同ヘモ共ニ調製仰付ラレテ其千二百個ヲ本社カ救護ニ從事ノ各病院ニ下賜セラルヽニ至ル明治廿七年十一月十三日皇后宮大夫ヨリ此旨本社ニ達セラレタリ洪恩無窮答ヘ奉ル所ヲ知ラス

十二月廿五日本社傷病兵救護費ノ内ヘ金百圓ツヽ

常宮

周宮兩殿下ヨリ下賜セラル帝室特殊ノ恩眷誠ニ感銘ニ堪ヘサルナリ

佛蘭西婦人協會ハ我

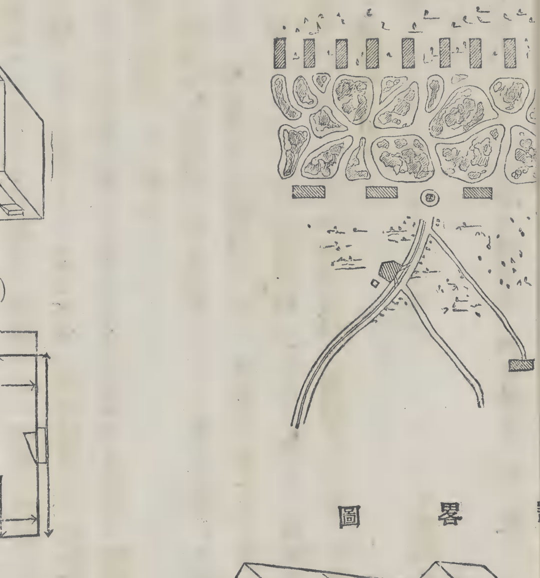
皇后陛下ノ特ニ本社ヲ眷護アラセラルヽノ厚キヲ傳承シ遙ニ繃帶具一函ヲ献呈シテ欽仰ノ意ヲ致セリ明治廿八年一月三十一日

陛下ハ之ヲ本社ニ下賜セラレ以テ參考ノ資トナサシメ玉フ慈仁ノ盛德海外ニ及フ本社ノ榮譽亦大ナリト謂フベシ

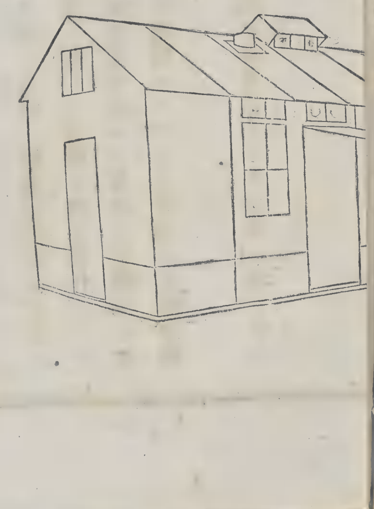
一海外同盟各社ノ寄贈

今回ノ戰爭ニ依リ本社カ彼我ノ別ナク其救護ヲ實施シタルハ

スル病院設置之圖



署圖



佐世保鎮守府病院　百五十一人　内將校四人

同十二月廿九日三十日ヲ以テ社長佐野常民幹事松平乘承平山成信等東京陸軍豫備病院患者慰問ノ爲本院、第一分院、第二分院ヲ巡回シ士官ヘ手巾三枚ツヽ卷烟草二包ツヽ下士兵卒ヘ卷烟草二千三百四十二包密柑百箱ヲ寄贈セリ其患者總數ハ三院合テ千百七十七人ニシテ内士官六人ナリ又在外各地野戰病院兵站病院等ノ患者慰問トシテ臨時幹事黒田綱彦ヲ差遣シ寄贈品トシテ「フランネル」襯衣手巾各三千枚ヲ携行セシメタリ

一救護視察

明治廿七年十月一日社長佐野常民陸海軍傷病者慰問ヲ兼テ廣島ヘ出張同地豫備病院ニ勤務セル本社救護ノ實況ヲ視察シ同十一月廿二日再出張シ歸路沿道ノ各支部委員部ヲ巡回シ救護準備ノ方針ニ付示ス所アリ又在外救護員視察トシテ戰地各病院患者慰問ヲ兼テ臨時幹事黒田綱彦ヲ朝鮮國ニ派遣セリ該一行ハ明治廿七年十二月七日宇品出帆十一日漁隱洞着十三日平壤廿五日龍川廿八日義州廿八年一月十三日再ヒ平壤ニ反リ十七日航路結氷ノ爲メ陸路仁川ニ向ヒ夫ヨリ第二軍兵站部ヘ渡航シ柳樹屯金州旅順口及ヒ威海衛等ヲ巡回シ其任務ヲ結了シテ三月二日歸朝セリ其一行人名左ノ如シ但醫員大森英太郎ハ歸朝後直チニ廣島豫備病院ノ勤務ニ從事セシメタリ

臨時幹事　黒田綱彦　醫員　大森英太郎

書記會計員兼通辯　田中善之助　看護人　一名

一假病院建設

本社病院ハ戰時豫備病院ノ一部分ニ供スル定規ニ基キ既ニ其準備ヲナセリ然ルニ東京ニ後送セラルヽ清兵負傷者ノ救護ヲ本社ニ托セラルヽ内命アルニ當リ從來ノ建物ニシテハ少シク不足ナルノミナラス我軍人ト敵人トノ負傷者ハ其區域ヲ異ニスルヲ便宜トシ即チ本社病院ノ地續ニ於ケル宮内省御用地一町四反八畝二十五歩ヲ拜借シ又紀尾井町同省御用地ニアル舊官報局建物御拂下ケノ恩許ヲ得テ假病院一棟ヲ建設セリ其建坪ハ病室醫員室調劑室手術室看護婦室厨所等ヲ合セ四百二十七坪ニシテ患者百二十餘人ヲ收容シ得ルモノトス

一篤志看護婦人會ノ繃帶材料調製並寄贈

宣戰ノ詔勅下ルヤ幹事長小松宮妃殿下ハ會員ヲ集メラレ兼テ組織セル篤志看護婦人會ノ[illegible]モ感激シテ各々應分ノ醵金ヲナシ幹事長殿下ヲ始メ奉リ日々本社病院ニ集合シテ消毒繃帶材料ノ調製ニ從事シ其製出ノ諸材料患者千三百人ニ對スル一ヶ月分ヲ陸海軍並本社病院ニ寄贈セラレ引續尚製造中ニ在リ又小包繃帶ハ軍隊必需ノ要品タル旨ヲ以テ石黒野戰衛生長官ヨリ特ニ其製造ヲ本會ニ委託セラレタルハ榮トスル所ニシテ既ニ該品一萬五千個ノ調製ヲ終レリ

一幹事長殿下患者御慰問

篤志看護婦人會幹事長小松宮妃殿下ハ陸海軍患者御慰問且本社看護婦御督勵ノ爲メ明治二十七年十一月十七日東京御出發鍋島侯爵夫人西鄕伯爵夫人大山伯爵夫人ハ會員總代トシテ隨行大坂ヨリ幹事副長北白川宮妃殿下御同行アラセラレタリ廿日廿一日廿二日ノ三日間廣島陸軍豫備病院並各分院ニ至ル迄一々御慰問アラセラレ廿二日ハ特ニ看護婦一同ヲ御旅館ニ召サレ厚ク奬諭ヲ賜ヒ廿三日呉鎮守府病院ヲ御慰問アラセラル佐世保鎮守府病院ヘハ御名代トシテ御用掛上野幾子ヲ差向ケラレ且思召ニ依リ鍋島侯爵夫人會員總代トシテ同行セリ各病院患者ヘノ寄贈品ハ手巾卷烟草菓子等ニシテ殿下ハ同月廿七日御歸京アラセラレタリ

一鐵道輜軍及臨時傷病者救護

各師團軍隊鐵道輸送ニ際シ其筋ノ許可ヲ得テ沿道各支部委員部ニ通牒シ各停車場ニ輜軍所ヲ設ケ一ハ軍隊遠征ノ勞ヲ慰センカ爲メ供茶給水及有志社員ノ寄贈物品(當座ノ利便ヲ主トシ手巾鄙便切手紙烟草「マッチ」食物ハ「ビスケット」「パン」煎餅粕庭羅ノ類)ヲ供給シ一ハ臨時傷病者ノ救護ニ供センカ爲メ醫員看護人等ヲ備ヘ從事シタリ輜軍所ノ景況ハ各地大同小異アリト雖概ヲ晝間ハ國旗赤十字旗其他輜軍及陸軍萬歲ト大書セル旗幟ヲ立テ夜間ハ高張提灯球燈大燈篝火等ヲ以テ行色ヲ壯ニシ又高大ノ綠門ヲ作ルアリ烟火ヲ發揚スルアリ音樂ヲ吹奏スルアリ此ノ如クニシテ各地社員ハ勿論輜軍ノ志アルモノハ遠近トナク來ッテ遠征軍隊ヲ輜フ者數千人ノ多キニ至リ風日雨夜モ其勞苦ヲ厭ハス其費用ヲ顧ミス一意赤誠ヲ以テ列車ノ送迎ニ競奔シ征淸ノ必勝ヲ唱ヘ軍隊ノ萬歲ヲ祝スルノ聲ハ爲メニ天地モ震撼スルノ感アリシ又臨時傷病者ノ救護ニ於テハ各停車場ニ天幕若クハ假屋ヲ以テ療養所ヲ設ケ治療ヲ施シタル者本社ニ於テ七十貳人(内將校一兵卒四十七軍夫等二十四)兵庫ニ於テ八十人

海外同盟各社ノ頗ル注目スル所トナレリ就中瑞西中央社ハ金七百拾九圓四拾二錢(二千フラン)蘭領印度赤十字中央委員ハ金千七百七十五圓二十錢露國赤十字社ハ負傷者廿五人ニ對スル衛生材料被服寢具類一式獨國赤十字社ハ外科器械十二函墺國赤十字社ハ佛貨五千フラン(凡我金千八百四拾五圓貳錢但未着)ヲ寄贈シ以テ本社ノ業務ヲ幇助セントセリ其厚志ヤ謝スヘシ本社ノ責務ヤ愈々重キヲ加ヘリト謂フヘシ

一内外國人ノ寄贈

明治廿七年七月以來全廿八年三月末日ニ至ル間本社救護資トシテ内外國人ヨリ寄贈ノ金件ハ金五萬九千百三十八圓五拾錢二厘物品ハ繃帶材料八千三百十四卷、六千八百七十七反、十五貫二百四十三目、被服類二千百五十六點、醫療具七十九個、藥品九種、書籍二千九百九十四部、食物類二十七種、雜品三十二種ニシテ此人員二萬二千六百五人内、外國人五十八人ナリ

一新入社員ノ景況

明治廿八年三月末ノ統計ニ依レハ本社々員ノ總數ハ實ニ拾四萬千九百四十七人ノ多キニ達セリ之ヲ開戰以前ノ現數ニ比スレハ其增加ハ八萬千三百十八人ニシテ爾來入社ノ申込ヲ受ルコ日々數百乃至千人ニ上ルアリ抑モ本社ハ戰時ニ在テ兩軍ノ傷病者ヲ救護スルヲ以テ其事業トスルコハ夙ニ世人ノ知ル所ナリト雖未タ其實地ニ遭遇セサルモノヽ遲疑逡巡敢テ進テ協贊ノ實ヲ表スルニ至ラサルモノアルハ情ノ免レサル所ナリトス今ヤ本社ノ實地勤務ノ景況ヲ見ルニ及ンテ赤十字ノ主旨漸ク人心ニ貫徹セシコハ社員增加ノ一端ヲ以テ之ヲ證スルニ餘アリ各地方ノ本社職員並有志社員此機ニ及ンテ愈々社旨ノ普及ニ勉メ社業ノ擴張ニ汲々タルハ國家ノ爲メニ深ク謝スル所ナリ此勢ニ乘シテ進ミ遂ニ救護ノ全功ヲ收メテ善良ノ結果ヲ見ルヲ得ハ帝國ノ名譽ハ期セスシテ至ルヘク本社ハ幸ニ先進同盟各社ニ對シテ耻ツル所ナキノ盛運ヲ呈スヘシ是レ本社ノ國家ノ爲メニ切ニ希望スル所ナリ

一官民ノ幇助

開戰以來在外救護員ニ對スル本社ノ指揮命令ハ最モ迅速敏活ニシテ業務ノ沮格失機ヲ防クハ頗ル緊要事務ニ屬セリ運輸通信長官ハ夙ニ本社ニ許スニ軍用電信使用ノ便ヲ以テセラレ幸[illegible]恤兵寄贈品逆達取扱ニ際シテ鐵道局其他鐵道汽船運送會社ハ特ニ無賃ヲ以テ傳遞セラレタルノミナラス救護實施以來救護員ハ定價ノ五割救護用品ハ無賃ヲ以テ各地運送ノ便益ヲ與ヘラレタリ

本社及ヒ地方各新聞社ハ恤兵寄贈品ノ逆達又ハ救護資ノ寄贈其外臨時各種ノ廣告等ニ對シテ無賃若クハ異例ノ割合ヲ以テ其新聞紙上ニ掲載スルコトヲ諾セラレタリ

此ノ如ク諸般特別ノ幇助ニ依リ着々事業ノ進行ヲ得タルハ本社ノ深ク感謝スル所ナリ

一各支部委員部役員總會

救護事務協議ノ爲メ明治廿八年二月廿七日ヨリ三月三日ニ至ル五日間廣島ニ於テ全國各支部委員部役員總會ヲ開キ總裁殿下ノ御臨場ヲ仰キ又衛生長官ノ參會ヲ請ヒ諸般ノ協議ヲ遂ケ頗ル前途ノ便益ヲ得タリ此時社長ハ參會役員總代トシテ戰勝ノ賀表ヲ上リ參會役員ハ豫備病院及ヒ呉鎮守府病院ニ於テ親シク患者ヲ慰問シ各金若干ヲ贈リ兼テ本社救護ノ狀況ヲ實施シタリ

一救護費支出ノ概算

明治廿七年八月ヲ以テ非常部ヲ設ケ廿八年三月三十一日ニ至ル本社救護費ノ支出額ハ凡左ノ如シ

一金八萬百五拾四圓貳拾八錢　戰時救護費

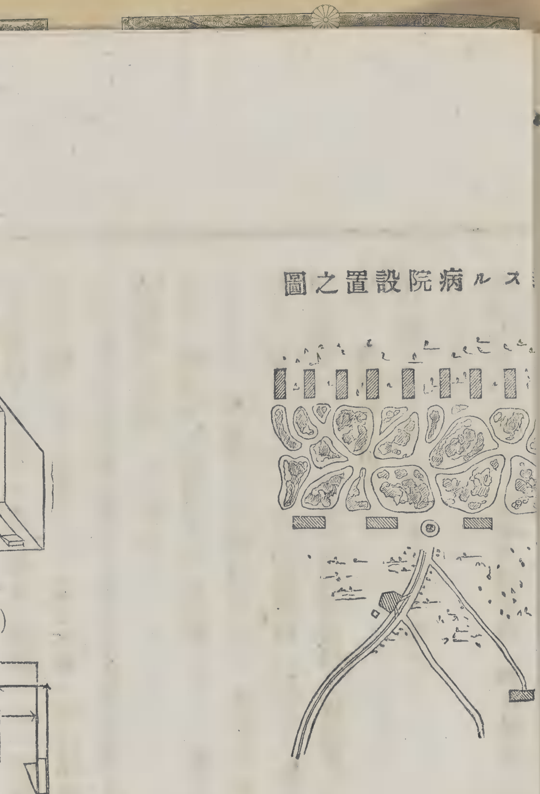
此内譯

金壹萬貳千九百五拾六圓七拾四錢	救護員諸給與
金四百圓四拾九錢五厘	救護員旅費
金貳千百六拾貳圓八錢	患者救護費
金千四百七拾貳圓三拾錢六厘	通信及運搬費
金千貳百三拾七圓四拾七錢	輜軍費
金千百貳拾九圓四拾三錢四厘	恤兵寄贈品取扱費
金七千五百七拾三圓九拾六錢五厘	假設病院建築費
金八百拾六圓五拾八錢七厘	諸雜費
金五萬貳千四百五圓貳拾錢三厘	假出

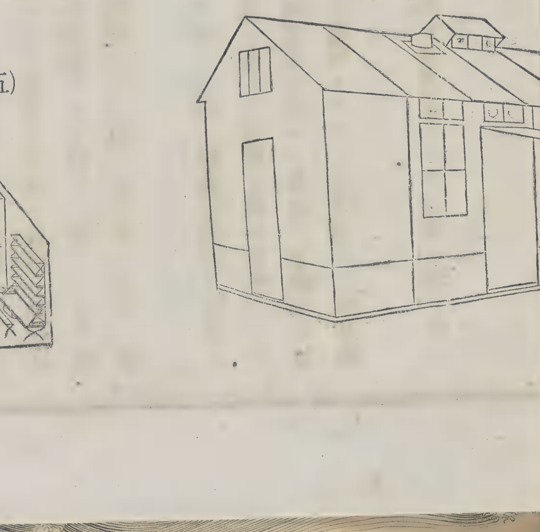
但此假出ハ各地救護員出張所ニ屬シ未タ決算報告ヲ得サル者ニ係ル

右ノ外常用部救護準備費中ニ於テ衛生材料及被服寢具等ノ調製ニ支出シタル金額ハ金四萬千五百圓四錢三厘又各支部ニ於テ支出セル救護費ハ報告未達ニヨリ爰ニ畧ス

スル病院設置之圖



畧圖



佐世保鎭守府病院　百五十一人　内將校四人

同十二月廿九日三十日ヲ以テ社長佐野常民幹事松平乘承平山成信等東京陸軍豫備病院患者慰問ノ爲本院、第一分院、第二分院ヲ巡回シ士官ヘ手巾三枚ツヽ卷烟草二包ツヽ、下士兵卒ヘ卷烟草二千三百四十二包密柑百箱ヲ寄贈セリ其患者總數ハ三院合テ千百七十七人ニシテ内士官六人ナリ又在外各地野戰病院兵站病院等ノ患者慰問トシテ臨時幹事黒田綱彦ヲ差遣シ寄贈品トシテ「フラネル」襯衣手巾各三千枚ヲ携行セシメタリ

一救護視察

明治廿七年十月一日社長佐野常民陸海軍傷病者慰問ヲ兼テ廣島ヘ出張同地豫備病院ニ勤務セル本社救護ノ實況ヲ視察シ同十一月廿二日再出張シ歸路沿道ノ各支部委員部ヲ巡回シ救護準備ノ方針ニ付示ス所アリ又在外救護員視察トシテ戰地各病院患者慰問ヲ兼テ臨時幹事黒田綱彦ヲ朝鮮國ニ派遣セリ該一行ハ明治廿七年十二月七日宇品出帆十一日漁隱洞着十三日平壤廿五日龍川廿八日義州廿八年一月十三日再ヒ平壤ニ反リ十七日航路結氷ノ爲メ陸路仁川ニ向ヒ夫ヨリ第二軍兵站部ヘ渡航シ柳樹屯金州旅順口及ヒ威海衛等ヲ巡回シ其任務ヲ結了シテ三月二日歸朝セリ其一行人名左ノ如シ但醫員大森英太郎ハ歸朝後直チニ廣島豫備病院ノ勤務ニ從事セシメタリ

臨時幹事　黒田綱彦　醫員　大森英太郎
書記會計員兼通辯　田中善之助　看護人　一名

一假病院建設

本社病院ハ戰時豫備病院ノ一部分ニ供スル定規ニ基キ既ニ其準備ヲナセリ然ルニ東京ニ後送セラル、清兵負傷者ノ救護ヲ本社ニ托セラル、内命アルニ當リ從來ノ建物ニシテハ少シク不足ナルノミナラス我軍人ト敵人トノ負傷者ハ其區域ヲ異ニスルヲ便宜トシ即チ本社病院ノ地續ニ於ケル宮内省御用地一町四反八畝二十五歩ヲ拜借シ又紀尾井町同省御用地ニアル舊官報局建物御拂下ケノ恩許ヲ得テ假病院一棟ヲ建設セリ其建坪ハ病室醫員室調劑室手術室看護婦室厨所等ヲ合セ四百二十七坪ニシテ患者百二十餘人ヲ収容シ得ルモノトス

一[illegible]婦人會[illegible]ニ一大[illegible]ニハ患者ヲ慰メ看護婦ヲ勵マシ又一方ニハ必要ナル物品ヲ贈リテ軍人敬愛ノ心ヲ表セントノ旨ヲ諭示セラル會員一同何レモ感激シテ各々應分ノ醵金ヲナシ幹事長殿下ヲ始メ奉リ日々本社病院ニ集合シテ消毒綳帶材料ノ調製ニ從事シ其製出ノ諸材料患者千三百人ニ對スル一ヶ月分ヲ陸海軍並本社病院ニ寄贈セラレ引續尚製造中ニ在リ又小包綳帶ハ軍隊必需ノ要品タル旨ヲ以テ石黒野戰衛生長官ヨリ特ニ其製造ヲ本會ニ委托セラレタルハ榮トスル所ニシテ既ニ該品一萬五千個ノ調製ヲ終レリ

一幹事長殿下患者御慰問

篤志看護婦人會幹事長小松宮妃殿下ハ陸海軍患者御慰問且本社看護婦御督勵ノ爲メ明治二十七年十一月十七日東京御出發鍋島侯爵夫人西郷伯爵夫人大山伯爵夫人ハ會員總代トシテ隨行大坂ヨリ幹事副長北白川宮妃殿下御同行アラセラレタリ廿日廿一日廿二日ノ三日間廣島陸軍豫備病院並各分院ニ至ル迄一々御慰問アラセラレ廿二日ハ特ニ看護婦一同ヲ御旅館ニ召サレ厚ク奬諭ヲ賜ヒ廿三日呉鎭守府病院ヲ御慰問アラセラル佐世保鎭守府病院ヘハ御名代トシテ御用掛上野幾子ヲ差向ケラレ且思召ニ依リ鍋島侯爵夫人會員總代トシテ同行セリ各病院患者ヘノ寄贈品ハ手巾卷烟草菓子等ニシテ殿下ハ同月廿七日御歸京アラセラレタリ

一鐵道犒軍及臨時傷病者救護

各師團軍隊鐵道輸送ニ際シ其筋ノ許可ヲ得テ沿道各支部委員部ニ通牒シ各停車場ニ犒軍所ヲ設ケ一ハ軍隊遠征ノ勞ヲ慰センカ爲メ供茶給水及有志社員ノ寄贈物品（當座ノ利便ヲ主トシ手巾郵便切手紙烟草「マッチ」食物ハ「ビスケット」「パン」煎餅粕庭羅ノ類）ヲ供給シ一ハ臨時傷病者ノ救護ニ供センカ爲メ醫員看護人等ヲ備ヘ從事シタリ犒軍所ノ景況ハ各地大同小異アリト雖概ネ晝間ハ國旗赤十字旗其他犒軍及陸軍萬歳ト大書セル旗幟ヲ立テ夜間ハ高張提灯球燈大燈篝火等ヲ以テ行色ヲ壯ニシ又高大ノ綠門ヲ作ルアリ烟火ヲ發揚スルアリ音樂ヲ吹奏スルアリ此ノ如クニシテ各地社員ハ勿論犒軍ノ志アルモノハ遠近トナク來ッテ遠征軍隊ヲ犒フ者數千人ノ多キニ至リ風日雨夜モ其勞苦ヲ厭ハス其費用ヲ顧ミス一意赤誠ヲ以テ列車ノ送迎ニ競奔シ征清ノ必勝ヲ唱ヘ軍隊ノ萬歳ヲ祝スルノ聲ハ爲メニ天地モ震撼スルノ感アリシ又臨時傷病者ノ救護ニ於テハ各停車場ニ天幕若クハ假屋ヲ以テ療養所ヲ設ケ治療ヲ施シタル者本社ニ於テ七十貳人（内將校一兵卒四十七軍夫等二十四）兵庫ニ於テ八十八人

海外同盟各社ノ與ル注目スル所トナレリ就中瑞西中央社ハ金七百拾九圓四拾二錢（二千フラン）蘭領印度赤十字中央委員ハ金千七百七十五圓二十錢露國赤十字社ハ負傷者廿五人ニ對スル衛生材料被服寢具類一式獨國赤十字社ハ外科器械十二函墺國赤十字社ハ佛貨五千フラン（凡我金千八百四拾五圓貳錢但未着）ヲ寄贈シ以テ本社ノ業務ヲ幇助セントセリ其厚志ヤ謝スヘシ本社ノ責務ヤ愈々重キヲ加ヘリト謂フヘシ

一内外國人ノ寄贈

明治廿七年七月以來全廿八年三月末日ニ至ル間本社救護資トシテ内外國人ヨリ寄贈ノ金件ハ金五萬九千百三十八圓五拾錢二厘物品ハ綳帶材料八千三百十四卷、六千八百七十七反、十五貫二百四十三目、被服類二千百五十六點、醫療具七十九個、藥品九種、書籍二千九百九十四部、食物類二十七種、雜品三十二種ニシテ此人員二萬二千六百五人内、外國人五十人ナリ

一新入社員ノ景況

明治廿八年三月末ノ統計ニ依レハ本社々員ノ總數ハ實ニ拾四萬千九百四十七人ノ多キニ達セリ之ヲ開戰以前ノ現數ニ比スレハ其增加ハ八萬千三百十八人ニシテ爾來入社ノ申込ヲ受ルコト日々數百乃至千人ニ上ルアリ抑モ本社ハ戰時ニ在テ兩軍ノ傷病者ヲ救護スルヲ以テ其事業トスルコトハ夙ニ世人ノ知ル所ナリト雖未タ其實地ニ遭遇セサルモノ、遲疑逡巡敢テ進テ協賛ノ實ヲ表スルニ至ラサルモノアルハ情ノ免レサル所ナリトス今ヤ本社ノ實地勤務ノ景況ヲ見ルニ及ンテ赤十字ノ主旨漸ク人心ニ貫徹セシコハ社員增加ノ一端ヲ以テ之ヲ證スルニ餘アリ各地方ノ本社職員並有志社員此機ニ及ンテ愈々社旨ノ普及ニ勉メ社業ノ擴張ニ汲々タルハ國家ノ爲メニ深ク謝スル所ナリ此勢ニ乘シテ進ミ遂ニ救護ノ全功ヲ收メテ善良ノ結果ヲ見ルヲ得ハ帝國ノ名譽ハ期セスシテ至ルヘク本社ハ幸ニ先進同盟各社ニ對シテ耻ツル所ナキノ盛運ヲ呈スヘシ是レ本社ノ國家ノ爲メニ切ニ希望スル所ナリ

一官民ノ幇助

開戰以來在外救護員ニ對スル本社ノ指揮命令ハ最モ迅速敏活ニ[illegible]

臨戰地及各地兵站部又ハ船内ニ於ケル本社救護員ノ糧食ハ都テ官給ニ依リ又防寒衣等貸與セラル、ノ幸ヲ得タリ

恤兵寄贈品送達取扱ニ際シテ鐵道局其他鐵道汽船運送會社ハ特ニ無賃ヲ以テ傳遞セラレタルノミナラス救護實施以來救護員ハ定價ノ五割救護用品ハ無賃ヲ以テ各地運送ノ便益ヲ與ヘラレタリ

本社及ヒ地方各新聞社ハ恤兵寄贈品ノ送達又ハ救護資ノ寄贈其外臨時各種ノ廣告等ニ對シテ無賃若クハ異例ノ割合ヲ以テ其新聞紙上ニ掲載スルコトヲ諾セラレタリ

此ノ如ク諸般特別ノ幇助ニ依リ着々事業ノ進行ヲ得タルハ本社ノ深ク感謝スル所ナリ

一各支部委員部役員總會

救護事務協議ノ爲メ明治廿八年二月廿七日ヨリ三月三日ニ至ル五日間廣島ニ於テ全國各支部委員部役員總會ヲ開キ總裁殿下ノ御臨場ヲ仰キ又衛生長官ノ參會ヲ請ヒ諸般ノ協議ヲ遂ケ頗ル前途ノ便益ヲ得タリ此時社長ハ參會役員總代トシテ戰勝ノ賀表ヲ上リ參會役員ハ豫備病院及ヒ呉鎭守府病院ニ於テ親シク患者ヲ慰問シ各金若干ヲ贈リ兼テ本社救護ノ狀況ヲ實施シタリ

一救護費支出ノ概算

明治廿七年八月ヲ以テ非常部ヲ設ケ廿八年三月三十一日ニ至ル本社救護費ノ支出額ハ凡左ノ如シ

一金八萬百五拾四圓貳拾八錢　戰時救護費

此内譯

金壹萬貳千九百五拾六圓七拾四錢　救護員諸給與
金四百圓四拾九錢五厘　救護員旅費
金貳千百六拾貳圓八錢　患者救護費
金千四百七拾貳圓三拾錢六厘　通信及運搬費
金千貳百三拾七圓四拾七錢　犒軍費
金千百貳拾九圓四拾三錢四厘　恤兵寄贈品取扱費
金七千五百七拾三圓九拾六錢五厘　假設病院建築費
金八百拾六圓五拾八錢七厘　諸雜費
金五萬貳千四百五圓貳拾錢三厘　假出
但此假出ハ各地救護員出張所ニ屬シ未タ決算報告ヲ得サル者ニ係ル

右ノ外常用部救護準備費中ニ於テ衛生材料及被服寢具等ノ調製ニ支出シタル金額ハ金四萬千五百圓四錢三厘又各支部ニ於テ支出セル救護費ハ報告未達ニヨリ爰ニ畧ス

[illegible]ニハ患者ヲ慰メ看護婦ヲ勵マシ又一方ニハ必要ナル物品ヲ贈リテ軍人敬愛ノ心ヲ表セントノ旨ヲ諭示セラル會員一同何レモ感激シテ各々應分ノ醵金ヲナシ幹事長殿下ヲ始メ奉リ日々本社病院ニ集合シテ消毒繃帶材料ノ調製ニ從事シ其製出ノ諸材料患者千三百人ニ對スル一ケ月分ヲ陸海軍並本社病院ニ寄贈セラレ引續尚製造中ニ在リ又小包繃帶ハ軍隊必需ノ要品タル旨ヲ以テ石黑野戰衛生長官ヨリ特ニ其製造ヲ本會ニ委託セラレタルハ榮トスル所ニシテ既ニ該品一萬五千個ノ調製ヲ終レリ

一幹事長殿下患者御慰問

篤志看護婦人會幹事長小松宮妃殿下ハ陸海軍患者御慰問且本社看護婦御督勵ノ爲メ明治二十七年十一月十七日東京御出發鍋島侯爵夫人西郷伯爵夫人大山伯爵夫人ハ會員總代トシテ隨行大坂ヨリ幹事副長北白川宮妃殿下御同行アラセラレタリ廿日廿一日廿二日ノ三日間廣島陸軍豫備病院並各分院ニ至ル迄一々御慰問アラセラレ廿二日ハ特ニ看護婦一同ヲ御旅館ニ召サレ厚ク奬諭ヲ賜ヒ廿三日吳鎭守府病院ヲ御慰問アラセラル佐世保鎭守府病院ヘハ御名代トシテ御用掛上野幾子ヲ差向ケラレ且思召ニ依リ鍋島侯爵夫人會員總代トシテ同行セリ各病院患者ヘノ寄贈品ハ手巾卷烟草菓子等ニシテ殿下ハ同月廿七日御歸京アラセラレタリ

一鐵道犒軍及臨時傷病者救護

各師團軍隊鐵道輸送ニ際シ其筋ノ許可ヲ得テ沿道各支部委員部ニ通牒シ各停車場ニ犒軍所ヲ設ケ一ハ軍隊遠征ノ勞ヲ慰センカ爲メ供茶給水及有志社員ノ寄贈物品（當座ノ利便ヲ主トシ手巾郵便切手紙烟草「マッチ」食物ハ「ビスケット」「パン」煎餅粕庭羅ノ類）ヲ供給シ一ハ臨時傷病者ノ救護ニ供センカ爲メ醫員看護人等ヲ備ヘ從事シタリ犒軍所ノ景況ハ各地大同小異アリト雖概ヲ晝間ハ國旗赤十字旗其他犒軍及陸軍萬歲ト大書セル旗幟ヲ立テ夜間ハ高張提灯球燈大燈篝火等ヲ以テ行色ヲ壯ニシ又高大ノ綠門ヲ作ルアリ烟火ヲ發揚スルアリ音樂ヲ吹奏スルアリ此ノ如クニシテ各地社員ハ勿論犒軍ノ志アルモノハ遠近トナク來ツテ遠征軍隊ヲ犒フ者數千人ノ多キニ至リ風日雨夜モ其勞苦ヲ厭ハス其費用ヲ顧ミス一意赤誠ヲ以テ列車ノ送迎ニ競奔シ征淸ノ必勝ヲ唱ヘ軍隊ノ萬歲ヲ祝スルノ聲ハ爲メニ天地モ震撼スルノ感アリシ又臨時傷病者ノ救護ニ於テハ各停車場ニ天幕若クハ假屋ヲ以テ療養所ヲ設ケ治療ヲ施シタル者本社ニ於テ七十貳人（內將校一 兵卒四十七 軍夫等二十四）兵庫ニ於テ八十八

[illegible]臨戰地及各地兵站部又ハ船內ニ於ケル本社救護員ノ糧食ハ都テ官給ニ依リ又防寒衣等貸與セラル、ノ幸ヲ得タリ

恤兵寄贈品送達取扱ニ際シテ鐵道局其他鐵道滊船運送會社ハ特ニ無賃ヲ以テ傳遞セラレタルノミナラス救護實施以來救護員ハ定價ノ五割救護用品ハ無賃ヲ以テ各地運送ノ便益ヲ與ヘラレタリ

本社及ヒ地方各新聞社ハ恤兵寄贈品ノ送達又ハ救護資ノ寄贈其外臨時各種ノ廣告等ニ對シテ無賃若クハ異例ノ割合ヲ以テ其新聞紙上ニ掲載スルコトヲ諾セラレタリ

此ノ如ク諸般特別ノ幇助ニ依リ着々事業ノ進行ヲ得タルハ本社ノ深ク感謝スル所ナリ

一各支部委員部役員總會

救護事務協議ノ爲メ明治廿八年二月廿七日ヨリ三月三日ニ至ル五日間廣島ニ於テ全國各支部委員部役員總會ヲ開キ總裁殿下ノ御臨場ヲ仰キ又衛生長官ノ參會ヲ請ヒ諸般ノ協議ヲ遂ケ頗ル前途ノ便益ヲ得タリ此時社長ハ參會役員總代トシテ戰勝ノ賀表ヲ上リ參會役員ハ豫備病院及ヒ吳鎭守府病院ニ於テ親シク患者ヲ慰問シ各金若干ヲ贈リ兼テ本社救護ノ狀況ヲ實施シタリ

一救護費支出ノ概算

明治廿七年八月ヲ以テ非常部ヲ設ケ廿八年三月三十一日ニ至ル本社救護費ノ支出額ハ凡左ノ如シ

一金八萬百五拾四圓貳拾八錢　戰時救護費

此內譯

金壹萬貳千九百五拾六圓七拾四錢	救護員諸給與
金四百圓四拾九錢五厘	救護員旅費
金貳千百六拾貳圓八錢	患者救護費
金千四百七拾貳圓三拾錢六厘	通信及運搬費
金千貳百三拾七圓四拾七錢	犒軍費
金千百貳拾九圓四拾三錢四厘	恤兵寄贈品取扱費
金七千五百七拾三圓九拾六錢五厘	假設病院建築費
金八百拾六圓五拾八錢七厘	諸雜費
金五萬貳千四百五圓貳拾錢三厘	假出

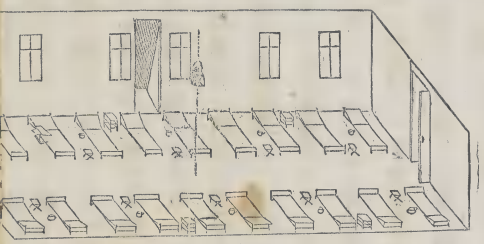
（但此假出ハ各地救護員出張所ニ屬シ未タ決算報告ヲ得サル者ニ係ル）

右ノ外常用部救護準備費中ニ於テ衛生材料及被服寢具等ノ調製ニ支出シタル金額ハ金四萬千五百圓四錢三厘又各支部ニ於テ支出セル救護費ハ報告未達ニヨリ爰ニ畧ス

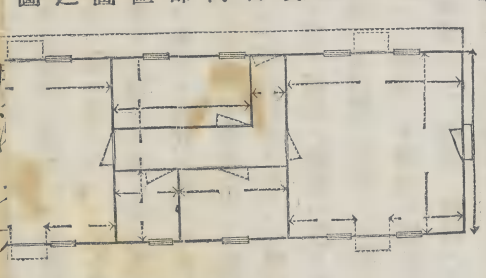
…スル病院設置之圖

略圖

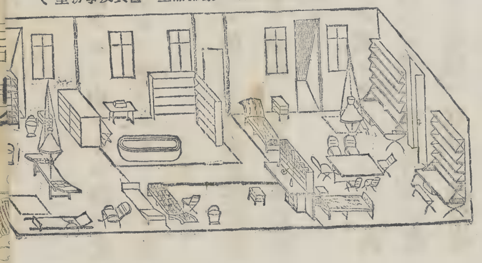
(三) 一病舍臥床配列之圖



(四) 給養舍內部區畫之圖



(五) 第一給養舍裝置之圖
（手術室　藥局　豫備品室　醫員及事務室）



第四回內國勸業博覽會出品

移動假舍病院解說

移動假舍病院ハ昨明治二十七年三月中本社ノ參考品トシテ獨乙國ヨリ購入シタル所ニシテ其得失ヲ調査中ノ者ナリ本邦未タ此種ノ病院ヲ艙載セス故ニ今回ノ博覽會ヲ機トシテ公衆ノ縱覽ニ供シ以テ識者ノ批評ヲ待タントスル者ナリ

移動假舍病院ハ輓近歐洲諸國ニ於テ賞用セラル丶モノニシテ殊ニ獨乙赤十字中央社ハ仝國皇后陛下ノ令旨ヲ奉シ千八百九十一年七月ヨリ仝十二月ニ至ル六ケ月間「テムペルホーフ」ニ此病院ヲ開設シ數名ノ委員ヲ撰ヒテ其得失ヲ實地ニ調査セシメ全ク優等ナルコトヲ確認シタリ

此病院ノ組織ハ患者百名ニ對スルモノト二百名ニ對スルモノト二樣アリ其二百名ニ對スルモノハ二十箇ノ臥床ヲ容ルヘキ病舍十箇（冬期ニ於テハ一病舍ニ二箇ノ煖爐ヲ裝置スルヲ以テ二箇ノ臥床ヲ減スヘシ）及ヒ手術場、藥局、事務室、庖厨、洗濯場、人員室等ヲ備フル給養舍四箇ヨリ成ルモノトス

一病舍ハ長十五メートル、幅五メートル、高三メートルニシテ一臥床ニ對スル空氣容積一二、五〇立方メートル地床面積四、一七平方メートルトス（給養舍ノ長幅共病舍ニ仝シ）

病舍ノ配置ハ其縱軸ニ並列シ各舍仝一ノ方向及仝一ノ距離（五乃至十メートル）ヲ保タシメ之ニ屬スル給養舍ハ病舍ニ對シテ橫徑ノ位置ヲ取リ大約二十五乃至五十メートルノ距離ヲ保タシムルヲ法トス

此ノ如キ組織ヨリ成ルト雖モ其一部ヲ割キテ他ノ既存ノ病院ニ附屬セシメ或ハ傳染病患者ヲ隔離シ又既ニ存在セル炊事場及給養場ニ附屬セシメ平時ハ小町村或ハ小市邑ニ於テ患者ヲ入ルヽノ用ニ供フル等種々ノ目的ニ用ユルヿヲ得ヘシ

本社ノ購入シタルモノハ纔ニ假舍一箇ニ過キスシテ其全部ヲ設置スルニ由ナキヲ以テ此ニハ一假舍中ニ病舍ト第一給養舍トノ裝置ヲ示シ以テ其實況ヲ見ルニ便スルモノナリ若シ其全般ヲ知ラント欲セハ裏面ニ揭クル圖式ヲ見ル可シ

第一給養舍ハ內部ヲ四室ニ區劃シ第一ヲ手術室第二ヲ藥局（二室ニ分ツ）第三ヲ豫備品室第四ヲ醫員及事務室トス今假リニ第三ノ豫備品室ヲ第二ノ藥局ニ合併シ第四ノ醫員及事務室ヲ第三ノ豫備品室ニ移シ其空室ヲ以テ病室ノ裝置一班ヲ示スモノトス

此假舍ハ「デッケル」氏ノ創製ニ係リ其四壁ト屋根トハ悉ク板紙ヨリ成リ之ニペンキヲ施シ床ハ木製ニシテ全躰悉ク解離シテ何地ニモ搬送シ組立ツルヲ得ヘシ是レ移動病院ノ名アル所以ナリ而シテ其一假舍ヲ解離シタル各部ノ材料ハ十二箇半ノ荷物ニ收纒シ通常荷車十二輛ヲ以テ運搬スルヲ得又本邦ノ狹軌鐵道ニテ充分搭載スルヲ得ヘシ而シテ之ヲ組立ツルニハ今實驗ニ據ルニ十人ノ人員ヲ以テ八時間ニ完成スルヲ得ルモ熟練ニ至ラハ猶幾時間ヲ短縮スルヲ得ヘシ

病室ニ配列セル諸物品ハ皆本邦製ノモノヲ適宜應用シテ假リニ第一給養舍裝置ノ實況ヲ示スモノトス其手術臺、臥床、卓、椅子、洗嗽臺、棚架等ノ類ハ何レモ折疊シ得ル製作ニシテ搬送ニ便ナルモノナリ又治療器械、寢具等ノ如キハ露國赤十字社ヨリ本社ニ寄贈セル救護用品中ヨリ採用シ而シテ外科器械ハ獨國赤十字社ヨリ寄贈セルモノヲ併用ス又繃帶類中ニハ佛國婦人協會ヨリ皇后陛下ニ上呈シ更ニ本社ニ下賜セラレタルモノヲ交用シ參考品トシテ公衆ノ覽ニ供スルモノナリ

患者二百人ニ對スル病舍及設備品ノ價格概算ハ左ノ如シ

第一　假舍（病舍十個 給養舍四個）　五萬〇七百三十三マルク

第二　設備品並荷造料　三萬マルク

合計八萬〇七百三十三マルク

而シテ本社ニ購入シタル一假舍ノ價格及運賃ハ左ノ如シ

一金貳千參百六圓四拾錢　假舍一個

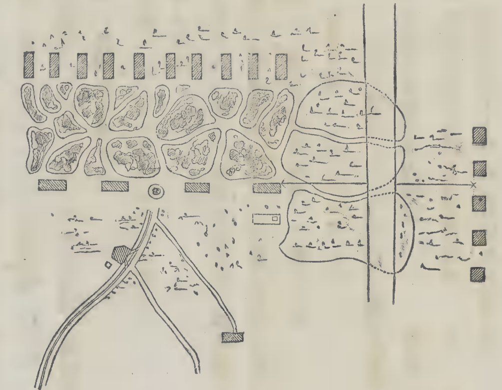
一金四百四拾八圓七拾九錢六厘　運　賃

合計金貳千七百五拾五圓拾九錢六厘

明治二十八年四月

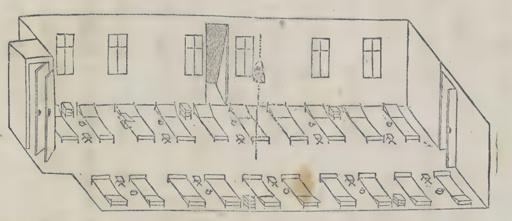
日本赤十字社

(一) 患者二百人ニ對スル病院設置之圖

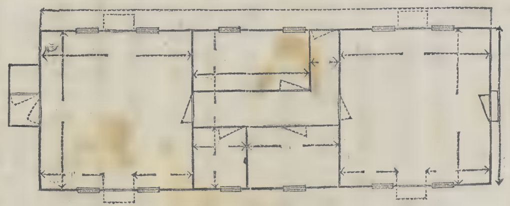


(二) 建設畧圖

(三) 一病舍臥床配列之圖

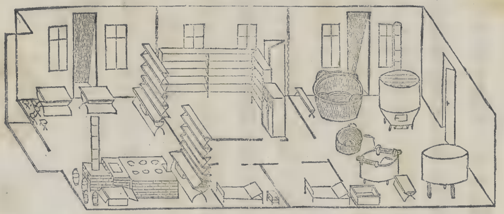


(四) 給養舍内部區畫之圖

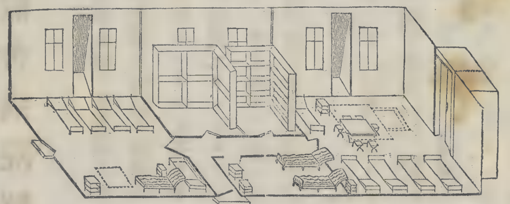


(五) 第一給養舍裝置之圖
(手術室 藥局 醫備品室 醫員及事務室)

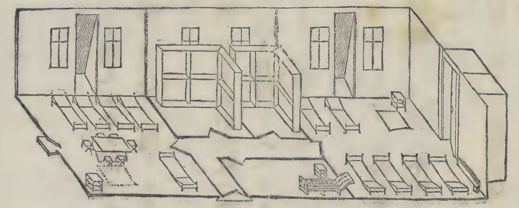
(六) 第二給養舍
(湯灌 洗濯 厨庖)

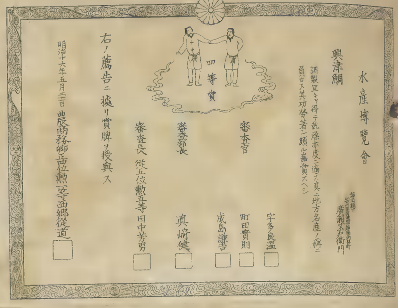


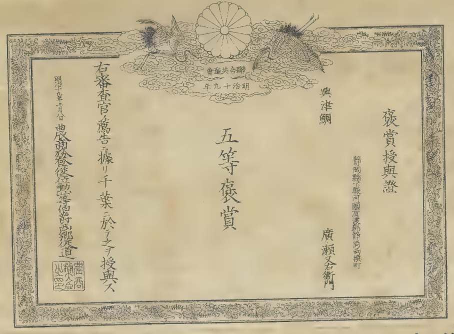
(七) 第三給養舍
(第一人員室)



(八) 第四給養舍
(第二人員室)







興津鯛は駿州の名産にて本場は靜岡市中の店魚町にて其濫觴ハ慶長年中家祖廣瀨又右衛門近海に漁獲せる甘鯛の新鮮なるを撰み鹽量の適度を定めて乾製し之を興津河内守より東照神君に獻したりしに神君其味の美なるを賞し興津鯛とのたまひしより一般の稱呼とはなれり爾來年々駿府城代より公儀へ獻上品となり三百年來の久しき連綿として生業をいとなみ公儀よりは麻上下其外褒賞を賜りしこと數回に及へり王政維新以來は宮内省の御用となり隨て貴顯方の御注文年々に多くなりて明治十六年第一回水産博覧會に出して四等賞を蒙むり其他諸縣開設の水産共進會に於ても數度の賞を蒙り尋て明治二十三年内國第三回大博覧會に於て數千萬出品中第三等賞を蒙り販路年々多きを加へ益々繁榮にをもむけり抑も此製法は往昔延喜頃朝貢品製造の遺法なりと一家相傳の良法なれはとて今度水産局の水産教師河原田先生之を撿視し截割洗濯壜藏乾燥共に特異の佳品なりと評せられ他家にて製するものに優さり佳味なるは勿論貯藏一層久しきを保ち色澤の變せさるは大方の喝采を受る所以なり

用法

一横に幅四五分許に切り味淋又は酒酢等をかけ酒肴とす

一一夜味淋に漬けをき翌日燒て食するもよし

一遠火に焙り酒肴又は膳部に供す但其儘皿に盛り又は適宜に切り用ゆるものとす

一前項の如く焙りて味淋をつけ或は味淋の付け燒とし又は蒸して食せるもよし

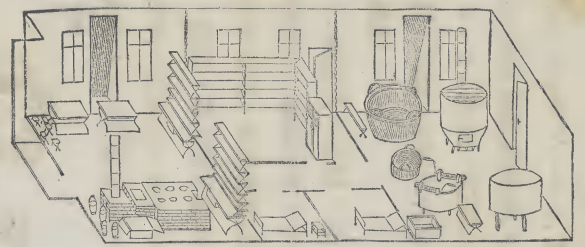
興津鯛本元

靜岡縣靜岡市中の店

廣瀨又右衛門謹製

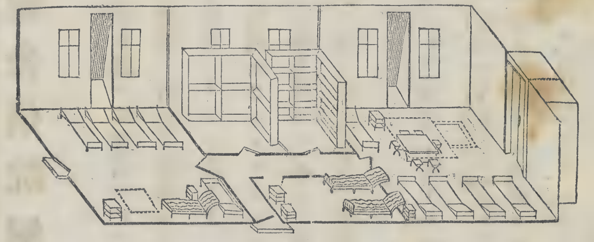
（六）第二給養舍

（庖廚洗濯場）



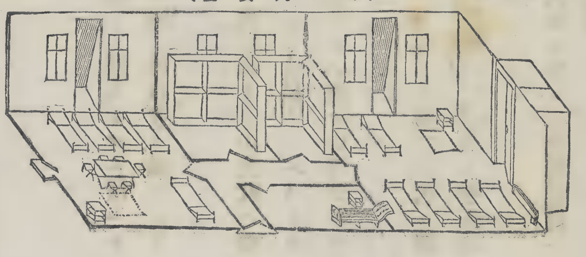
（七）第三給養舍

（第一人員室）



（八）第四給養舍

（第二人員室）



燐酸肥料稲作之大試驗成蹟

賞贊家各位

前田正名公　周布兵庫縣知事公
廣島農事試驗場長佐々木農學士君
青野軍馬育成所竹内從五位君
兵庫縣農事試驗長美代農學士君
地質調査所小林農學士君
大坂農事試驗場長岡田農學士君
長野農學校長堀尾農學士君
西ケ原農事試驗場長澤野大學士君
農科大學教授玉利農學士君
京都府農會山田農學士君
奈良農事試驗場長河村農學士君
前農商務省小野大技師君
農科大學教授森農學士君

播州別府港多木製肥所製造

骨粉原料 燐酸肥料貳拾貫入一俵

代價金四圓（外ニ少シ運賃ヲ要ス）

創業明治十八年三月ナリ

弊所夙ニ至誠ヲ以テ農事ノ忠僕トナリ精勤茲ニ拾余年世間至ル所トシテ効用ノ著大ト價格ノ低廉トヲ以テ常ニ第一位ヲ占メ嘖々ノ稱贊ヲ蒙ルモノハ弊所ノ燐酸ナリ尚更ニ改良進步仕候間益々御愛用アランコトヲ

堀尾農學士肥料論ハ無代呈ス

販賣希望ノ方ハ御申込ヲ

（播磨加古川町前田甫翠堂印行）

播州別府港　多木製肥所

大坂代理店 平野町貳丁目　大坂帯革製造所

販賣

兵庫關屋町
伏見本材木町
伯州米子町
作州津山東新町
淡州志築町
播州加西野條
紀州田邊浦
大和國高田驛
備後松永町
…坂市

井上五兵衛
京都殖産社
名島徳四郎
飯田由太郎
西田茂八郎
菅原文之介
那須商店
櫻根商會
井…

播州社驛
大阪梅田前
丹後舞鶴港
若狹小濱港
姫路停車場前
播州明石桂馬町
日向國城ケ崎
加古川
播州多可郡貴船村

横山治三郎
伊藤支店
今安直藏
松見商店
伊藤運送店
竹谷商店
太田與兵衛
伊藤支店
村上虎太郎

福井

賣店廣告

一私共御愛顧諸君ノ御便宜ヲ計リ第四回内國勸業博覽會開設中其場前右列（東）中程ニ賣店ヲ建設シ盛ニ各自其出品製造物ヲ販賣シ以テ大方諸君ノ御購求ニ應ゼント欲ス希クハ御愛顧ノ諸君ニハ遠ク福井縣ヨリ御出張ヨリハ遥ニ手近ニシテ且ツ大ニ廉價ナルコトヲ思召サレ御順路圖面**美人御案内**ノ處ヘ御廻步相成リ御用品御購入相成度又他ヘモ夫々御諷諜之程呉々モ奉希上候頓首百拜

第四回内國勸業博覽會場内福井縣賣店

各種羽二重　越前奉書紬

若狹塗　蟹鮎鑵詰　福井縣

菓子　勝山刻煙草　福井市佐久良上丁

石田縞　小濱縞

足袋　雁皮紙

蚊帳　花簪

龍田商會　聯合店

利民豐國 保米袋廣告

我が大日本第一の物產なる瑞穗嘉禾の實即ち稻米は人生の食料にして壽安健康を保たしむるの効力あり無比の寶たるは敢て喋々を要せざるなり然るに其耕種培養收穫の方より精炊調理の法に至る迄古來講究し近時益々進步したりと雖も未だ其收藏蓄積するの米月を越へ歲を經て多少の腐蝕損傷を被らさる法あるを聞かず

世間蓄積の米例年入梅の節を過き土用の季を越れば倉廩の中に於て多少腐蝕耗減するを普通となし防禦の術無く當然の事なりと怪しまさるなり蓋し米穀の腐蝕耗減する原因は一に收藏の時乾燥足らざるに起り次て夏季に及んで外氣俵中に侵入し米質固有の水氣と合し濕熱を發し蠧虫を生し腐蝕するものなり以て耗減を免かれす人力の及はさるものとすこれ天下米穀を處置するの現況なり嗟呼無比の貴重品にして斯の如し豈に遺憾ならずや

然るに靜岡縣地方に於て米を一大紙袋に盛り俵にするの方を創め十數年前より經驗し歲を越し土用を經て米質變せず腐蝕の害無く却て米量を增したるを聞きたり此方は全く禾穀の本性に適し實米を完熟せしむるの理に叶ひ米穀を收藏するの法とするに足る

本社右の方を聞き技師を派遣して其實を探り更に其法を推演して今玆に該袋にするの料紙を新製して左の各店に於て發賣す其紙質たる些も糊粉を用ひずして蠧虫を生ずるの根を絕ち厚緻にして外氣を防ぎ堅靱にして損破の虞無く而も其代價は低廉なり乃ち米をこの紙袋に盛り首尾を括りて俵に入れ普通の荷作りとなす斯くすれば歲月を經過するも該米濕熱を發せず蠧蝕すると無く完全安存して腐敗耗減すると無し

抑々米は籾にて貯ふれば外氣の爲に侵されず腐敗の害無きは既に人の知る處なり袋に入るは猶ほ籾に在るに同じく籾に在ては天造の一粒宛にて保ち袋に入れは數十萬粒一包の人功に賴るの差異あれども健全安存にして腐蝕耗減せざるは一なり嗚呼粒々辛苦玉の如き米これを倉廩に貯へ藏めて幾許の損耗を免かれさるは所謂功を一簣に缺く者なり然るを今此に賴れは其損耗を免かれん國家の豐富を致し人民の利益たる奚んぞ疑ん方今百事開進の日農商有爲の諸家この保米袋を使用し其効能を實驗し公利眞益を收めんとを謹で勸告すると爾り

附たり北國地方霜雪早く降り收穫の季節籾の乾燥不充分にて翌年夏に至り腐蝕する米穀に[illegible](柳芽)

實に米穀貯藏上必要缺くべからざる良品にして此の有
最大急務と存候
埼玉縣入間郡三芳村 野林

去秋保米袋御發賣之頃は何分新規の發明品にして經驗
之候處本年夏期土用を經、至極良好の結果にて保米袋
ても壹升餘の增加に有之候間需用者の滿足不一方此分
千葉縣山邊郡福岡村 鈴木

昨年十二月貴社より購求致候保米袋を本縣農事試驗委
用を經過して充分好結果の赴き通知有之候特に本縣老
使用したるものは土用後に至て壹俵(四斗入)に付き八
に賣却致候由に御座候
滋賀縣栗太郡葉山村 柴林

保米袋實驗の結果は非常の良成蹟にて虫害等は更に無
八合位の增量に相成り且つ虫害なき爲め搗減り等無御
も國家のため保米袋の需用普及致候樣御盡力被下度候
栃木縣下都賀郡豐田村 小

保米袋の成蹟は弊家土藏の分は頗る良好の結果に有之
結果を得候赴き回答有之候該袋の保米上に大効力ある
島根縣松江市末次本町 [illegible]

保米袋の儀は新規の發明にして使用法にも慣れざれば
外の良結果にて毫も虫害無之爲め人氣非常にして續々
曾て知らさる虫臭くなき米を食し申候當縣下米の產額
三分の一は土用後虫臭き節に食用致候保米袋を使用す
事なれば七百石餘の益にして壹石を七圓とすれば金四
用して右の如き大益を得實に農民の幸福國家の利益此
兵庫縣宍野郡川越村 坂本

貴社御發賣保米袋の効力を實驗するため平素虫害の多
を使用せざるもの五拾俵を別々に積置き土用後に調查
あるも害を及ほすに至らず舛量は四斗入の俵四斗五合
四斗入の俵參斗八升貳合に減量し其差貳升參合なり又
七圓四拾錢其差參拾錢實に保米袋の効用は非常の事に
富山縣高岡市小馬出町 梶

同氏來社しての直話によれば氏は保米袋を使用して籾
同地方は古來より籾の儘にて貯藏し入用に臨んで籾
りを爲すものは其色忽ちに變して市塲の賣價爲めに低
變色するとなし又同地方より東京其他へ輸送する米
に入れたるものは更に米質に異狀なく現に同氏が東京
賣却したるとの事なり
奈良縣奈良町 山本和三郎

縣

各位

御銘々御持歸り被下度候

墨流(一風呂敷)(紙)
ハンカチーフ
越前武生町
大山商會

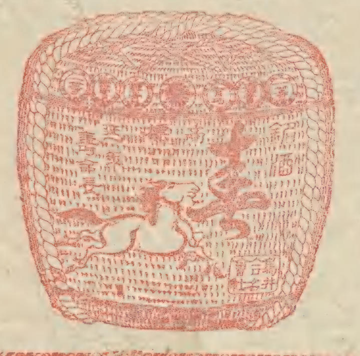
鎌、庖丁 (笑)
越前勝山丁
江守半右衛門

みぞれ菓子 (江)
丹生郡鳥井
青山半左衛門

柔花糖
備生とこ~ (山)
若狹小濱町

瑪瑙
水晶細工 (田)
田中市良右衛門

第二回内國勸業博覽會褒賞
第三回内國勸業博覽會有功賞
西班牙國萬國大博覽會銀賞
佛蘭西國萬國大博覽會銀賞
コロンブス世界博覽會優等賞
大阪府工産物品評會一等金賞
大阪府工産物品評會褒賞
富山縣富山市博覽會銀賞牌
大阪府堺市製産物品評會一等賞
第二回堺市製産物品評會有功賞
第三回堺市製産物品評會名譽賞
農商務省地質調査所酒質證明
醫科大學教授丹波敬三君酒質證明
大阪商品陳列所分拆部酒質證明



弊社醸造の清酒は益需用諸君の好評を博し追々販路盛况に

美酒春駒 之百長藥

本公司所釀清醇名曰春駒其味烈其香芳而其價不貴中外悉馳遐邇咸知今因便于携帶與貯藏裝於玻璃瓶運到内外各埠以及各鐵路驛車塲遍備分售以應賜顧

大日本大阪府堺市甲斐町西二丁 鳥井合名會社謹啓

셔회사의비진술어심히청슌ᄒᆞ여
春츈駒구라이름ᄒᆞ여서니 [illegible]
ᄒᆞ마시청렬ᄒᆞ고갑시헐ᄒᆞ고너외원
근간의모로 난ᄉᆞ람이을고저ᄒᆞᆫ기시
반코유리병의다너서각항구와각쳘
로졍거쟝의두로수송ᄒᆞ여셔내졔공
은이술을귀이여기셰요

大대日일本본
大오坂사가府후
堺사카이市시
鳥쥬이合名會社 [illegible]
술빈남[illegible]

HARU-KOMA

SAKE

(Brewed from Rice)

The Finest Sake sold or brewed in Japan. IT WON MEDALS at the Universal Expositions at Barcelona, 1888, and Paris, 1889, at the Japanese National Exhibition in 1890, at the Osaka Competitive Exhibition in 1892, the Wrld's Columbian Exposition at Chicago, 1893, and at the Toyama City Exhibition, 1894, and Diploma of Honourable Mention at the Sakai Products Exhibitions in 1887, 1888, and 1889.

Japanese Sake.

The brewing of Sake exhibits the most extensive and leading feature among the industries of Japan, and the quantity consumed is enormous as it is considered a requisite beverage for all classes of people.

Until recently very little has been known to the foreign nations about Sake brewing, which is the most extensive work in Japan.

Japanese Sake is a very healthy drink either in a cold or hot state.

Attached will be found the analysis made at the Osaka Hygienic Laboratory.

Analysis of Haru Koma Sake, brewed at Sakai, Idzumi, Japan, 1892.

Specific Gravity (150 C.)........0.9928.

Contents in 100 C. C. M.

Alcohol	14.868
Total Extracts	3.450
Organic Acid { volatile Acid	0.024
Organic Acid { Fixed Acid	0.180
Glucose	1.309
Dextrine	0.438
Glycerine	0.681
Mineral matter	0.080
Salicylic Acid and Metallic Salts	0.

TORII GOMEIKWAISHA.
Torii & Brother's Sake Brewing Co.
SAKAI near OSAKA, JAPAN.

頃には熱を發し腐るを云ふ）物にても此袋を用ゐば安存するを得べし

保米袋使用法

一原紙の一端に糊を附け張りて藁俵の内徑と同一なる筒形と爲し糊の乾きたる處にて之を大きく巻き揚げ兩手を以て握り揉み後之を開き其一方を握り藁にて括り之れに一二升の米を容れ其重量を藉て俵中に降すべし而して米を入れ終りたるときは小口を疊み寄せ其上より蓋を爲すを通例の俵作の如くなすべし

一此袋を用ふれば俵は一重にて上俵を用ふるに及ばず

一保米袋の使用時季は米穀収穫の時普通乾燥の後直に袋入れ俵造りとなすべし収穫後多くの日數を經過したるものは効用充分ならず

一張り合せの糊には少量の明礬を入るゝをよしとす

大形五斗入　中形四斗五升入　小形四斗入

保米袋成蹟廣告

弊社製造保米袋の米穀貯藏に有効なるは固より疑を容れざる處なれども今回該品を試用せられたる各地諸氏より當夏土用後の成蹟に就き左に抄録するが如き通信を得たれは其功能の確實なるとは愈よ明瞭にして世上種々の貯穀法あれとも最完全無缺の良法と云は此保米袋を措て他にあるへからず故に農業家諸氏は普く之を採用せられ以て貴重の國産を蠹害の爲めに空く消耗せられさらんとを希望す

各地通信抄録

静岡縣有渡郡長田村黒柳安五郎氏通信

拜啓貴社に於て御發賣相成候保米袋を使用して俵造りと爲たるものと保米袋を使用せざるものとを本年土用後に至りて比較致候處保米袋を使用したる分に限り毫も虫害無之特に米質に至りても昨秋收穫の當時と更に異狀無之候間保米袋の効能は充分證認致候

茨城縣筑波郡吉沼村田宮孝吉氏報告

拜啓本年二月貴社製造保米袋を使用し八月廿日解俵の上調査せしに左の好成蹟を得たり

一四斗二升入レ壹俵ニ付八合宛ノ增加アリ
一米質光澤トモ更ニ變リナシ
一米商ニ壹圓ニ付五合ノ高價ヲ以テ賣渡スコヲ得タリ
一白米トナスニ毫モ搗キ減リナシ

保米袋の成蹟は非常に宜敷候間本年は充分販路擴張の

山形縣西置賜郡鮎貝村宮…

貴社益々御清榮の段奉賀候陳は曩に御惠送の貴社御製五百俵分使用致度候間代金幷に運賃共御一報被下度候…

茨城縣北相馬郡高井村飯…

拜啓貴社製造保米袋を使用したるものと否らざるもの

保米袋ヲ使用シタル分

米ノ種類	本年二月俵入レノ升量	本年…解…
自作米	四斗二升	四…
小作米	四斗二升	四斗…

保米袋ヲ使用セザル分

米ノ種類	本年二月俵入レノ升量	本年…解…
自作米	四斗二升	四…
小作米	四斗二升	四…

製造元 東京北豐島郡王子村 王子製紙株式會社

代理店 京都三條通東洞院西へ入 中井三郎兵衛
代理店 大阪市東區瓦町二丁目 中井分店
代理店 名古屋市傳馬町七丁目 中井支店
代理店 東京市本石町二丁目 中井支店

保米袋一手販賣人氏名

埼玉縣 埼玉縣横見郡東吉見村字谷口 木村清夫
宮城縣 宮城縣仙臺市東二番町十六番地 遠藤敬止
長野縣 長野縣伊那郡飯田町 小林源一郎
新潟縣 越後國古志郡長岡町表二ノ町 柳本角衛
福井縣 若狭國遠敷郡小濱町住吉 山田庄助
愛知縣 愛知縣名古屋市傳馬町七十番地 田中有文

登錄商標

肥後名産

朝鮮飴

一名肥後飴
又稱長生飴

弊舗製造の朝鮮飴は江湖各位の御懇諭を蒙り日々其改良に從事し來り候處幸に華客の嗜好に適し續々御用向被仰付候段弊店一同欣喜の至りに奉存候抑此飴は極上精白の糯米を寒中に水干したるものと同品なるを用ひ水干を作り之れに最上品砂糖を加へ製したるものにして四季寒暖の度に應じ其分量に一家相傳の秘訣ありて他の品質と風味を異にする所以也玆に此飴の由來を略記せん其起原は天正の初年にありと謂へとも其頃は國中不穩にして能く年月を詳にせす後加藤清正侯當國の領主となられ數年を經て稍々靜秘となり商業獎勵の結果始めて家運の隆盛を來し品位を精製改良するを得たり公夙に此飴を嗜好せられしを以て文祿の役多く製造し之れを戰地に持越されしに數月の久しきを經て溶融腐敗の憂なく其風味一層の美を加へ且つ籠城の飢餓を醫し兵士の氣力を增し滋養多くして健康を助くるの効あるに依り或は稱して長生飴と云へり已前は唯だ肥後飴と稱せしなり蓋し本品に朝鮮飴の名稱ある所以は加藤侯戰地に携帶せられ其効用ありし紀念を存せんが爲にして決して朝鮮人の傳授を受けしには非ざるなり其後細川公の藩治となるや殊の外御賞味を蒙むり直ちに御茶用の御用を仰付られ加之ず國産の一として年々將軍家へ御獻上ありしかは其名普く世上に傳はるに至れり尋て明治の照代となり衛生、生理の學術も進歩するに從て更に精製改良に着手し大に進歩の好果を奏するを得たり

此の如き來歷ある家傳の名菓なるを以て去る明治十年第一回內國勸業博覽會に於て特に襃賞を蒙むり後又廿六年米國コロンビヤ世界博覽會に出品せしに積年の名聲空しからず大日本菓子全業者中に唯二名の外他に得難きの優等賞牌を受領し一層吾家の光榮を增加せり今廿七年五月宮內省御用を蒙り今廿七年六月富山市設博覽會に於て襃賞受領今廿七年六月畏くも

天覽の大光榮を辱ふせり弊舗の榮譽何を以てか之に加へん就ては今回農商務省へ出願し右の商標登錄を許可せられたり玆後尙は一層進て奮發勉勵し其製法に注意を加へ品質を尙ほ風味を賺美にし以て聊か江湖の愛顧に報せんとす然るに近來稍もすれば類似の商標を附し弊店の販路を傷けんとするものあり大方の華客願くは前に述ぶるが如く來歷ある弊舗が製造の精良なる事を領せられ商標並に住所屋號等充分御吟味の上續々御用向被仰付候樣伏して奉冀望候敬白

熊本縣熊本市坪井米屋町
園田屋主人謹識

宮內省御用朝鮮飴製造本舖

第五一三七四號
宮內省御用品トシテ過日差出候朝鮮飴供天覽タル旨侍從職ヨリ通牒有之候條爲心

明治十年內國勸業博覽會
襃狀
熊本縣管下
肥後國飽田郡米屋町
園田政治郎
朝鮮飴
透明ニシテ風味甘美ナリ製法老練ノ妙アリ
右ノ事項ニ因リ襃賞アランコトヲ申請ス

試驗成績
一朝鮮飴　一種
熊本縣熊本市南新坪井町
出願人　園田郭六

赴き且內外大博覽會等に於て酒質の醇良なるを査定せられ屢優等の賞を得又試驗の成績は醸造法宜しきを以て香味能く嗜好に適しアルコール其他の成分各適量にして毫も有害の物質を含有せず云々の報告を受く蓋し此聲價を社會に發揚せしは專ら原料を精撰し熟練の方法に依り醸造せるの結果ぞ雖も亦愛顧諸君の厚庇に與るものぞ感謝に堪へず愈醇美の清酒を醸さんとを勉む希くは舊に倍し御購求あらんてとを

大阪府堺市甲斐町西二丁
醸造發賣元
鳥井合名會社

得此段及通知候也

明治廿七年六月廿九日

熊本縣內務部印

米國閣龍世界博覽會薦告文

大日本帝國　農産部（一萬五千九百號）
出品人　日本帝國熊本市　園田郭六
出品物　大麥及米ヨリ製シ或ハ糊狀ヲ爲シ或ハ半流動体ヲナシタル糖製ノ朝鮮飴

審査

其質純白ニシテ風味勝クレ品質優等ニ位ス

千八百九十四年五月四日
主任審査官　シ、エッヤ、エス、ミッキザル
右審査官ノ薦告ヲ認領ス
部長　ダブリユ、チ、アットウォーター
審査委員長　ジョーン、ボイド、ジエーチヤル

審査官列坐
主任　町田實則印
同　武田昌次印
審査官部長　正六位　池田謙藏印
審査官長　正五位　田中芳男印
　前島密印

右審査官ノ薦告ヲ領シ之ヲ褒賞ス
明治十年十一月二十日
內務卿従三位　大久保利通印

富山市設博覽會褒賞證
熊本縣熊本市南新坪井町
園田郭六
朝鮮飴
褒狀二等　審査員　従六位勳六等岩田忠従印
勳五等鹽田眞印
正七位池田謙藏印
審査長従五位勳五等柳谷謙太郎印
右薦告ニ依リ之ヲ授與ス
明治廿七年六月十五日
總裁富山縣知事正五位勳五等徳久恒範印
副總裁富山縣富山市長正八位前田則邦印

本品ハ黄褐色半透明粘靭ノ軟塊ニシテ味甘美水ニハ澱粉ヲ殘留シテ殆ント溶解其含有成分左ノ如シ

水分		二一、二五〇
脂肪		〇、〇六七
含窒素物		二、一二五
含水炭素	蔗糖	三三、一九一
	麥芽糖	二四、〇〇〇
	糊精	一五、八〇〇
	澱粉	二、八九〇
無機鹽		〇、二一二

右ノ成蹟ニヨレハ營養成分ニ富メル一種ノ滋養品ナリトス

熊本縣內務部第三課印

京都博覽會有功銅牌賞

西陣　本方油竹

名産
諸織物綃箴所

西京西陣
笹屋町通淨福寺東ヘ入四拾八番戸
釘貫屋更
吉村平兵衛

細工請合
并ニ器械箴
其外木綿織箴共

第三回博覽會
柳河
名産
蟶柱蒲焼

用法
一開鑵し冷の儘食すべし
又ハ暖めて用ゆるもよし
一吸物類ニ取合用ゆるもよし

球上

饂麵廣告

抑當地物産ノ巨擘タル饂麵ハ元祿二年九月我先祖味右衛門カ焦心苦慮シ其製法ヲ發明シタルモノニシテ是ヲ素麵等ニ比スレハ品質善良ナル味ノ清美ナルノミナラス油質含有アラザルヨリ胃ノ消化ヲ害スル事無ク能ク身體健康ヲ助クル實ニ霄壤ノ差アリ宜ナル哉當時嘖々人口ニ膾炙セラレ殊ニ舊伊達（仙臺藩主）舊片倉（白石城主）兩家ノ膳部ニ供セラレ頗ル感賞ヲ賜ハル且禁裏及幕府ヘ恒例ノ上納品トナレリ此ニ於テ命名シテ御膳饂麵ト稱ス自家專賣特許ナリシカ寛政六年二月五世味右衛門カ該品ノ販路擴張ヲ計リ併テ當地ノ物産ト爲サン事ヲ企圖シ簡便ノ製法ヲ研究シ夥多ノ手數ヲ省略シ其價ヲ低廉ニシ之ヲ並饂麵俗ニ（米澤伊達向）ト稱シ其製法ヲ鄕人ニ傳授シタルニ日ニ月ニ隨テ需用ノ數ヲ增加シ今ヤ當町擧テ此業ヲ營マザルモノナシト云フモ敢テ過言ニ非ス殊ニ弊舖專賣ノ御膳饂麵ハ發明以來數百年間繼續製造シ來リ益々江湖諸君ノ高評ヲ博シ漸次販路相開ケ各國ヘ輸出シ內外貴顯紳士ノ御愛顧ヲ辱セシハ寔ニ深謝ノ至ニ堪ヘサル所ナリ且先年勸業博覽會ニ數回出品シ何レモ有功賞牌ヲ拜受ス又先年米國ニ開カレシ「シカゴ」世界大博覽會ニ出シテ審査ノ上名譽賞狀ヲ今回送附セラレタルハ獨リ弊舖ノ榮ノミナラズ聊カ國家ノ面目タルヲ信スルナリ加之ニ本品沿革ヲ添ヘ宮內省ニ献上セシニ忝ナクモ（別記ハ恐レ多キニ付特ニ之ヲ省ク）恩命ヲ蒙リ實ニ弊舖ノ光榮之ニ過〆爲ク微々、纎業以テ能ク此美擧ヲ致セシハ則獨リ只祖先累代拮据精勵茲ニ及シノミナラス抑又江湖諸君ノ賜ニシテ深ク鳴謝ニ耐ヘサル所ナリ依テ右愛顧ニ報ゼンカ爲メ一層製法ヲ吟味シ佳品ヲ低價ニ販賣スレハ陸續御恩求アランヿヲ希望ス敬稟

（仙臺市國分町松田活版所印行）

別製柚餅廣告

支那往昔より何方にも名家の發明に係るものあり難も唯に秘法と称し秘密に致し一子相傳なれば世人の口實に摘[illegible]世間に其の秘せざるもの多し然りといへども秘法とある製[illegible]旧来の[illegible]柚餅の如きも[illegible]元祖[illegible]製[illegible]旧来の[illegible]秘法[illegible]時の将軍に献上せられ[illegible]名[illegible]留[illegible]稱し[illegible]故に全く秘法とせる[illegible]一新の際より自由に販売[illegible]高評[illegible]盛[illegible]柚餅[illegible]販売する者あり[illegible]到底[illegible]製[illegible]永く保存[illegible]当家特製柚餅の如き[illegible]歴傳[illegible]も[illegible]旧[illegible]家の所[illegible]列記する漬物類は[illegible]お製[illegible]同一[illegible]切手[illegible]故に何卒ちん里う亭の名[illegible]を以て[illegible]上に[illegible]

第三回内國勸業博覽會褒狀
神奈川縣足柄下郡小田原町
柚子就稱漬　ちん里う亭徳太郎
製造宜ヲ得テ貯藏久キニ堪ヘ[illegible]
[illegible]　審査官　[illegible]

諸漬

改種漬	漬ものの類	[illegible]
牛蒡[illegible]	小田原漬	日光[illegible]
佛手柑	[illegible]	櫻[illegible]
竹の子	[illegible]はしきす漬	金山寺みそ
生姜	[illegible]からし漬	[illegible]漬
蓮根	からし[illegible]	[illegible]
		佃煮類

柳河 うみたけ

御目印

後國柳川甲興產株式會社

上

效用

品質純白味澹泊佳良ニシテ万人ノ嗜好ニ適セスト云フコナク四季ノ食用ニ宜シク而シテ胃ノ消化ヲ容易ナラシムルヲ以テ絶テ胃中停滞ノ憂ヲナサス殊ニ澱粉質ニ富ムカ為メ滋養ノ効アリ故ニ老人病者等食欲ノ不振ヲ補ヒ身体ノ健康ヲ助クルノミナラス加之數年ヲ貯蓄スルモ腐敗變味ノ虞ナク年頭年尾進物消行其他ノ贈進ノ用ニ恰好ノ良品ナリ

用方

饂麵濡て加減を誤り美味を損するとまあれば左の方法よとり御用ひを乞ふ

一湯れ沸騰したる時饂麵を其中に散し入るへし必らす冷水より入るへからす

一凡三分間程煮たる後笊に引き揚け冷水を灌き塩氣を去るへし

一五把れ(量目ハ百五拾匁)饂麵なれば沸湯凡四升の割合を適度とすきとも成るへく沸湯の多量なるを宜しとす

一調理方は他れ麵類と同しく各位の適意に從ふて可なり

御注意

近來御膳饂麵等ト稱シ粗悪ノ模造品賣捌ク奸商アル由ナレハ本品御購求ノ節ハ束紙ニ㊇印商標ニ篤ト御注目ヲ乞フ

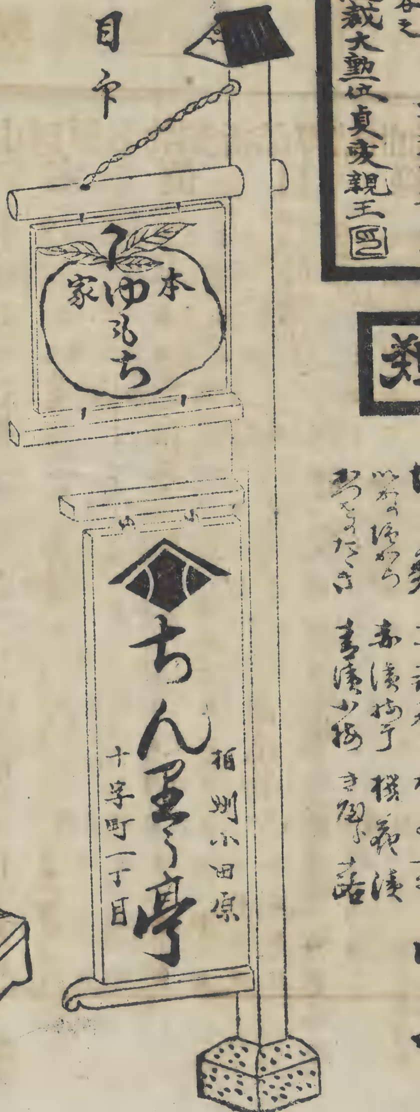
大日本饂麵製造始祖
㊇
宮城縣磐城國刈田郡白石町
鈴木味右衛門

HE WORLD'S FAIR.
TION FLYER
893, VIA THE LAKE SHORE & MICHIGAN
TWEEN CHICAGO AND NEW YORK, 980 MILES,
AIN FOR THE DISTANCE IN THE WORLD.

後國柳川男興産株式會社

梅干

御目印



状

畧之
總裁大勲位貞愛親王印
審査官長印
審査部長印

物類

御注意

近來御膳謳麪等ト稱 粗悪ノ摸造品賣捌奸商アル由ナレハ

拜啓　熾仁親王殿下御違例之處
御療養不被為叶今廿四日午後三時
薨去被遊候此段御報知申進候敬具
追テ来二十九日午前九時御出棺
豊島岡ヘ御埋葬相成候

明治廿八年一月廿四日

有栖川宮家令齋藤桃太郎

田中芳男殿

桑港ヲ經テ歐米各國並ニ加奈太諸州
ニ至ルベキ滊船及鐵道切符賣捌所
横濱居留地海岸四番館
乘客係總理

FROM A PHOTOGRAPH

AN INCIDENT OF T
THE EXPOSIT
IN SERVICE MAY 28TH TO NOVEMBER 19TH
SOUTHERN RAILWAY, MAKING THE RUN BE
IN 20 HOURS; THE FASTEST REGULAR TR

謹賀新年

明治廿八年略暦

大	一・三・五・七・八・十・十二
小	二・四・六・九・十一

四方拜	一月一日
元始祭	一月三日
孝明天皇祭	一月三十日
紀元節	二月十一日
春季皇靈祭	三月二十一日
神武天皇即位紀元	二千五百五十五年
神武天皇祭	四月三日
秋季皇靈祭	九月廿三日
神嘗祭	十月十七日
天長節	十一月三日
新嘗祭	十一月廿三日

甲子 庚申 己巳 八せん ひがん 土用 社日

日曜表 [illegible]

明治二十八年一月一日

宮城縣志田郡荒雄村

唯我園主 梅森三郎

正二位藤堂高猷儀病氣之處養生不相叶本日午前六時薨去致候此段及御通知候也

追而來ル十七日午前八時本所緑町邸出棺上野寛永寺ニ於テ佛葬式執行候事

明治二十八年二月十二日

親戚 蜂須賀茂韶

仝 藤堂高義

田中芳男殿

拜啓故林洞海葬送之節は遠路之處御會葬被成下難有奉鳴謝候此段不取敢御禮迄如此御座候敬具

明治廿八年二月六日

麹町區四番町十三番地

孫 林若吉

親 林董

戚 榎本武揚

赤松則良

郵便はかき

能ク實地ニ應用シ[illegible]消長如何ハ之レ全ク實業ノ盛衰幷ニ新機軸發明ノ多寡ニ由リテ定マルト云フモ謡言ニアラサルヘシ發明ノ功豈偉大ナラスヤ余ハ豫テ蠟燭製造業ニ從事スルモノニシテ從來ノ蠟燭製造法ハ手掛或ハ筒掛等ニシテ其迂遠ナルヲ知ルモ未ダ勞力時間幷ニ費用ノ經濟ニ大利ナル一ノ良器械幷ニ蠟燭心製造法アルヲ聞カス之ヲ遺憾ニ思フヤ久シ故ニ余奮然蹶起以テ之カ改良ヲ圖リ一ノ良器械幷ニ蠟燭心製造法ノ新機軸ヲ發明セントシ專ラ之ニ心ヲ注キ千辛万苦十有餘年ノ星霜ヲ經ルモ未タ充分ノ結果ヲ得ル能ハス然ルニ精神益々激昂メ企圖猶止マス鋭意苦心愈々改良ヲ加ヘ遂ニ新機軸ヲ出シ漸ク明治二十三年四月下旬ニ至リテ始メテ充分ナル好結果ヲ呈シ蒸氣作用蠟燭製造器械ヲ發明シ爲メニ特許ノ御恩命ヲ蒙リタリ特ニ蠟燭心製造法進歩發達ノ著キコハ其法至極簡易ニシテ直チニ白心ヨリ以テ製シ如何ナル未熟練者ナリト雖𪜈容易ニ製造シ得ヘク且ツ時季ノ寒暑ヲ問ハス終年製シ得ヘキヲ以テ其製造出來數從來法ニ比スレハ凡ソ四倍ノ數ヲ製シ得ルヲ以テ其勞力時間幷ニ費用ノ經

（備考） 職工壹人給賃拾八錢外ニ食給料拾貳錢合計三拾錢トス故ニ小蠟燭八歩百挺ノ職工賃壹錢四厘五文目掛百挺ノ職工賃四錢五厘ニ當レリ

改良新發明蠟燭心製造一覽表

一人 壹日 十時間勞力ノ結果

第一回 一白心ヨリ直チニ心堅メ仕立出來數 八分心二万八千 五文目掛二万二千 壹人 拾時間

第二回 一第一回ノ如ク勞力シ且蠟燭製造數 八分六千八百挺 五文目掛四千八百挺 仝

第三回 一單ニ特許器械ヲ使用シ蠟燭製造數 八分七千三百挺 五匁掛五千五百挺 仝

（備考） 八歩小蠟燭 百挺ニ付 職工賃 五厘

五文目掛仝 百挺ニ付 仝 七厘

從來法 手掛蠟燭製造一覽表

一人 一日 十時間勞力ノ結果

一 白心ヨリ以テ蠟燭製造仕上數 二文目掛千五六百挺 一人 十時間

九文目掛九百挺 仝

拾五匁掛貳百七拾挺 仝

（備考） 職工賃 二匁掛 百挺ニ付 二錢

仝 五匁掛 百挺ニ付 三錢四厘

仝 十五匁掛 百丁ニ付 拾壹錢壹厘

改良新發明各國手掛流蠟燭製造一覽表

従來法蠟燭製造
改良新發明全製造

比較一覧表

今ヤ農チ問ハス工チ問ハス商チ問ハス着々開明ノ域ニ歩チ進ムルハ之レ國家ノ殷富強盛チ致ス所以ニシテ歐米ノ國々今日ノ富強チ致ス所以ノモノハ他ナシ實業ニ鋭意苦心殊ニ理學發明ノ發達シ又能ク實地ニ應用セルニ因ラスンハアラサルナリ然ラハ國利民福ノ消長如何ハ之レ全ク實業ノ盛衰幷ニ新機軸發明ノ多寡ニ由リテ定マルト云フモ誣言ニアラサルヘシ發明ノ功豈偉大ナラスヤ余ハ豫テ蠟燭製造業ニ從事スルモノニシテ從來ノ蠟燭製造法ハ手掛或ハ筒掛等ニシテ其迂遠ナルチ知ルモ未ダ勞力時間幷ニ費用ノ經濟ニ大利ナル一ノ良器械幷ニ蠟燭心製造法アルチ聞カス之チ遺憾ニ思フヤ久シ故ニ余奮然蹶起以テ之カ改良チ圖リ一ノ良器械幷ニ蠟燭心製造法ノ新機軸チ發明セント專ラ之ニ心ヲ注キ千辛万苦十有餘年ノ星霜ヲ經ルモ未タ充分ノ結果ヲ得ル能ハス然ルニ精神益々激昂メ企圖猶止マス鋭意苦心愈々改良チ加ヘ遂ニ新機軸チ出シ漸ク明治二十三年四月下旬ニ至リテ始メテ充分ナル好結果チ呈シ蒸氣作用蠟燭製造器械チ發明シ爲メニ特許ノ御恩命チ蒙リタリ特ニ蠟燭心製造法進歩發達ノ著キ丁ハ其法至極簡易ニシテ直チニ白心ヨリ以テ製シ如何ナル未熟練者ナリト雖モ容易ニ製造シ得ヘク且ツ時季ノ寒暑ヲ問ハス終年製シ得ヘキヲ以テ其製造出來數從來法ニ比スレハ凡ソ四倍ノ數ヲ製シ得ルヲ以テ其勞力時間幷ニ費用ノ經

（備考）職工壹人給賃拾八錢外ニ食給料拾貳錢合計三拾錢トス故ニ小蠟燭八歩百挺ノ職工賃壹錢四厘五文目掛百挺ノ職工賃四錢五厘ニ當レリ

改良新發明蠟燭心製造一覧表

一人　壹日　十時間勞力ノ結果

第一回	一白心ヨリ直チニ心堅メ仕立出來數	八分心二万八千／五文目掛二万二千	壹人拾時間
第二回	一第一回ノ如ク勞力シ且蠟燭製造數	八分六千八百挺／五文目掛四千八百挺	仝
第三回	一單ニ特許器械チ使用シ蠟燭製造數	八分七千三百挺／五匁掛五千五百挺	仝

（備考）

八歩小蠟燭	百挺ニ付	職工賃	五厘
五文目掛仝	百挺ニ付	仝	七厘

從來法　手掛蠟燭製造一覧表

一人　一日　十時間勞力ノ結果

一白心ヨリ以テ蠟燭製造仕上數	二文目掛千五六百挺	一人十時間
	九文目掛九百挺	仝
	拾五匁掛貳百七拾挺	仝

（備考）

職工賃	二匁掛	百挺ニ付	二錢
仝	五匁掛	百挺ニ付	三錢四厘
仝	十五匁掛	百丁ニ付	拾壹錢壹厘

改良新發明各國手掛流蠟燭製造一覧表

岡松甕谷儀病氣之處養生不叶本日死去致候間此段御報知申上候

追テ來廿一日午後一時京橋區地參丁目十五番地自宅出棺青山墓地ニテ葬式仕候

明治廿八年二月十八日

親戚　男爵　岡　松　參太郎
子爵　北　林　井　上
山　中　野　直　鉄
田　村　喜　之　助
　　　　　　勝　壯　夫　毅

拜啓故林洞海葬送之節は遠路之處御會葬被成下難有奉鳴謝候此段不取敢御禮迄如此御座候敬具

明治廿八年二月六日

麹町區四番町十三番地
孫　林　若　吉
親　林　董
戚　榎　本　武　揚
　　赤　松　則　良

謹賀新年

明治廿八年略暦

大　一　三　五　七　八　十　十二
小　二　四　六　九　十一

四方拜	一月一日
元始祭	一月三日
孝明天皇祭	一月三十日
紀元節	二月十一日
春季皇靈祭	三月二十一日
神武天皇即位紀元二千五百五十五年	
神武天皇祭	四月三日
秋季皇靈祭	九月廿三日
神嘗祭	十月十七日
天長節	十一月三日
新嘗祭	十一月廿三日

甲子	一月十七日　三月十八日　五月十七日　七月十六日　九月十四日　十一月十三日
八せん	一月五日　三月六日　五月五日　七月四日　九月二日　十一月一日
ひがん	三月十八日　九月二十日
庚申	一月十三日　三月十四日　五月十三日　七月十二日　九月十日　十一月九日
己巳	一月廿三日　三月廿三日　五月廿二日　七月廿一日　九月十九日　十一月一日
社日	三月廿三日　九月廿八日
土用	一月十七日　四月十七日　七月二十日　十月廿一日

日曜表

一月	六日　十三日　二十日　廿七日
二月	三日　十日　十七日　廿四日
三月	三日　十日　十七日　廿四日　卅一日
四月	七日　十四日　廿一日　廿八日
五月	五日　十二日　十九日　廿六日
六月	二日　九日　十六日　廿三日　三十日
七月	七日　十四日　廿一日　廿八日
八月	四日　十一日　十八日　廿五日
九月	一日　八日　十五日　廿二日　廿九日
十月	六日　十三日　二十日　廿七日
十一月	三日　十日　十七日　廿四日
十二月	一日　八日　十五日　廿二日　廿九日

小のかん	一月五日
大かん	一月二十日
せつぶん	二月三日
初午	二月四日
八十八や	五月一日
入ばい	六月十一日
げし	六月二十二日
はんげしやう	七月二日
二百十日	九月一日
とうじ	十二月二十二日

明治二十八年一月一日

正二位藤堂高猷儀病氣之處養生不相叶本日午前六時薨去致候此段及御通知候也

追而來ル十七日午前八時本所緑町邸出棺上野寛永寺ニ於テ佛葬式執行候事

明治二十八年二月十二日

親戚　蜂須賀茂韶
仝　藤堂高義

田中芳男殿

濟ニ稗益アル了偉大ナルモノニシテ實ニ驚クヘキ大差アルモノトス左ニ從來法ナル實地ノ手掛幷ニ筒掛蠟燭心製造法幷ニ改良新發明製造法等遂一記載シ以テ其差ノ鴻偉ナルヲ天下ノ同業有志ニ示サントス幸ニ有志諸君新舊ノ製造法ヲ比較シ實地試製セラル、ナラハ其大差アル了月鼈モ啻ナラサルヲ了知セラル、ナラン

從來法　筒掛蠟燭心製造法一覽表

一人　一日　十時間勞力ノ結果

各地方ニテ各蠟燭中尤モ販賣數多キハ五文目掛幷ニ八分心蠟燭ナルヲ以テ今此二種ニテ其出來數ヲ示ス

第一回	八歩白心餘白紙切斷數	五万五千本	一人一日ニ十時間
（備考）	八歩眞壹把（二百本）ニ付四匁ヵ全六匁七分斗　紙切屑壹万本ニ付平均二百三十匁斗		
第二回	八歩白心ニ串ヲ直入スル數（但一時間六千本）	二万二千本　但一時間二千四百本	全
第三回	八歩白心ニ蠟一回付出來數	二萬本	全
第四回	八歩白心ニ蠟二回付出來數	四萬本	全
第五回	八歩心竪メ先振出來數	八萬五千本	全
第六回	串直入濟ミタル心ニテ心竪メ仕上出來數　但破損心幷ニ擬類心八分心千本ヲ生ス	八歩心壹萬二千本 五文目掛心六千本	全
第七回	壹人ニテ白心ノ餘白ヲ切リ串ヲ直入シ心竪メ仕上出來數　五文目掛生スルコナシ	八歩心六千本 五文目掛心三千二百本	全全
第八回	壹人ニテ第七回ノ如ク勞力シ且ツ蠟燭ヲ製スル數	八歩二千二百挺 全五文目掛六百五十挺	全全
第九回	以上ノ各法ヲ勞力セス單ニ一蠟燭製造數	八歩四千二三百挺 全五文目掛千百挺	全全

一人　一日　十時間勞力ノ結果

一特許器械ニテ下掛蠟燭出來數	二文目掛	六千丁	一人　十時間
	五文目掛	五千丁	全
	十五匁掛	二千五百丁	全
一手掛ニテ上掛一回塗付仕上數	二文目掛	八千丁	全
	五文目掛	四千丁	全
	十五匁掛	千丁	全

（備考）職工賃　一人三十錢立

二文目掛	百丁ニ付	八厘七毛
五文目掛	百丁ニ付	壹錢三厘
十五匁掛	百丁ニ付	四錢四厘

以上述フルカ如ク從來法蠟燭心製造ノ結果ト改良發明ノ製造ノ結果ト比較シ之ヲ實地ニ試製セラル、レハ勞力時間幷ニ經濟ニ於テ月鼈モ啻ナラサルノ大差ヲ生スルヲ了知セラレ余ノ誣言ニアラサル了確信セラル、ハ余ノ千辛万苦ノ功空カラス國利民福ノ万一ニ裨補セラレンニハ余ノ欣喜ニ堪ヘサルナリ

改良糸心蠟燭心堅メ創造者
新發明燈眞
各國諸蠟燭製造元
特許蒸滊作用蠟燭製造器械發明者元祖久保田吉藏
福井市春山中町壹番地
日本全國蠟燭大製造元

各位諸君

三十

案内軍歌

池田百八作

○帝國パノラマ館

ア、これ人爲か天佑か　淸國一と恃みてし
經營辛苦の旅順口　眸く時間に乘取りし
硝烟彈雨の實況を　運河の水に寫し請の
パノラマ館は此所なるぞ　名手の筆に草も木も
御稜威に靡く風情あり　天地に響く吶喊の
聲も手に取る如くなり　愉絶快絶また慘絶
其壯觀類なきは　見し人巳に肯づけり
來れや來れ諸共に　來りて實地の妙を知れ

●帝國パノラマ館通券賣捌所　松濤館

分捕品の夫ならで　日毎に山なす觀客の
便利を圖る松濤館　此所にて切符を買取ば
茶料要らずに安閑と　喫茶休息意の隨、
其上表を從來する　電氣鐵道の便利あり
無錢で便利の物とては　此所より外にあらざるぞ
來れや來れ諸共に　パノラマ館の西隣り
松濤館へと來るべし

帝國パノラマ館御案内並に通券賣捌所御やすみ所　松濤館
帝國二條通疏水西北帝國パノラマ館前
和洋酒に京みやげあり
帝國パノラマ館通券　大人五錢　小人三錢　軍人三錢
學校生徒諸君は貳錢但し御多數入は特に割引可致候

喫茶優待券　一員
四月一日ヨリ毎日午前九時ヨリ午後四時限り
松濤館
氷

第四內國勸業博覽會場內廣告

出品人京都西陣北猪熊町五番戸　伊澤信三郎

器械舘內大通

御注意　本舘內ニテ金箴綜絖及ビ肖像織ヲ製造ス製品ハ現場ニ於テ御注文ニ應ジ又ハ販賣ス購求者ハ直ニ買品ヲ持參シ得ベシ

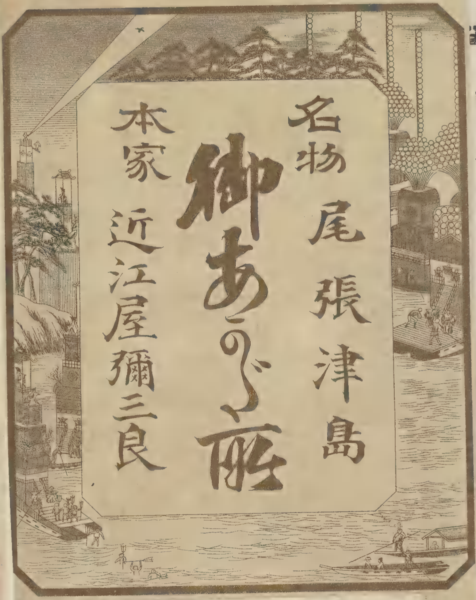
內外　織物用諸器械製造及直輸入

弊店々主伊澤信三郎ハ佛國里昻織物學校卒業生ニシテ久シク里昻及近傍ノ織物工場ニ入場シ織術ノ實地ヲ研究シ佛英獨瑞伊等織物生產地工場ヲ歷訪シ歸朝後日本織物會社織部々長ニ聘セラレ織物諸器械ノ据附運轉等ヲ整理シ夫ヨリ目下ノ所ニ機料店ヲ開キ新規有益ナル器械類ノ製造又ハ直輸入ノ業ニ從事ス偶々第四回內國勸業博覽會開設ノ幸運ニ遭遇シ天下ニ弊店ガ織物改良ニ熱心ナル微意ヲ發表スルヲ得タリ乞フ愛國有志ノ士本人ノ出品ニ注目シ其目的ノ當否如何ヲ敎示セラレナハ獨リ本人ノ幸福ノミナラズ吾國織物改良上ノ万一ヲ補フニ足ランカ

明治廿八年四月

京都西陣北猪熊町五番戸
伊澤機料店　謹白

（京都點林堂印刷）



登録商標

大日本大阪
平野町二丁目店喜崎兵衛
攝津灘新在家店崎支店釀造

天賞堂懸賞公撰
投票用紙

●第一号常娥抱玉兎圖置時計●第二号源氏冊子形巻莨筥●第三号鵜舟巻莨筥●第四号寄木形巻莨立●第五号香棚形巻莨筥●第六号燧袋形懐中用巻莨入●第七号源氏貝形懐中時計側●第八号夕顔の巻の意手釦●第九号鵜飼圖手釦●第十号七寶模様懐中時計側●第十壹号石帯形指環

上の十一点を実地に就き御熟覧の上最優等と見認めたるものゝ番号を下のワク中に書かるべし

……この中へ番号を書くべし

一人に一票を限る

この筋より切り取りて右を割引切符とす

この筋より切り取りて左を投票用紙とす

懸賞紀念割引券

弊堂ハ嚮ニ吾國美術界ノ奨勵ヲ計リ聊カ國恩及江湖愛顧ノ恩ニ酬ヒントノ趣意ニテ明治二十八年大博覧會出品ニ對スル製作ノ意匠ヲ天下ニ募リ左記諸大家ノ豫撰ヲ煩ハシ應募總數千有餘種ノ中ヨリ十一品ヲ査定シ更ニ博覧會開會中公衆ノ鑑覧評定ヲ求メテ以テ最優等金一千圓以下十一等迄ノ賞等ヲ確定シ直ニ規約ノ賞金ヲ授與スルニ付右觀覧諸君投票ノ勞ヲ謝スル為メ且ツハ吾國美術史上及弊堂業務上ノ紀念トシテ弊堂店則一定不動ノ價格ヨリ特ニ二分割引ノ紀念券ヲ發行ス依テ此券御持參ニテ弊堂販賣品御買上被下候方ニハ正價ヨリ二分(金千圓ニ對シ金貳拾圓、金拾圓ニ對シ金貳拾錢)ノ割引ヲ為スコトヲ誓フモノナリ

明治廿八年四月　天賞堂主人　江澤金五郎

○明治二十七年六月 本件發表○明治二十七年八月 募集ヲ切○明治二十七年十二月 豫撰決定
○應募總數五百拾八号迄點數千有餘種○豫撰合格拾壹點ニシテソノ豫撰大家ノ尊名ハ左ノ如シ

今泉雄作君　大森惟中君　大澤敬之君　河瀬秀治君　柏木貨一郎君
川嵜千虎君　金子錦二君　加藤甄卓君　田中智學君　瀧和亭君
拜河靖之君　宇田川文海君　能富介次郎君　黒川眞頼君　久保田米仙君
前田正名君　町田久成君　前田健次郎君　松本楓湖君　松本幹一君
福地源一郎君　小中村清矩君　幸野楳嶺君　天野皎君　雨森菊太郎君
岸光景君　岸竹堂君　重野安繹君　鹽田眞君　東久世通禧君
平瀬龜之助君

天賞堂印刷用達　河合印刷所石印

天賞堂懸賞公撰 投票心得

賣品目録

美術品の部
○貴金屬美術彫刻品一切○金銀寶玉石類装飾品(衣服用及室内用)○金銀時計及鎖類○金銀縁眼鏡類○雙眼鏡○指環○其他意匠立案及各種美術品製作依頼に應ず

實用品の部
○懸時計○置時計○銀側實用時計○白銅側實用時計類は最低額金壹圓七拾五錢より發賣す

販賣方法の事

此割引券は表面本文の通り正價の二分引(金千圓に付貳拾圓、金拾圓に付貳拾錢)にして明治三十年十二月迄の間に効力を有す

東京市京橋區尾張町二丁目
天賞堂本店

大阪市心斎橋北詰北入
天賞堂大阪出張所

廣島市大手町五丁目
天賞堂廣島出張所

京都岡崎博覧會場前仁王門通廣道橋詰東入(風車下)
天賞堂臨時出張所

天賞堂懸賞公撰投票事務所

●大日本農會要領

近頃本會の目的組織其他入會の手續等を問合せらるゝ向少なからす随て之か回報に煩る煩を覺ふるを以て左に其要領を掲く

本會は本邦農業の改良進歩を圖るを以て目的とするものにして明治十四年の創立に係り大勲位能久親王殿下を會頭に奉戴し現今幹事長には前田正名之れに膺り諸親王殿下其他内外の名望家數十名を名譽會員に推し會員は全國に散在して常に六千名内外を有す、會員に特別通常の別あり特別會員は入會の際三圓と毎年壹圓貳拾錢を出すものにして議事に關するの權あり通常會員は毎年金壹圓貳拾錢を出すのみ、本會員たる者は毎月發行の本會々報を受け、大小集會に列し、農産品評會に出品し、農事を質問して農藝委員等の答案を求め及ひ農事を通信し、發明改良品等の審査を求め、本會員たるの證票を受け其他農事に關係する諸般の便利幇助を得るの權あり、何人にても入會を希望せらるゝ時は氏名住所原籍を記し實印を押捺し毎月拾錢の割合にて壹ヶ年分以上の會費を添送(爲替ならは西久保支局振込)し本會宛にて申込まるへし、尚規則書を要望する人には郵劵相添へ請求次第送呈す

東京赤阪區溜池町
大日本農會

本半分入

京
西諸國卸
◇
ブリキ細工所
寺町通五條北入
大角通御幸町西入
山本開化堂
山本上元堂
上等

蠶兒蠅害發見報告

養蠶ノ道年ヲ追テ進歩發達スルト同時ニ政府ハ斯業ヲ奬勵セラレ精ヲ窮メ微ヲ盡シテ殆ソト餘蘊ナシ彼ノ微粒子毒ノ如キハ顯微鏡ノ力既ニ之ヲ除クノ道ヲ得レトモ蠁蛆ノ害ハ至リテハ未タ之ヲ防クノ方法ヲ發見セス余刻苦研究茲ニ年アリ然レトモ其綮肯ヲ得ス余嘗テ蛆ヲ養ヒ之ヲ化セシメ數翅ノ蠅ヲ得タリ惜ムラクハ其未タ莘尾期ニ至ラスシテ皆斃ル之ヲ解剖セシニ其仔蟲始メ楕圓形ニシテ恰モ卵ニ均シキ觀アリシ尚四五日經テ見シモノハ未タ成熟ニ至ラサレトモ蛆形已ニ備レリ茲ニ始メテ佐々木長淳氏ノ喰卵説ニ疑團ヲ生シ大ニ蠅族ヲ驅捕シテ其仔蟲如何ヲ試ミシニ始メハ一種淡黄色ノ液分變シテ球粒狀ノ卵形トナリ漸次楕圓形ニ化シテ蛆体ニ近似シ日ヲ經ルニ從ヒ完全ナル蛆形ヲ成シテ熟スルヲ常トス

凡蠅屬ヲ類別シテ二種トスレハ尾部ニ注入器ヲ有スルモノト然ラサルモノトアリ之ヲ有スルモノハ概シテ肉類ニ注入シ之ニ寄生セシメ其仔蟲ノ繁殖ヲ期スルモノ多ク有セサルモノハ重モニ腐敗物ニ産下セサルモノ寡シト雖トモ凡テ蠅屬ハ胎生ニシテ未タ曾テ卵生ノモノヲ見ス況ンヤ同種ニシテ蛆卵交々相化スルモノニ於テヲヤ

彼ノ害蠅ノ仔蟲ノ如キハ胎生ノモノナルヲ以テ蠅自ラ蠶体ニ寄生セシメサルヲ得ス其自ラ之レニ寄生セシムルモノトスレハ若シ大養蠶ニシテ過半蛆害ニ罹ル場合ハ數多ノ蠅ヲ室内ニ現出セサルヲ得スト雖トモ亦斯ルコトヲ見サリシナリ思ヒ茲ニ至リテ疑團堅結氷解ノ時期ヲ得サルヤ久シ然ルニ本年ニ至リ明カニ其原因ヲ發見スルコトヲ得タリ今其次第ヲ略記シテ普ク當業者諸君ノ參考ニ供セントス

け、る參詣諸人の中には男山の裏道より參詣して厄神堂石清水社を知らずして空しく歸る人あり實に遺憾の至りならずや、谷不動堂男山の北に方る古木繁茂の谷間に在り不動の瀧あり毎年盛暑の頃來る人多し綿清樓裏手一丁、神應禪寺男山の北に方る字杉山に在り由緒ある古刹なり應神天皇御牌所として貞觀二年僧行敎和尚造營し應神寺と號す后ち神應禪寺と改む蜀江錦の袈裟楠公冑の前楯役行者の所持したる古代の鈴等數種著明の寶物あり書院には狩野山樂の山水畫あり眺望は木津川淀川の清流小倉池比叡山の風光を双眸の下に收む實に稀有の絕景なり境内には行敎和尚の紀念碑山本勘助淀屋辰五郞の墓あり綿清樓裏手二丁、本年博覽會中八幡宮内殿の御物外殿の御物寶庫の什寶を社務所に陳列して午前八時より午后四時迄參詣諸人へ展覧を許さる、八幡に八景あり、雄德山の松、極樂寺の櫻、猪鼻坂の雨、放生川の螢、安居橋の月、月弓岡の雪、橋本の行客、大乘院の鐘、是れなり其他男山及び八幡の名所古跡は枚擧に遑あらず、名產は綿清樓のさゝ時雨永樂軒の石清水燒杓の簪等なり、男山の畫圖寫眞は綿清樓より參詣諸人に之れを分讓す

●名所及里程 古戰場洞ヶ峠一里八幡町南の端山城河内の國界にあり、古戰場山崎天王山一里、山崎寶寺及觀音寺仝、櫻井子別れの松一里八丁、長岡天神一里半、粟生光明寺二里半、柳谷觀世音二里、宇治百丁、伏見稻荷三里、倉治瀧三里半、薪一休寺二里、奈良七里半、何れも人力車を通す

明治廿八年三月 綿清樓主記

◉此案内記御所持の御客樣へ參宮紀念盃進呈可仕候

（進呈）

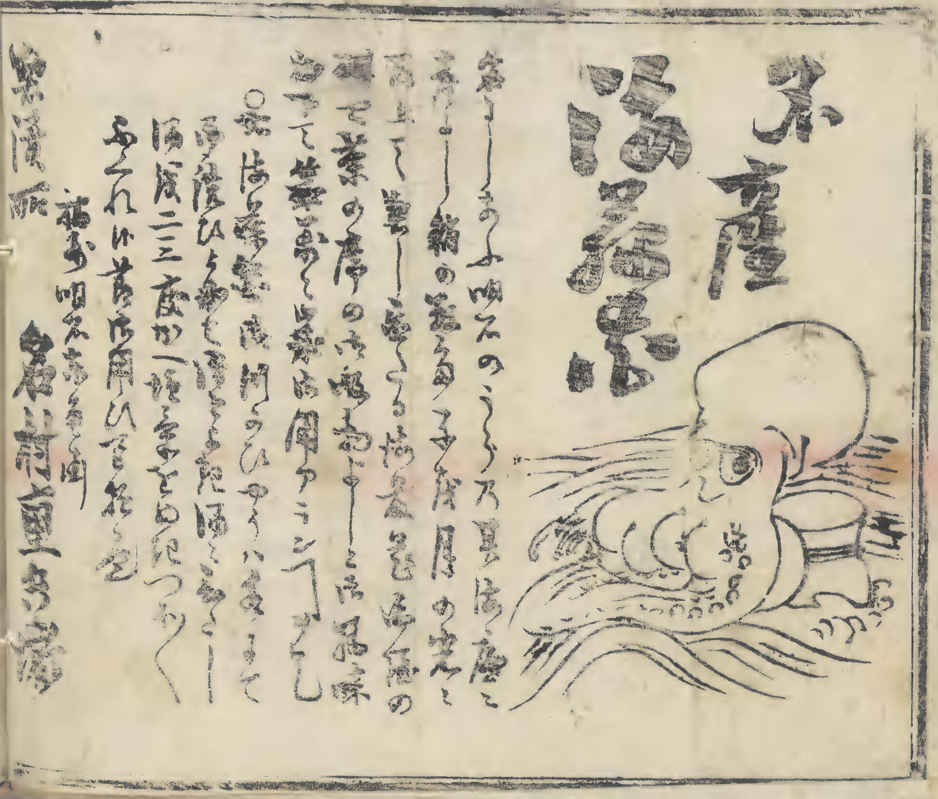
八幡案内記

京都府下山城國綴喜郡八幡町百八十八番戸
男山麓八幡宮表上リ口厄神堂接近一鳥居前

旅人宿
料理業
鮮魚商
綿清樓

並ニ淀川各汽船乘客案内所

京都 太田活版所 印刷



け、る叅詣諸人の中には男山の裏道より叅詣して厄神
堂石清水社を知らずして空しく歸る人あり實に遺憾の
至りならずや、谷不動堂男山の北に方る古木繁茂の谷
間に在り不動の瀧あり每年盛暑の頃來る人多し綿清樓
裏手一丁、神應禪寺男山の北に方る字杉山に在り由緒
ある古刹なり應神天皇御牌所として貞觀二年僧行教和
尚造營し應神寺と號す后ち神應禪寺を改む蜀江錦の袈
裟楠公胄の前楯役行者の所持したる古代の鈴等數種著
明の寶物あり書院には狩野山樂の山水畫あり眺望は木
津川淀川の清流小倉池比叡山の風光を双眸の下に收む
實に稀有の絶景なり境内には行教和尚の紀念碑山本勘
助淀屋辰五郎の墓あり綿清樓裏手二丁、本年博覽會中
八幡宮內殿の御物外殿の御物寶庫の什寶を社務所に陳

明治二十七年六月十一日午前八時三十分（蠶兒五齡ノ二日目）初回ノ給桑ハ已ニ喰ヒ盡シ將ニ次回ノ給桑時刻至レルヲ以テ蠶兒發育ノ程度ト乾濕ノ振合トヲ斟酌シ其分量ヲ定メント欲シ蠶室ニ到ルヤ偶々曾テ疑ヲ抱キツヽアル一種ノ蠅（繭ヲ突キ破リ出ツル蛆ヲ試ミニ化セシメタル蠅ト同樣ニシテ其形稍々細ク飛行頗ル自在ナリシ只比較的腹部少シク淡色ヲ感セシノミ）蠶体ニ附着シ注入器ヲ挺出スルヤ忽チ蠶体ニ挿入シタルヲ見ル此器ハ即チ産下門ナリ其挿入セラルヽヤ蠶兒困ソテ頭ヲ擡ケ之ヲ避ケントスルノ狀アレトモ蠅依然トシテ去ラス其間凡ソ五秒時ヲ經テ去テ他ノ蠶ニ移リ又前ノ如シ已ニ注下セラレタルモノハ其疵所ヨリ球粒狀ノ液ヲ漏ラセリ暫時ニシテ尋テ三頭ヲ害セリ四頭目ニ及ヒシヲ見テ之ヲ捉ヒ試ミニ腹部ヲ輕ク壓搾セシニ悉ク成熟セル百有餘ノ仔蟲産下門ヨリ出ツル最滑カニ蠢々トシテ匍匐セリ尚解剖セシニ未熟ノ仔蟲二十許ヲ餘セリ余玆ニ始メテ探究ノ緒ヲ得タルヲ喜ヒ半奇異ノ思ヲナシ更ニ大ニ人ヲ集メ蠶室ヲ探索セシメ二日間ニ十室ヨリ驅リ得タル其數一百以上ニ及ヘリ實ニ案外ノ多數ニ一驚ヲ喫シタリキ之ヲ調査セシニ蛆ノ已ニ成熟セシモノ凡七十有餘ニシテ未熟ノモノハ三十翅程ナリシ其後日毎ニ各室内ヲ驅ラシメシニ日トシテ若干ヲ捕殺セサルナク而シテ三四日ヲ經テ捉ヒ得タルモノ、蛆ハ悉ク成熟セサルモノナキノミナラス已ニ産ミ盡シタルモノ却テ其數多キヲ見ル尚其後四日程經テ頻リニ求ムレトモ更ニ一蠅タモ得ル能ハサルニ至レリ

偖テ被害蠶一頭ハ直チニ之ヲ解剖セシニ前キニ搾出セルモノト同樣ノ蛆（長一ミリメートル幅〇、四）ヲ得他ハ甲乙丙ノ三段ニ區別シ甲第六節ニテ背管ノ中央ヲ害セラレタルモノ乙第六軀輪ノ左側（氣門ノ上）ヲ害サレタルモノ丙第七節ニテ乙ト同樣ノ位置ナルモノヽ三頭ヲ試驗室ニ移シ特別ニ之ヲ飼育セシニ敢テ異狀ナカリシモ只甲ハ發育充分ナラスシテ繭モ稍々小形ノモノヲ結ヘリ而シテ被害ノ當日ヨリ十一日（上簇後六日）目ニシテ乙丙ハ蛹ニ化セシモ甲ハ罩リ化セスシテ死籠リトナレリ之ヲ解剖セシニ則チ蛆ヲ得タリ然レトモ發育未タ其度ニ達セスシテ凡七歩位ノモノナリシ乙丙ヲ自然ニ任シテ蛆ノ出ルヲ試ミシニ乙ハ十八日目ニ丙ハ之レヨリ一日ヲ經テ出テタリシ而シテ乙ハ上簇後十三日ニシテ丙ハ十四日目ニ當レリ尚ホ丙ハ上簇ニ至ルマテ疵所明カナリシモ甲乙ノ如キハ被害後三日ヲ經テ癒タルカ如ク痕跡タモ見ヘサルニ至リシモ蛹ニ化スルニ及ヒテ復判然タリシ

玆ニ於テ彼ノ蛆ハ全ク前ノ蠅ナルモノ其仔蟲ヲ産下シテ巧ミニ蠶体ニ寄生セシムルヨリ生スルモノナルヲ判明スルコトヲ得タリ彼ノ害蠅一翅ハ幾許ノ健蠶ヲ斃シ幾許ノ美蛹ヲ殺シ幾許ノ佳蛾ヲ害スルモノソ一翅ニシテ其レ尚斯ノ如シ況ヤ數十翅ヲヤ彼ノ捕殺セシ數翅ノ腹中ヨリ搾出セル仔蟲幾數萬ナルヲ知ラス余之ヲ見テ思ハス戰慄シタリキ

按スルニ彼ノ蠅ハ二翅族ノ一種ニシテ風土ノ異ナルニ從ヒ遲速ノ別アレトモ概シテ蠶蝿

婦介嬢或ハ粋ヲ好ム都人士ノ需要ニ適ス

新發明火事足袋

本品ハ鞋（ワラジ）ト足袋ヲ兼備セル社會無双ノ發明品ニシテ火事或ハ山林原野ヲ跋渉スル時ニハ至ッテ適切ナリ

新發明甲立縫目ナシ足袋

注意セリ且當店足袋ガ無責任ノ品物ニアラサルヿヲ表明セン爲甲馳ニ當店ノ屋號ヲ刻附セリ

紺瓦斯糸足袋

本品ハ品位高尚ニシテ燦然光ヲ放チ殆ト絹ノ如シ貴人粋士ノ需要ニハ至ッテ適切ナリ

けゝる參詣諸人の中には男山の裏道より參詣して厄神堂石淸水社を知らずして空しく歸る人あり實に遺憾の至りならずや、谷不動堂男山の北に方る古木繁茂の谷間に在り不動の瀧あり每年盛暑の頃來る人多し綿淸樓裏手一丁、神應禪寺男山の北に方る字杉山に在り由緒ある古刹なり應神天皇御牌所として貞觀二年僧行教和尚造營し應神寺と號す后ち神應禪寺と改む蜀江錦の袈裟楠公冑の前楯役行者の所持したる古代の鈴等數種著明の寶物あり書院には狩野山樂の山水畫あり眺望は木津川淀川の淸流小倉池比叡山の風光を双眸の下に收む實に稀有の絶景なり境内には行教和尚の紀念碑山本勘

化ノ頭ト仝時ニ發生シ凡四週(普通養蠶四齡ノ半)間ニシテ第一期仔蟲(蛆)(胎内ニアリテ未タ産下セラレサルモノ)成熟ス此屬ハ大麻蠅ト性稍々均シク元來腐敗物ヲ好テ其仔蟲ノ養育ヲ期スルヤ疑ヲ容レス然レトモ彼レハ死物ニ是レハ活物ニ寄生セシムル所以ノ者ハ彼大麻蠅等ノ仔蟲ニ比シテ其發育遲鈍ニシテ多クノ時日ヲ要スルヲ以テ鱗翅族及蝶族等ノ仔蟲ニ注下シ其養分ヲ資リテ半茲ニ養ヒ而シテ之ヲ斃サントス其斃レテ腐敗スルヤ頓ニ發育ヲ逞フスルノ性アリ然レ𪜈當初ヨリ死肉ノ如キ腐敗物ニ産下セサルモノハ蓋シ第二期仔蟲(蛆)(産下セラレテ未タ成長ニ達セサルモノ)ノ成長ニ先チ腐敗物乾燥セハ啻ニ其發育ヲ期シ能ハサルノミナラス爲ニ中途ニシテ枯死スルノ虞アルヲ慮カレハナリ而シテ其産下ヲ始ムルヤ尚二週間以上ヲ存シ前後六七週間ヲ生存スルモノナルヘク其第三期仔蟲(蛆)(成長ニ達シテ未タ蛹ニ化セサルモノ)ノ土中ニ潜ミテ亦蛹ニ化スルヤ堅牢ナル漆黒色ノ殼皮ヲ被ヒ數週ニシテ已ニ殼内ニ於テ蠅形ヲナシテ越年セルモノト認定セリ

嗚呼當業者諸君ヨ此事タル根源ヲ窮メ驅除ノ道其宜シキヲ得ハ養蠶社會ノ一大進歩ニシテ啻ニ斯業ニ幸福ナルノミナラス國家經濟ニ取リテ鮮少ナラサル利益ト信スルカ故ニ余ハ更ニ進テ驅除ノ道ヲ探求セントス乞諸君其レ之ヲ扶ケヨ

明治二十七年七月

山形縣羽前國東置賜郡屋代村大字一本柳

養蠶家　金子孫左衛門

第四回內國勸業博覽會出品品種目

一當店ガ非凡ノ技藝ト奇抜ノ意匠ヲ以テ製造シタル出品物ハ左ノ十數種ニシテ數目五十點ナリ則チ工藝館內(右館ノ尾部東京府出品陳列區域內)東京日本橋區足袋商十二人ノ共同出品ノ班ニ列セリ仰キ願クハ博覽會御縱覽ノ際殊更ニ御一顧ヲ垂レ玉ハンヿヲ

當店製造ノ足袋ハ當店ノ屋号ヲ甲馳ニ刻附シアリ一見以テ責任アルヲ知ルニ足レリ販賣スルニハ至ツテ適切ナリ

當店ハ壹口十足以上ハ割引ヲナス可シ請賣御望ナレバ特別割引ヲ以テ御相談ニ應ス可シ

見本幷ニ直段書御入用ナレバ直チニ發送ス可シ

爲換拂込　三井銀行　東京郵便局

新發明 踵縫目ナシ
室町足袋粹乃友

本品ハ普通踵縫目ナシト稱スルモノト全然構成ノ法ヲ異ニスル純粹ノ踵縫目ナシニシテ貴顯紳士貴婦令孃或ハ粹ヲ好ム都人士ノ需要ニ適ス

新發明火事足袋

本品ハ鞋ト足袋ヲ兼備セル社會無双ノ發明品ニシテ火事或ハ山林原野ヲ跋陟スル時ニハ至ツテ適切ナリ

新發明甲立縫目ナシ足袋

白足袋

本品ハ糊ナシ石灰粉末驅除ナル故普通足袋ヨリ保持宜敷軟カナル故衣服ノ裾ヲ痛ムヿ少ナク鼻緒磨レ等痛マヌヿ奇妙ナリ甲馳ノ付方モ脫落セサル樣注意セリ且當店足袋ガ無責任ノ品物ニアラサルヿヲ表明セン爲甲馳ニ當店ノ屋號ヲ刻附セリ

紺瓦斯糸足袋

本品ハ品位高尚ニシテ燦然光ヲ放チ殆ト絹ノ如シ貴人粹士ノ需要ニハ至ツテ適切ナリ

謹告

當舗義ハ古來大方諸君の深き御愛顧を蒙ぶる大阪日本橋なる煙草店の支店にして當地に開業せしより數十年以來其後日に月に御得意を増し追々盛大に赴きたるハ全く御得意諸君の恩顧に依る処と感謝に耐へ申さず故に都ての製造刻莨煙草ハ本店同様を仕送り地先に依りて適當の品柄を撰み最とも吟味精製の上大憤發を以て廉價に販賣致可何卒現品御試喫且つ大阪なるの商標御

[illegible]

本品ハ當店カ多年苦辛鑽研シタル古今獨歩發明品ニシテ甲ト踵ニ縫目ナキモノナリ故ニ衣服ノ裾ヲ痛ムルコナシ

新發明両面寸胴（一名両面手甲襦半）

本品ハ當店カ全腦力ヲ瀝キ積年苦慮經營シタル斬新警抜ノ一大發明品ニシテ貳枚ノ耐力ト能力ヲ有セリ

新發明両面腹掛

本品ハ社會ノ耳目ヲ聳動シタル不世出ノ發明品ニシテ貳枚ノ耐力ト能力ヲ有セリ

新意匠堅牢足袋

本品ハ甲三重底三重ニシテ冬時ハ温カク夏時ハ日光ヲ遮リ且ツ二足ノ耐力ヲ有セリ

[illegible]

本品ハ至ツテ堅牢ニシテ馳走ヲ業トスル者馬丁人力車夫新聞郵便配達牛乳配達等ノ需用ニ適ス

養生腹掛（一名寢冷ヘシラズ）

本品ハ盛夏ノ際小兒ノ寢冷ヲ防ク腹掛ニシテ夏時ニハ必用缺ク可カラサル良品ナリ

キヤラコ足袋

品質精良ヲ撰ミ掛糸ハ絹ノ太白ナリ体裁至ツテ宜ロシ

目倉縞足袋

品質精良製造緻密價値低廉ニシテ甲三重入ナり至ツテ經濟ニ適セり

東京市日本橋區室町三丁目大通リ越後屋筋向

室町足袋粋の友製造本舗　龜屋本店　宮内清兵衛

同店　牛込肴町　越前屋　宮内清兵衛

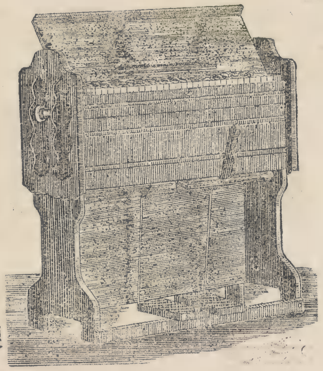
支店　神田今川小路　龜屋　關根伊之助

出品陳列所第四回内國勸業博覽會工藝館

元祖橫濱西川和製風琴及洋琴ノ廣告

近三十年來美術敎育は漸々歩を進め本邦學制頒布の時に於ても唱歌の必要あるを認められ小學校課程中にも唱歌の科を置かるも其敎育に注意せらるゝと今殊更に辨明を須ひす遡て學制頒布の當時敎育者は鋭意唱歌の普及を謀らるゝと雖如何せん其用に供する風琴及洋琴の製造に從事する者は本邦に絕て無く之が實施上の不便少からぞ然して元來其價格不廉のものあるを以て之を悉く外國に需むるに至りては莫大の金を費さゝるべからず不肖寅吉之を慨嘆をると久し遂に意を決して明治九年より英人クレン氏及獨逸人音樂博士カイロ氏に就き前後七年間萬辛を經て風琴及洋琴の製造法を學び仝十六年橫濱に開業し翌十七年始めて本邦產の物質のみを以て風琴を造るこれ實に吾國に於て風琴の製造の嚆矢あり仍て文部省の試驗を請ひヨに幸に採用の恩命に接そ爾來增々摸範を泰西に採り其英を撰み萃を拔き加ふるふ自巳が多年れ經驗を應用し音色は勿論搆造の改良に意を凝し漸々內外紳士の信用を博し需用月に日に增加す之に由て先年工塲を擴げ蒸滊器械を据付多額の洋、風琴を產出そるに至れり然りと雖未だ曾て壹個たりとも忽にせず如何に低價の樂器と雖自身に充分の調査をなさゞれば世に出そとなし之を以て吾製造品は明治廿年の工藝共進會に於て銀牌を受領し明治廿三年の內國勸業博覽會に於て有功二等賞を下賜せられ身は又多年東京音樂學校陸軍々樂舍及其他官私立學校の風琴及洋琴れ調律御用を務む不肖寅吉の光榮巳に身に餘るこれに酬ゆる唯初志を守り孜々斯業に勉勵し一は外品の輸入を防ぎ一は華客の芳志に背かざらんとを期す伏して乞ふ江湖の諸彥一層の愛顧を垂れ賜はんとを

第四號 風琴圖



西川製風琴正價表

第一號風琴	金拾八圓	第二號風琴	金貳拾圓
第三號仝	金貳拾參圓	第四號仝	金貳拾八圓
第五號仝	金參拾圓	第六號仝	金參拾五圓

照覧之上日に倍し猶陸續御愛求あらん事を伏して奉祈上候

奈良縣大和國式上郡
朝倉村大字慈恩寺
諸煙草製造販賣
大阪だるま支店
陸軍御用達
酒井鶴松

西川製洋琴正價表

第壹號洋琴	金貳百圓
第貳號洋琴	金百貳拾圓
第七號仝	金參拾八圓
第八號仝	金四拾五圓
第九號仝	金五拾五圓
第拾號仝	金五拾五圓
第拾壹號仝	金七拾圓
第拾貳號仝	金八拾圓
第拾參號仝	金百拾圓

副伸當博覽會中神奈川縣工藝部へ吾工場より出品せるものは前記の第二号洋琴第十三号風琴及第九号風琴に御座候へは就て御熟覽有之度候
尙樂器の見本定價表其他精細の儀は別に悉しき見本帳御座候へば御望の方は御申越次第進呈仕るべし

東京音樂學校
陸軍々樂學校 洋琴調律御用西川風琴製造所

神奈川縣橫濱市日出町二丁目三十番地

西川寅吉

特別廣告

一 驅蟲菊粉

但し一瓶に付郵稅貳錢を要す

定價 大瓶 金拾五錢 中瓶 金拾錢 小瓶 金五錢

一 驅蟲菊水

但し逐附方は小包郵便に依る

定價 一瓶 金拾貳錢

◎**効能** 各種の無血蟲即ち蚤。虱。蚊。輸蟲。蚋。蠅。滑蟲等。人畜及び諸作物に害ある小蟲類を驅除することは世人の熟知する所なり

◎**用法** 夜着。蒲團。衣服。疊の敷目。盆栽。苗床。菜大根の葉。烟草の葉等に撒布す。畜類の如き毛あるものには水を以て毛を潤ふし置き之れに揉み附け。又總べて飛揚する蟲を驅るには戶障子を鎖しおき抹香を燒くが如く燻蒸す。又匍匐するものには其蟲に振り掛け或は蟲の出入する線路に撒布すべし。其粉末又は烟に觸るゝものは總べて斃落するに至るなり。又液を用ふるには霧吹にて衣類又は體に吹き掛くべし。又草木の蟲に用ふるには五倍或は十倍の水を混和して用ふべし。

◎**注意** 世間に蚤除粉。虱取粉など稱して類似の品少からずと雖も。多くは舶來品にして既に數年を經て効力薄きものに猶多量の雜物を混じたるものなれば。効力なきも固より當然とす。弊園製造の驅蟲菊粉は。本年自園に產したるものを製粉せるものにして。其効力の著大確實なることは。充分の責任を負ふて之を保證す。

一 驅蟲菊苗

定價 一本に付 大苗 金貳錢 中苗 金壹錢五厘 小苗 金壹錢

但し多數御購買の方には割引すべし◎大苗は明年梅雨前に開花し。中小苗は明後

(京橋區八官町忠愛社印刷)

年に開花す。大苗百本の荷造費金六錢、郵送料金拾貳錢、運送は秋九月より春四月中旬までとす。尤も幸便により途中に於て能く保護すれば夏期にても運搬することを得べし。

驅蟲菊は羅甸名を「ピレトラム、シチラチエフォリウム」と稱し。墺國「ダルマチヤ」の産なり。其花を製粉せしものを驅蟲菊粉と謂ふ。曩に東京駒場の農科大學に於て培養し。其効用を試驗し。歐米産の驅蟲菊粉に勝る好成蹟を得たり。

右驅蟲菊粉は西洋諸國に於ては之れを「インセクト、パウダー」と稱し非常に流行し。蚤。蠅除け等ハ總べて此粉を原劑とす。元來驅蟲菊は發芽甚だ困難なるものなれば。是れまで弊園より該種子を發賣せしも。需用諸君に於て概ね發芽の好成蹟を得ずして多くは之れを以て種子の不良に因るとなす。弊園の甚だ遺憾とする所なり。因りて弊園は向後該種子の發賣を止め。總べて苗を以て需用に應せんとし。數回の試作を經て今や數萬本を培養するを得たり。幸に有志諸君の高顧に依り用途益々開くるに至らば弊園の本懷之れに過ぎざるなり。但し購求の諸君へは栽培法及び製粉法を詳記せし書を進呈す。

明治廿七年四月

東京府武藏國東京市赤坂區青山北町六丁目四拾五番地

農科大學栽培其他内外の種苗販賣所

驅蟲菊栽培及製造販賣本舗 **精良種苗園主 奥畑寛篤 謹白**

一佛國新渡り苹菓苗十六種各一本に付金貳拾五錢從前舶來のものは生食一方なれども此種は生食酒造兼用の最良種なり

一外國新渡り宿根草にして麝香撫子苗紅、雪白、淡紅、絞り等何れも八重牡丹咲きにして麝香の香を發す貴重なる草花なり一株金貳拾五錢より

一外國新渡り珍奇美麗なる草花類幷に内外農作物種子及び苗木類各種精良のものあり

需用者各位の便を計り左の所に出張店を設け本園同様種苗の販賣をなす

東京市四谷區永住町十番地（通稱大木戸）

精良種苗園出張店

陸地棉。

陸地棉栽培擴張ノ説ハ漸ク其機運ヲ表ハセリ客年來棉作奬勵會ハ多額ノ棉種ヲ米國ヨリ取寄セ全國各地ニ配付シテ栽培ヲ勸誘セリ是レ余等栽培者ノ恩人トシテ敢テ謝セザルベカラザル一義擧ニアラズシテ何ゾヤ又議會ニ於テモ進デ建議ヲナシ棉作改良費五千圓ヲ議シタル如キ其一證トシテ見ルベシ余ハ年來陸地棉ノ栽培ニ從事シ本年ノ内國勸業博覽會ニ出品セシ實棉ハ明治六七年ノ頃米國ヨリ齎セシ原種ヲ年々我ガ邦ニ栽培シテ殆ド二十余年ヲ經過セシモノナリ余ガコノ一種ヲ栽培セシハ明治十二年以降昨二十七年マデ十六年間續テ栽培セシニ或ル年海水侵入ノ害ヲ受ケシ外幸ニシテ未ダ一回ダモ結果ノ惡シカリシヿアルヲ見ズ一体ニ陸地棉ハ栽培方ノ要点ヲ知悉セバ地味ノ如何ヲ問ハズ培養上却テ頗難ナルモノニアラズ殊ニ内國種ニ比スレバ栽培費ヲ要スルヿ少クシテ收穫ノ多キヿハ從來ノ實驗上ニ於テ明カナリトス仍テ今般出品陳列ノ剩余ナル實棉ニ栽培上左記ノ要点ヲ添ヘ全國各府縣ニ寄贈シ聊カ參考ノ一助ニ供セント欲ス

明治二十八年七月

兵庫縣武庫郡西宮町

羽舘三根

陸地棉栽培概説

總テ作物ノ培養上ニ就テハ各地ノ氣候土質等ノ差違アルニヨリ一定ノ方法ニヨル能ハザルハ勿論ナリト雖モ陸地棉ノ栽培上大体ニ就テ注意スベキ要点左ノ數項ヲ列擧ス

一陸地棉ノ栽培ハ内國固有ノ棉種ニ比スレバ大ニ其趣ヲ異ニシ最モ考慮ヲ要スヘキハ肥料ノ過度ヲ忌ムヿ施肥ノ時期ヲ後レザルヿ以上ノ二者ハ栽培上ノ主眼ナリトス追々世間ニ陸地棉ノ栽培ヲ試ミ結果充分ナラザルヲ見テ往々罪ヲ棉種ニ歸シ栽培ヲ斷念スルモノアリト雖モ必竟スルニ過度ノ養料地中ニ停滯シ棉樹ノ發育期ニ後レテ幹枝ヲ徒長セシメタルガ爲メ結實ニ害ヲ與ヘシ事ハ掩フベカラザル事實ナリトス故ニ施肥ノ量ハ内國種ニ比シ凡ソ三分ノ一位ヲ極度トシ蒔付ノ際一回ニ全量ヲ施シテ以後ハ與ヘザルヿトシ開花期ニ至レバ過度ノ養分地中ニ殘留セザル様注意スヘシ尤モ灰ノ一品ニ限リ稍々其量ヲ多クシ壹反歩ニ對シ

を俟たずして明かなり、其代價の如きも瓦斯機械と大差な

年に開花す。大苗百本の荷造費金六錢郵送料金拾貳錢、運送は秋九月より春四

五十貫目内外ヲ播種ノ際ニ施スヲヨシトス又發生後ト雖モ發育ノ狀況ニヨリ尿屎等ノ水肥ハ極稀薄ニシテ一二回一時ノ補トシテ施スハ妨ケナシ

一、播種ハ五月下旬ヲ期シ畦巾二尺許ノ中ニ二列ニ播下シ發生後漸次間挽キテ幹ト幹トノ距離凡ソ九寸乃至一尺位トナシ一坪ノ内ニ四十本許ヲ養成スルヲ適度トス

一、棉幹ノ丈ケハ凡一尺五寸前後ニ止メ梢頭ヲ摘ミ余リ高長ナラザル樣注意スベシ故ニ播種ノ際溝筋ノ底ヲ成ルヘク堅ク足ニテ踏ミ付ケ其上ニ種ヲ下シ午蒡根ノ深ク侵入セザル樣ナスベシ一幹ニ棉球八九顆ヲ平均トシ枝數ハ五六アルヲ要シ一枝ニ蒴一個乃至二個ヲ限リトシ枝頭ヲ摘ムヘシ又脇芽ノ出ルモノハ勉テ摘ミ去ルヲ要ス

一、乾燥ノ地ハ適度ノ灌水ヲナシ土壤中乾濕ニ激變ナカラシムベシ以上ノ外除草等ノ如キ他ハ皆内國種ト異ナルヿナシ

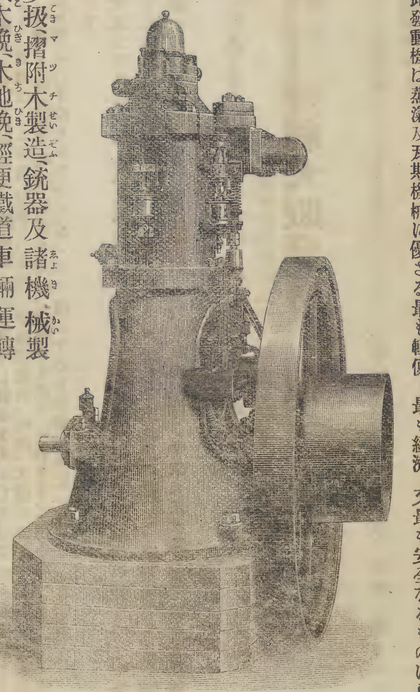
一、前數項ノ要点ニ適合スル樣栽培スルヲ得バ壹反歩ニ付實棉七十貫目内外ヲ穫ルハ從來ノ實驗上明瞭ナリトス

棉作一期ニ要スル日數凡百四十日間トス其順序左ノ如シ

六月一日	發生期		發生前七八日前後ヲ播種期トス
	發育期	六十日	發育期ハ漸次形躰伸長肥大シテ六十日間ヲ經レハ完全ヲ備ヘ動物ノ發育期ト同シ
八月一日	開花初メ		
	開花期	四十日	發育期ノ終ル頃ニ至レハ順次開花ヲ初メ凡四十日間ニシテ止ム動物ノ長子ヨリ次第々々ニ末子マデモ交尾受胎スルニ同シ
九月十日	開絮初メ		
	成熟期	四十日	開花後凡四十日間ヲ經レハ子實成熟シテ順次開絮スル動物ノ分娩スルニ同シ
十月廿日	摘取終		

歐洲最新式專賣 石油發動機說明錄 全

石油發動機は原名 Petroleum motor と云ふ、此發動機は蒸氣及瓦斯機械に優さる最も輕便、最も經濟、又最も安全なるものにして通常ランプ用の石油極めて少量を用ひ誰にても無雜作に使用し得へき便利安全斬新大有益の神機なり



單筒圓石油發動機縮圖

石油發動機を適用して利益あるもの枚擧に遑あらずと雖も就中其利益の大なるものを擧くれば

活版、石版の印刷、及ひ其インキ練、紡績、煙草切、米搗、製糸、機織、製粉、製糖農業開墾其他土工上排水及灌漑、稻麥扱、摺附木製造、銃器及諸機械製造、時計製造、點火及捕鯨用 電氣發作、木挽、木地挽、輕便鐵道車輛運轉用、中小形船舶運轉用、鑛坑送風及排水用、石油坑揚油用、水揚ポンプ運轉用」等に供するに在り

石油發動機は技師火夫を要せず、据附に多費を要せず、破裂、膨脹、發臭、噴煙等憂ふべく厭ふべきもののなきのみならず之が据附は又官許を要せず人家稠密の地工塲狹小の處といへども隨意に之を設置するを得べし

石油發動機は其回轉甚た靜穩にして且つ平調也

石油發動機は其回轉甚た迅速に開始するを得其開始は五分時間乃至十分時間を要するに過ず

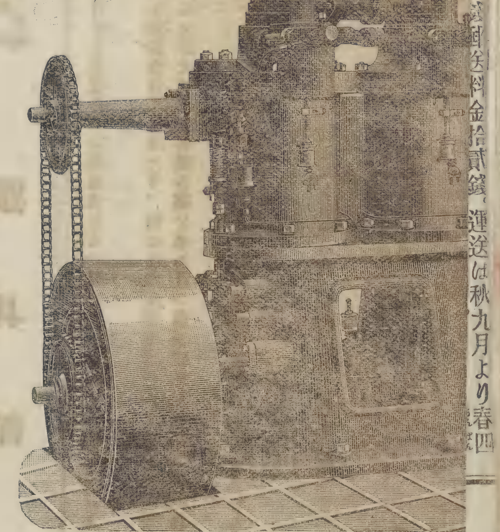
石油發動機の用油量は實驗に依るに一馬力一時間に付僅々一合五六夕乃至二合程に過ず

石油發動機は煙突を設くるの必要なし

石油發動機の構造は甚簡易甚堅固なり、其製作は又最良の鋼鐵をのみ用ひ極めて精巧なり、故に此發動機は破損衰耗の憂なく永久に安全に經濟に使用するを得べし

石油發動機の功用と狀体とは實に前陳の如くなるを以て蒸汽、水力、瓦斯、人牛馬力等を用る者の多費、危險、不安全若くは不便利を免る能はざるに比較するや其利害得失は言を俟たずして明かなり、其代價の如きも瓦斯機械と大差な

く又之を蒸滊發動機と比較するも滊鑵烟突其他外圍等を要せざるを以て其費は別に多きを要せず日常の經費も蒸滊機械の四五分一瓦斯機の半額又は三分の一に過ぎざるが如し利便も亦大なりと云ふべし況や此發動機に使用すべき石炭油は其價額上時に多少の浮沈はありといへども米國及魯國に於ける石油大噴出坑の如きは殆んど無盡藏と稱すべく我北越地方に於ける製油業の如きも日を逐ふて產額を增加しつゝあれば油價の低廉に就くこと自然の數と稱すべし果して然らば此石油發動機の益々世に行はるゝも亦自然の勢と云はざるを得ず本館の始めて此機を銃工場に裝置するや館主十文字君先つ東京工業學校長手島精一君と敎授坂田中原早川の諸學士及技術士壺河君等にも謀る所ありしに諸君は篤く賞賛を玉ひ且つ其後詳圖を製し改造の功をも奏し京都大博覽會へ出品せらるゝに至りたるが當時同上諸君の譯述して館主に與へられし同機の略說は左の如しとす、看官之に依りて此機の功用及用法の大要を了知せらるれば幸甚なり、



複圓筒船舶用石油發動機縮圖

構造

此石油機關ハ發動機中ノ最モ簡易ナルモノニシテ經驗ナキ人ト雖モ用法案內書ヲ確守スレバ容易ニ運轉スルヲ得ベシ運動ノ部分亦簡易ニシテ數尠シ吸入瓣一個排出瓣一個及喞筒附ノ小ナル整速器ノ組合セノ外ニ一ノ運動スル部分ナシ故ニ多額ノ修繕費ヲ要スルコナシ時々ノ小修繕ハ小細工スル職工ニテモ容易ニ修覆スルコトヲ得

全體ノ組立堅固ニシテ强シ消耗スル部分ハ總テ最良ノ鋼鐵ヲ以テ作リ能ク練磨シタルモノナレバ磨滅スルコ尠シ

働作

喞子ノ第一行動ニ於テ始終爆裂性ノ油氣ヲ吸入シ第二行動ニ於テ之ヲ壓縮シ第三行動ニ於テ之ニ點火シ爆裂膨脹シテ工作ヲナシ第四行動ニ於テ燃燒シタル氣體ヲ排出スルモノトス此爆裂性ノ氣體ハ普通ノ燈油ト空氣トヲ一定ノ割合ニ混和シタルモノナリ

燈油ハ小喞筒ヲ以テ下ノ燈火ニテ强熱シタル瓣內ニ入リ燈油瓦斯ト變シテ別管ヨリ吸入シタル空氣ト混和シ圓筒中ニ入ル空氣ノ量ハ劃度シタル瓣ニテ增減スルヲ得ベシ

點火器ハ眞鍮ノ小管ナリ取附アル「注射ランプ」ヲ以テ常ニ熾熱セラルヽヲ以テ圓筒內ノ氣體壓縮セラルヽ際氣體ノ一部管內ニ注入セラレ熱ヲ取テ發火スルナリ

空氣燈油等ノ出入ハ總テ瓣ノ自働ニ因ル

運動ノ不同ハ燈油量ヲ加減シテ之ヲ調整ス

兩球式ノ平速器アリ一ノ小喞筒ニ働キテ運動速ニ過ル時ハ喞筒ヲ止ムルノ仕掛ナリ

運轉法

「手ランプ」ニテ「注射ランプ」及點火管ヲ五六分間熾熱シテ貯油器及空氣瓣ノ「コック」ヲ開キ小喞筒ニテ油ヲ熱セラレタル空氣瓣ニ送ルベシ然シテはつみ車ヲ二三度回轉スレバ容易ニ運轉シ初ムベシ

一時間ニ要スル石油ノ量ハ一馬力ニ付二合五勺乃至三合五勺ヲ出テス（附言此表ハ第一回輸入ノ機械ニ添附セルモノヽ譯文ナルノ故ヲ以テ平油量ノ如キ第二回輸入ノ機械ニ要スル油量ニ比較スレバ其多キコト格段ノ差アリ蓋シ近製ノ機油量ノ減少セルハ著シキ進歩ヲナセルヲ徵スルニ足ルベシ）

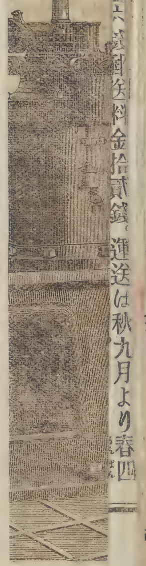
機械表

	單圓筒						複圓筒		
有効馬力	一馬力及一馬力半	二馬力及三馬力	三馬力及三馬力半	四馬力及五馬力	六馬力及七馬力	八馬力及九馬力	十馬力及十一馬力	九馬力及十馬力	十二馬力十三馬力	十五馬力十六馬力
基礎ナ合セシ機械ノ高サ（インチにて）凡	五一	五七	五七	六二	七五	七五	七五	六六	七五	八〇
機械ノ横隔（同上）	三二	三六	三八	四〇	四七	四七	四七	四四	四七	五〇
同縱幅（同上）	三四	三八	三八	四〇	四九	五八	六四	七二	七五	七五
革車ノ直徑（同上）	二四	一四	一四	一四	一六	一八	一八	一七	一七	一八
同幅（同上）	五	六	六	六	七	八	一〇	一二	一二	一二
一分間ノ回轉數（同上）	三二〇	三〇〇	二八〇	二六〇	二二〇	二〇〇	二〇〇	二八〇	二八〇	二四〇
機械ノ全重量（キログラム）	四二〇	五四〇	六〇〇	六五〇	一〇〇〇	一三〇〇	一四五〇	一五〇〇	二一〇〇	二六〇〇

（附言代價ハ金銀貨爲替相場ノ高下ニ依リ一定スル能ハザルヲ以テ玆ニ明記スルヲ畧ス購入冀望ノ仁ハ其都度下問アリテ可ナリ本館ハ標準代價ヲ明記シ其都度直チニ拜答スベシ）

當獵具館は機械商店にあらず此機を說くは此機を賣らんが爲めに非ず今ま當館の此機を販賣するに至れるものは他なし、當館主は四年以來非常の熱心に依り歐米各國の石油發動機に就き馬力と價額と持久の如何とを調査の末率先此機を輸入し使用せるものなるが當初は使用法を知らざりしかば非常の困難と苦心とを以て此機の用法を硏究せしに幸にも其用法を覺得したりき其用法を覺得するや從つて同好諸君の輸入委託あり又販賣元よりも販賣取次の懇囑あるに至りしより玆に此書を公にして以て販賣を稟告する事とはなれるなり、有志の諸君幸に本館に命じて此機を購求せらるれば本館は第一本館の工場に於て此機の据附法及運轉法を參考に供すべきのみならず可成は其据附にも助力を爲し望に依りては及ばずながら一体の事をも敎授すべきは論を竢たず一機を購求せらるゝ仁に對しては詳細懇篤に譯述し且つ實驗に依り增補筆記せる圖解用法書を贈呈すべし、保險證は固より差出し申すべし

く又之を蒸滊發動機と比較するも滊鑵烟突其他外圍等を要せざるを以て其費は別に多きを要せず日常の經費も蒸滊機械の四五分一瓦斯機の半額又は三分の一に過ぎざるが如し利便も亦大なりと云ふべし況や此發動機に使用すべき石炭



因に云、此石油發動機は先年石油インジン又は石油ボイラーなと唱ゐて用ひられし舊式器とは全く別物なり又本館の實驗に依るや最初購求せるもの、如きは一馬力一時間に就き二合ほどの石油を要せしが近來輸入の機械に至りては用法の熟練にも依るか非常に油量を減するに至れり

本館の實驗は幸にも右の次第なるに依り本館の是迄此機に置きし信用は最早驚くべき高度の崇敬に變じ本館の久しく沈默せる實驗は大聲以て世人を喚起すへき巨砲と爲さゞるを得ざるに至りしが館主は先つ前田君の産業雜誌及五七の新聞上に於て其實驗説を掲載せらるゝに至りしのみならず帝國工業學校に於ける卒業式の演壇に於ても過日當局官人博士學士及ひ有名なる數百名の工藝家諸君に對し此機を紹介するの榮をば得られたりき本館の光榮も亦大なり

蒸滊、水力、電氣、瓦斯、人牛馬力等を以て他の發動機を運轉するもの始めて此機を見ば恐くは驚歎の外なかるべし有志の人士は先つ本館工場及他の既設の工場に就き實見せられたし

近來本館に托し輸入を申込まるゝ仁は多く皆世に知らるゝ工業家なるが其特に謝状を送與せられしは左の如く又目下注文濟若前の諸君は府下高名の活版家八尾君の各工場及大井村毛布製造所主後藤恕作君國光社長西澤之助君外數十名の名士たり八尾君は日進月就非常昌盛の活版家又後藤君は七十馬力餘の大機械を据附られしにも拘はらす更に本機を望まるゝは其大工場の一部に於ける機織に適用せんとせらるゝなり、西君は東久世公の著書及諸書を印刷せんとせらるゝなり、此他目下据附中なるは大森なる高名の米商家田中君にして其稱賛文を本館に玉はる蓋し近きにあらんとす、將た本館の銃器販賣上に大關係ある工商家田中久重君は曾て本館工場を訪ひ此機を一見し大に感稱せられし後此機を電氣發作に使用中なるが實に便利ありとし夜々此機を以て其店を照らし居らる此田中君は瓦斯機械の卒先輸入者たりき

左に記する稱賛状を送られたる岡村君は石版印刷家信陽堂主にして恐多き事なから天皇皇后兩陛下の御肖像を杢さし奉り時事新報の美書をも屢々印刷するの外内外に大に行はる最美最艶の石版畫高名の印刷家たり而して吉沼君は其製造場を小石川に其本店を兜町に有せらるゝ有名の時計製造及販賣家にして其製造品の多くは皆海外輸出に供せらるゝものなり

本機の本邦に入るや輸出品の製造に供せらるゝにあらざれは多くは輸入品の防禦に供せられざるはなし本館此機を卒先輸入せるの一事本邦工業上に寸益なしとせず

尚船舶用發動機の運轉は本月中旬船出來次第施行する手筈に相成りたれば更に又世に告くるの日あるべし

益々御清福大慶之至リニ候陳ハ昨冬御手配ニ依リ購求仕候石油發動機之儀其用法ノ簡便ナルニ依ルトハ申スモノ、使用ノ方法直チニ了解候以來ハ其輕便有益ナルコト實ニ驚クヘキモノアルヲ發見致候就テモ曩キニ人力ヲノミ使用候時ニ比較致候得ハ費用ハ[illegible]ニ相成候是レ全ク貴殿ノ先見アル早クモ輸入ヲ御試ミ

に光澤を失ふ而已ならす糸歩を減却するの憂あり炭費も亦工女

高雲外翁遺稿

緒言

嗚呼、先考ノ遺稿一百六十種アリ今其目錄ヲ修メ、之ヲ辱知ノ諸彥ニ頒チ、以テ參閱ニ供セントスルナリ、先考氏ハ高、名ハ鋭一、字ハ子敏、雲外ト號ス、天保四年三月、阿波國名東郡德島ニ生ル、幼ニシテ父良齋ニ從ヒ、大坂ニ抵リ、篠崎小竹藤澤東畡ニ就テ學ビ、後阪井虎山ニ安藝ニ從ヒ、文章ヲ受ク、既ニシテ東遊シ、昌平黌ニ入リ、苦學勵精スル年アリ、去テ和蘭醫術ヲ川本幸民ニ學ビ、尋テ阿波侯ノ徵命ニ應シ、國ニ歸リ儒官トナリ、洋學所教授ヲ兼ヌ、明治維新ニ迨ビ、東京ニ來リ、左院出仕ヨリ、內務省農商務省ニ轉職シ、其間農藝物產ノ諸科ニ就キ、專ラ編輯著譯ノ事務ニ鞅掌スル凡十八年、退官後、帷ヲ下シ生徒ニ授クル爰ニ年アリ、明治廿八年五月十日、病歿ス其學和漢洋ニ通シ、特ニ詩文ヲ好ミ、又意ヲ本草博物ノ學ニ注ク、其著作スル所ノ稿本、未タ稿ヲ脫セサルモノ多シト雖モ、是皆數十年間、管ヲ探リ晷ヲ繼キテ、成レル所ノモノナリ、不肖某等此遺稿ヲ修訂保存シテ他日ノ用ニ供セントス辱知ノ諸彥幸ニ微衷ヲ諒セヨ

明治二十八年五月

東京市本鄕區向岡彌生町三番地
嫡男　高　於菟三
二男　高　壯吉　再拜

雲外翁遺稿目錄

學鶯堂摘稿 文　十五
我有旨畜　五
覽考　一
心ノ枝折　一
豆系　一
乳品　一
伊豆物產考略　二
つけこのひとふた　一
南遊詩草　一
今古纂言　一
譯言鈔　一
越地涉筆　一
金情　一
男禮 譯　二
學鶯堂摘稿 詩　十
釋典佛語輯略　一
焠掌錄　一
水物彙名　三
救瞻一得　一
葡萄疏言　一
行笈錄　一
見聞錄話　一
墨水三十景續吟　一
歌詩奇賞　一
晃山土賓　一
北行雜詠　一
菊化石考　一
女禮 譯　二
農桑授時類要　一
農產製造篇　三
名物義證　九
爪賓　一
山民授業類纂　二
瓢史　二
凹硯餘墨　一
高氏家藏書畫記　一
江都歲事集覽　一
魚字辨　一
總房詩乘　一
戲園十記　一
日本製品圖說　十五
亟山遊什　一
錄存備用　五
譯字五名類聚　一
扇眼木說　一
災害舉要　一
糖說　一
珊瑚錄　一
日本國名抄　一
基語　一
浴泉臥談　一
関市寓目　一
三日清課　一
男乳譯說　二
那波翁傳記 譯　一
授兒訓　一

選稿目錄

書名	冊數
京津歸贈	一
高氏家錄	一
阿淡出品錄	四
海外事物集覽	五
觀我餘事	一
算計指導	一
黒棊子	一
相南遊志	一
薏苡考	一
農事對問	一
七寶考	一
馬鈴薯考	一
霧山攬勝題記	一
文明東漸史評	一
雲外歌集	一
倫敦府會同辨略 譯	一
和蘭水路嚮導規則 譯	一
英國衙門職制 譯	一
過眼贅記	一
煎糖築竈論 校定	一
觀古風詠	一
日本製品圖說材料書目	一
學鶯堂日抄	一
學知不足	一
亦足以豪	一
讀律芻記	一
東京賦 并疏注	一
金蘭集	一
菅解	一
西史摘譯	一
行窩吟	一
書論	一
衙吻離語	一
官暇私記	一
蕉品訂疑	一
農民字說	一
蟾蟲類名	一
通脫木集說	一
小雜纂	一
韋蘇州集評	一
東都景勝詩	一
裁判異同辨疑 譯	一
和蘭銀行豫備定則 譯	一
延遼館列品偶評 譯	一
以類求之	一
佛國釀酒方質疑對言	一
五品共進會通覽摘略	一
別有天地	一
意蘂	一
飛長軒雜錄	一
山水題名抄	一
點筆餘韵	一
西牘日錄	一
讀書百吟	一
內國勸業博覽會出品解說	五
文錦秘囊	四
學鶯堂詩談	二
探求一覽書目	一
四季百詩	一
燈下墨談	三
天囂備考	一
錦書考	一
邦語字音心解	一
逸事記聞	一
虛栗集	一
隨讀胜抄	一
船形集覽 譯	一
公裁要言 譯	一
米國紐府開園報事 譯	一
勤養錄	一
阿淡產志 校定	五十八
西洋農具譯語類聚	一
四述奇抄略	一
隨讀新益	一
學鶯堂雜抄	一
學鶯堂贅記	一
隨讀抄	一
龍鱗集	一
客遊囊詩	一
花品集英	八
野食拾遺	二
西遊所見集	一
學鶯堂文話	一
畫影品目	一
義經辨慶遺蹟考	一
鍬鋤類載	一
篠竹輯言	一
草木餘義	一
草綿考	一
往知錄	一
妓人詞藻評語	一
鈔纂	一
英國議院條例 譯	一
和蘭漁獵定律 譯	一
澳國維納博覽會列品圖錄 譯	一
乞兒囊	一
甘蔗栽培總論 校定	一
古今史事廣記 譯	一
學鶯堂雜稿	一
譯用贅記	一
過眼抄	一
學鶯堂掌記	一
四到錄	一
活軍貧戰	一

通計百六十部二百九十五冊

清涼飲料

楊梅舍利別

定價 三十目入 金七錢 六十目入 金拾貳錢 百廿目入 金貳拾錢

抑本品の原料ハ土佐國南海岸長岡郡十市村の名產楊梅の子實にして梅雨の候成熟するものなり其味甘酸にして清爽佳良なるを以て夏時最も世人の嗜好に適す然れども該子實ハ腐敗に陷り易きが故に到底貯藏して以て盛夏三伏の炎熱を消するの料に供ふる能ハず予茲に憾あること久矣潛心焦慮多年の經驗と周密なる注意とにより遂に此楊梅舍利別を創製するを得たりこのものたる其原料楊梅子の津汁に毫も變化を與へずして精煉したるものなれば楊梅子特有の佳味と美色を全存し恰も楊梅子を喫するに異ならず而して久時貯藏するも變敗するの虞なしその成分ハ林檎酸、枸櫞酸、鹽類及び葡萄糖、蔗糖等を含有すこれを內服すれば口內に爽涼の氣味を覺へ渴を止め胃液の分泌を催進し食機を亢奮せしめ血行を整調し身熱を解するの効著し故に夏期の飲料として供用するにおゐてハ能く中暑を豫防し消化を進め精神を爽快ならしむ加之ならず熱性諸病、僂麻質斯、痛風、便秘、多血家、酒客、等に在て常にこれを用ふる時ハよく躰質を改良して健寧に致すの大効あり爾他姙婦產婦及び航海者等に無上の好飲料なりとす方今坊間に販賣する諸種の飲料物中奸商輩が偏に射利を目的として不完全の製品を以て徒らに外部の体裁を飾り俗眼を眩せんとするものあり斯る不正品ハ間々有害なる物品を雜有し或ハ「アニリン」色素を以て著色し或ハまた鑛酸及び防腐性藥品等を配合し妄りに虛僞の効能を誇稱すといへども其實一つも身躰を害するを省みざるものなり豈恐れざる可けんや豈愼まざる可けんや

本品ハ上に揭ぐる成分の外毫も他物を含有せず眞に造化巧妙の手を以て作られたる果實の特質を損せずして調製したるものなれば予が此發明ハ實に天工を輔相したる心身補益の良飲料にして現時世上に所有る各種飲料中一層の進步をなしたる衛生的飲料なりと信ず希くハ四方衛生篤志の兄姉多少愛求ありて予が言の妄ならざるを諒せられんことを望む猶左に大阪衛生試驗所の試驗成績を揭げて之が證と爲すと云爾

→NOTICE←

PURE VINEGAR

MADE FROM RICE IN ONOMICHI,

BINGO, JAPAN.

廣島縣備後尾ノ道

特産米製

清酢説明廣告書

京都發滊車時間表

京都發上り

京都發上り	（着）
六時	十一時三十五分新橋
八時三十分	八時五十二分靜岡
十一時卅五分	十一時五十一分濱松
一時十五分	七時五十分名古屋
二時五十分	一時三十八分靜岡
四時三十四分	十時四十分名古屋
六時〇二分	八時三十五分米原
七時五十三分	八時三十六分馬場
十二時〇七分	五時新橋

京都發下り	（着）
四時三十三分	六時五十五分神戸
六時	五時五十六分廣島
七時	十時三十五分廣島
八時二十七分	九時三十二分糸崎
十時〇一分	十二時四十分神戸
十一時〇五分	七時五十四分岡山
十二時四十四分	六時三十八分姫路
一時四十分	四時三十二分神戸
二時五十五分	八時十七分姫路
四時二十五分	十時十七分姫路
五時三十分	八時二十五分神戸
六時五十分	九時二十五分神戸
九時二十一分	十一時五十分神戸
十時四十七分	一時〇五分神戸

大阪京町堀通四丁目福田堂印刷

ADVERTISEMENT

Vinegar was First manufactured in Onomichi, ever 500 years ago. It is made from rice, but the process of munufacturing parsued in Onomichi is quite different from the usual process in other parts of the country. While the quality of the vinegar is the very best but without a rival in cheapness. Our sales are constantly on the increase and throughout the whole of our country, there is not a person who has not heard about this famous Onomichi vinegar. Recentry large sales have been made in the abroad even in Europe. Our sales average over 5,000,000 gallons each year. The reasons why the Onomichi vinegar is so popular are chiefly the followings :—

1 st The vinegar is quite strong and at the same tune a little sweet.
2 nd It is also without any offensive odour so eminently fragrant in other vinegars.
3 rd The vinegar is pure and without seliment, and its color is rich and transparent.
4 th No matter how long it is kept, it never changes its strength and flavour.
5 th It is the cheapest vinegar in the market.

Our numerous customers are ready at any time to subscribe to the above statements. Realiying that this national exposition is a favourable opportunity, to spread still wider the fame of our Onomichi vinegar, we have placed it on exhibition, and trust that every one will give it a trial.

manufaotured by

Hashimoto Takichi, Hashimoto Yozaburo, Inada Kunijiro, Mikuma Gisaburo,
Noma Naobe, Sugitani, Tsunesuke, Takagaki Matsuemon. Yamane Genshiro.

Onomichi, Bingo,
Japan.

明治壬辰の歳季夏　藥劑師　小西鹿吾　拜白

撿査報告（寫）

高知縣高知市通町五十五番邸
依賴人　小西鹿吾

第百九拾貳號

一楊梅舍利別　壹種

定量分析

本品ハ澄明赤色の舍利別ニシテ甘、酸ノ味ヲ有シ比重ハ攝氏二十二度ニ於テ一、三三七ニ居リ其毎百立方「センチメートル」中ニ撿出セル各成分ノ「グラム」量ハ左ノ如シ

糖分（蔗糖及葡萄糖）	六七、九六八
游離酸（林檎酸トシテ算ス）	〇、五六三
灰分	〇、三八〇

其他異種ノ色素、有害性金屬、撒里矢爾酸等ヲ撿出セス
本品ハ飲料ニ供シ害ナキモノトス

明治廿五年七月八日

大阪衛生試驗所
所長 技師　島田耕一㊞
主任 技手　平野猪之助㊞

用法　本品五匁（凡五匁）を水或ハ温湯六勺（凡壹合）に和し用ゆまた食物の料理及び菓子製造に使用すれば其風味最も佳なり
本品を以て揚梅酒を製するにハ本品壹分「アルコール」或ハ「ブランデー」壹分水五分を混和すべし
貯法　善く栓塞し冷暗所に貯ふれハ久しく變敗することを無し

調製所　高知市通町三丁目　小西仙露堂

專賣特許新發明廣告

抑も此發明溫液器は福井縣人安達靜か多年の艱慘を凝らし辛苦を嘗め發明したる器械にして曩きに農商務省より特許の光榮を受け廣く世上に發賣せし以來日尚淺しと雖とも多多注文の命あり日に月に盛太の域に進む獨り不肖等の幸福而已ならす國家の裨益豈少々に非らんや東西南北大方の諸君速に本器を購求せられ實益御試驗の上廣告の虚ならさるを信し陸續御注文を希望す

○本器の特功は多量の冷液を少時間に(百三十度以上)傳熱せしむる有益無二の構造なり

○本器は鎮鍮銅の二種を以て堅固に製造し且つ鑵の内部へは亞鉛を布けり

○本器の應用は酒類の火入、製糸の繰立湯、湯屋の涌湯、手水湯、盥浴湯等に使用せは其便益言を俟たさるなり

○本器の使用法は壹號器を以て酒の火入を爲すとせは先つ壹石五斗釜に湯を熱し其中へ下圖の如く器械を潜入し二枚の合蓋を以て密閉し一方には三四石容る〻桶を備へ火入すへき酒を容れ桶の下部に徑一寸のカランを附け夫れより本器の漏斗へ流出せは冷酒は數層の鑵を經過し傳熱を帶て上部のパイプへ昇り欲する處の溫度を驗溫器に示して出口より下流す其流れ出る下に溜桶を置き之れを汲み取るへし

溫度の高低は桶カラン穴の滿缺と釜湯の熱否とにより自由自在なり

又火入濟の酒類の足持に於ては實驗するに聊かも憂なし

但火入濟の上は泥臺に附する細に棒を貫き兩名にて極靜に釜中より引揚け下部のカランより鑵中の酒を抜きとるへし(注意)劇しく引揚くれは鑵中なる酒の壓力の爲め毎鑵の外部を帶金と共に押し出すの憂あり

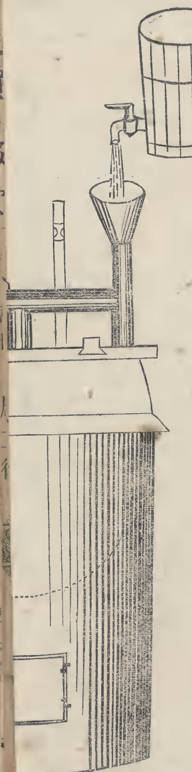
○本器を製糸家に應用する時は圖の如く備へ附け上部パイプの出口より更にパイプ或は竹杯にて糸引釜の上へ配置し一鍋毎に徑四五分のカランを附着し出湯の便を取るへし

○本器を洗湯に用ゐるには成へく風呂際に圖の如く備へ着け水屋よりは元桶へ器械の出口よりは風呂へパイプを附け引水出湯の便を取るへし

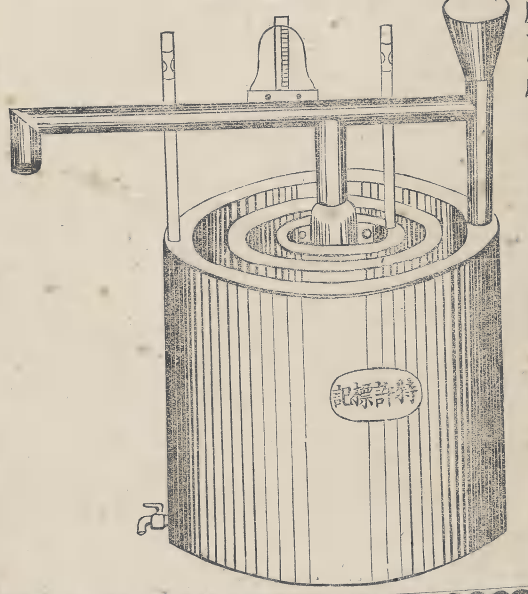
◎現在酒の火入法は多く直熱にして受溫の平均を得さる而已ならす高熱に出合し部分は焦臭を含み酒の元氣を失し且つ八九名の人夫を使ひ多量の柴薪を費して一日に僅か五十石内外の火入を爲すものなり反して本器は傳熱法にして焦臭の憂なく溫度は驗溫器を以て平均を取り且つ使用人夫五六名にて一日百石以上の火入を爲すに容易なり又薪柴に至りては元釜一杯の湯の冷却せさるを守る而已なれは現在法に比して其費の減殺する事論を俟たさるなり是れ本器の特色に非すして何ぞや

◎製糸は繭の羨加減と繰立湯の適否とは糸の光澤と糸歩の増減に大關係を來すものなり重も現在の繰立法は一釜毎炭火を以て湯を涌すものなれは或は高熱に過ぎ或は低溫に失し換湯不便の邊より爲めに光澤を失ふ而已ならす糸歩を減却するの憂あり炭費も亦工女

本器



溫液器



米製酢特産地十大日本帝國備後國尾之道市街實景

View looking Onomichi town, the sp cial produced centre of the pure vinegar made from rice, Bingo, Japan.

廣告

清酢ハ我尾道固有ノ名産ニシテ實ニ五百年前ノ創始ニ係ル其原料ハ米ニ取リ釀造ノ法亦大ニ他ニ異ナリ品質ノ精良ト價格ノ廉トハ全國其比ヲ見ズ之レヲ以テ販路日ニ月ニ開張シ山陰山陽四國九州到ル處尾道酢ノ名ヲ知ラザルモノナク近時ハ青森函館小樽等遠隔ノ地方ニモ亦需用ヲ生シ釀造石數年々五萬石ヲ超ユルニ至レリ請フ左ニ尾道酢特有ノ長處ヲ列擧シ以テ今日ノ盛名アル蓋シ偶然ニアラザルヲ示サン

一、尾道酢ハ酸味強烈ナルノミナラズ中ニ甘美ノ味ヲ含ム是他製ノモノニ曾テ見サル所ナリ

二、尾道酢ハ他製ノモノ丶如ク彼ノ一種厭フベキ臭氣ナク却テ芳烈ナル香氣アリ

三、尾道酢ハ其色透明清澄ニテシ汚濁ヲ生スルコトナシ

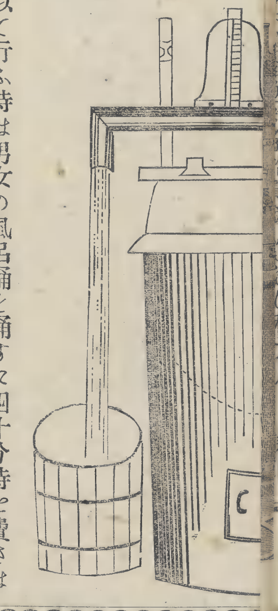
四、尾道酢ハ幾年ヲ經過スルモ腐敗變味ノ憂ナク能ク久ニ耐ユ

五、價格他ニ比シテ甚タ廉ナリ

之レ需要諸君ノ既ニ知ラル丶所ナリ今回第四回内國博覽會開設ヲ機トシテ此ニ弘ク尾道酢ノ由來ト性質ヲ告ケ精勵尽力以テ益々其業ヲ擴張セントス伏テ願クハ江湖ノ諸君子幸ニ品質元比ノ我尾道酢ヲ得テ晩杯ノ佳肴更ニ一段ノ味ヲ添ヘ玉ハレンコトヲ

米製 酢釀造人名 (いろは順)

商標	住所	氏名
登録商標	廣嶋縣備後國尾之道町字長江	稻田邦次郎
登録商標	仝 尾之道町字土堂西濱	橋本陽三郎
登録商標	仝 尾之道町字久保	橋本太吉
登録商標	仝 尾之道町字土堂	高垣松右衛門
登録商標	仝 尾之道町字土堂	野間直兵衛
登録商標	仝 尾之道町字久保	山根源四郎
登録商標	仝 尾之道町字十四日	三熊儀三郎
商標	仝 尾之道町字土堂	杉谷恒助



の特色

の賃金と稍々額を同ふするに至り反して本器は適當の温湯を得換湯に自由なれは自然光澤を備へ糸歩を増殖し且つ繰立繭の數量も意外に進む事火を見るより明かなり又本法は炭に代ゆるに薪柴木屑を焚くものなれは費用の減する事殆んと半額なり是特色と謂はさるへからす

◎洗湯業は湯の加減に注意し客の請求に速應し而して薪費は成へく減するに勉めさるへからす現在の洗湯は最初一度の湯を涌すに四五時間も焚續稍く涌し得るものなり薪費は都會にては大凡一日六七十錢を要せされは浴客に滿足を與ふへからす此發明器は一號器を以て行ふ時は男女の風呂桶を涌すに四十分時を費さは事足るものなり隨て薪費も前陳の如く元釜の湯を涌守る而已なれは現在法に比して減額する謂ふを俟たさるなり

一本器試驗成蹟表左の如し

種類＼名目	寸法	應用釜容量	仕業時間	温液石數	傳熱度	定價	洗湯用定價
一號器	高一尺六寸 徑一尺九寸三分	一石五斗釜	十五時間	百三十石余	百三十度以上	廿五圓	十圓
二號器	高一尺二寸 徑一尺四寸	八斗釜	同	四十五石余	同	十七圓	六圓
三號器	高九寸 徑一尺〇二分	四斗釜	同	廿二石余	同	十圓	四圓
四號器	高六寸 徑七寸三分	一斗釜	同	十八石余	同	六圓	○
五號器	高四寸 徑四寸五分八厘	一升五合釜	同	四石五斗余	同	三圓	○
六號器	高三寸 徑三寸二分二厘	鎮鍮鍋付	同	三石余	同	三圓 鍋共	○

○前表の一號より四號迄は酒家製糸家適用の器にして五號六號器は旅館貸座敷料理店に於て溫酒手水湯盥浴湯等に用ゐれは便利なり

◎府縣下一手販賣若くは特約販賣希望の御方は郵劵二錢投與あれば規定書直ちに郵送す

大阪市西區西道頓堀通六丁目六番屋敷
特許温液器製造販賣店
發明者特許證主　安達靜　印

福井縣越前國今立郡市村十九号一番地
特許證主　岡研磨　印

兵庫縣神戸市相生町七百七番屋敷
特許證主　大庭竹四郎　印

大阪市南區鰻谷中ノ町
特約販賣店　福井縣越前國南條郡武生町櫻通
釀造用達合資會社　印

明治廿七年七月　日

吾山本及東野は古來花卉盆栽柑橘の産に富める全國有名の園藝地たり之を以て內外看客踵を接し需用年に增す今や第四回內國勸業博覽會の開設及平安奠都紀念祭の盛擧あり幸濵車交通の利便あるを以て茲に牡丹及園藝縱覽所を設け江湖諸君の愛覽を仰き以て多年眷顧の厚恩に報ひんと欲す左に案內畧記を揭け聊か看客諸君の參考に供ふ

一牡丹縱覽所の面積は凡壹町歩牡丹株數數萬株、種類二百種)及盆栽并花百合芍藥等の花卉あり

一園藝縱覽所の面積は凡八反歩柑橘及桃、梅、梨、苹果、等凡二百種の果樹類并花卉盆栽あり

　但縱覽は両園共無料にて望の品は精々低廉に販賣致すへく又來園の向へは牡丹及果樹等の種類表并栽培錄を贈呈すへし

一路順は神崎停車場より攝津鐵道に乘り替へ伊丹驛にて降り仝所より東野園藝縱覽所に到り夫れより山本村牡丹縱覽所に至るを便とす其里程賃錢は左の如し

　但攝津鐵道割引劵(伊丹迄往復二日間通用)は切符購求の節其驛へ相渡さるへし

○濵車賃　長洲驛より伊丹驛迄　三哩卅二鎖　上等　八錢　中等　六錢　下等　四錢　(此二割半引)

○人力車賃　伊丹より　東野迄　十八丁　六錢
　　　　　　東野より山本迄　十五丁　四錢

一近傍の古蹟名勝及其各距離は左の如し

○中山寺へ(山本村より)　八丁　四月九日より仝月廿日まて　開帳

○同寺寶物展覽　四月九日より仝月廿五日まで　開設

○中山温泉中山寺の近傍に在り

○清澄寺へ(中山寺より)　十五丁

○寶塚温泉へ(清澄寺より)　十丁

○多田神社へ(山本村より)　壹里半

明治廿

の特色

の賃金と稍々額を同ふするに至り反して本器は適當の温湯
を得換…
し且つ…
も明か…
ものな…
と謂は…

◎洗湯業…
て薪費…
洗湯は…
涌し得…
十錢を…
事足る…

一本器試驗成績…

種類	名
一號	
二號	
三號	
四號	
五號	
六號	

○前表の…
は便利…

◎府縣下…
郵送す…

○能勢妙見山へ（多田神社より） 三里 五月十一日より五月卅一日まで 全宮遷座式あり

右沿道又は付近に鼓が瀧、屏風岩、箕面山、勝尾寺（西國三十三所第貳拾參番觀世音）崑崙山行基菩薩等の名所あり又有馬温泉に至る凡そ六里

兵庫縣川邊郡

園藝縱覧所（稲野村ノ内新田中野村）

牡丹縱覧所（長尾村ノ内山本村）

牡丹
園藝
縱覧、攝津鐵道滊車賃割引券
四月十日ヨリ五月卅一日迄有効

第四回内國勧業博覧會
龍野醤油醸造業者出品廣告

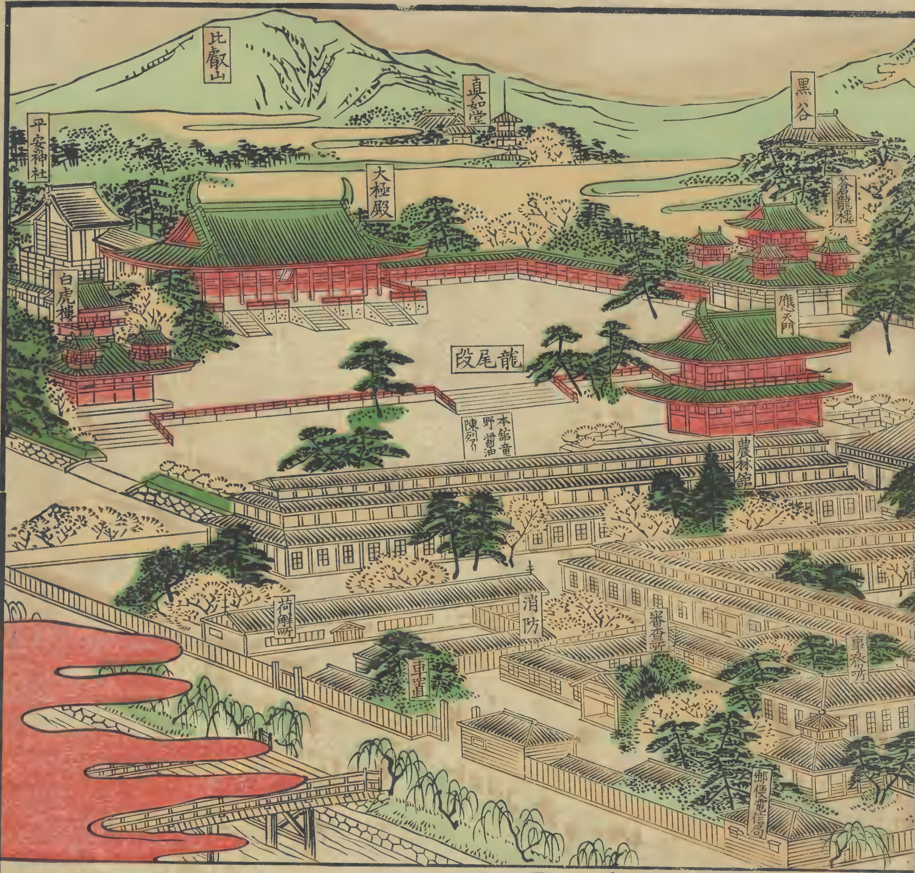
揖西郡竜野町 横山省三
揖東郡林田 藤井新太郎
揖西郡岩見港 坪田浅五郎
揖東郡吉島 井口庄右衛門
揖西郡竜野町 大谷夘吉
全郡全町 八木伊助
揖東郡島田 小寺慶之助
揖西郡黒崎 堀房太郎
全郡竜野町 浅井弥七
全郡全町 菊醤油造合資會社
全郡全町 圓尾亀次郎

龍野醤油沿革

龍野醤油といへばふるくより世に称へられしも元和元年龍野の地に湧出る水は一種特別にして頗る醤油に適ひ且つ豆麦の産出に富み近く赤穂の塩地ありて殊に販路を京坂にひらき上は大宮人より下々に至る迄日用に供へられ上品下品の好みの物なれば従ひて醤油を製出するもの多く醤油の本場として醸造高多くかの清き流れの末遠く存りし醸造を開きたる名地醤油醸造業者の模範と仰がれ其名古今に聞ゆるは偶ざるもの大いに所以あるなりとされば我々醸造業者は開祖の志をつぎ其心をひそめて日々月々に改良を加へ品位を高め価を低くするはいふまでもなく絶えず他の企て及ばざる特色あるを以てなり

特色

龍野醤油は色淡く透明にして一種の芳香を有し価もまた極めて廉なり醤油といへば世の人つねにも是と思ふもいかにもさふあれ色の淡きは尤も難き業にして醸造の精



大阪醸造用達合資會社調製

仝郡岩見港 上西宗兵衛
仝郡仝港 坪田久太郎
仝郡竜野町 髙見卯之吉
仝郡仝町 井口宗左衛門
仝郡仝町 原田宗兵衛
仝郡仝町 三木弥兵衛
仝郡仝町 末廣茂吉
仝郡半田 延賀喜三兵衛
仝郡竜野町 髙島重次郎
仝郡仝町 中原貞
仝郡野田 島津増右衛門

五月十一日より五月卅一日まで 仝宮遷座式あり

尾張 味増 たまり 本場

愛知縣知多郡 醤醸組謹白

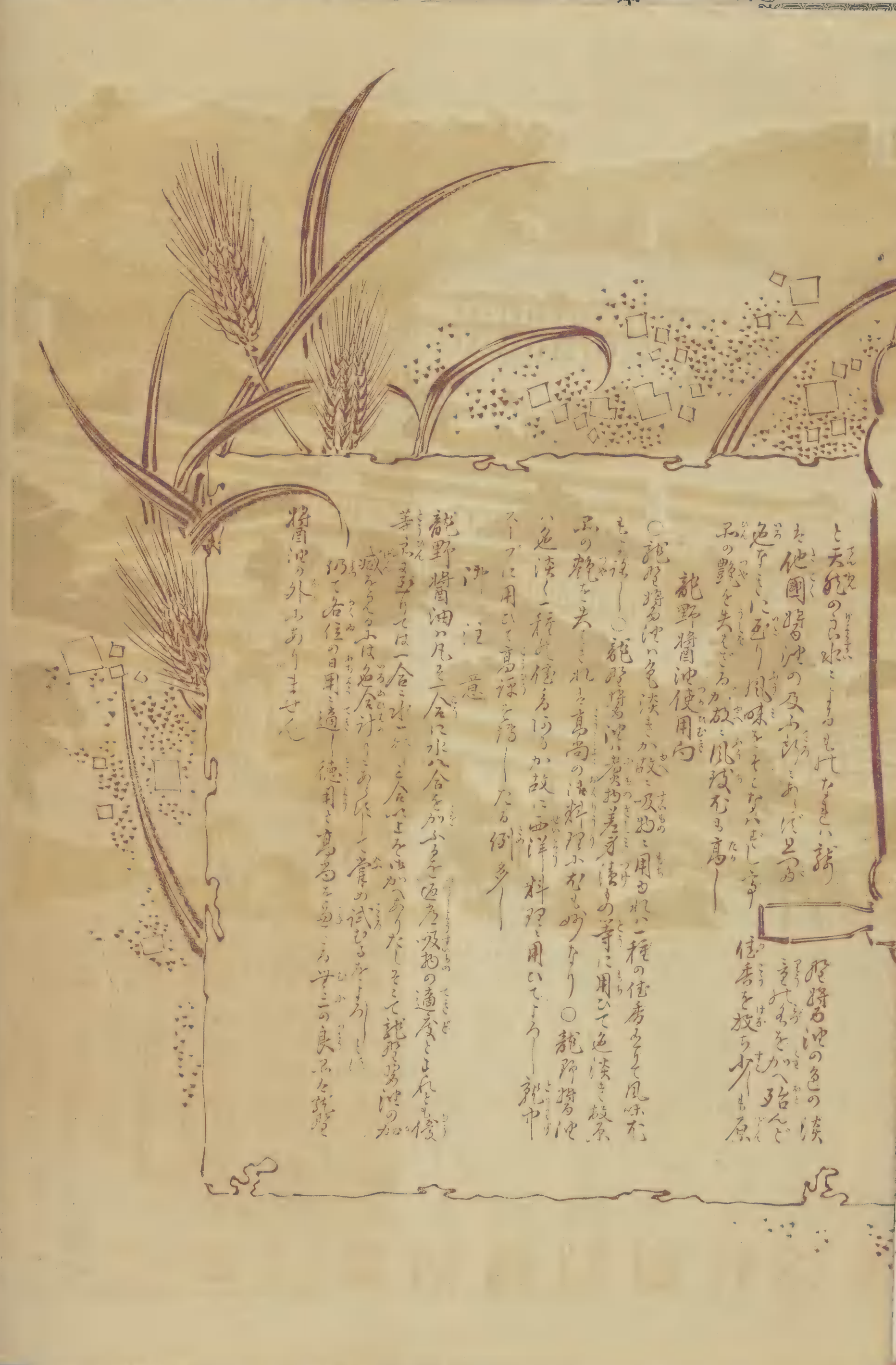
第四回内國勸業博覽會第三部其第廿五類其四愛知縣知多郡醤醸組出品味噌溜廣告

(溜りと醤油)元來溜りは其用途に於て世に所謂醤油と異なるなし されと其称呼(彼を醤油此を溜)其原料(彼は大豆と小麥より成り此れは大豆のみより成る)且其製法全く異り溜は味噌より分離せしものにして其風味香氣に至りても全然其趣を異にし彼此自ら別異なり溜り分析表は明治廿七年一月三十日の官報にあり又之れか効用と其特種なる點公示せらる

溜を醤油と均しく調味の料として一日も庖厨に缺くへからさる要品なり(味噌亦然り)往古より我愛知縣を始め隣國勢濃地方の特有物産にして之を需用する又從來此地方にのみ止まりしか其品位の優雅なる其性分乃滋養に富める其品質の純良にして許多の年月と炎熱の候とを経過せるも毫も異狀を呈せさる經濟上大に利益ある彼の普通醤油の比にあらさるを加ふるに近年交通の便大に開け東西來往自然世人嗜好の高尚に趣くと共に普く世の知る所となり年々其需用を増し歳々其聲價を博するの幸運に遭遇せり爾來倍々全國各地の需用に應するの必要を感し十余年前知多全郡同業百五拾余名協議一致當醤醸組を創立し其筋の認許を得粗製濫造の弊を未然に防遏し

町村名 姓名町村譯いろは順

町村名	屋号	姓名
半田町	吉倉屋	都築萬太郎
仝町	萬屋	小栗三郎
仝町	大松屋	小栗啓次郎
仝町		小栗七左エ門
仝町	豊倉屋	小栗冨次郎
仝町	中村屋	小栗半右エ門
仝町	松坂屋	榊原孝平
仝町	玉屋	榊原圓太郎
仝町		榊原彦四郎
仝町	木屋	三浦六弥
仝町	豊倉屋	鈴木丈助
常滑町	瓶屋	関榮助
豊濱村		加藤源之助
大野町	三河屋	萩原宗平
乙川村	加賀屋	竹内想九郎
仝村		関武三郎
大井村	井谷屋	間瀬伊八
亀崎町		伊東孫左エ門
仝町	米屋	新美勝三郎
仝町	俵屋	細谷重吉
仝町		梶川弥三郎



[illegible]
まるれ方針を執りしか幸に其効空しからず數年にして聲價四方に傳播し即ち内地は勿論北海道海外に於ては米國朝鮮清國上海布哇等へ輸出し其生産の額五万石の多きに上れり昨年大阪市に開設せし第一回全國醬油共進會に於て我組合優等賞を得たり又征清事件以来陸海軍用品として多額の御用を命せらるゝに至れり是れ本品が真價を世上に表示したるに外ならずして本組合の幸榮是れより大なるは莫し

（地勢と販路）我溜りの特質本文の如くなるに拘はらず往時より僅に尾三勢濃四州の間に蹈踏せしも今や一躍其販路大に擴張せしは蓋し我知多郡の地勢我帝國全土の中心を占むる尾州の半嶋地にして海運の利自由自在且十余年前本郡武豊線なる鉄道一線を布設せらるゝ全國各地と商線の聯絡此に整ひ一面學理を應用して製品を改良し一面海陸の便を利して各地に販路を擴張したる者にして今昔の變遷決して偶然にあらざるなり

右の如く逐年販路擴張と釀造の増加とは組合一同著實懇篤を旨とし精良品を販賣せし結果に依ると雖も抑愛需諸彦の明鑑と厚庇に依らずんば此幸運に達する能はず深く感謝し愛知縣知多郡醬油組合員一同謹言

仝町	朝倉屋	間瀬作右衛門
仝町		間瀬清治
横須賀町		野畑新吉
武豊町		小出亀吉
成岩町	松倉屋	本美武兵衛
仝町		竹内直七
名和村	大和屋	小嶋友右衛門
内海町		礒部増藏
仝町		橋本長六
仝町		大岩甚三郎
仝町	米屋	大岩善七郎
仝町	大坂屋	大岩藤右衛門
仝町	米澤屋	梅原半兵衛
仝町		松下半助
野間村		夏目製造株式會社
仝村	若松屋	夏目平三郎
仝村		山本定兵衛
仝村	盛田屋	森田伊助
富貴村		田中市平
仝村		厚味友右衛門
仝村		重野治右衛門
小鈴谷村	清水屋	盛田久左衛門
師崎町	吉倉屋	淺野清八

愛知縣尾張國知多郡 味噌溜醬油釀造家一覽圖

武豊名古屋汽車發着時刻及乗車賃金表

	武豊発	半田発	亀崎発	大府発	大高発	熱田発	名古屋着
前	七、三〇	七、四四	七、五六	八、四七	九、〇一	九、一二	九、二五
仝	一〇、五五	一一、〇九	一一、二一	一一、五四	一二、〇八	一二、一九	一二、三二
後	一、四〇	一、五六	二、一〇	二、四七	三、〇二	三、一四	三、二六
仝	四、二五	四、三九	四、五一	五、二〇	○	五、四二	五、五五
仝	六、三〇	六、四三	六、五四	七、四四	七、五八	八、〇九	八、二一

	名古屋発	熱田発	大高発	大府発	亀崎発	半田発	武豊着
前	五、〇〇	五、二〇	○	六、三四	六、五六	七、〇八	七、二一
仝	七、四五	七、五九	八、一〇	九、〇五	九、三一	九、四三	九、五七
仝	一一、二〇	一一、三二	一一、四二	一二、一〇	一二、三八	一二、五〇	一、〇五
後	二、〇五	二、一九	二、三〇	二、五五	三、二一	三、三三	三、四七
仝	四、四八	四、五九	○	五、二五	五、五一	六、〇三	六、一七
從武豊	名古屋迄廿五戔	熱田迄廿一戔	大高迄十七戔	大府迄十三戔	亀崎迄六戔	半田マデ四戔	

從武豊	
東京迄	二百三十六哩
横濱迄	二百十八哩
西京迄	百十九哩
大阪迄	百四十六哩
神戸迄	百六十六哩

知多郡電信局所在地

亀崎町
半田町
武豊町
常滑町
大野町

出品畧說廣告

歐米諸國ノ尋常印刷術一變シテ精巧印刷術トナリシハ今ヲ距ル十有餘年前ニアリ今ヤ第四回內國勸業博覽會ノ擧アルニ際シ所謂精巧印刷術ヲ目的トシ額面ノ諸圖ヲ調製セリ即チ天人ハ罫線ノ自在作用ヲ示シ四季ノ景ハ優美高尙ナル印刷ヲ示シ就中山景着色ノ如キハ專ラ油繪ノ方法ニ據リ次第ニ色采ヲ重刷セリ又吉野櫻ハ風韵ニ富メル景色ヲ示シ議事堂圖ハ端肅整肅ナル組物ヲ示シ而シテ各種色采ノ濃淡配合調和ハ總テ學理ニ基キテ考究ヲ費シ精密ニ刷リ合セシ者ナリ之ヲ要スルニ獘舍ノ出品ハ植字印刷ノ技術ヲ琢磨スルヲ以テ主眼ト爲ス故ニ圖畫ノ如キハ大抵既製ノモノニ據リ別ニ當世畫家ノ筆ヲ煩ハサス希クハ觀覽ノ諸彥前述ノ諸點ニ就キテ鑒別品評アランコトヲ

尙普通印刷物御注文ノ引受ニ於テハ本舍及第一工場ヱ卅二頁掛ロール器械十六臺同十六頁掛器械五臺同十二頁掛三臺フートル器械手引器械ヲ併セ四十五臺ヲ備ヘ現今日刊新聞三種定期刊行諸雜誌百二十六種ノ外臨時ノ印刷物御引受致シ居候ニ付御注文品ハ何時ニテモ迅速ヲ旨トシ安價ヲ以テ鮮明ニ刷立御

專賣特許 焙茶器

製茶は本邦の一大富源なり之が製造の方法を改良することは斯業目下の急務にあらずやされば近來鐵焙爐と稱する新器出で其便利なるの故を以て一時斯業家の注意を惹きたり然れども詳かに其實地の利害長短を較論すれば該器は著しく害毒を斯業に及すの器たるを疑はざるなり鐵焙爐便は即ち便なりと雖も畢竟唯強火を用ひて製額を増加するが爲めにして此便に伴ふの害は一にして足らず急劇に茶葉の外部を乾燥して火氣内部に透通せず故に濕氣戻り易きなり製茶の色澤を變じ香味異なるなり煎茶の色稍暗褐を帶び飲用者に不快の感を與ふるなり若し夫れ此の如き器具にして廣く世間に用ひらるゝに至らむ粗製濫造の弊底止する所を知らす日本茶の名譽を海外に失墜し臍を噬むも遂に及ばざるに至らん豈恐れざるべけんや

抑々舊來の紙焙爐は不便最も甚き者なり製茶の期節繁忙を極むるの際に於て數十葉の紙片を張り合せ半日の工手を費して漸く一個の焙爐を張り得るが如き、用紙の火に耐ゆる力甚だ弱く焦破れ易き如きは舊式紙焙爐の弱點なりとす況んや其紙價甚低廉ならさるに於てをや既に斯の如き不便不利あり鐵焙爐一度出て一般斯業家の注意を惹き一時紙焙爐を壓倒せんとせしも亦宜ならずや

弊社茲に見る處あり一種輕便の焙爐器と耐火性の焙爐用紙を造り以て舊焙爐の缺を補はんと欲し鋭意講究し遂に完全なる結果を得て去る廿六年專賣特許を受たり該紙の効用を畧述すれば即ち左の如し

一 一葉の紙を以て焙爐を覆ふものなるが故に張り合の勞を省くこと

一 耐火性遙に舊來の用紙に勝り強火を用ひて茶葉の乾燥を早め得ること

一 紙面滑澤にして茶葉擦傷の害無きこと

一 紙の價値普通紙の半額より廉なること

弊社新製焙爐用紙の効用は既に斯の如し製茶事業に一大便益を與ふること疑ふべからざるなり然れども事實の如何に就ては弊社の喋々を俟ず茶業改良熱心の諸君は乞ふ速に自ら試驗して其効用の虚なら

用向相辨シ可申其他活字類木版電氣版亞鉛版鉛版ノ調製並ニ石版ノ印刷製版用寫眞等モ同樣御需ニ應シ御用向相辨シ可申候間陸續御注文御愛顧ノ程希上候敬白

活字鑄造木版電氣版鉛版ハ弊舍支店東京市京橋區元數寄屋町二丁目十番地製文堂エ御注文被下度候

石版印刷並ニ亞鉛版製造印刷ハ弊舍支店東京市京橋區元數寄屋町二丁目十三番地泰錦堂エ御注文被下度候

右兩支店ヨリモ當博覽會場エ各種出品致置候ニ付御高覽御吹聽之程希望仕候

明治廿八年四月

東京市京橋區西紺屋町廿六七番地
活版印刷業
株式會社 秀英舍

十二万分之一

新製焙爐用紙製造元

東京府下北豐島郡王子村
王子製紙株式會社

代理店 京都三條通東洞院西へ入 中井三郎兵衛
代理店 名古屋市傳馬町七丁目 中井支店
代理店 大坂市東區瓦町二丁目 中井分店
代理店 東京市本石町二丁目 中井支店

茶業に熱心にして老練達通の聞へ高き元農商務省技師多田元吉君は左の試驗成績書を弊社に寄送せられたり是を以て弊社製品實用上の効績を證するに足るべし

王子製紙株式會社製造製茶焙爐紙試驗成績

本紙は木纖を以て製したるものにて克く強火に耐へ火氣の透通克く乾燥を早め紙面滑和にして擦傷の害無く製品色澤を保持し頗る其要に適せり

多田元吉

弊社製造焙茶用紙之實益ヲ確認シ本社ノ實業ヲ贊助セラル、諸君ハ

遠州城東郡池新田村 丸尾文六
靜岡市西草深町 海野孝三郎
靜岡市安西三丁目 尾崎伊兵衛
駿州庵原郡興津町 山梨清六
駿州安部郡麻機村大字有永 織田喜作
駿州有渡郡有渡村 杉山彦三郎
遠州麁玉郡麁玉村 伊藤市平

弊社は廣く大方の需に應ぜんことを期し既に十分準備を爲したり加之一日の製額四萬枚以上に達するが故に如何なる多額需用ありとも速に之に應ずるを得し茶業改良に志ある諸君は速に御用試驗を遂げ多少に限らず御注文あらんことを伏して乞ふ

精良確實 天下一品

中村製造絹綿交織廣告

諸君、滿天下の諸君私は中村宗三郎の頭腦から生れまして初めて社會に紹介せられました所の元祖博多結城でスが今度第四回勸業博覽會へ列り親しく滿天下諸君の尊顏を拜するの光榮を得ましたに付私が同輩中の年長者たる故を以て推れましたから此處に同輩の者に代

りまして私等が社會の信用を得需用者諸君の愛顧を忝うする所以を述べませう（[illegible]）私等が斯の如く信用愛顧を忝うし升るは中村宗三郎が種々の方法に依り熱心に私等を教育致しました結果であり升諸君よ諸君この教育が私等を優等者に導きました一大「モルダント」即ち媒介でス尤も此教育に注意して貰はなければなりません即ち私等の教育を受る順序の一斑は左の如くでス

第一が糸質、糸質は絹綿糸共に最も優等精良品を撰びて原料と致し升

第二が染色、染色は日本國産の青藍を以て正紺色を染出し流行の淡色は化學的アリザリン染にて何れも幾度洗濯するも決して變色褪色の憂ひはありません

第三が意匠、此點は中村宗三郎が最も意を盡しました所で美術的技術的の腦髓から考案ました種々の縞條で悉く意匠の巧妙なる者にて疾に社會の喝采を得たる所であり升

第四が尺巾、私等は始終丈巾の撿査を受けまして兵隊撿査の如く不合格の者はドシ〳〵見捨られ巾も十分あり丈は三丈あるものゝみが中村撿査濟の商標を附けられるのでスから同輩は恰好規律の正しい日本軍隊で彼の支那軍の如き未青年者もあり老人輩もあり丈の不揃ひなる軍隊と同一般に視られては迷惑でス其他種々効能が澤山でして如此最も綿密なる注意を與へられ升に依り同輩は如何なる塲所へ出ましても後れを取りましたる事はありません故に何時も諸君の愛顧を受け諸君に不用の品物など……の評を蒙る樣な同胞は一人もありません斯樣な景况でスから滿天下諸君博覽會出品に於ても成ある程と御承知あらんことを願ふと同時に此博覽會を好機として滿天下諸君が倘一層の愛顧を得余輩等同胞即ち中村宗三郎の教育に依て組織せられたる同胞の益々増殖んことを同輩一同に代り切に希望致し升…………滿天下需用者諸君萬歳…………

以上は弊店製造の織物が需用者諸君に信用愛顧を忝うする所以なり弊店は倘一層改良に改良を加へ進歩的高尚優美的の各意匠縞條たる諸種の織物を養成し時流嗜好に適する樣猶奮勵需用者諸君の愛顧に背ざらんことを期し候間元祖博多結城の陳述ました如く益々御愛購の程偏に奉懇願候敬白

農商務省

東京府八王子町八日三丁目
絹綿交織專業 中村宗三郎

分社印行（

廣告

本文是迄印刷シ發送ノ[illegible]ハ開達且郵税等改正ナリタルニ付廿八年六月ヲ以テ訂正シタリ能ク御覧アルヘシ

熟々我國目下ノ形勢ヲ察スルニ國民擧テ殖産興業ニ熱心シ言トシテ殖産興業ニアラサルナク聞トシテ殖産興業ニアラサルハナシ斯ノ如ク日夜孜々産ヲ殖シ業ヲ興シ富國ノ策ヲ講ス豈國家ノ為メ慶賀セサルヘケンヤ就中彼ノ養蠶製茶ノ如キニ至リテハ山間僻陬至ル所桑茶ノ園ナラサルナク所トシテ製茶場蚕室ノ設アラサルナシ日ヲ逐フテ改良ヲ加ヘ月ヲ重ネテ益々盛大ニ赴ケリ宜ナル哉現時我邦輸出品ノ冠首ヲ占メ國ヲ利スルノ莫大ナルコト然リト雖モ深山幽谷ニ至ル迄盡ク之レヲ桑茶ノ園トナサンカ地味適セザルアリ偶々之ニ適スルアルモ道路ノ不便收支相償ハサルヲ奈何セン縦令此等ノ不便不利ナキモ斯ノ如キハ決シテ望ム可カラザルナリ獨リ能ク之ヲ變シテ無盡ノ富源トナシ前者ニ比スヘキモノハ殖林事業ヲ措テ他ニ見サルヘシ然リ而シテ此事業タルヤ一朝一夕ノ克ク効ヲ奏ス可キニ非ス只子孫ノ計ヲ講スルノミ也故ニ初歩ノ人士ニ於テハ迂遠ノ観アルモ百年ノ計ヲ為スニ裨益アル他ニ其比ヲ不見矣不肖山間僻邑ニ人トナリ父祖ノ遺業ヲ繼承シ此事業ヲ以テ專業トナス此道ニ於テハ多少ノ經驗ナキニシモアラス曩ニ吾父庄一郎**明治十五年開設山林共進會**ヘ自家培養ノ木材ヲ出品シ**第七等賞**ヲ下賜セラレ尋テ兄長藏**明治廿三年第三回内國勸業博覽會**ヘ出品ニ係ル**杉檜苗及種子**其他ノ調進ヲ**吉野郡川上村**ノ囑托ヲ受ケ出品セシニ**第三等有功賞**ヲ下賜セラレ次テ小生榮太郎明治廿六年四月**帝國農家一致結合團体ノ種苗用達**ヲ命セラレタリ**吾一家相續テ此顯榮ヲ蒙リ欣喜措**ク能ハズ豈ニ**國家ノ為**メニ**報効**セサルヘケンヤ退而考フルニ殖林ノ基タリ母タルモノハ種子ナリ種子ニシテ精好ナラザレハ百年ノ大計得テ望ム可カラス試ニ思ヘ彼ノ牧畜ヲ業トスルモノハ皆其**種類ヲ精選**シ強壯ニシテ温良ナル父母ヲ撰ハサルナキヲ是レ体質ヲ遺傳シ其効果ニ影響スルカ如ナリ植物モ亦然リ善良ナル種子ハ良材ノ母タリ**良種ノ子實**ハ良材トナルノ原質ヲ失ハサルナリ然ラハ殖林事業ヲ以國家ヲ裨益シ國恩ノ万一ニ報効センニハ種子ノ改良精選ヲ先ニセスシテ可ナランヤ予茲ニ聊カ視ル所アリ**吉野名産杉檜漆種苗改良社**ナルモノヲ設立シ右三種々苗ヲ**精撰**ノ上左記價格表ニ準シ汎ク要求者ノ需ニ應セントス幸ニ殖産興業ノ志アル諸士陸續下名アランコトヲ伏而希望ス

吉野名産杉檜漆種苗價額表

保險付

一特撰最良	杉種子壹升ニ付	價金四拾錢	貳斗以上 三拾七錢	五斗以上 三拾五錢
一仝	檜種子壹升ニ付	價金四拾五錢	同上 四拾錢	同上 三拾七錢
一仝	漆種子壹升ニ付	價金五拾錢	同上 同上	同上 同上

但シ貳石以上御注文ノ士ヘハ別ニ價額割引豫約申ヘク候間御照會アルヘシ

八年訂正

一杉苗　一年苗 三年苗 二年苗　各百本ニ付價金　二拾錢 三拾錢 五拾錢

一檜苗　一年苗 二年苗 三年苗　各百本ニ付價金　三拾錢 四拾五錢 六拾五錢

一漆苗　百本ニ付壹圓貳拾錢

汎　例

一遞送費ハ要求者自辨ノ事　但シ郵便條例ニ依リ三十目每ニ壹錢宛ノ郵送費ヲ要ス

一杉種子　壹升量目　貳百目
一檜種子　壹升量目　百五十目
一漆種子　壹升量目　三百目

普通郵便稅 { 杉種子壹升ニ付　七錢 / 檜種子壹升ニ付　五錢 / 漆種子壹升ニ付　拾錢 }

小包郵便稅通運便賃ハ里程ニヨリ定ムルヲ以テ是ニ表セス
少量ハ木綿袋ニ入レ郵送シ多量ハ箱入レ及疊表ニテ堅固ニ荷作リ通運便ニテ送致ス
多量ト雖𪜈播種期節切迫シタル時ハ郵送スヘシ　苗木ノ義ハ總テ通運會社ヘ送リ込ノ事

要　旨

一代價金ノ義ハ郵便爲替ヲ以テ送付大和國吉野郡大瀧郵便局ヘ取組ノ事　郵便切手代用一割增
一種子請求者ニ限リ見本品進呈ス　郵稅貳錢添付申込アリタシ
一吉野名產杉檜漆栽培法ハ郵送稅四錢送ラハ無代價ニテ送付ス
一種子代金前金之事　但シ各府縣廳郡衙大小林區署御料局町村役塲農會等ハ此限リニアラス
一種子ノ義ハ特ト御見分アラン他ノ調進所ハ續々他國ノ種子取寄セ吾ガ著名ナル吉野產種子ト混合且古種ト新種ト交合シ調進セシ世論アルヲ以テ要求者能ク注意セヨ拙社ノ種子ハ生長ノ後大ヰニ差アラン拙社ノ種子ハ眞ノ

吉野名產種子　堅ク保險ス

一小包郵便送ハ要求者ヨリ留置局名等詳細種子御注文申込ト同時ニ通報アラン
一此頃吾村ニ於テ名稱類似アルヲ以テ能ク御注意且拙社使用ノ商標能ク見留アラン
一小包郵便送ハ多少ニ不抱小包取扱郵便局迄送達費往返旅費壹圓ヲ請求ス　里程八里往返十六里
右三種々苗申込期日ハ每年八月一日ヨリ翌年三月三十日迄限リトス
精撰ナル種子調進セシヲ以テ大ヰニ賞賛ヲ得吾吉野郡役所ヘ注文ノ分ハ悉皆囑托セラレタリ

明治廿八年

奈良縣吉野郡川上村大字西河
吉野特別產業會員
帝國農家一致結合同盟員種苗用達
大日本山林會員
吉野名產杉檜漆種苗改良社主任　伊藤榮太郎　謹白

殖林篤志諸士

第一條　本校ハ農ノ學理ト技術トヲ敎授スルヲ以テ目的トス
第二條　修學年期ハ三ケ年トス
第三條　一學年ヲ分チテ前後二學期トス
第四條　前學期ハ八月十一日ニ起リ翌年二月十日ニ終リ後學期ハ二月十一日ニ起リ七月廿日ニ終ル
第五條　授業科目ハ左表ノ如シ
但シ敎授上ノ都合ニ由リ多少變更スルコトアルヘシ

學科課程表

年限	第一年 前期	第一年 後期	第二年 前期	第二年 後期	第三年 前期	第三年 後期
	無機化學	無機化學	有機化學	有機化學	農產製造論	農產製造論
	物理學	物理學	氣象學		森林學大意	森林學大意
	動物學	動物學	昆蟲學	昆蟲學	獸醫學大意	獸醫學大意
	植物學	植物學	植物營養論	植物營養論	植物病理學	植物病理學
	生理學	生理學	工藝作物論	工藝作物論	工藝作物論	工藝作物論
	礦物學	地學	土壤學	土壤學	土地改良論	土地改良論
	經濟學	經濟學	養蠶論	養蠶論 附桑樹栽培	農業經濟論	農業經濟論
	農具論		肥料論	肥料論	測量術	測量術
	普通作物論	普通作物論	普通作物論	普通作物論 附牧草	家畜飼養論	家畜飼養論
	畜產學（繁殖）	畜產學（繁殖）	畜產學（管理）	畜產學（管理）	農場實習	農場實習
	園藝學（蔬菜）	園藝學（蔬菜）	園藝學（果樹）	園藝學（果樹）		
	算術	代數	幾何	三角法		
	農場實習	農場實習	農場實習	農場實習		

右規定學科ノ外時々倫理、敎育ノ講演ヲナス
第六條　實習ハ本校田圃ニ於テ敎授シ實地ノ作業ヲ取ラシメ時々農事試驗場及有名ナル實業家ニ就テ實地ノ研究ヲナサシム
第七條　學理ノ授業時間ハ每週廿四時間以內トシ實習ハ每週

第廿三條　授業料ハ一ケ月金壹圓五拾錢トス
但シ冬月薪炭料トシテ金拾錢ヲ納ムヘシ
第廿四條　授業料ハ每月五日迄ニ其月分ヲ納付スヘシ
但未納者ハ其間停學セシムルヿアルヘシ
第廿五條　疾病或ハ其他ノ事故ニヨリ一ケ月間全ク出席セサルトモ本校在籍中ハ授業料全額ヲ徵收ス
第廿六條　品行方正學力優等ナル者ニハ賞典ヲ與フ
第廿七條　本校ノ規則ニ背戾セシ者ハ懲罰シ又怠惰不品行ニシテ成業ノ見込ナキモノト認ムルヰハ退學セシム

入學願書式

甲　入學願書（半紙用）

入學願書
私儀御校ヘ入學志願ニ付試驗之上御許可被成下度別紙學業履歷書相添此段相願候也
年　月　日
住所
族籍
姓名
年月日
私立東京農學校長某殿

乙　學業履歷（半紙用）

族籍
姓名
年齡
一何年何月何地官公私立何學校ニ於テ何學修業敎師何ノ誰ニ就キ何年何月迄何年修業致シ用書左ノ通
一何々
一何々
一何々
一何々
明治年月日
姓名

丙　在學證書（半紙用一錢印紙貼用）

私儀今般御校ヘ入學被差許候ニ付テハ在學中御規則堅ク相守可申仍テ誓書如此候也
宿所
本籍族
姓名印
壹錢印紙
右ノ者今般御校ヘ入學被差許候ニ付テハ御規則堅ク可爲相守ハ勿論同人在學中ニ係ル一切ノ事件ハ拙者引受可申候仍テ證書如此候也
明治年月日
保證人
宿所
本籍族
姓名印
私立東京農學校長某殿

十二時間以上トス
但シ農場ノ都合ニヨリ多少增減スルコトアルヘシ

第八條　年中休業日左ノ如シ
一開校紀年日（五月十一日）
一大祭日
一日曜日
一夏季休業　自七月廿一日至八月十日
一冬季休業　自十二月廿日至翌年一月十五日
但シ兩季ノ休業ハ實習ニ限リ休業セサルコトアルヘシ

第九條　夏季若クハ冬季休業中修學ノタメ旅行セシメ或ハ農學上ノ調査ヲナサシムルコトアルヘシ

第十條　試驗ハ臨時學期及卒業試驗ノ三種トス

第十一條　試驗評點ハ別ニ定ムル所ニ由ルモノトス

第十二條　卒業試驗及第者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第十三條　入學ノ期ハ各學年若クハ學期ノ始トス
但シ時宜ニ依リ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第十四條　入學ヲ許スヘキ生徒ハ年齡滿十六歲以上ニシテ入學試驗及第者ニ限ル

入學試驗科目

漢學　日本外史、史記ノ類
數學　算術全躰
書取　普通文
作文　往復文記事文

第十五條　入學セント欲スル者ハ甲乙兩號書式ニ倣ヒ願書及學業履歷書ヲ差出スヘシ

第十六條　入學ヲ許サレタル者ハ東京市內ニ一家計ヲ立ツル者ヲ保證人トシテ丙號書式ニ倣ヒ在學證書ヲ出スヘシ

第十七號　本人及保證人ノ轉居或ハ改印スル片ハ直チニ其旨ヲ屆出スヘシ

第十八條　生徒若シ病氣其他已ムヲ得サル事故ニ依リ欠席スル時ハ本人ヨリ屆ケ出ツヘシ欠席三日以上ニ渡ル時ハ保證人ヨリ其理由ヲ詳記シ屆ケ出ツヘシ

第十九條　退學セント欲スル者ハ其理由ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ願ヒ出ツヘシ

[illegible]

撰科規則

第一條　撰科生ハ本校各級科目ノ中ヨリ志望ニ從ヒ撰修スルコトヲ得ル者トス

第二條　撰科生ハ本規則ノ定ムル所ノ外凡テ本校一般ノ規則ヲ遵守ス可シ

第三條　撰科生ハ入學ノ際入學金トシテ金壹圓ヲ納ム可シ

第四條　授業科ハ一科目五拾錢二科目七十五錢三科目壹圓四科目壹圓貳拾錢五科目以上壹圓五拾錢トス

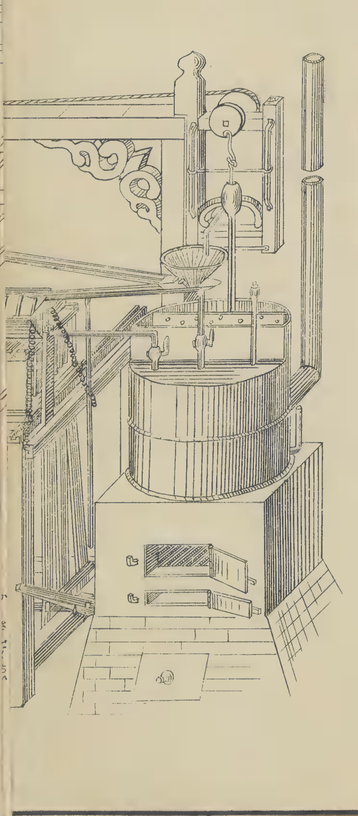
第五條　撰科生ニハ志望科目終了ノ后試驗ノ上修業證ヲ授與ス

東京市小石川區大塚窪町廿五番地

私立東京農學校

校主　子爵　榎本武揚
校長　伊庭想太郎
教頭　農學士　長岡宗好
評議員（以下イロハ順）
農學士　豐永眞里
農學士 農藝化學士　押川則吉
農學士　渡瀨寅次郎
農學士　橫井時敬
農學士 農藝化學士　澤野淳
講師
農學士　伊知地德之助
農學士　石井淳次郎
飯鄉八十吉
農學士　本多岩次郎
農學士 理學士　堀正太郎
農學士　奥村順四郎
農學士　長岡宗好
農商務技手　村山鎭
農學士　江間定次郎
農學士　草鹿砥寅二
農商務技手　松永伍作
農學士　小林房次郎

越前久保田



第一五一五號

特許證

福井縣福井市春山中町一番地
久保田吉藏

蠟燭製造器械

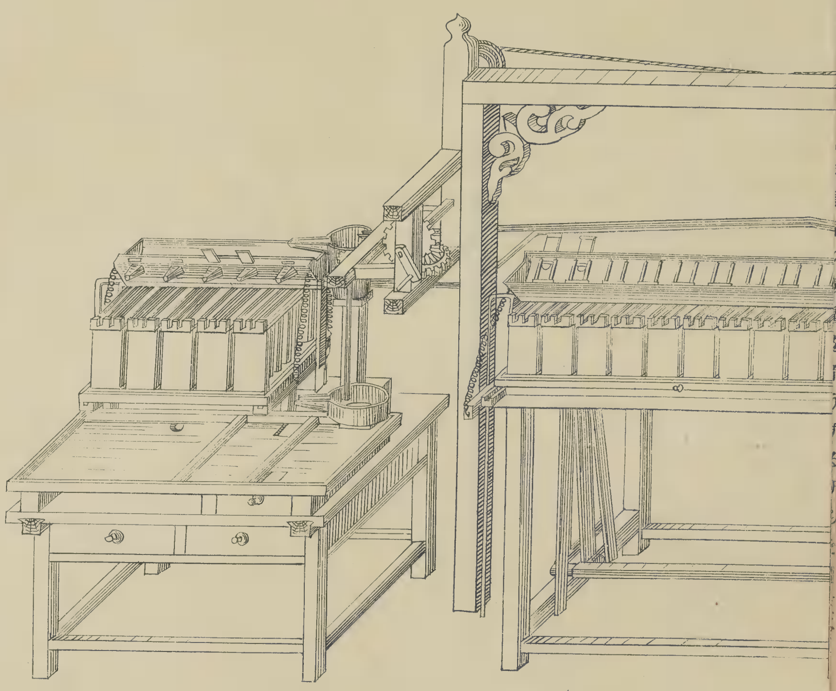
本證附屬明細書ノ請求區域ニ對シ特許條例ニ據リ右記名ノ者ニ特許ヲ與フルモノ也

明治廿五年三月十四日

農商務大臣河野敏鎌

特許局長奥田義人

新發明蒸流作用諸蠟燭製造器械



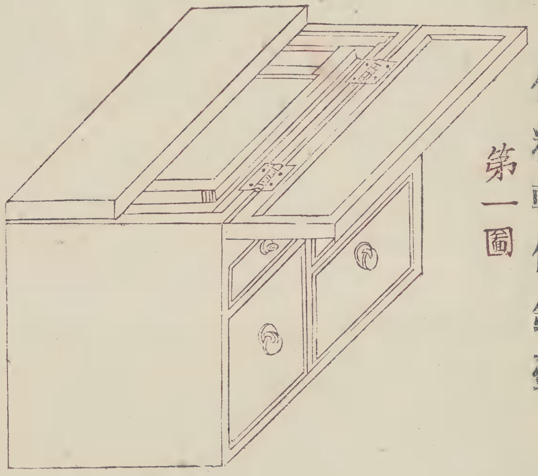
蠟燭販賣所　隆開堂

專賣特許

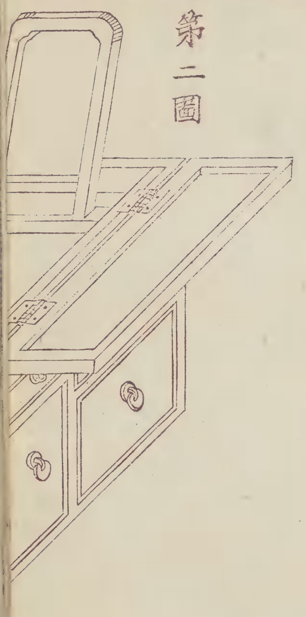
第二三九三号

化粧輕便鏡臺

第一圖

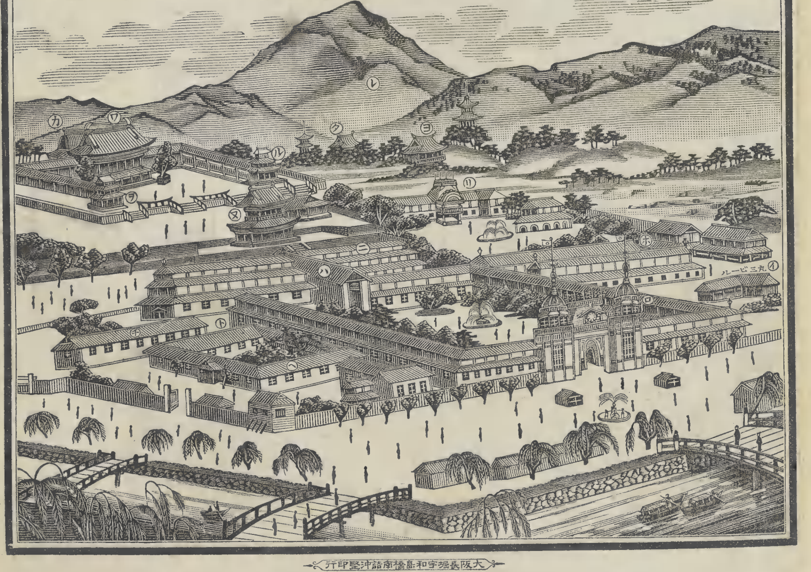


第二圖



此輕便鏡臺は從來の鏡臺に比べて最も便利有益のものなり其効用の大略を擧ぐれバ使用せざる時ハ容形を極めて小さく出來る故取扱ひに甚だ便利なり使用する時ハ上面の蓋を左右へ開き蓋の上に化粧品等を置き得るか故に化粧品の散亂し衣類又は疊等の汚損することなし且つ鏡ハ起てたる儘臺を少しも動かすことなく鏡のみ遠ざけ又は近づけ或ハ直立し或ハ仰むける等眼力に應して自由自在に爲し得べし而して使用せざる時には鏡を折込みて其上に蓋を左右より閉

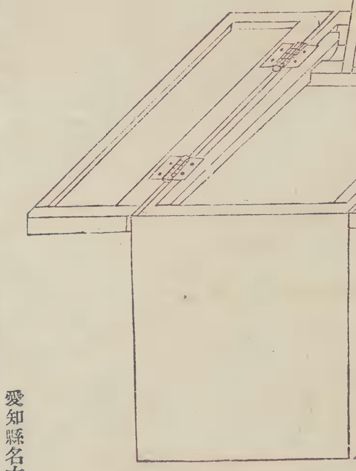
第四回內國勸業博覽會及平安遷都紀念大極殿之圖



大阪長堀宇和島橋南詰沖堅印行

大勉強

發明製造販賣元



…づれば容形極小さくなるか故に取扱に便利なるのみならず鏡の損することなし
鏡臺の大小又は引出の附方塗色及ひ金具等は種々御好次第御注文に應じ候

洋鏡製造商 愛知縣名古屋市末廣町百三十八番戶 戸松新次郎

◉第四回内國勸業博覽會場内水族館南隣ニ休憩所アリ

大婚式獻納
陸軍御用品

登錄商標

マルサンビール

Marusan Beer Brewing House.

釀造元
大日本愛知縣半田港
九三麥酒釀造所

東洋一ノ覇國ハ大日本帝國ナリ
洋酒界ノ覇王ハ九三ビールナリ
其武威ノ忠勇偉勲ハ海外ニ輝キ
其香味ノ善良ハ宇内貴顯ノ賞賛ヲ得タリ

大阪西區北堀江通二丁目
九三麥酒大阪支店

代理店
京都下京區新町四条下ル
岡島庰三郎

代理店
東京靈岸島富島町
中井半三郎

三都發賣所
其他全國至ル所ニアリ

THE "MARUSAN-BEER" IS THE BEST BREWED OR SOLD IN JAPAN AND HAS A WORLD WIDE REPUT-ATION FOR PURITY AND WHOLESOME NESS.

イ 九三麥酒休憩所
ロ 工藝館
ハ 農林館
ニ 器機館
ホ 水産館
ヘ 事務所
ト 審査室
チ 荷解場
リ 美術館
ヌ 應天門
ル 蒼龍樓
ヲ 白虎樓
ワ 大極殿
カ 平安宮
ヨ 黒谷
タ 眞如堂
レ 比叡山

謹告

此度本館寫眞場建築落成仕候に就ては普通の御肖像は申に及はす夜間二千五百燭の電燈を以て白晝同様撮影仕候其の他御好に應し種々珍らしき寫眞を調製可仕候又美術品に寫眞を應用仕り御婦人方帯地半襟帯揚服紗烟草入札入、ハンケチ等の類より團扇扇子衝立燈籠陶器なとの類に至るまて目新しき寫眞を焼付け其間に流行の小紋友禪縫取りなと様々の彩色を加へ美麗精工に調進可仕候間何卒陸續御用向被仰付度幾重にも奉希上候也

月　日

東京京橋區木挽町五丁目三番地
玄鹿館
電話番號千五百十九番

京都販賣店
第四回勸業博覽會南正門通東側
岡崎桑田
出張店

同　寫眞師
圓山公園也阿彌下
松原精一

洋物雜貨
製靴場

京都市寺町五条上ル
櫻田時造

信樂絲取鍋合名會社廣告

用印

右ハ品質堅実ニシテ型状宜キニ適ヒ使用上最モ便益アル者ト認ム

明治廿年　滋賀縣勸業協會頭　大越亨

○本社ハ信樂用糸取鍋合名會社ニシテ糸取鍋製造專務。業務擴張。製法改良。完全焼立。價格廉。迅速逓送。叮嚀確實。販路尚一層擴張シ各製糸家ノ貴需ニ適スル物品而已ヲ以テ之レヲ発賣ス

○殊ニ我國該器製出品ノ内元祖ナル信樂用糸取鍋合名會社製出品ハ其最モ充分適シタルコハ全國製糸家ノ著シク知ル處ニシテ今尚一層改良ヲ加ヘタレバ早ク諸君実地ニ試用アリテ利便ノ実ヲ知リ賜ハンコヲ

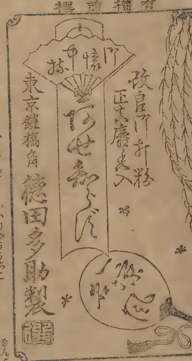
用

信樂糸取鍋合名會社

滋賀縣甲賀郡長野村　奥田要助

夏時最も必用品のおしらせ

衛生要品　洋風撲造　有權商標



壹個價　三錢五厘

此あせしらずハ洋風撲造の改良打粉にして近來歐米各國至る處夏時衛生上一大要具として盛んに行なはる、貴重の良品にして男女共に常に懐中するときハ如何なる流行の悪病も更に恐るゝことなく一度是を使用する時ハ芳香馥郁として上等匂袋の代用となりて如何なる汗性の人も汗をかわかし夏向湯上り時に用ひて御はだへ涼しく夜寐際等に用て蚤に喰るゝうれひなく至極奇妙に心持よし諸人に多く近附御婦人其外諸藝御たしなみの方々ハ常に懐中して其時々用ふれバ自身の心持能きハ勿論客人に對し爽快を感ぜしむるに最も必用の佳品なり此あせしらずを常に簞笥の中へ入置けバ衣類に美香うつりて能く蟲害を防ぐに大効あり

元祖發賣所　東京日本橋區鎧橋角　**徳田多助製**

西京市中至る所の薬店小間物店及び博覧會表門前通慶流橋向東京小間物組合賣店等にて取次致し候間御最寄にて御買求奉願上候

（東京神田小川町愛善社印行）

御扇子調進處

商標

TRADE MARK

THE FAN-MANUFACTORY, MATAJIRO, FUJITA.

ROKKAKU-TOMINOKOJI. KIOTO JAPAN.

NOTICE! WE DO NOT REDUCE OUR PRICES.

中啓扇　雪洞扇　御夏扇　舞扇　殿中扇　數島扇　書畫揮毫　用白扇　都乃錦　九重扇　六花扇　龜鶴扇　雪月花扇　豊年扇　五雲扇　色目扇　諸式慶賀　扇各種　諸社寺境内縁景扇

京都六角通富小路東入　團扇堂　藤田又治郎

商標

農商務省　専賣特許

和洋釘鐵金物卸商

水時バケツ

安全車止ノ栓

羽織紐止金具　但シ帯メニモ兼用

錠用座金

新形庫錠前　但シ取手並ニ掛錠兼用

和洋大小諸錠前類種々

其外一切之建築金物品々御好ニ應ス

京都市河原町通蛸薬師

鳥居治三郎商店

廣告

滋賀縣近江國草津驛名産

一御馬乗用根鞭各種

幷ニ杖用根鞭各種

外ニステーキ色々

右今般開店仕候ニ付而ハ諸品精々廉價ニ御小賣共販賣仕候間多少ニよらず御用之程伏而奉希望候敬白

明治廿八年四月

京都市繩手通古門前南へ入

喜多村梅

各位樣

(河原町三條北綉文堂印行)

愛知物産

有松絞數品

弊店製造ノ有松絞タルヤ品質精撰既ニ手段ヲ尽スニ就而ハ該品數回湯水ニ入ルモ變色脱染ノ憂無キ事ハ言ヲ俟タズ購求諸君ノ知ラルヽ所ナリ依之各府縣ヘ一般ノ信用ヲ得日ニ月ニ販路相開ケ幸福豈欽佩ニ堪ヘ可ケンヤ爰ニ明治廿三年第三回内國勸業博覽會及ビ全國到ル所ニ出品シ有功賞牌ニ褒狀ヲ賜ヒ弊店ノ栄譽之レニ過キズ候幸ニ爰ニ第四回内國勸業博覽會ヲ開設セラレ依而諸品ヲ勉強調製シ仍而直段格別相改メ販賣仕候間購求諸君競フテ購求アランコトヲ希望ス

京都市第四回內國勸業博覽會館內賣店

名古屋市本町八丁目竹谷号

富田臺二郎

同町

髙木商店

謹告

弊店は大極殿碧瓦を調製したる瓦師にて從來諸瓦の注文に應じ來り候處好機にも今回は我京都に余等の大戰場とも成るべき內國大博覽會の開設ありて比上なき事と欣喜の餘り京都協會の賣店內に出店を設け幸に世人の稱愛する大極殿碧瓦併に同瓦の餘土及餘釉を以て其原形を寫したる[illegible]其他珍奇なる種々の器物を製し[illegible]紀念[illegible]の[illegible]張を計らんとす乞何分の御引立あらんことを

[illegible]

一京都質の普通屋根瓦

一京都風の普通屋根瓦にして充分なる寒氣に耐へ殊に北海道等に適する瓦

一大極殿の如き碧瓦にて[illegible]割保險付

一諸色の色瓦

一新[illegible]瓦二種各特許出願せしもの

前記の內大極殿碧瓦は[illegible]の大技術家の御選擇に依り古瓦の尊瓦を撰されたるものなれは一朝の[illegible]を以て之を見出す能はすと雖も弊店は幸まも之か調製の棠を蒙りたるに付其の秘なる所を選て賞寫するを得且つ弊店の碧瓦賞[illegible]諸器は現に尊瓦製造の余土及余釉より成りたるものなれは其正形を失せさると施薬の方法等總て其尊碧瓦を模したる熟手に係かるものなれは俗にてまかし物の如き模擬なきものにあらす同[illegible]の紀念品となり御土產と成るものなり御注意の上御求めあらんことを希望仕候也

京都府山城國葛野郡川岡村字川島九番戶

瓦匠 佐野喜三郎

第四回內國勸業博覽會京都賣店內

佐野出店

浪華第一名產浪華漬廣告

浪華漬種目

○天王寺蕪粕漬

○白瓜粕漬

○茄子粕漬

○小西瓜粕漬

○細大根粕漬

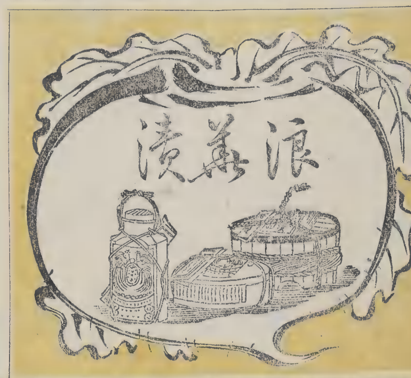
○胡瓜粕漬

○茄子芥子漬

○花薤漬

○極製金山寺

一銘 千歲味噌



一弊家ニ製スル漬物ハ祖先ノ發明ニシテ數百年前ヨリ販賣致シ來リ候處繇盛大ニ至リ今ヤ販路大ニ開ケ全國ハ勿論海外ニ迄輸出スルニ及ヘリ然ト雖モ本品其名稱ノ漠然トシテ原因ノ名稱ナキニ困メリ茲ニ明治廿三年四月辱モ從一位內大臣公爵三條閣下ヨリ浪花漬ノ銘ヲ賜ル其名ヲ附シ以テ第三回內國勸業博覽會ヘ出品スルニ則チ有功賞牌ヲ下賜セラレタリ是全ク原質ノ精選ト製造ノ巧妙ニ依レリ實ニ弊店ノ榮譽是ニ過ンヤ以來浪花漬ト改稱シ愈以テ原品及製造ニ至ル迄注意不怠一層器物ニ改頁ヲ加ヘ遠國ヘ御遞送ニ貯藏ノ宜キト輕便トヲ量リ鑵詰瓶詰等ヲ調製シ御進呈ノ御都合ニ依リ体裁能仕立速ニ御好ニ可應候間多少ヲ不論陸續御購求アランコトヲ奉希望候也

大阪天王寺西門北字六萬躰

浪華天王寺蕪粕漬元祖 六萬堂

大阪府立博物場第四室 出品販賣場

京都大博覽會正面ノ橋南詰貳丁東 臨時出張廛

石井商店販賣品廣告

販賣品種類

各國產　麻苧
仝　麻糸
仝　漁網
仝　績苧
仝　麻布

製造品種類

各國產麻苧製　漁網
綿糸製　漁網
綿糸製網袋用　綟子布

弊店義從來ヨリ右各品製造販賣罷在候所江湖諸君之御愛顧ヲ辱シ日增繁盛ニ趣キ候段難有奉鳴謝候隨テ御愛顧ニ酬ユル爲メ今般尚一層品質精撰シ價格ヲ低廉ニシ專意信切ヲ竭シ高需ニ可奉應候間愛顧諸君親ク舊ニ倍シ陸續御用向仰付被成下度奉希望候仍テ此事ヲ謹デ奉稟告シ候頓首

麻苧漁網 卸商 多 大阪市西區薩摩堀北ノ町 石井孝太郎

各位

明治廿八年四月

開業紀念二百年の廣告

回顧すれば弊店が現住する町内に於て銘茶調進の業を營む玆に數代其創業せし元祿時代より星霜を經て明治昭代の今日に至る恰も二百年に相當す此の長年月間當業を繼續し老舖の位置に至りしは全く愛顧諸君の御庇蔭ならざるはなし弊舖の幸福何に例へん欣喜雀躍其厚恩を謹謝し尚將來益々勉勵して品位香味は申すに及ばず廉價を主とし販賣仕候間多少に拘はらず舊に倍し御注文之程偏に奉懇願候就ては開業紀念二百年の祝意を表する爲め來る四月三日より拾五日間些少のそへ物進呈仕候間陸續御購求あらん事を乞ふ

京都市四條通御旅町
銘茶調進所 通仙堂 松井正五郎 謹白

四方各位

紀念祭擧行ニ付御來會ノ際旅館ニ御差支有之候トキハ左記ノ箇所ヘ御申出被下候得ハ可成的御周旋取計可申候

明治廿八年四月一日

平安遷都紀念祭委員接待部旅館掛

御池寺町東ヘ入京都市議事堂內
平安遷都紀念祭事務所
七條停車場前　出張所
三條大橋　出張所
疏水沿岸　出張所

日本一 最便利 蠶兒與桑篩（くわぶるい）廣告

五個壹組 定價廿錢 郵稅規則ニ依ル

使用法

自發生 至初眠

蠶發生シテ小食部ハ壹分五厘目中食部ハ貳分目大食部ハ二分五厘目ニテ催眠ノ摸樣ヲ見テ食桑ノ減量ニ隨ヒ二分目又一分五厘目ヲ使用シテ初眠迄ノ使用機トス

自初眠起 至二眠起

初眠起初與桑ハ則チ小食部故ニ二分五厘目中食部ニ及三分目其大食部ニ至リ四分目ヲ用ヘ尙又催眠ノ摸樣ヲ見テ食桑ノ減量ニ隨ヒ三分目及二分五厘目ヲ用ヘデ二眠迄ノ使用機トス二眠起桑附ニハ四分目ヲ用ユ是ニ此機ノ用ヲ終ル此（フルヒ）ヲ使用スルニハ桑ノ刻方尤四角ニ刻ムヲ要スレハ摘桑ノ葉ヲ重テ串ニサシ置キ之ヲ適宜ニ拔キ採リ各分ニ應シ眞四角ニ刻ム可シ

埼玉縣榛澤郡新會村養蚕敎師故 荒木重平氏考案

全縣全郡深谷町三百廿九番地 故荒木重平門人
改良製造發賣人 齋藤東八

明治　年　月　日 養蠶具造製場

埼玉深谷活版印刷

廣告

平安遷都紀念祭協賛會編纂

一平安神宮時代祭行列圖譜 全壹册

畫圖四十葉外に說明附き頗美本(價金拾五錢)

右は來る二十五日執行の時代祭行列ノ圖譜にして各々其說明を附したる最近の出版物なり進物又は御みやげには高尚にして優美なる書なり

目次

第一列　延暦時代文官參朝
第二列　延暦時代武官出陣
第三列　藤原文官參朝
第四列　城南流鏑馬
第五列　織田公入洛
第六列　徳川城使上洛

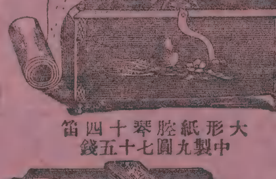
本書取調委員長　熊谷直行君

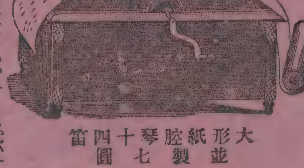
委員　碓井小三郎君　今泉雄作君　水茎盤樟君　出雲路興通君　金子錦二君　久保田米僊君

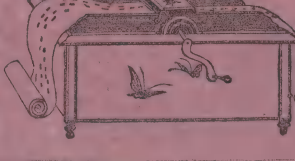
發行所　京都市東洞院三條上ル　村上勘兵衞

最寄の書林にて便宜御求めあらん事を乞ふ

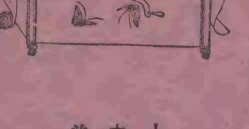
東京十字屋の紙腔琴は習ずしてどなたも自由に出來る美妙の音樂器故當博覧會へ出品致しました又會場前の東京賣店で賣升


大形紙腔琴十四笛　上製十五圓


大形紙腔琴十四笛　中製九圓七十五錢


大形紙腔琴十四笛　並製七圓

右何れも譜箋五巻附(夕ぐれ、宵はまち、十日ゑびす、まりうた、梅が枝)


小形紙腔琴九笛

上製五圓
中製四圓
並製三圓

何れも譜箋五巻附(梅にも春、ちょんきな、まりうた、夕ぐれ、梅が枝)

其他地歌を始め何歌でも澤山有ます

京都大博覧會前東京賣店構内

十字屋出張店

(東京印刷合社印行)

廣告

正札引なし

從來蝙蝠傘專賣營業ノ処品物ノ精製ト價ノ低キガ弊店ノ得色ニ因リ日増ニ隆盛ノ域ニ進ム平ニ謝ス尚乞フ妙満寺ノ南角ニテ御購求之程奉希望候

月日

寺町通押小路上ル東側
妙満寺南角
桑原支店

各位

最良佳品ノ刻煙草大廉價販賣廣告

定價百匁ニ付貳拾貳錢◎量目五拾匁百匁

右四海波印刻煙草ハ弊店多年粟粒辛苦ノ上製造シタルモノニシテ好ク口舌ニ適シ代價ノ大廉ナルヲ以テ其始メ販賣スルヤ非常ノ喝采ヲ得テ現今ノ如キ製造高實ニ多數ナルニ至ル是レ顧客ノ高眷ニ依ラズンバアラズ依テ弊店一層改良ニ改良ヲ加ヘ尚ホ百匁袋十個ノ内貳錢郵券封入ノモノ貳個ヲ入レ五拾匁袋モ亦之ニ準ズ益々以テ其恩ニ報ヘントス冀クハ諸君一個ヲ購ヒ弊店ノ誣ヒザルヲ知リ玉ハン事ヲ今本品ノ他品ニ優ル一斑ヲ擧グレバ一色澤ノ美麗ナル事勲章ノ燦爛タルガ如シ

一香口ノ和ラカクシテ咽喉ニ觸レザル事蜂蜜ノ如シ
一刻揚ノ美細ナル事繭糸ノ如シ
一總テ本品ニ注意ヲ爲シタル事慈母ノ其子ニ於ケルガ如シ
一代價ノ廉ナル事純金一匁ヲ十錢ヲ以テ買フガ如シ

製造本舗　奈良縣　酒井佐治郎

一手販賣所　京都　村井兄弟商會

全　大阪　渡邊商店

全　森山商店

諸君

京都　圓山公園

名物…

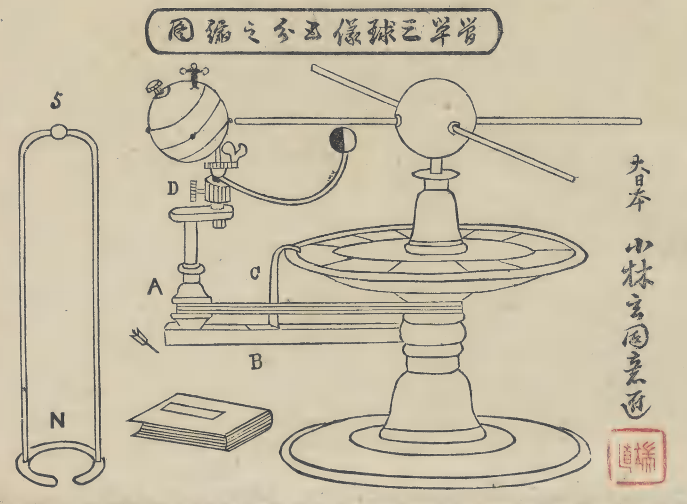
御菓子司

京都
姉小路通
車屋町角
亀末
廣製

學校用幻燈製造元

淺草藏前須賀町壹番地

小林玄同



定價金八圓

日出新聞第三千三十四號附錄

廣告

明二十六日明後二十七日行幸啓ノ節七條停車塲ニ於ケル奉迎有志者其他ノ奉迎員整列塲所左ノ通其筋ニ於テ定タリ

廿八年四月廿五日

奉迎有志者事務所

右ノ外烏丸通松原ヨリ北三條迄ノ東側ハ下京各尋常小學校生徒、堺町通二條ヨリ北丸太町迄西側ハ上京各尋常小學校生徒、三條通烏丸ヨリ東堺町迄ノ南側ハ下京高等小學校生徒、堺町門内ノ東側ハ尋常師範學校女子部、高等女學校、美術工藝學校、染織學校、盲唖院、同志社女學校ノ各生徒、同西側ハ尋常師範學校附屬小學校及ビ上京高等小學校ノ生徒ノ整列場トス

香煎ノ傳來

抑吾家ノ祖先ハ赤穂ノ浪士原總右衛門元辰ノ族類ニメ原儀左衛門道喜ト稱ス後剃髪メ了郭ト名ク其頃都下ノ名醫山脇先生ヨリ此方ヲ傳ヘラレ即チ祇園町ニ於テ始テコレヲ製シ幸ニ世上ノ諸賢ノ愛顧ヲ蒙リ月々日々ニ繁榮シ今ニ至テ家聲ヲ隕サズ此地ノ名産ト称セラル是全ク名醫ノ良方ト祖族ノ忠良ノ餘澤ナリ然アレバ今回其兼功ヲ述ベ左ニ擧ケ諸方ノ貴客ニ愛賞セラレンヿヲ希フ

香煎功能　用法白湯ニ點ヲ用ユ

鬱氣ヲ開キ外邪ヲ散シ胸膈ヲ利シ飲食ヲ進メ風氣ヲ驅リ腹満ヲ治シ蟲ヲ逐ヒ痰ヲ緩メ小便ヲ利シ大便ヲ調ノ茶ハ病症ニヨリテ忌ム所アレバ此香煎ハ一切忌ム所ナシ殊ニ夏月ハコレヲ用ヒテ暑邪ヲ避ケ遠方ニ出テ水ニ中ラズ

農商務省認可　原御香煎　正木家

京都祇園町中程　原了郭製

本家
洛陽名産　御香煎所
京祇園町中程　原了郭

若狹名産
小濱住吉町
[illegible]
青野宗碩

◉廣告

一名指輪珠數

右指輪珠數之義洋服持ニ適當御婦人方ニハ至極輕便ナリ今回出品ニ際シ廣ク發賣致候間御買求アランヿヲ

五二會京都品評大會出品者
京都市東洞院五條上ル町
諸宗珠數商　龜井半七

●万壽寺通烏丸西北角今井信英堂印刷●

京都市上京區岡崎町第貳番戸
山本良行

京　四條御旅町南側
[illegible]具所
都　井上新兵衛

御印判司

京都寺町通押小路上ル町
生々軒川井印鋪
朱青黒印肉
石印材品々

運送物受取證

右正ニ受取鐵道局滊車積荷物取扱規則ニ基キ運送可仕候
但シ取調物壹ヶ年限リ

明治　年　月　日

豊橋町
内国通運株式會社代理店

運送賃

牝牛内ロース
百目ニ付拾六錢
精肉店
寺町二條角
さの家

京都府下熊谷鳩居堂精造純毫書畫
筆各種標記以護充

鳩居堂監製

改良墨

春松園製

奈良西御門町宮武佐十郎製

SHINANO 更紗梅 MEISAN

和洋御菓子製造所
風月堂
CONFECTIONER

御菓子
京都本松原通西洞院西入
吉田軒

第六号
常世の香
香氣入

月餅

金
餅柚ゐし
サヌキ タドツ
祥雲堂

京都
三條大橋東三丁目
上田秀七

京都
新京極通蛸薬師南入
吉川商店

山城
宇治黄檗門前
豆腐干所
松本平四郎

東京本郷壹町目

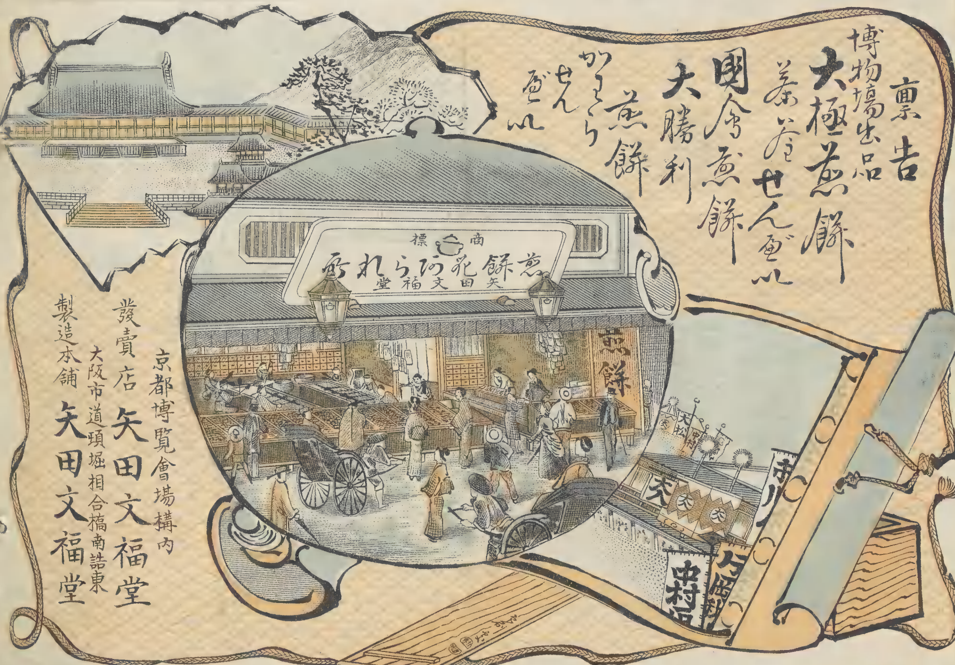
本 松金香御油所

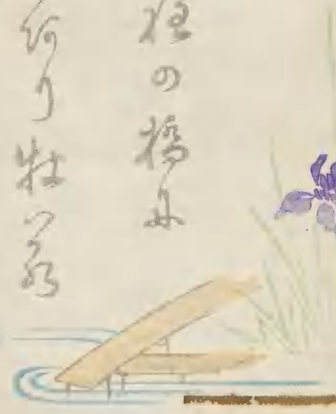
山本清次郎

萬足袋販賣

福 小原店

京都市寺町通





京都市聖護院殿前

本家

同寺町二条上ル

支店

や津橋

京都市 聖護院 殿前 製造所 玄鶴堂

萬打刃物

京都市五条通東洞院西入

加藤

角水牛鯨横楊枝
○紛やうじ ○東京坊やうじ
○東吾もみやうきいろ〳〵 外品々
西京松原通 大藤屋玄衛
堺町東入北

青角牛貝紅
象造所
外ニ 貝細工色々
大阪新町通弐丁目
上田真太郎

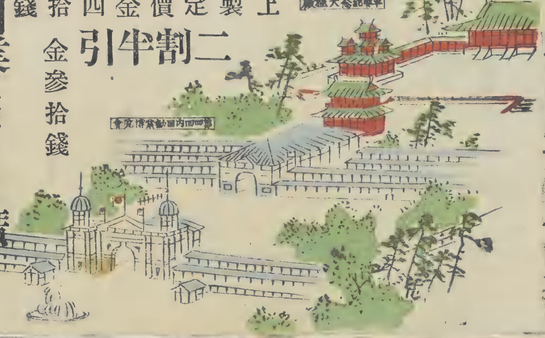
開業廣告

京都名勝案内記

全壹册
上製定價金四拾錢
二割半引
金參拾錢

右今般書店開業御披露の爲め此廣告御持參の方には二割半引即ち金參拾錢にて引換に差上申候

京都四條通東洞院西入
太陽館書店



京 御所[illegible]開張

そげぬきうちこくしき筋たゞひ
疵つ切のるい其外様業を志るし

登録商標

官許
速康散

本家
藥劑師
京都市下京區西洞院通五條南入小柳町
久保田庄左衛門

賣官服入

本家
御けぬき司
大阪市新町橋東詰南側 本舗 うぶけや
東京市日本橋區人形町通 支舗 うぶけや

請合 正直段

けぬき。かみそり。はさみ
よろぎ道ときなをしもの
なるたけやすく仕升

商標
氷蕎麦
一 弊舗製造の氷蕎麦ハ古来當地名産の蕎麦中ニ種類の良好なるものを撰み又寒中の緩急ニ注意し精製したるを以て腐敗変性の憂なく殊ニ其味高尚ニして粋客の嗜好ニ適し且種々便利の佳品なり江湖の諸君ご賞味あらん事を
一 用方ハ其侭熱湯ニ投し煮る事一二分ニて上り
製造販賣所 岩手縣盛岡市六日町 十一屋商店

本家 正吉打物所

料理庖丁類并ニ具一揃仕候

京都錦小路高小路東入

正吉出店

や津橋

家の橋

京都市
聖護院
御殿前
製造所
玄鶴堂

本家
御算盤師

コノキ

五一閣

京都
四條御旅町南側
圖 萬金道具所
井上新兵衛

HIMEJIHONKEYAMAYASEIZO
姫路 本家
商標 彌 製造
姫路市小利木町池田彌文

六等 褒賞

於第四回關西聯合府縣共進會木盃下賜

日吉煎餅の由来を
麦秋にて両真書に記写入
梅屋日出新製

富田義忠

天覧

日吉煎餅

現金正札無掛直

萬銅鐵金物製造販賣所

家作道具類　諸宗金具類
室内装飾金具　剃刀鋏理髪器
料理道具類　宣徳金物類
銅鐵黄銅器物　丈量圖引金具
學術用金具　此他諸金物數品

京都西條麩屋町西入南角
商標 十 奈良屋忠右衞門

正札無掛直

室内装飾金具　剃刀鋏理髪器
料理道具類　宣徳金物類
銅鐵黄銅器物　丈量圖引金具
學術用金具　此他諸金物數品

京都西條麩屋町西入南角
商標 十 奈良屋忠右衞門

富山縣　内國　香川縣　北海道

銀牌　褒賞　有功賞牌　銅牌

大工道具打刃物各種

刃物の利鈍ハ仕事の遅速ニ関係ヲ及ぼす者也殊ニ食物ニ用ル時ハ味ひの善悪しを生ずるゆへニ是ヲ使用せらるゝ諸君ハ注意すべきことなり弊家ハ祖先より傳授ヲ受なる自家獨得の鍛錬法ニ近世大ニ改良の加へ其製品ニ一層の進歩をあらハしたるハ世間の評さるゝ處ニして此ニ於の是ヲ博覧會ニ出品して常ニ優等の褒賞ヲ賜り吉國作の利器ト到ル處ニ賞讃せられざるなし是ハ必竟得意諸君の仕入を願ひ程と深ク感謝する處なり希クハ将来尚一層の御愛顧を垂れ玉らん事ヲ伐

敬白

卸商　吉國

登録商標

吉國

大阪市博労町
東堀川口入
八幡善三郎

滋養佳品　パン食ニ必要
自製(ジヤム)ノ義ハ事業日浅シト雖モ本縣菓物精熟ヲ撰製出スルモノナレバ江湖ノ稱賛ヲ得且第三回博覧會ニ於テ褒賞ノ榮ヲ賜リ追々需用ノ數相増参鳴謝候猶ヲ(ジヤム)ノ義ハ數種御座候間陸續御[illegible]ノコトヲ偏ニ奉希上候

山梨縣甲府市櫻町三丁目
物産菓物ジヤム製造本舗
長養亭　渡邊彌吉

金賞牌　GOLD MEDAL　TO BE KEPT IN A DARK COOL PLACE.　PRIZE MEDAL　有功賞

日かげの涼しき處におくべし

978

品質精良

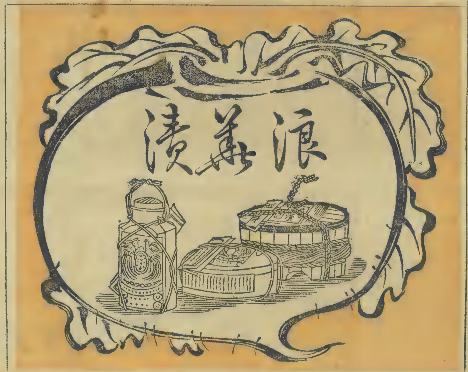
中

保証之章

浪華第一名産浪華漬廣告

一弊家ニ製スル漬物ハ祖先ノ發明ニシテ數百年前ヨリ販賣致シ来リ候處益盛大ニ至リ今ヤ販路大ニ開ケ全國ハ勿論海外ニ迄輸出スルニ及ヘリ然ト雖モ本品其名稱ノ漠然トシテ原因ノ名稱ナキニ因メリ茲ニ本年四月辱モ從一位内大臣公爵三條閣下ヨリ浪花漬ノ銘ヲ賜ル其名ヲ附シ以テ第三回内國勸業博覧會ヘ出品スルニ則チ有功賞牌ヲ下賜セラレタリ是全ク原質ノ精選ト製造ノ巧妙ニ依レリ實ニ弊店ノ榮譽是ニ過ンヤ以来浪花漬ト改稱シ愈以テ原品及製造ニ至ル迄注意不怠一層器物ニ改良ヲ加ヘ遠國ヘ御遞送ニ貯蔵ノ宜キト輕便トヲ量リ鑵詰罎詰等ヲ調製シ御進呈ノ御都合ニ依リ体裁能仕立速ニ御好ニ可應候間多少ヲ不論陸續御購求アランヿヲ奉希望候也

明治二十三年四月



大阪天王寺西門北字六萬躰
浪華天王寺蕪粕漬元祖
六萬堂
大阪府立博物場第四室　出品販賣場

TOMO. BINGO. JAPAN

HOMESHU

大日本備後鞆港

十六味 地黄 保命酒

入江豊三郎製醸

MANUFACTURD BY T. IRIE

HIMEJI HONKE YAMAYASEIZO

姫路 本家 商標 製造

姫路市小利木町池田家

發賣本舗 東京市京橋區八丁堀町四丁目 中山忠吉

特約大發賣 東京市京橋區銀座三丁目 大星 松澤八右衛門

登録商標 用法注意

ヘルス 定價

六合分 十六錢 一升二合分 廿八錢 三升分 六十五錢 六升分 一圓二十錢

郵税 二錢 二錢 四錢 八錢

ヘルス發賣元

東京市神田區鍛冶町七番地 M 森田商店

大阪心齋橋筋南久太郎町北入 M 森田支店

EXAMINED AT THE BOARD OF HEALTH IN THE HOME OFFICE,

"HEALTH."

PRICE	
16-cent.	6 go
28 "	12 "
68 "	30 "
1.20 "	60 "

This Health contains more nutritive materials in it than in Milk, that it contains sweet oder and taste, that there is no slighiest danger, for the change of its taste when kept long and that it is an indispensable nutritive material for every health seeker consequently, are only testified by noted physicians after careful and long use.

DIRECTIONS.

In using add boiled water to Health at proportion of shaku of the former to a spoonful (measure with the spoon attached to the can) of the latter. At times, the proportion may be slightly changed, and suger and pepper may be apded to season it.

For Infants:—When Health is used for infants the same amount of best refined suger must always be added.

1st Month, dilute 2 spoonful of Health in 1 go and 2 or 3 shaku to 4 or 5 shaku of boiled water.

2nd Month, in 1 go to 1 go and 2 shaku.

3rd Month, in 8 shaku to 1 go.

Continue to decrease are gradually the amount of boiled water as the child grows elder, so that at the age of ten to twelve month, dilute 2 spoonful in 5 shaku to 8 shaku.

Use it dilute in water quite well and especially in the case of infants.

1 sho = 10 go. = 100 shaku. = 3970 gallon.

M| MORITA SHŌTEN.

No. 7, Kajicho Kanda, Tokyo.

一御蒔繪筆道具文まわし品々
一金銀色かわりふんけし品々
一喜貝平目(大一大二大三)めつき品々
一つは木すみ上下まきすゝ品々
一上中青貝いたみぢん貝品々
一うるしかんしつ色かわりい地品々
一會津うるししぶしきよしの紙品々

東京市本所區
小泉町三拾二番地
金銀地金商
清水安之助
蒔繪用具一式

賣扇庵製扇概目

紀念祭圖扇

都のにぎはひ

大極殿圖扇

千とせの面影

紀念祭協賛會認可

畫院土佐光武先生筆極彩色雁皮紙有職形美製都の賑ひ再版には富岡鐵齋先生記文

明治廿八年十月京都にて桓武天皇遷都千百年紀念祭擧行せらるゝに因り此兩品精製發賣す四方の雅客幸に御高評御購求あらん事を乞

○御末廣　○御檜扇　○諸流舞扇子　○金鵄勲章米僊先生畫扇
○書畫皆宜扇　○書畫料白扇　○書畫眞蹟扇　○京都名勝四季詠めの栞
○有職扇　○櫻品扇　○定家卿歌意繪扇　○書畫御揮毫必適之扇子
○御中啓　○秋七くさ扇　○茶家好扇　○婚禮其外諸慶賀用扇子
○雪洞扇　○御夏扇　○光琳百花扇　○時好適意匠扇種々製出
○大勲位晃親王殿下御歌美術學校教員榊原長敏先生畫春のにしき　○右之外大小諸式各種扇

京都六角通富小路西入北側 賣扇庵 宮脇新兵衛

神戸元町六丁目 本店

登録
商標

萬菓子

日本京都
姉小路車屋町
御菓子司
亀末廣家

京都市寺町通
二條北入
御菓子商
小川堂

商標

京紫野大德寺前
磯田製

飲料品
各種

シャンピン	上等小瓶壹本	金貳圓五拾錢
仝	並	仝壹圓五拾錢
葡萄酒	上等壹杯	仝貳拾五錢
仝	並	仝拾錢
ベルモット	仝	仝
ホートワイン	仝	仝
セリー	仝	仝
ブランデー	上等	仝拾五錢
仝	並	仝拾錢
ウイスキー	上等	仝
仝	並	仝
ジン	仝壹本	仝
ラム子	並仝	仝四錢
仝		仝貳錢

ジンジャエール	壹本	金六錢
ジンジャビール	仝	仝
レモンスカッチ	仝	仝
ソーダーター	仝	仝
レモチード	壹杯	仝四錢
オレンザサイダ	仝	仝貳錢
コヒー	仝	仝參錢

割引なき品

朝日ビール	大瓶壹本	金拾錢
仝	小瓶	仝拾錢
氷水	壹杯	仝壹錢
雪の花	仝	仝貳錢

第四回内國勸業博覽會場内
飲料販賣店
松陰亭

此切符御持參ノ方ハ裏面定價表ノ二割引ニテ可差上候也

御洲濱

本家
根元
京新町四條北入
御洲濱司
すはまほこ町
亀屋清次製

京都賣店
代價 十四錢

御 状

鮎粕漬

大日本
廣島縣
高宮郡可部町
藤半事
入江半兵衛製

鮒壽し

鮒壽し乃紀

夫れ鮒壽しハ近江の名産にして五月雨の頃鮒の腹く脂充ちたるものを撰みてこれを極精の飯に漬け置き数ヶ月の久しきを経て始めて用ゆるものなれば其風味の佳なるは勿論又これをいつきし湯に暫く浸して用ゆれば腹部を強壮にし又酒毒を消すの能あり且風味の久しきに亘るの故に遠國へ進物等にも頗る良品なり仍て猶一層精製に注意し倍江湖諸彦の愛顧を希ふ所なり

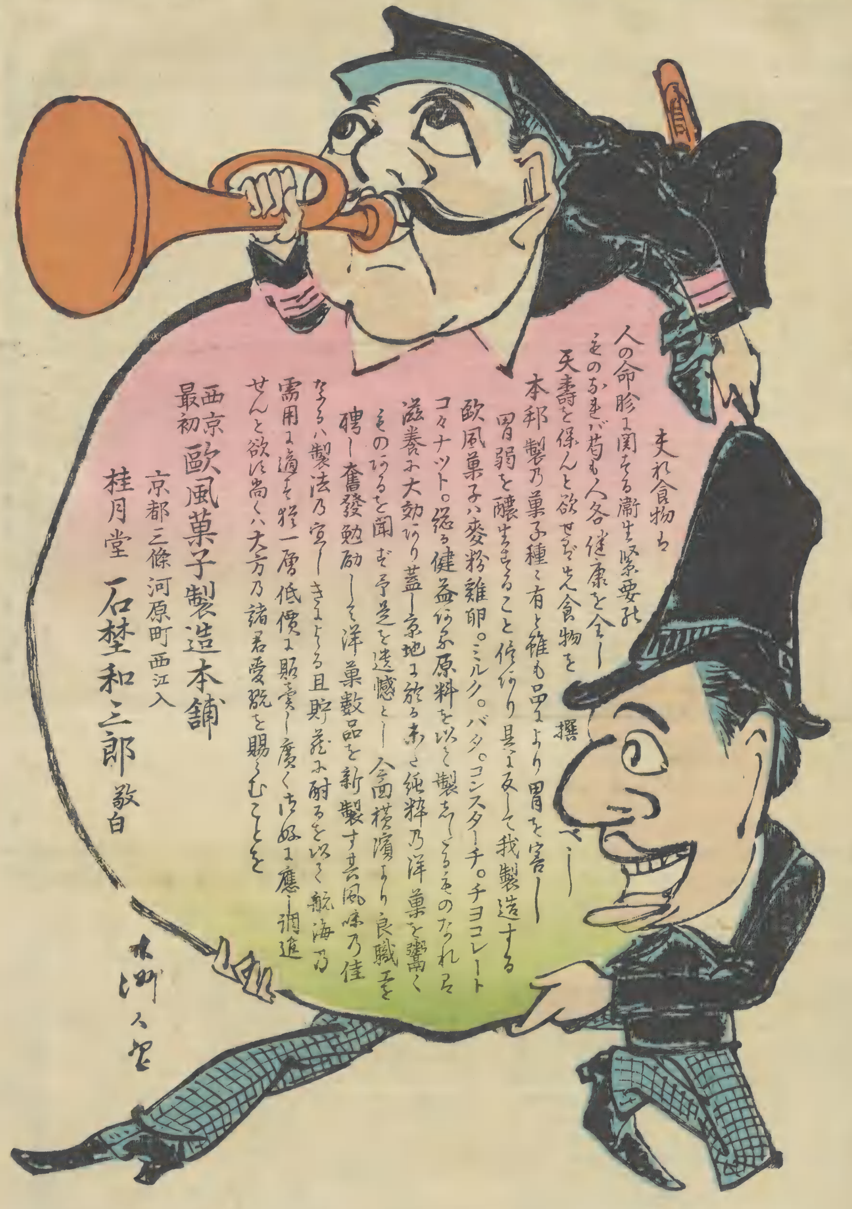
近江石山
柳屋製

京都室町
御菓子司
黒川光正製

京都二条室町
御菓子司
黒川光正製

京都名產
於多福豆
濱口製

商標
大
豊州名產
大田雲膽
大日本帝國豊後國佐賀関
太田美之吉 精造
百臨之王
酒茶飯互用
Ota Uni.


夫れ食物ら
人の命脉に関する衛生緊要なれ
ものなれバ苟も人各健康を全し
天壽を保んと欲せバ先食物を撰べし
本邦製乃菓子種々有と雖も品により胃を害し
胃弱を醸すること往々ありて我製造する
欧風菓子ハ麦粉雞卵。ミルク。バタ。コンスターチ。チヨコレート
コヽナツト。総て健益なる原料を以て製したるものなれバ
滋養に大効あり蓋し京地に於ける未だ純粋乃洋菓子を鬻く
ものあるを聞かず予是を遺憾とし今回横濱より良職工を
聘し奮發勉励して洋菓数品を新製す其風味乃佳
なるハ製法乃宜しきによる且貯蔵に耐るを以て航海乃
需用に適す殊に一層低價に販賣し廣く嗜好に應じ調進
せんと欲ば尚く八方乃諸君愛顧を賜らむことを
西京最初 欧風菓子製造本舗
京都三條河原町西江入
桂月堂 石埜和三郎 敬白

OFFICINELL BRANDY.
農商務省登録商標
TRADE MARK
薬用ブランデー
MANUFACTURED BY
ASAKUSA TOKIO
東京市日本橋區橘町四丁目
發賣元
中村喜平次

鯛味噌
佐々木

品質精良
中
保證之章

美濃國多藝郡高田町土屋八十郎製
養老酒
YORO SYU
MANUFACTURED BY TSUCHIYA MINO JAPAN

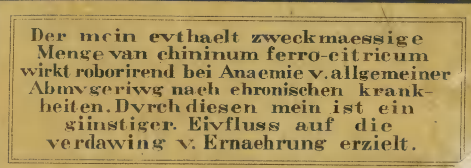
登録商標
中
補血滋養
山梨赤白葡萄酒
PREPARED BY
SATOYOSHI
YAMANASHIKEN. JAPAN.
大日本山梨縣
醸造元
里吉安太郎

TRADE MARK
商標
最上
醤油
玉
SAIJIYO SAUCE.
肥後國
熊本市迎町
玉坂屋八郎次

夫れ食物ハ
人の命脉に関する衛生の緊要なり
そのあまたある中にも人各健康を全くし
天壽を保んと欲せバ先食物を
撰
本邦製の菓子種々有と雖も常より胃を害し
胃弱を醸するのこと往々有り是に反して我製造する
欧風菓子ハ麥粉鶏卵。ミルク。バタ。コンスターチ。チヨコレート
コヽナット。総る健益ある原料を以て製するものなれバ
滋養に大効あり蓋し京地に於る未た純粋の洋菓を鬻く
ものあるを聞ざるを遺憾とし今回横濱より良職工を
聘し奮發勉励して洋菓数品を新製す其風味の佳
なるハ製法の宜しきによる且貯蓄に耐るを以て航海の
需用に適せり一層低價に販賣し廣く吉好に應し調進
せんと欲れバ尚くハ大方の諸君愛顧を賜らむことを
西京最初
欧風菓子製造本舗
京都三條河原町西江入
桂月堂 石埜和三郎 敬白

OFFICINELL BRANDY.
農商務省登録商標
TRADE MARK
藥用ブランデー
MANUFACTURED BY
I. Ite
ASAKUSA TOKIO
東京市日本橋區橘町四丁目
發賣元
中村喜平次

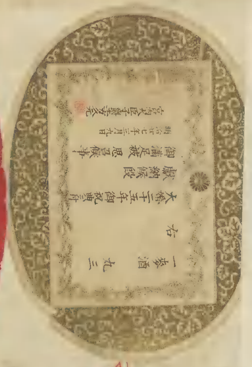
鯛味噌
蒲鉾
佐々木


Der mein evthaelt zweckmaessige
Menge van chininum ferro-citricum
wirkt roborirend bei Anaemie v. allgemeiner
Abmygeriwg nach ehronischen krank-
heiten. Dvrch diesen mein ist ein
günstiger. Eivfluss auf die
verdawing v. Ernaehrung erzielt.

美濃國多藝郡高田町土屋八十郎製
養老酒
YORO SYU
MANUFACTURED BY TSUCHIYA MINO JAPAN

補血滋養
山梨赤白葡萄酒
PREPARED BY
SATOYOSHI
YAMANASHIKEN. JAPAN.
釀造元
大日本山梨縣
里吉安太郎

TRADE MARK
商標
最上
醤油
玉
SAIJIYOSAUCE.
肥後國
熊本市迎町
玉城屋八藤瀬



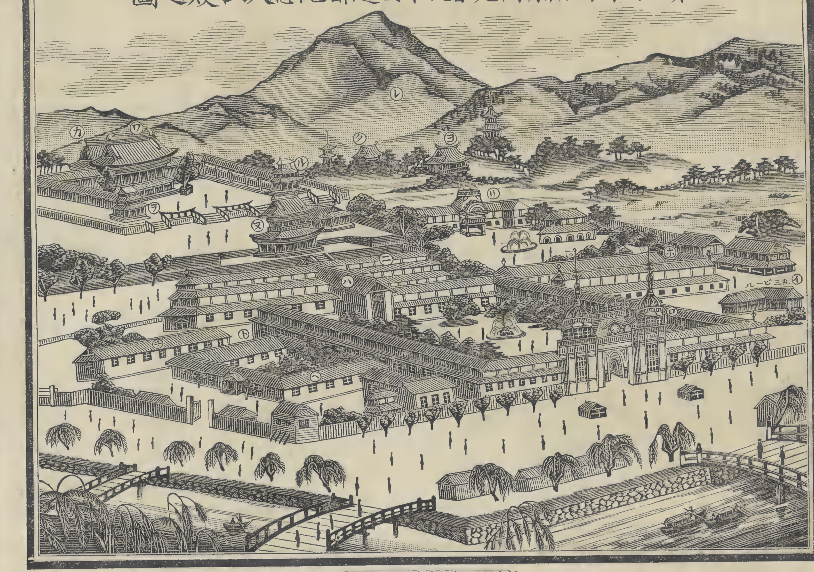
…に貯ふべし

清酒春駒印は酒質醇良なるを以て大に聲價を内外に發揚し既に左の褒賞及試驗の報告を受領せり之れ弊社の名譽とする處也

○第二回内國勸業博覽會褒賞
○第三回内國勸業博覽會有功賞
○西班牙國萬國大博覽會銀賞
○佛蘭西國萬國大博覽會銀賞
○米國閣龍世界大博覽會二等賞
○大阪府工產物品評會一等金賞
○大阪府堺市製產物品評會一等賞
○第二回堺市製產物品評會有功賞
○第三回堺市製產物品評會名譽賞
○富山縣富山市設博覽會銀賞牌
○農商務省地質調查所酒質證明
○醫科大學教授丹波敬三君酒質證明
○大阪商品陳列所分析部酒質證明

釀造
發賣元
鳥井合名會社
大阪府堺市甲斐町西二丁

第四回内國勸業博覽會及平安遷都紀念大極殿之圖



◉第四回内國勸業博覽會場内水族館南隣ニ休憩所アリ

登録
商標

大嘗式獻納
陸軍御用品

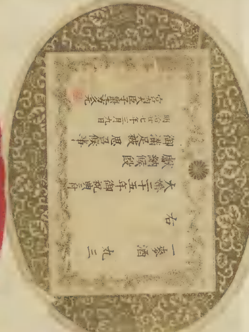
THE "MARUSAN-BEER" IS THE BEST BREWED OR SOLD IN JAPAN AND HAS A WORLD WIDE REPUTATION FOR PURITY AND WHOLESOME NESS.

東洋一ノ覇國ハ大日本帝國ナリ
洋酒界ノ覇王ハ九三ビールナリ
其武威ノ忠勇偉勲ハ海外ニ輝キ
其香味ノ善良ハ宇内貴顕ノ賞賛ヲ得タリ

釀造元 大日本愛知縣半田港 九三麥酒釀造所

三都發賣所
大阪西區北堀江通三丁目 九三麥酒大阪支店
代理店 京都下京區新町四条下ル 岡島弗三郎
代理店 東京靈岸島富島町 中井半三郎
其他全國至ル所ニアリ

イ 九三麥酒休憩所
ロ 工藝館
ハ 農林館
ニ 器機館
ホ 水產館
ヘ 事務所
ト 審查室
チ 荷解場
リ 美術館
ヌ 應天門
ル 蒼龍樓
ヲ 白虎樓
ワ 大極殿
カ 平安宮
ヨ 黒谷
タ 眞如堂
レ 比叡山



江湖愛顧各位御中

此ノ龍印蜻蜓赤葡萄酒ノ有功無害ナルハ内務省衛生試驗所分析ノ結果海陸軍藥劑官及ヒ有名ナル各病院長等ノ證明スルガ如ク其ノ卓功絶倫ナルハ他ノ淡々濃味ナキ葡萄酒トハ雲泥ノ大差アルハ江湖愛顧諸彦ノ已ニ業ニ熟知シ玉フトコロナリ然ニ今般ノ發賣ハ專ラ諸彦ノ愛顧ニ報ヒン爲ニ殊ニ定價ヲ三拾三錢トシテ非常ノ勉强仕居候處這般更ニ特別ノ大憤發ヲ以テ諸彦ノ厚意ニ酬ヒ且ハ鎭西館開館式ノ祝意ヲ表セン爲ニ弊店ニ於テ大瓶一瓶已上御購求被成下候諸彦ニハ原價ヲ殺ギ本月一ケ月間博覽會入場券料（金五錢）ヲ進呈仕候間不相變陸續御來求アランコトヲ切望候也

明治二十八年五月三日

第四回内國博覽會場内
鎭西館大分縣
起業會賣店

三條通麩屋町東入
起業會出張店

（京都河二下中川活版所印刷）

第四回内國勸業博覽會及平安遷都紀念大極殿之圖

大阪長堀字和島橋南詰沖野堅印行

ハ 農林館
リ 美術館
ニ 器機館
ヌ 應天門
ホ 水產館
ル 蒼龍樓
ヨ 黒谷
タ 眞如堂
レ 比叡山

◉第四回内國勸業博覽會場内水族館南隣ニ休憩所アリ

登録商標

大婚式獻納
陸軍御用品

"MARUSAN-BEER" IS THE BEST BREWED OR
N JAPAN AND HAS A WORLD WIDE REPUT-
FOR PURITY AND WHOLESOME NESS.

大日本愛知縣半田港
釀造元
丸三麥酒釀造所

東洋一ノ覇國ハ大日本帝國ナリ
洋酒界ノ覇王ハ丸三ビールナリ
其武威ノ忠勇偉勲ハ海外ニ輝キ
其香味ノ善良ハ宇内貴顕ノ賞賛ヲ得タリ

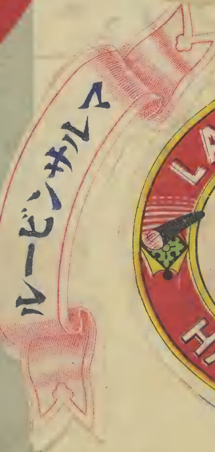
大阪西區北堀江通二丁目
丸三麥酒大阪支店

代理店
京都下京區新町四条下ル
岡島冊三郎

東京靈岸島富島町
中井半三郎

三都發賣

ル所ニアリ

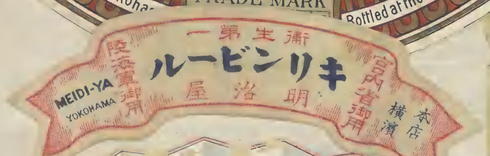


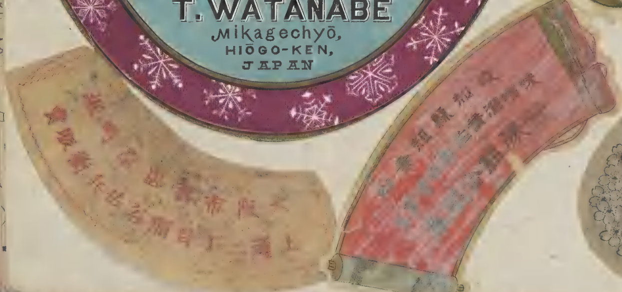
…に貯ふべし

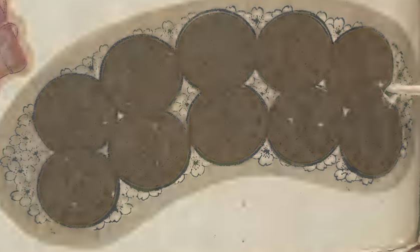
清酒春駒印は酒質醇良なるを以て大に聲價を内外に發揚し既に左の褒賞及試驗の報告を受領せり之れ弊社の名譽とする處也

○第二回内國勸業博覽會褒賞
○第三回内國勸業博覽會有功賞
○西班牙國萬國大博覽會銀賞
○佛蘭西國萬國大博覽會銀賞
○米國閣龍世界大博覽會優等賞
○大阪府工產物品評會一等金賞
○大阪府堺市製產物品評會一等賞
○第二回堺市製產物品評會有功賞
○第三回堺市製產物品評會名譽賞
○富山縣富山市設博覽會銀賞牌
○農商務省地質調查所酒質證明
○醫科大學教授丹波敬三君酒質證明
○大阪商品陳列所分析部酒質證明

釀造發賣元
大阪府堺市甲斐町西二丁
鳥井合名會社

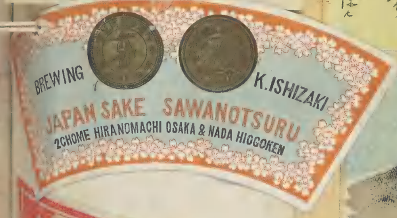


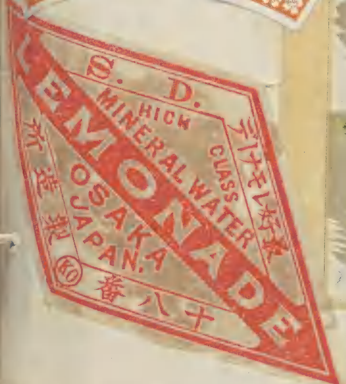




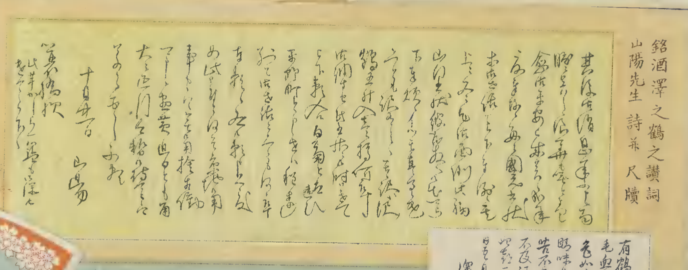
澤の鶴の來歴

遠祖石崎喜兵衛ハ平素敬神の志厚く享保年間のことなりとや一とせ伊勢の大廟に参拝の途次志摩國伊雜の宮に参拝せしが其社の縁起に天照大神御鎮坐の初め伊雜の芦原に鳥の啼音頻りなる故倭姫命是を怪み思ひ給ひて大幡主命と舎人紀麻呂とに見せしめ給ふに本は一と本にして末は千穂に溢れる稲を白き真鶴の咥て鳴居たり倭姫斯と聞せ玉ひて事問ぬ鳥すら田作りて太神に奉るなれば深く優み賜ひて彼稲を伊佐波登美の神に抜穂に抜しめ大幡主の女乙姫に清酒に造らしめ始て神酒を奉る彼稲の生し所を千田と名け此所に伊佐波登美の宮を造りて天照大神の攝社とし彼鶴を大歳の神と号し旨を記し有ことを披見て心に感じ其地の米を取寄せて始て酒に醸し且つ家号を米屋と云ふは有ればやがて醸酒を※澤の鶴と号け且此縁起の中に大幡主の女乙姫に清酒を造らしめて始て御酒を奉ると有る故事に因み夫より毎年十二月三十日





大阪市東區平野町二丁目	石崎喜兵衛　電話二百〇七番
兵庫縣攝津灘新在家	同　醸造所
大阪市西區玉造橋南詰	同　支店　電話二百五十二番
東京市日本橋區元大阪町	同　支店　電話四百八十八番
仝　麹町區三番町	同　支店　電話四百九十五番
仝　芝區愛宕町二丁目	同　支店　電話四百九十六番
仝　神田區五軒町	同　支店　電話四百九十七番
東京市京橋區三十間堀二丁目	同　支店　電話百八十五番
京都市烏丸通四条	同　支店
越前敦賀大金町	同　支店
大阪市南區周防町堺筋	米豊酒店
仝　ざこば茂左衛門橋北詰東	米久酒店
下総國行徳町	石崎醤油醸造所
東京元大阪町	同　醤油店



本品ハ普通木綿織機ノ「ヒ」ヲ迅速ニ往來セシムル器械ニシテ組織ノ際本品ニ付スル麻絲ヲ左手ニテ引クキハ機筐中ニアル「ヒ」ハ右ヨリ左ヘ又左ヨリ右ヘト自由ニ往來ス俗ニ之ヲ「チヤンカラ」ト稱シ此ノ器ニテ織リ成スキハ通常機ノ四倍或ハ五倍ヲ織リ成セル輕便有益ノ器械ニシテ製造者ノ最苦心大井ニ改良シタル特ニ價ノ廉（正價四拾八錢）ナル他ニ其比ヲ見サル良器ナルヲ以テ需用者ノ增加シタルニテ知ルヘシ他ニ類似品數多アリト雖モ何レモ本品ノ右ニ出ルモノナシ諸彦一品ヲ購求アリテ御試用ノ上輕便ト有益ナルヿヲ知リ給ヒ陸續御注文アランヿヲ乞フ

製造出品人　三河國幡豆郡西尾町大字天王　神谷吉彌

賞牌　有功

青森名産

元祖

滋養昆布羊羹

滋養昆布菓子 合浦浪乃花

滋粮合浦昆布飴

翁昆布

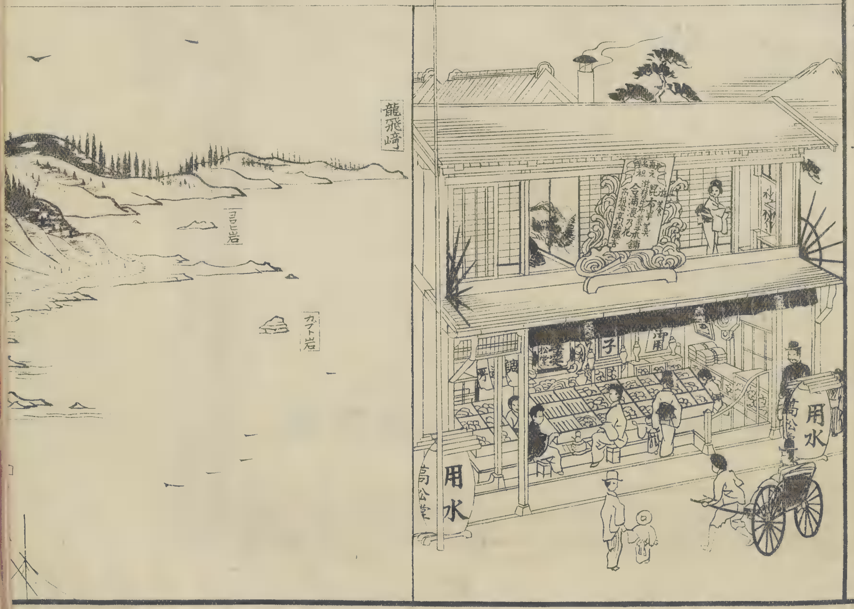
辻うら昆布

製造本舗 高松堂 青森港大町三丁目國立銀行向 高松藤吉

弊舗にて製造せる昆布羊羹と合浦浪乃花は原質を三厩名産の昆布を以てす此昆布たる其質頗る佳良にして内地各所の産に超越せるのみならす彼有名なる北海道天塩産の昆布をも凌駕し量乃滋養分と一種無量の甘味を含むを以て世に三厩の菓子昆布と称せらる弊舗思へらく天然の原質にして尚ほ乃甘味あり之に人工を加へ精製して菓子となさば世間未曾有なる佳良乃珍品を出し得べしと爾来数年間百般乃工夫を凝らし幾多の試験をかさね遂に斯の二佳品を製し得たるを以て客年試みに世に発売せしに幸ひに時好に適ひ愛顧諸彦の需要日に月に増加し日夜勉強製造するも尚供給の不足を感ずるに至れるは実に弊舗の光栄にして深く鳴謝する処なり抑も原質昆布の産地なる三厩駅は陸奥の北端に位し浪航する要澤に天然三厩の形をなせる巨巌屹立して頗ぶる偉観を呈し蓋し駅名の起りもまた此に因る也池、岩鎧岩等形をもて名づけたる奇巌怪石碁布羅列し北望すれは函館松前の諸山指顧の間にありて風景佳絶旅客をして真に仙境に入るの思ひをなさしむ此の地たる啻に風景と海産に富むのみならず亦古へを徴証するの一名区といふべし往昔文治年間源の義経衣川の館を逃れ主従微行して蝦夷に渡航せるの途次此地に来り其部等喜三太の家に暫く潜み居たる時護身の為め髻中に納め来りし観世音の霊像を[illegible]龍のある山上に一字の草堂を結びて彼の霊像を安置し数種の物件を留めて蝦夷に去れり後人薩摩の霊験と義経の遺徳を仰ぎ彼の草堂の規模を大にして一寺を建立し名づけて龍馬山義経寺といふ爾来物換り星移り六百有余歳を経たるといへども堂宇儀然として遺物尚寺中に存し行客をして大に懐古の情を起さしむ[illegible]今弊舗製造二佳品の成る所以のもの[illegible]述るのみ

高松堂

国東津軽郡 古来松前に ありて其海



本品は土佐國長岡郡十市村名産楊梅子の津汁に毫も變化を與へずして精煉したるものにして楊梅子特有の[illegible]美色を全存し恰も楊梅子を啖[illegible]す之を夏期の飲料として用ゆれは能く渇を止め中暑を豫防し消化を進め精神を爽快ならしむ加之ならず熱性諸病、僂痲質斯、痛風、便秘、多血家、酒客等に在て常にこれを用ゆる時は能く躰質を改良して健寧を致すの大効あり爾他姙婦産婦及ひ航海者等に無比の好飲料なり
本品[illegible]を冷水或は温湯一合に和し用ゆ

京都賣捌店
第　號
正價
京都書籍商組合

登録
胃弱症の特効剤
健胃 胃散
本家 大阪今橋浪花橋角 衛生堂
五日分拾五服 定價金拾錢
製剤者 齋藤彦三郎

JAPANESE BITTER

明治十一年中始て是を製する所の良剤にして平常服用すれハ胃を健かにし食物の消化を助け身体を強壮にす故に流行病等の患ひを除くの効あり

健胃良剤 ビットル

能く水中の蟲害を除き精神を快くし炎熱を消す夏日の旅行にハ尤も必用の良剤なり酒後又ハ平常肉食をする人ハ必す服用するを妙とす

本家 東京麻布網代町 松田藤吉謹製

HOKUSHIN BRANDY

北辰武蘭地

Brewed Omichika Hirai

大日本帝國 北海道小樽港

製造 平井臣親　北洋堂　賣捌 好富屋

信香町九番地　色内町十五番地

OTARU, HOKKAIDO. EMPIRE, JAPAN.

折ニ歐ブランデーハ多年ノ経験ヲ以テ諸大醫先生ト謀リ原料純良ナル佛國製白葡萄酒ニ鐵剤ハ適當ノ薬品ヲ配合シ精製シタルモノナレバ食物ノ消化身体ノ営養古今比類ナシ故ニ薬用ブランデート稱シ弊舗發賣ノ良酒ナリ茲ニ聊カ営養上ノ大略ヲ陳述スルニ普通ノブランデート違ヒ大ヒニ甘味ヲ含有シ美味未曾有ナル良酒ニシテ飲酒欲セサル人ニテモ能ク口ニ適ス其効タル胃ノ消化ヲ強クシ血液ノ不足ヲ補ヒ夏期ハ悪性傳染病ヲ防禦シ冬期ハ身体ノ温度ヲ増進シ自ラ精神ヲ鼓舞シ快樂ヲ覚ヘシム故ニ常ニ飲用セバ疾病者ハ全癒ノ[illegible]ヲ期シ壮健者身体ヲ保全ナラシムルコヲ保證ス願クハ[illegible]度宜シク御試用ノ上御佳評アランヿヲ

日本石油株式會社狀況書

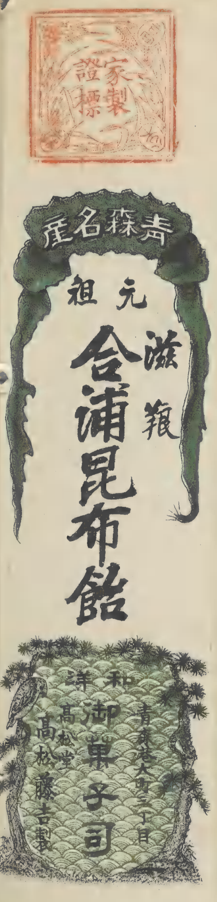
新潟縣越後國三島郡尼瀨町
日本石油株式會社

緊急廣告

今般　桓武天皇平安遷都千百年紀念祭奉祝御執行相成候に付京都に於て本年四月一日より同年七月三十一日にて第四回內國勸業博覽會開設相成に付宮城縣仙臺名產之埋木細工擴張之爲め各位之便宜を斗り博覽會場近傍に出店を設け精良品を撰出し精々勉强廉價を以て販賣仕候間多少不問陸續御購求有らんことを希望す

明治廿八年四月

京都市上京區仁王門通，古川町西入
仙臺名產埋木販賣出張店　開仙堂



産地乃故事を夥言ともものなきを
購求なる此諸彦に於て斯かる名区に
古へを忍び此佳果を賞翫せらるまで
更に一層の風致を添ふるの趣味あらんま
と我儕なるものを以てなり
明治廿六年十二月某の日陸奥外の濱乃かたほとり
青森乃港なる大町の市人高松堂の侶
謹しみて識るす

重ねて大方に謹告す

弊舗製造乃滋養昆布羊羹ハ去る明治廿二年四月中の発明にして同合浦浪乃花ハ明治廿六年五月中に始製に係り共に甘味優美にして滋養分に富みたる珎菓なれハ既に大方億兆愛顧諸君子の知るところなりしめしに安あまきハ今更敢て喋々冗贅弁を要せに依て弊舗ハ益営業乃規模を擴張せんが為め右二佳品製造の余暇をもつて絶えに新工夫を凝らし数十回乃試製を重ねたる明治廿七年四月よりハ更に合浦昆布飴および翁昆布これら昆布乃三佳品製造法を発明し其発売を試みしに珎客にして美味なりし多量の滋養分を含蓄したるをもつて忽ちにして江湖乃好評を博し発売以来日尚浅しといへども従来発売の二佳品と共に遠近各地より陸続御購求乃恩顧を辱ふするに至れり弊舗乃光栄何事かこれに加へん故に弊舗ハ聊か報恩乃微志を表せんが為め店頭乃構造および装飾を改良し尚将来弥製法に工夫を加へ以て顧客諸君子乃光臨を待つ希くハ大方乃諸彦弊舗の微志を捨玉はず旧に倍し益御愛顧乃恩栄を垂れ玉はんことを切望す

因みにいふ近来世間弊舗製造の佳品に類似乃売品のあるを認む御購求の際御注意あらんことを望む

明治廿七年七月一日改正　仝年十月再版

青森港　近藤石版所　印行

日本石油株式會社製造石油販賣廣告

◉蝙蝠印火止石油の五功

（一）華氏百十五度以上の熱度に達せざれば引火せす實に安全なり（二）火光強くして燃油の減量少く最も德用なり（三）寒中燈心を凍結し光力を減ずると無く甚だ燦明なり（四）無垢透明なるが故に燈器を汚穢せず頗る清潔なり（五）燃燒の際無煙無臭なるを以て衞生上全く無害なり

◉蝙蝠印特別安全石油の効用

此安全石油は特別に精製せる者にして品質の精良卓絶なるは勿論華氏百五十度以上に熱せざれば決して引火せす無類安全にして危險の虞なきとは獨り本社の保證するのみならず已に使用せられし諸家の諒知せらるゝ所なり

◉本社の榮譽

第三回内國勸業博覽會に於て本社石油は品質の善良なると事業の進歩せるとを嘉みせられ進歩賞牌を拜受せり是本社の光榮とする所なり

第三回内國勸業博覽會褒賞薦告文

海面に油田を開拓し以て遺利を興す精油の品質も亦善良にして發火の點較々高し且新器械の設置を謀る其進歩嘉賞すへし

石油の効用

燈用に供する燃料にして火光鮮明價格低廉諸般に亘りて經濟的なるは石油に若くものなかるべし又機械類の腐蝕を防せき其運轉を滑らかにする油類も石油より製する機械油を以て最も善良なりとす維新以來石油の輸入年を追ふて增加し今日に在ては米國若くは魯國より輸入する者一歲殆んと壹千萬圓の巨額に達せり此の如く內國需要の隆盛に至りたるは石油の効用か世人に周知せられたるに由るものにして誠に賑はしき次第なりと謂ふべし

日本石油株式會社の由來

石油の產地は本邦各所に散見するにも拘はらず徒らに外來の供給容易なるに甘んじ之を採堀するの業を起さゞるは國家の富源を暴殄するものとこそいふべけれ山口權三郞、內藤久寬、牧口莊三郞、本間新作、等曾て之を憂ひ明治廿一年二月卒先して本社を創設し先つ越後國三島郡尼瀨町海面に鑛區を撰定して其埋立と共に採堀の許可を得たり猶又農商務省に技師の派遣を乞ひ各地巡視の上油田を撰み以て試堀に從事し漸次其規模を擴張し將來斯業をして隆盛ならしめむことを計畫せり其採堀方法の如きも從來の人工手堀にては僅かに六百尺內外に達するに過ぎずして深く數千尺下タの油層を發堀する能はざるを以て明治廿二年山口權三郞をして洋行の途次米國油田鑿井機械の使用を實地に就き視察せしめ翌廿三年米國紐育府ピーヤス、アーテシヤン、エンド、オイル、サップライ會社より米國式鑿井機械及其所要の鐵管を購入し仝年十一月より尼瀨町海面の鑛區に於て之を裝置し堀鑿に着手し其技師としてはピーヤス會社の紹介により最も鑿井の業に老練熟達せるチヤーレス、ハースを聘したり爾來八百尺乃至貳千尺の深さに至り噴油するもの數井に及ひ前途大に望みを屬すべきに至れり

而して本社の資本金は初め拾五萬圓なりしが一層事業の擴張を爲さんがため明治廿七年四月の株主總會に於て之を增加し參拾萬圓となし更らに第貳回の募集をなせり將來尙ほ規摸を大にせんとせば一瀉千里幾百千萬の資本となすも亦可

なるべし蓋し本社の株式は壹株千圓とし重もに新潟縣屈指の富豪を勸誘して株主となしたれば目前の小利に汲々たるものはなく株式の移動極めて稀れなり此を以て基礎益鞏固となり愈遠大の企圖を畫するを得たり

明治廿七年一月株式會社たるの登記を受け今日現在の本社役員姓名を擧くれば左の如し

専務取締役　内藤久寛　　取締役　山口權三郎　　取締役　牧口莊三郎

取締役　本間新作　　監査役　久須美秀三郎　　監査役　山口萬吉

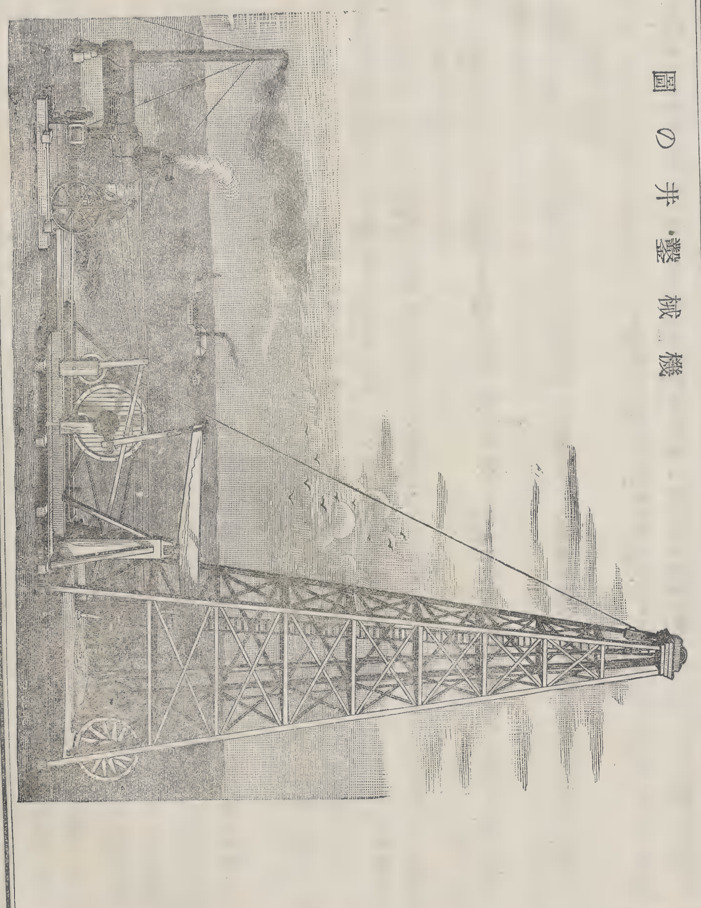
監査役　中野貫一　　支配人　渡邊忠

本社の事業

本社の事業は石油を掘採して燈油及機械油を精製し尚其殘餘を利用して蠟其他の副産物を製造し兼て鐵工所を設けて諸機械を製作し獨り本社の需用を充たすに止まらず併せて廣く世間に向て供給を爲さむとするに在り左に此の珍らしき事業の概要を述べむ

石油の掘採　先つ從來本邦にて行はれたる手堀の方法を述べむに最初方四尺に堀下ぐること數間其以下は方三尺に縮め直下に掘鑿す坑の周圍に板枠を裝置し土砂の崩壞を防きつゝ進むなり其掘鑿に使用する器具は即ち鶴嘴、鍬、井戸車、釣瓶桶、平打釣瓶繩、畚、鞴外に鍛冶道具一揃又大工道具一揃等を要し深サ六百尺乃至七百尺に達することを得堀鑿の景況は坑夫三名若くは四名をして一坑を擔任せしめ漸次堀進するに隨て坑夫を增加し終には貳拾餘人を要するに至る一日の堀鑿は平均貳尺内外なり其稼方は坑中堀鑿方一人にして勞働を貳時間宛と定め午前二回午後二回交代し都合八時間とす而して瓦斯發揚するを以て鞴を裝置し木樋を坑底に通し人力にて間斷なく空氣を送入す此方法にて施行し壹井の深サ六百尺に達するを得其費用は大約平均八百圓内外なり各地の油田は皆此方法を以て試堀を爲せり

又米國式機械鑿井の方法は地上に高さ七拾尺の矢櫓を組立て其傍らに鑿井機械幷蒸汽罐を裝置し矢櫓の上部には滑車を



機械鑿井の圖

安置して之にマニラ綱を懸け垂らし其下端に鐵錐を繫ぎ他の一端を轆轤に捲き着け蒸氣力に依て絶へず綱を上下し以て堀鑿す又時々底に瓣を具へたる鐵製のポンプを井底に下して破碎せる土石を取揚く斯の如くして堀進するに從ひ井と同徑の鐵管を卸ろし泥土の崩壞を防せき石油層に至て其工を停む鑿井機械類一式並据付諸入費共一井に付凡二萬圓を要す
本社は既に越後三島郡尼瀨町に拾ヶ所同國中蒲原郡新津町に一ヶ所及同國刈羽郡宮川町に一ヶ所此方式に依り盛に鑿井に從事し中には晝夜噴油するものあるに至れり尙進んで各國各所含油の地方に着手すべき準備中にて幾多の習業生は實地に就き技術を鍛錬し教師チャーレス、ハース、其他技師の人々孜々として倦まず頗る好成績を現はせり盖し本邦に於て三千尺以上を堀り得べき鑿井機械を使用したるもの本社を以て濫觴とす

石油及機械油の精製　製錬の事たるや其方法の如何に依り品質の精粗に雲泥の差を生するが故に本社は理學工學等の博士學士に就き其補助を受け且製煉には專門の技師をして管理の任に當らしめ學理に訴へ實驗に徵し多年研究の結果としてランプ油機械油共に舶來品に一歩も讓らざる製法を發見し日々許多の製造を爲し居れり今下に石油蒸餾釜並機械油精製の火熱蒸瀛機械等を圖寫したるは如何に本社か製造の改良に熱心鋭意するかの一端を示さむがためなり而して本社製造品の効用等は廣告文に詳かなり

副產物の製造　揮發油を製し又石油の殘滓より蠟を製出し或は其殘滓を燃料に供する等苟くも利あるものは悉く取て用ふることを勉めたり

鐵工所　新潟鐵工所と稱し新潟に支店を置き專ら石油鑿井並精製に關する諸器械及び其他瀛罐瀛機等の製造を營めり

石油鑛區

本邦の石油鑛脈は北海道に始まり秋田地方に亘り越後信濃兩國を貫ぬき遠江に達す其油田極めて廣濶にして將來絕大なる事業となるへきの望みあり今や本社は全國油田の測量に着手中なれば其詳細の狀況は追て之を江湖に報告する

の機會に到着すべし而して本社現在の採堀特許を得しもの合計五拾七萬四千〇八拾貳坪にして試堀は合計五百八拾六萬五千八百拾貳坪なり

本社の商標

本社の商標は蝙蝠印にして農商務省特許局に其登錄を受けたるものなり近頃蝙蝠印石油は品質の精良と本社の信用とにより大に各地に聲價を博したるを以て之が擬物を製造し不義の利に浴せむとするの徒尠なからず依て花主諸君は外箱に記せる登錄商標の文字及び罐の口金にある本社々名の刻印に注意せられ彼の擬物の爲めに欺むかれ玉はざらむことこそ願はしけれ抑本社が此蝙蝠印を商標と爲したる起因を記さんに誠に奇異なる事柄にぞありける曾て本社創立の際春寒料峭たる一夕發起人等打集ひ協議をなしつゝありしが忽ち一羽の蝙蝠翩々として室内に翔けり來るあり追へとも飛去ることなし則ち坐中の一人立て之を捕ひしに諸人喜んで其祥瑞を喝采せり盖國音蝠は福に通し今本社の首途に於てかゝる珍事あるは天の本社を惠する吉兆ならめと即ち取て以て商標となすことゝはなりたるなり

販賣に關する要領

販賣の概要を記さむに相場は本社にて之を定め毫も掛引を爲さず其販賣高一千函以上は賣高に從ひ割戻しの方法を設く故に賣捌を爲さむとする御方又は自用に充てむとせらるゝ向は本社に照會あれば本社は直樣丁寧に相場其他運搬方法等詳細の回答を爲すべし而して代金は惣べて現品引替に受渡をなすべき定めなれば左の諸銀行に宛て爲替を振込み其爲替券を本社に郵送さるゝときは正金と同一なる取扱を爲すべし

新潟市　新潟第四國立銀行　仝　第一國立銀行支店
越後國柏崎町　高田百三十九國立銀行柏崎支店　仝　柏崎銀行
越後國長岡町　長岡六十九國立銀行　東京市日本橋區茅場町　新潟第四國立銀行支店

仝日本橋區小舟町　安田銀行
横濱市　横濱正金銀行

本社所在の位置と郵便電信並運輸の關係

本社は新潟縣越後國三島郡尼瀬町地先の海面を埋立て事務所鑿井塲精煉所等を設置せり尼瀬町は出雲崎町に接續せる市街にして郵便電信は出雲崎局の配達區域內に在り郵便爲換小包郵便等惣べて同局にて取扱を爲せり兩町內には通運會社始め運搬取扱店少なからず港灣も又兩所に在りて遙かに佐州と相對し運輸最も便なり近年帝國海上保險株式會社は尼瀬町熊木八十太郎を代理店とし海上保險事務を取扱ひ居れり

販路幷運輸

本社石油の販路は目下專ら北陸各國信濃兩羽及北海道にありて信濃筋は直江津より鐵道の便に賴り其他沿海各港へは四月より十一月に至るの間和船の交通頻繁なるを以て運送少しも滞滯せず又北海道は蒸汽船帆前船等の往來に托せり冬季に及へば各地とも獨り蒸汽船に搭載すれども佐渡國夷港を經るもの多し
機械油は各地の鑛山鐵工所等の需要日に月に多きを加へ前途益顧客を增加するの有樣なり

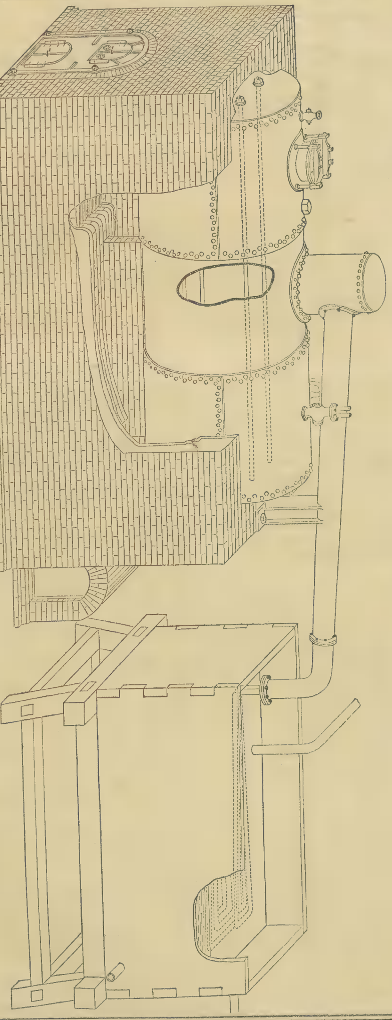
越後石油の區別

一時越後石油の評判宜しからざりしは資本の豐かならざる製造所に於て粗惡なる製造を爲し之を安價に買取りて各地に販賣する者あるに由ることにして甚だ遺憾の至に堪へず本社の蝙蝠印は廣告文に記したる如く實際使用したる經驗にては舶來油に劣るべき點は少しも見出すことなき良品なり實に本社は斯業に就ては東道の主人たる地位にある事なれば他の粗惡なる製油も漸次改良の緖に就かしめ大に本邦產出石油の信用を發揚せむことを企圖しつヽあるなり

本社の希望

上來數項の陳述に因て本社創立以來の狀況の概要を披露したり實に本社は石油事業を彌ゝ盛大ならしめ獨り我帝國の需要を充たすに止まらず進んて朝鮮支那に輸出し大に此黯黑なる國民をも照らし輝かし文明國生產物の餘澤に浴せしめむとの目的を抱負せり特に今や國勢一轉百般の工業勃然として隆興せむとする機先を察し機械油の改良精製を勉め充分の供給を爲さむとするが如きは本社が名譽ある責任とするところなり
且夫石油の產地は極めて廣く本社のみにて採堀し盡くすべきものにあらずして同業者の續々興起するあるに至るは邦家の爲め誠に賀すべき事なり而して本社か斯業に於ける聊ヽ一日の長あるを以て敢て先導の任に當らむことまた辭する所にあらず冀くは江湖の諸君石油事業の國家經濟に關する事決して輕からざるを察し本社の希望を贊助し永遠の愛顧を賜はれよ

明治廿八年四月



石油蒸餾器ノ圖

此蒸餾器ハ原油五拾石ヲ入レ現時米國ニ廣ク行ハルヽモノニシテ從來ノ蒸餾器ニ比スレハ大ニ薪炭ヲ節減シ一時ニ多量ノ石油ヲ蒸餾シテランプ油ヲ得ルニ好適ス其構造ハ殆ント蒸汽罐ト其趣ヲ同フスルモリベットハ縱横共悉ク二重トシテ其全躰ヲ堅牢ニシ且其火熱ニ觸ルヽ部分ハカチンターサンク、リベットナリ以テ鐵板ト一樣ニ熱ノ働作ヲ受ケシムルニ備フ此器ハ竈ノ兩側ト其中央ナル煉瓦ノ支柱トノ上ニ座シ火氣ハ焙格子ヲ離ルヽヤ中央支柱ノ兩側ヲ通シテ烟道ニ至ルモノトス

日本石油株式會社製造蝙蝠印礦油販賣廣告

◉礦油は諸器械の使用上必要欠くべからざるにも拘はらず本邦に在りては此種の油を用ゆるもの未た一般に亘らざるは其効用を了知するもの少なきに由るなるべし因て玆に礦油の特異なる効用を畧記すると左の如し

一礦油は脂肪油と異なり瀛箭(シリンドル)の中に用ゐて高熱度の蒸瀛に觸るゝも爲めに分解して腐蝕することなし

二礦油は脂肪油と異なり諸器械の軸襯(シャフト)其他の部分に用ゐて大氣の作用を受け酸化凝着して運轉を妨け其部分を腐蝕することなし

三礦油は脂肪油と異なり拭木綿又は紙片等に附着するも酸化作用に由りて熱を起し火を發するが如き危險なし

四礦油は特別の必要あるに際し脂肪油に混和し用ゆれは大に前述三種の憂を減殺す

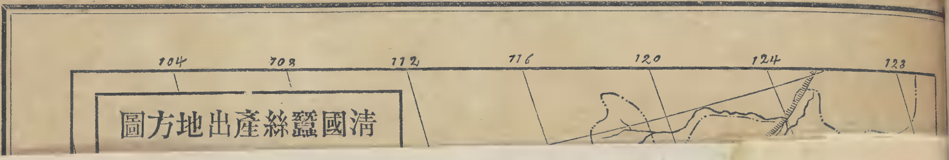
五礦油は脂肪油に比し其價低廉なり

本社製造の礦油は◉バルボリン油◉シリンドル油◉マシーン油◉エンヂーン油◉スピンドル油等にして此外注文に應し各種の製造を爲すべし而して本社製造蝙蝠印礦油は他の油と比較するときは左の三德の優るものあるを見るべし

一蝙蝠印礦油は一種特別の製法に係り蒸溜及精製等皆從來內國に實行せし如き不完全のものにあらされは更に不快の臭氣を有せす又毫も金屬を腐蝕するが如き物質を含蓄せす而して又其引火點は一定の度よりも高し實用上極めて**安全**なり

二蝙蝠印鑛油は需用するものゝ望に應して其色相、引火點及粘力を自在にするを得實用上頗る**便利**なり

三蝙蝠印礦油は防擦力(リユーブリケーチングパワー)強くして其代價の廉なること他に比類なし實用上甚た**利益**なり



日本園藝會主趣

邦國ノ進運ハ各般ノ事物ノ協翼戮賛ニ出テサルハナシ故ニ冥玄ノ観ヲ呈スルモノト雖モ之ヲ忽ニスヘカラサルモノアリ況ンヤ事ノ稍々顯著ナルモノニ於テヲヤ園藝ノ如キ即チ此レナリ然リ而シテ所謂園藝ナルモノハ總凡スレハ庭園種藝ノ術ニシテ一方ニ於テハ公園、私園ノ造營アリ一方ニ於テハ菓實、蔬菜、花卉及ヒ粧飾樹木ノ種藝アリ而シテ公園ハ公衆ノ就テ遊怡スル所ナリ菓實蔬菜ハ人生ノ食用品中重要ナルモノヽ一ナリ花卉ハ人生ノ娯樂中優雅ナルモノヽ一ニシテ加フルニ祝儀凶禮等ニ際シテ必要ナルモノナリ粧飾樹木ニ至リテハ並木ノ營理ヲ始メトシ等シク必要ナルモノナリ

退キテ我國園藝ノ狀況ヲ觀察スルトキハ庭園ト稱スルモノハ主トシテ私園ヲ事トスルモノヽ如ク菓實蔬菜花卉及ヒ粧飾樹木ニ至リテハ或ハ品質佳良ナラサルカ如キモノアリ或ハ種類僅少ナルカ如キモノアリ又或ハ產出僅少ニ從テ高價ニシテ需要ヲ充タスヿ能ハス爲メニ外國ヨリ輸入ヲ仰クモノアリ而シテ我國ノ菓實植物ニ至リテハ歐米人ノ需要スルモノ少々ナラサルナリ

此等ノ事項ヲシテ完全ナラシメンニハ必スヤ幾多ノ學藝ニ汲ミ幾多ノ技術ヲ施サヽルヘカラス然ラハ即チ園藝ハ一ノ學術ニシテ其範圍ノ廣キヿ知ルヘキナリ又之ヲ經營スルニ於テ一ノ事業トナシテ其業務ノ大ナルヿ知ルヘキナリ此等園藝ノ事項ヲ振起シ發達シ完全ナラシメンヿ此レ實ニ本會ノ目的トスル所ナリ

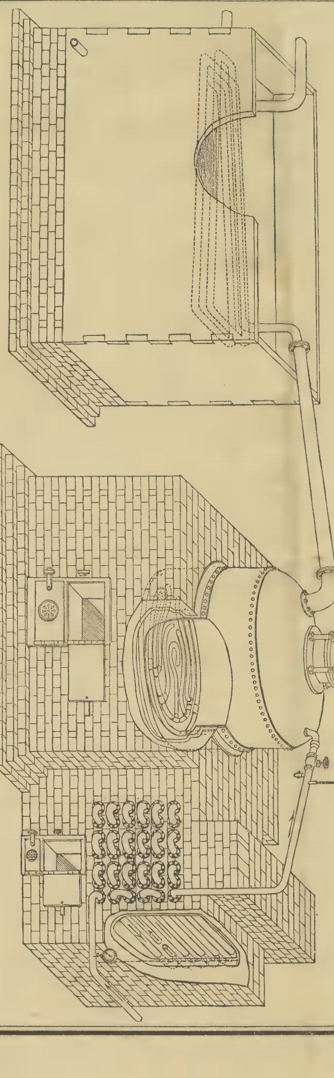
此等ノ事項ニシテ發達完全ニ至ルトキハ其一事ノミニテモ直接ニ邦國ニ益スル所ナキニアラサルヘク又間接ニハ他ノ事業ノ發達完全ヲ翼賛スルヿナキニアラサルヘシ

加フルニ一ノ注意ヲ要スルモノアリ園藝ノ如キ事業ハ工業又ハ商業ニ關スル事業トハ異ナリテ幾多ノ歲月ヲ貸シ而シテ後チ始メテ其効果ヲ望ムヘキナリ

今般桓
念祭奉祝
於て本年
十一日に
開設相成
木細工擴
り博覽會
品を撰出
賣仕候間
んとを希
明治廿
仙臺名
販賣

器械油蒸餾器之圖

此器ハ原油凡七石ヲ入レ適熱蒸溜ニテ蒸餾シ揮發シ易キ部分ヲ除クニ供ス歐米ニテ器械油ヲ製スルハ殆ンド皆此法ニ據ル如斯ニシテ製シタル油ハ悪臭ナク恰好ノ粘力アリテ防燃力ニ富ミ引火點高ク其品質ノ良好ナル火熱ヲ以テ蒸餾セシモノヽ比ニアラス圖中右側ノモノハ蒸溜ヲ熱スルノ竈ニシテ鐵管ノ繼手ハ皆竈外ニ設ケテ管ノ修補ニ便シ中央ノモノハ蒸餾器ニシテ茲ニ通スル蒸溜ノ冷却ヲ防カン爲メ火熱ヲ與フルノ火室アリ左側ノモノハ長キ鐵管ヲ備ヘタル冷桶ニシテ茲ニ餾出物ヲ凝縮スルニ備フ



東京市京橋區西紺屋町廿六番地　秀英舍印行

然リ而シテ園藝ノ振起發達完全ヲ計ルノ方法ハ固トヨリ一ニシテ足ラスト雖モ其ノ一捷徑ハ先テ園藝上ノ一機關ヲ設ケ幾多ノ士人協心戮力シテ其樞軸トナルモノナカルヘカラス此機關ハ即チ園藝上ノ協會ニアリテ存ス意フニ此機關ニシテ一タヒ成立セハ序ヲ追ヒ次ニ從ヒ効ヲ收メ實ヲ擧クルヿ難キニアラサルヘシ蓋シ報晨ノ効之ヲ卵ニ望ムヘカラス先ツ其孵化ヲ要スレハナリ此レ實ニ明治廿一年本會ヲ創立セシ所以ナリ

本會ノ設立以來日猶ホ淺ク從ヒテ有爲ノ時期ニ乏シト雖モ世上園藝ノ忽ニスヘカラサルヲ看悟シ來タルカ如キハ正サニ此レ我國園藝上前途ノ希望ヲ胚胎スルモノニシテ本會ノ成立ハ多少與カリテ力アリト謂フト雖モ敢テ過言ニアラサルヘシ殊ニ其間本會ノ誘掖ニヨル外國ト植物ノ眞輸出入ヲ開クニ至リタルモノアリ又本會ハ曩キニ北米合衆國及ヒ英吉利、佛朗西、伊太利、墺太利、西班牙、和蘭ノ諸國並ニ濠洲ニ於ケル園藝會植物園等ト交通ヲ開致シ爾來彼我相互ノ便益ヲ得ルヿ少々ナラサルナリ今此レヨリ益々大方諸君子ノ協賛ヲ辱フシ以テ本會ノ目的ヲ完成スルニ至ランヿ希望ノ至リニ堪ヘサルナリ

日本園藝會規則

第一章　名稱

第一節　本會ハ日本園藝會ト稱ス

第二章　位置

第一節　本會ハ事務所ヲ東京ニ置ク

第三章　目的

第一節　本會ハ本邦園藝ノ振起發達ヲ圖ルヲ以テ目的トナス

第四章　事業

第一節　本會ハ本會ノ記事及ヒ園藝ニ關スル記事論說通信等ヲ編輯シテ毎月一回雜誌ヲ發行シ之ヲ各會員ニ頒布ス

第二節　本會ハ資力ノ發達ニ從ヒ漸次左記ノ事業ヲ施行ス

一圖書室、標品陳列所等ヲ設置スル事
一園囿ヲ開設シテ諸植物ヲ培養シ兼子テ内外植物ノ種苗ヲ交換スル事
一博覽會、共進會、品評會等ヲ開設スル事
一園藝上ノ發明改良ニ功勞アル者ヲ褒賞スル事
一園藝上ノ問題ヲ提出シテ懸賞文ヲ募ル事
一諸外國ノ園藝會、植物園ト通信交換ヲ開ク事

前記ノ外必用ナリト認ムル事項ハ隨時之ヲ施行スヘシ

第五章　會員

第一章　本會ノ會員ハ左ノ三種ニ區別ス

名譽會員　　贊助會員　　通常會員

第二節　名譽會員ハ學術若クハ名望アル者ニシテ本會之ヲ推薦ス

但本會ノ議事ニ關セザルモノトス

第三節　特ニ本會ニ功勞アル者ヲ贊助會員トシテ本會之ヲ推薦ス

但本會ノ議事ニ關スルモノトス

第四節　通常會員ハ會費金トシテ毎年金壹圓貳拾錢ヲ出シ議事ニ關スルモノトス

但入會ノ時金拾五圓以上ヲ出ス者ハ自後出金ヲ要セス

第五節　通常會員タラントスル者ハ其住所、原籍、氏名、職業ヲ記載シテ本會ニ申込ムヘシ

第六節　會員中本會ノ妨害トナルヘキ所爲アルカ若クハ本分ノ義務ヲ欠ク者ハ之ヲ除名スヘシ

第七節　本會ヲ退會シ若クハ除名シタル者ト雖モ其既納ノ會費金ハ共ニ返付セス

第六章　章標

第一節　總テ會員ニハ本會ノ章標ヲ付與スヘシ

但其様式ハ別ニ之ヲ定ム

第七章　總裁

第一節　本會ハ　　　　ヲ推戴シテ總裁トス

第二節　總裁ハ本會ヲ總理ス

第八章　役員

第一節　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長一名　　副會長二名　　幹事三名

特撰幹事　　便宜之ヲ置ク　　書記

第二節　會長ハ本會一切ノ事務ヲ管理シテ之ヲ總裁ニ禀申シ兼テ諸役員ヲ監督ス

第三節　會長ハ諸集會ノ議長タルヘシ

第四節　副會長ハ會長ヲ補佐シ會長不在又ハ事故アルトキハ之ヲ代理ス

第五節　幹事ハ會長ノ命ヲ受ケ編輯、會計、庶務ヲ分擔整理ス

第六節　書記ハ主任幹事ノ命ヲ受ケ編輯、會計、庶務ヲ分擔ス

第七節　會長、副會長、幹事ハ在東京贊助會員、通常會員中ヨリ公選スル者ニシテ其任期ハ滿二年トシ特撰幹事及ヒ書記ハ會長之ヲ特撰ス

第八節　特撰幹事及ヒ書記ハ相當ノ俸給ヲ附與シ若クハ報酬ヲナスヿアルヘシ

第九章　評議員

第一節　本會ニ評議員六名ヲ置ク

第二節　評議員ハ在東京贊助會員、通常會員中ヨリ公撰スル者ニシテ其任期ハ滿三年トス

但次點者三名ヲ以テ其補闕員トス

第三節　評議員ハ會長ヨリ諮詢スル事件ヲ評議ス

但不在者アルトキハ補闕員ヲ以テ之ニ充ツ

第十章　學藝委員

第一節　本會ニ學藝委員若干名ヲ置ク

第二節　學藝委員ハ會長ノ特撰スル者ニシテ其任期ハ滿三年トス
第三節　學藝委員ハ會長ヨリ委囑スル事件ヲ調査ス
第四節　學藝委員ハ調査ノ繁閑ニ由リ相當ノ報酬ヲ附與ス

第十一章　通信委員

第一節　本會ニ通信委員若干名ヲ置ク
第二節　通信委員ハ會長ノ特撰スル者ニシテ其任期ハ滿三年トス
第三節　通信委員ハ本會ノ目的ニ關スル事項ヲ通信ス
第四節　通信委員ハ通信ノ繁閑ニ由リ相當ノ報酬ヲ附與スルヿアルヘシ

第十二章　集會

第一節　每年十一月總集會ヲ開キ過去ノ會務ヲ報告シ將來ノ事業ヲ議定シ及ヒ役員評議員ノ選擧園藝上ノ演説談話ヲナス
第二節　每三ケ月ニ小集會ヲ開キテ園藝上ノ演説談話ヲナシ兼子テ其物品ヲ品評ス
第三節　總集會ハ三ケ月前ニ、小集會ハ一ケ月前ニ其開會時日塲所等ヲ雜誌ニ掲載シテ會員ニ報告ス
第四節　會長ニ於テ必用ナリト認ムルトキ若クハ會員拾名以上ノ請求アルヰハ臨時總集會若クハ小集會ヲ開クヿアルヘシ

第十三章　雜件

第一節　會費金ハ一年ヲ二期ニ分チ十二月、六月ニ於テ次期ノ六ケ月分ヲ前納スルモノトス
但一回ニ一年分以上ヲ納ムルモ妨ケナシ
第二節　前節ノ期限ヲ過キテ猶出金セサル者ハ雜誌ノ頒布ヲ止メテ之ヲ督促スルコトアルヘシ

但督促ニヨリテ出金シタルヰハ翌月分ヨリ雜誌ヲ頒布スヘシ
第三節　會員外ニシテ本會雜誌ヲ要望スル者アルトキハ定價ヲ以テ讓渡スヿヲ得
第四節　有益ナル論文報告ヲ寄送シ之ヲ本會雜誌ニ掲載シタルトキハ其雜誌ヲ贈與ス
但別ニ相當ノ報酬ヲナスヿアルヘシ
第五節　本會ニ疑義ヲ質問スル者アルヰハ會員ト否トヲ問ハス相當ノ質問料ヲ徴收スルヿアルヘシ

附　則

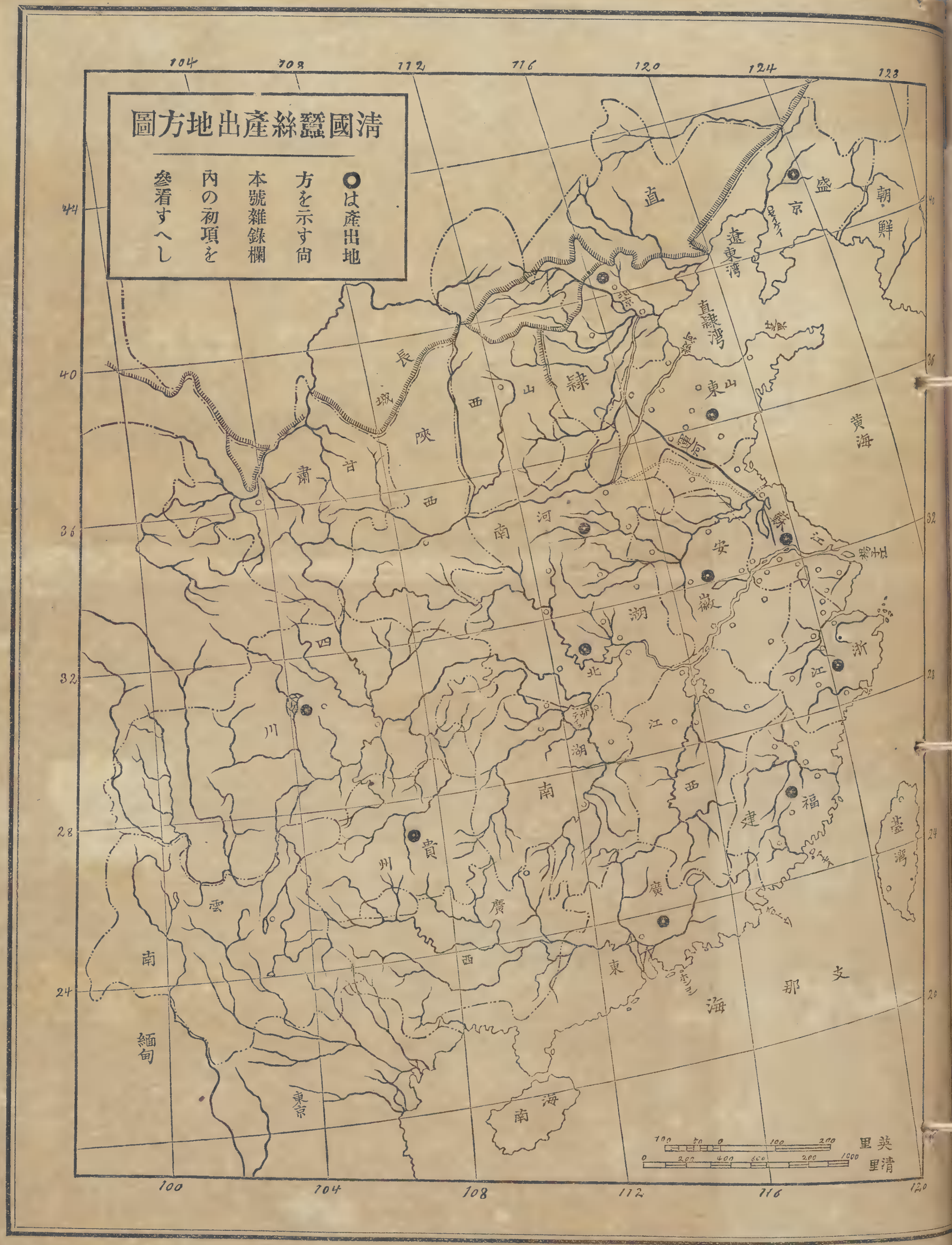
第一節　此規則ヲ改正增減スルハ總會ノ出席員三分二以上ノ議決ヲ經由スヘシ
第二節　此規則施行ニ係ル細則ハ別ニ之ヲ定ム

名譽會員

侯爵　黑田長成
伯爵　大隈重信
伯爵　黑田清隆
伯爵　溝口直正
子爵　榎本武揚
子爵　佐野常民
子爵　土方久元
子爵　岩村通俊
シャルル、バルテー

會長　花房義質
副會長　福羽逸人
田中芳男
幹事　吉田進
平野師應
鈴木充美
特選幹事　諏訪鹿三

緊
今般
念祭奉祝
於て本年
十一日に
開設相成
木細工擴
り博覧會
品を撰出
賣仕候間
んとを希
明治廿
仙臺名
販賣



賛助會員

吉田進
花房義質
田中芳男
諏訪鹿三
平山成信
前田正名

評議員

池田謙藏
內山長太郎
伊藤金五郎
高木孫右衛門
渡瀨寅次郎
鈴木卯兵衛

學藝委員

池田謙藏
堀正太郎
殿岡宗平
吉田進
田中芳男
田村景福

學藝委員

田代安定
玉利喜造
津田仙
上島正
牧野富太郎
福羽逸人
小平義近
澤田駒次郎
篠常五郎
諏訪鹿三

書記

岩淵壽太郎

東京市京橋區新富町五丁目十七番地
日本園藝會假事務所

堺立花印行

斯家釀造の清酒ハ販路盛況に趣き且内外博覧會等に於て酒質の醇良なるを認め査定せられ前記の優等賞牌を拜受せり今又陸海軍の御用酒と相成り名誉日々に赫々たり是れ實に釀造の熟練と香味の嗜好に適するとに因ると雖ども亦愛顧諸君の深く清高庇に興るの結果と感謝に堪へず自今益奮勵醇美の良酒を釀さんと錢期に仰ぎ希くば倍し御愛顧あらん事を

陸海軍御用達

釀造元 大阪府堺市市之町東五丁

田榮吉古滿

京都京極三条南近入

錦　光　花

大阪花遊園出張所

天下無比

登録商標 ヒーロー藥齒磨廣告

齒牙口中保全

- 齒を白くし磨滅の害なし
- むし齒口熱の患ひを除く
- 口中の惡臭を去り齒くさを治す
- 舌唇のあれる患なし
- 齒じしを去り齒の根を堅くす
- 口中を清くし食物の味を能くす
- 咽喉に入りて害なく胃腸を健にす
- 殊に金銀謨謨等の義齒充塡を消磨する患ひなし

夫れ齒は人生榮上の最も大切なる者にて之れを健全するには齒磨の効多しとす然れとも能く撰まずして猥に使用すべきに非らず當今數多の齒磨中にも我が此ヒーロー（はみがき）は齒科學上の研究を凝し衛生を旨とし專ら有益無害の良劑香味を配合し精製せし者なれば今更喋々ぜず四方の貴客御試用の上ヒーロー齒磨の優等品なるを御吹聽の程偏に奉希望候

製造本舖 京都市五條通東洞院東入 宮本晴龍堂

發賣元 同 寺町通五條上ル 吉田精撰堂

各國特約店

和洋小間物問屋

京都市	中珠數屋町不明門通西入	林 傳兵衛
同 市	四條通東洞院東入	吉岡石鹼店
大阪市	南久寶寺町八百屋町角	久留眞勘助
同 市	南久寶寺町丼屋町角	奥 大黑堂
同 市	大寶寺町浪花橋南入	小倉 直吉
東京市	日本橋區横山町一丁目	脇田盛眞堂
滋賀縣	近江國長濱三矢町	神嶋忠兵衛
同	同國彦根一番町	寺居德三郎
同	滿生郡水口	中西傳之衛
奈良縣	大和國奈良元興寺町	安井淸兵衛
三重縣	伊賀國上野農人町	美山 甚助
岡山縣	美作國津山伏見町	田秋 正平
同 縣	同國同町	青木商店
福井縣	越前國武生町	横井五一郎
北海道	渡島國函館港	見延福次郎
同 縣	鯖江町	吉田善五郎
石川縣	加賀國金澤	高間源四郎
秋田縣	奥州鶴ヶ岡三日町	篠原武兵衛
同 縣	羽後國秋田	東海林商店
靜岡縣	遠江國濱松田町	佐野屋由平
鳥取縣	伯耆國倉吉	金田 秀平

市内大阪賣店

京都五條通伏見街道東入	小仲小間物店
同 新京極錦薬師角	西村小間物店
同 新京極三條下ル	竹中小間物店
[illegible]	中川[illegible]店
七條通大宮東入	山源小間物店
三條通堀川西入	岡本小間物店
堀川通蛸薬師[illegible]	澤宇小間物店
京極[illegible]路上ル	酒井小間物店

登録商標

東京 江水舍

弊舍製造の石鹼は有名なる倫敦プレイン製鹼會社と等しき五臺の製鹼機を用ひ蒸氣力に依り之を運轉し精良なる原料を用ひ化學を應用し特功ある藥品を調和し製造する者なるを以て純粹煉石鹼と稱する者及透明石鹼は弊舍の特有物にして他に之を製造する者無し曩に內國勸業博覽會に於て數十の製造所中賞牌を得たる者僅に弊舍及他の一ヶ所のみにして弊舍は其賣高の奈何に拘らず一に品質良好の故を以て有功二等賞を得たり是を以て之を見れば弊舍は帝國唯一の最良石鹼製造所と稱するも敢て誣言に非さるべし

近時社會の進歩と共に邦人石鹼需用の度漸く高く弊舍石鹼の純良にして有効なる斯に發揚して江湖諸君の認識せらるゝ所となり倍舍運の隆盛に赴けるは深く感謝に堪ざる所なり

當舍製造の煉石鹼は五臺の精煉器を經て冷製する者なるを以て品質精良分子極て緻密にして揮發性の香料と雖發散する事なく永久其芳香を失はず又アルカリー、脂油、リスリン其他藥品の調和其度に適ひ純然たる中性の石鹼なるが故に目口の如き粘液膜に觸るゝも刺戟するとなく皮膚を白く又艶ならしむ齒磨として効益あるのみならず齒莖を鞏固にし琺瑯質を純白にし之を害することなし其他の能力は斯に喋々せずと雖普通石鹼に超越するは明なり

當舍製造透明石鹼は多量のグリスリン及アルコールを含有するを以て皮膚を白く滑にし使用後身體の爽快を覺しむるは特に此石鹼の良性とす且一種美妙の馥郁たる芳香を有す其性質の善良なるは一見玲瓏美麗なる鼈甲様透明に依て明なり

江水舍製造石鹼品目

化粧用煉石鹼 各種	化粧用透明石鹼	各種
並製化粧用石鹼 各種	藥用石鹼	各種
絹煉石鹼 各種	軟石鹼	各種
海水用石鹼 以テ衣類等ヲ洗滌スル時ニ用ユル者	粉石鹼	各種
洗濯石鹼 上下各種		

京都名産

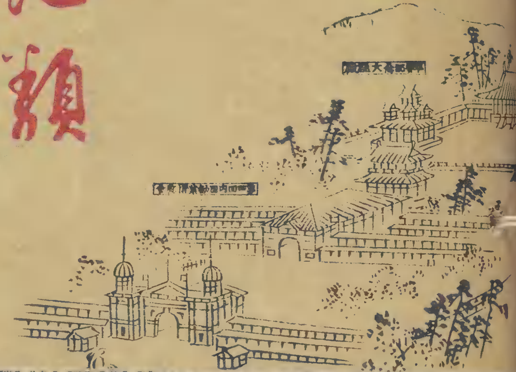
本練 絹糸 組物紐類 袋物類問屋

第四回内国勧業博覧会 京都協会売店館内

出張店 ⌃上 安田商店

本店 京都市烏丸通綾小路上ル

⌃上 安田和三郎



軟化病治療術 一名空頭蠶治療法

○定價金拾錢 ○郵税貳錢

本書ハ著者カ數年来ノ研究ヲ積ミ我養蠶社會カ最モ恐ル、所ノ彼ノ空頭蠶ノ治療法ヲ發明シタルモノニシテ養蠶家ノ參考用トシテハ必ス一本ヲ備ヘサルヘカラサル最新最全ノ良要ニシテ且ツ壹錢万圓ノ價値ヲ有ス

本書ノ目次 ○軟化病名 ○同兆候 ○同原因 ○同治療法 ○同豫防法

農商務省技師農事試驗場長 農學士農藝化學士正七位 澤野淳先生校閲

加賀實力館主 森成次郎著

改良堆肥製造試驗成蹟 全

○定價金貳拾錢 ○郵税貳錢

本書ハ著者カ經濟ヲ重ンシ日進ノ學理ヲ實地ニ應用シ試驗シタル成蹟ニシテ農家一本ヲ左右ニオカハ數拾万圓ノ財貨ヲ得タルト均シキ價値アル良書也

○爲替ハ加賀國津幡郵便局宛 ○郵便切手ハ一割増ノ〓

發行所 石川縣河北郡金津村字ウノケ 實力館

大日本甲斐國 高野新發明

東洋一品 葡萄晒飴

大鑵入 貳拾五錢
中鑵入 貳拾錢
小鑵入 拾五錢

甲府市櫻町三丁目神戸亭

支店 高野友吉

此葡萄水飴は其々諸病人屢々用ゐて奇効を奏し大いに稱揚せられたる靈飴にして専ら元氣を調へ身體の衰弱を醫する効能あること左の如し

第一肺病○癆症○勞咳○汗盗すへて血の不足より起る諸病にて身體よわく顏色青さめ手足力なく息切する人○外科手術或は流産等によりて多く血を失ひたる人○傷寒○痢病ホ、ツ肺膜炎すへて大病後の快復かねたる人○婦人血の道○産後の衰弱○赤泊帶下○經水の不順或は總身の胃弱○脚氣病の末期に至り氣血の巡り悪しく痲痺殘りて手足健ならさる人等に用ひて何れも直に無病健全の人と爲り實に驚くべくの奇妙大効あり

但し昔より癆症其外身體きよ弱の病症にわ專ら魚肝油を用ゐ來りたれ共其臭氣悪しきを厭ひて是を服用すること能はさる人多しア、悲しや病人を見る度事に何か魚肝油に勝して良藥は何かと思ひ種々甘美品にて考ね幸ひ弊家甲州名産葡萄を自由に衛生滋養に叶ひ候樣我家傳秘法にして數年間色々雜合致し漸く此度葡萄滿分入れ衛生滋養第一等と褒食され然るに此葡萄水飴は葡萄と晒水飴を用ゐて製したる良劑なれは其味甘美して婦人小兒と雖とも喜んで之を食せり且其効能論より食して慥なること遂に魚肝油外の藥飴より勝ること一度食する御方よりは屹と全快で禮書手紙數多く故之を世上に公賣して普く衛生滋養の一助に供せんと庶希ふものなり

附言

本劑の大に世上の信用を博し從て販路の盛大なるに乘し近頃類似の品製する奸商あり因て御購求の際わ名義に注意し給ふへし

◎卸し小賣仕り京都博覽會山梨賣店の内にあり

甲斐國甲府市三日町一丁目 高野友吉 謹製

蠟燭販売方改良広告

該蠟燭ハ弊店従来よりの製造に

して該者の知る処なり然れども

近い但者も該蠟燭の販売方ニ[illegible]を

[illegible]

[illegible]該蠟燭[illegible]

[illegible]三種ニ区別し[illegible]小売[illegible]

[illegible]

同蠟燭三品の区別

第一上[illegible] [illegible]製造ハ別上生蠟ニ上[illegible]

第二[illegible] [illegible]製造ハ中上蠟ニ中[illegible]

第三[illegible] [illegible]製造ハ並蠟ニ並[illegible]

[illegible]

[illegible]

大日本[illegible]

[illegible]蠟燭改良発明元 久保田[illegible]

陶器朝日焼略由来記

宇治ノ名産トシテ古来朝日焼ト称セラル陶器ハ　聖武天皇ノ御宇行基菩薩ノ創設ナリ（板野正則ナル者行基ノ隨行ノ人ナリ此地ニ於テ初メテ陶器ヲ製ス窯跡今ニ殘レリ當時ハ陳幕焼又ハ大吉山ノ麓ナルヲ以テ大吉焼トモ稱ス）其後世ノ變遷ニヨリ久シク中絶セシカ貞應ノ頃加藤四郎兵衛ナル者道元禪師（興正寺開基）ニ從ヒ宋朝ニ渡リ陶器製造ニ研究シ安南交趾ニ於テ其業ヲ傳習シ歸朝ノ後所々ニテ土質ヲ試ミシニ宇治朝日山ノ地味ハ安南交趾ニ似タルト行基創設ノ遺址ナルヲ以テ此地ニ窯ヲ設ケ再ヒ陶器ヲ製セシカ果シテ淡色ヲ帶タル雅品ヲ得タリ（四郎兵衛此時ヨリ所々ニテ製造ス就中尾州瀬戸ニハ現今加藤氏多キヲミテ知ヘシ）其後文禄年中ニ及ヒ與村一夢ノ子孫藤作ナル者製陶ニ巧ナリシカハ豊太閤茗讌ニ用フル茶器ヲ製造セシメ深ク愛玩シテ親ラ此地ニ來リ窯場ヲ巡覽セラレタリ（公ノ命ニヨリ此時ヨリ藤作ヲ陶作ト改名ス公厚ク愛賞シ家祿ヲ賜ハルニ至ル）且後陽成天皇ノ叡聞ニ達シ柴船形ノ香爐ヲ献上スト云又小堀遠州侯古跡ノ湮滅センヿヲ歎惜シ良工ヲ擇ヒ自ヲ意匠ヲ凝シ工ニ授ケテ茶器ヲ焼カシム碾茶碗ニ於テハ範目高臺ニ注意シ一風變リタル良品ヲ製造セシメタリ之ヲ世ニ朝日形ト稱セリ（此時ヨリ侯ノ自書セル朝日ノ二字ヲ印ニ彫リテ捺用ス即今ノ窯ハ侯ノ築ク處ノ日本五窯ノ其一ナリ）此後又々中絶セシヲ文久元年予カ祖父松林長兵衛ハ陶作ノ子孫ナルヲ以テ縉紳庭田家ト計リ更ニ祖業ヲ興シ陶工ニ從事シ古風ノ雅品ヲ製セリ予カ代ニ至リ一層工夫ヲ凝シ改良スト雖モ古代ノ雅致ヲ存シ頗ル時好ニ適セルヲ以テ江湖ノ諸彦遠ク來リテ愛玩セラル因テ博覧會共進會等ヘ出品セシカ所評ヲ博シ皆賞状ヲ得タリ近來所々ニ摸造スル者多キサシハ是予カ光榮トスル所ナリ

京都府山城國久世郡宇治町　朝日窯主　松林　之助

商標

専用　商標

朱のあぶら

一条紅雲

	定價 百匁ニ付
壹等	金貳圓
貳等	仝　金壹圓卅錢
參等	仝　金壹圓

壜入	一本ニ付
壹等	金參十錢
貳等	仝　金貳十錢
參等 大	一本ニ付　金貳十錢
參等 中	仝　金拾五錢
參等 小	仝　金八錢

此朱の油は純良の銀朱を用ひ多年研究實驗の上漸く製煉の秘法を得たる朱肉の原料にして殊に朱と油と混和極めて密なるを以て寒暑と雖も分離せす色澤甚だ美麗にして數百年を經るも決して印文變色せざる無比の精品なり

用法

○壹等品 は最上の朱肉を製するものにして（此油百匁に艾三匁を適度とす）又此油を携帯せらるれば如何なる大印にても印面に塗りて押捺することを得るを以て製肉を要せす

○二三等品 は古肉を煉直すに用ゐるものにして（此油百匁に古肉五百匁を適度とす）古肉のよおれたるを除き能くほぐし之に此油を注加し煉るときは新肉に等しきものを得るなり
但し煉直しするには陶器或は硝子板上にて木叉は竹篦を以て煉るべし金屬器を用ふべからず

製肉各種

品名		百匁ニ付定價
○文房清賞煉金朱肉	濃朱色・淡黄色	金貳圓五十錢
○別製朱肉	濃朱色・淡黄色	仝　金貳圓
○潤光黑肉	壹等	仝　金壹圓五十錢
	貳等	金壹圓貳十錢
○別製黑肉		仝　金壹圓
○常用黑肉	壹等	仝　金七十五錢
	貳等	金五十錢

文房清賞煉金朱肉及別製朱肉は弊堂特色の良品にして有名なる印刷局の製肉に優り捺印鮮麗印面を汚さす油染を出さす數百年を經過するも變色褪消することなく其使用に耐ゆること他製に五倍す又黑印肉は紙面に黄色の汚染を起すことなき等今更多辯を要せず希くは御試用の上弊堂が言の不實ならさるを知り玉わんことを乞ふ

⊙紫印色⊙深紅印色⊙淡紅印色⊙青藍印色⊙青綠印色⊙茶褐印色⊙淡青印色
⊙萠黄印色⊙橙黄印色⊙鶯綠印色

右の外色彩は御望みに隨ひ調製可仕候又印刷局製朱肉色肉及其他の印肉類煉直しの御依頼に因て調進可仕候

東京市日本橋區横山町二丁目十二番地

摺附木廣告
農商務省認可登錄商標

香川縣高松市　SS　下津製燧所

弊所製造ノ摺付木ハ左ノ各項ノ如ク欠点ナキ良品ナルカ故ニ需用者諸君ノ信用ヲ得テ追年數倍ノ御註文ヲ蒙奉感謝候尚本年ハ内國勸業博覽會アルニ臨ミ一層進テ會場外ニ本會附属賣店ヲ設ケ廣ク諸君ヘ見本旁御購求ニ可應候間品質御試用ノ爲多少ニ不拘御用被仰付度奉希望候敬白

●特約販賣　御望ノ方々ハ特約店ナキ地方ニ限リ御特約可仕候間本所ヘ御照會アリ次第直チニ御回答可仕候

●點火藥ハ　化學ヲ應用シ其適量ヲ得テ危險或ハ濕氣ノ憂ナシ
●函ハ　紙質ヲ擇ミ新發明ノ機械ヲ以テ製スル故ニ正シク而テ堅固ナリ
●軸木ハ　多年ノ經驗ニヨリ燐寸適當ノ木材ヲ撰用セリ
●荷造ハ　海ノ内外ヲ問ハス輸出スル故ニ勉メテ親切ニナセリ
●價格ハ　製造上監督ヲ怠タラサル故ニ極メテ他製品ヨリ安價ナリ

SS　下津製燧所
香川縣高松市

拝領

拙家藥標ニ藥丸ヲ用ヒシ原因タルヤ畏クモ京都府下瑞龍寺村雲日榮女王御法主殿下（舊村雲御所伏見一品邦家親王ノ六女満佐姫宮ト申シ奉ル）一御親教ノ為メ皇國内御巡回ノ途次明治二十年十一月二十日大分縣ヨリ讃岐國高松日妙寺ヘ御着輦遊サレタリ然ルニ翌日ニ至リ御腹痛甚シキ故近侍ノ者ヲ始メ各寺院ノ者ニ至ル迄大ニ憂ヘ醫師ヲ迎ヘント欲スルモ焦眉ノ場合ニテ何レモ苦慮ノ折柄幸ヒナル哉日妙寺住職清原日運上人ハ拙家製造ノ千金丹所持セシヲ以テ不取敢殿下ヘ進呈シ御服藥ノ上一時間モ經過セサルニ御順快ニ赴キ今迄御煩悶アリシ御腹痛モ須臾ニシテ夢ノ覺タル如ク全ク御快愉ナリシカハ殿下ノ御喜悦ハ勿論其他ノ各位ニ在テモ大ニ滿足ヲ表シタルコトナリ茲ニ於テ良藥ノ効驗ナル御賞賛アリ日運上人ヘ仰渡サルヽヤ世ニ奇ラシキ特効藥ナレバ今少シ取寄セ呉レトノ御意アリシヲ以同寺ヨリ舗ヘ申來ルニヨリ直チニ私製千金丹獻上候處尊慮斜ナラズ永代御賞上御出入ヲ蒙リ難有クモ御目見被仰付殿下御紋ノ藤丸ヲ藥標ニ御許可相成リ御染筆ナモ頂戴シタルモノナリ
前述ノ理由ニメ弊舗調製千金丹ノ特効藥ナルヿハ（効驗ハ能書ニ記シアレハ茲ニ贅セス）恐ク他人ノ製スル能ハスト言モ敢テ過言ニ非サルナリ既ニ上文ニ掲ケシ如ク瑞龍寺宮樣ノ御用ヲ蒙リ御紋ヲ拜領スル程ナレハ是レヲ以テモ効驗ノ確實ナルハ勿論當舗ノ信用アルヲ茲ニ證明ス

官許　危篤救助

千金丹

一週間分	金三拾錢
四拾切入	金拾錢
貳拾切入	金五錢

●千金丹調製之由來

近來世上ニ於テ千金丹ト稱シ類似ノ藥品ヲ發賣スル者尠カラス各々自家ノ功能ニ誇リテ無比ノ良藥ナリト稱スルモ其實多クハ舊法ヲ墨守スル者ニシテ新規ノ改良ヲ施シタル者ニ非ス今ヤ百事改良ノ世ニ方リ此藥品ニ至テモ亦タ改良無カル可ラス拙家大ニ之ヲ遺憾ナリトシ奮發勉勵シテ之ニ從事スルヿ年已ニ久ク博ク内外ノ名醫ニ諮ヒ質シ且ツ自ラ工夫ヲ凝ラシ終ニ一種ノ良藥ヲ調製シ之ヲ有名ノ國手ノ験名ニ示シタルニ皆々賞セラレタリ是ニ於テ之ヲ煎調ニ施シ實驗シタルニ果シテ奇効ヲ現シタルヿ數フ可カラス拙家ニ於テハ尚ホ之ニ滿足セス愈々精良ノ妙藥ヲ製セント欲シ藥種ハ和漢洋藥ノ上等品ヲ買ヒ入レ益々之ニ力ヲ盡シ遂ニ藥ノ發明スルニ至レリ俗ニ所謂ル藥ノ効能書トテン自家ヲ誇リ稱スルハ一般ノ習ナレ圧拙家ハ敢テ然セス實ニ一種千金ノ價アル妙藥タルヿハ之レヲ試ミハ、頗然疑ヒ無シ世上ノ諸君幸ニ愛顧ヲ垂賜ハ、實ニ拙家ノ幸榮ナリ

★大日本帝國陸軍御用

留守第五師團長山澤中將ヨリ軍隊御用ノ御指令ヲ拜受セリ

拙者我カ製造千金丹カ今這陸軍御用ノ恩命ヲ忝セシ以所ニ於テハ聊カ自負ノ嫌ヒアレ共從來其原質ノ精良ヲ期シ眞ニ帝國賣藥ノ名ニ恥ス從テ如何ニ山間僻奥ノ地ト雖圧我カ千金丹ノ聲價ヲ知ラサル無ク賣藥ノ代名詞ハ千金丹ト云フモ不可ナキニ至レリ依テ衛生上如何ニ我製藥カ補翼ノ効驗ヲ顯ハセシカ夙ニ江湖諸彦ノ熟知スル所ナリ然ルニ我征清軍隊カ出陣ニ際シ以上ノ効驗ヲ熟知セラルヽナ以テ非常ニ御買上相成從テ間接ニ直接ニ軍事衛生上ノ御功ケノ万一ニモ成リタルヲ嘉納セラレ終ニ御用ノ恩典ニ浴スルノ光榮ヲ濟フニ至レリ

●効能

○○○茲ニ千金丹効能ノ目的ヲ掲ケテ諸君ノ服用摘要トナスナリ（其一）健胃強壯ノ効（其二）下熱鎭痛ノ効（其三）收斂ノ効（其四）興奮ノ効（其五）驅胃驅風ノ効是ナリ千金丹服用ノ節ハ以上ノ五ケヲ目的トス今人ノ疾病ニ罹ル哉原因ヲ問ハ十中ノ八九腸胃ノ弱キヨリ食物ノ消化ヲ不充分ナラシメ終ニ疾病ヲ起スナリ殊ニ傳染性流行病格列刺ノ如キモ腸胃ノ弱キヨリ此ノ毒ニ感染スルヿ多シ故ニ流行病アルトキハ常ニ腸胃ヲ強壯ナラシメ病毒感染ヲ防禦スルノ外ナシ此千金丹ヲ常ニ少量ツヽ服用スルトキハ腸胃ヲ強壯ニナラシメ以テ格列刺ノ如キモ感染ヲ防禦スルノ理由ナリ然ラハ千金丹ハ（口内ニ入ルヽ片ハ千金丹ノ香味ニ由リ諸種ノ臭氣ヲ去ルヿ諸君ノ試テ了知スル處ナリ）格列刺病豫防ノ効力ヲ有スルト云フモ敢テ過言ニアラサルナリ

左ニ千金丹ノ効能ヲ有スル病名ヲ詳記ス

急性腸胃カタール　○吐瀉　○霍亂　○腸胃熱　○中暑　○食滯　○胸痛　○腹痛　○水毒

熱病一切　○インフルエンザ熱　○傷寒熱　○四季風引　○咽喉カタル　○僂麻質私熱
○間歇熱　○窒扶斯　○麻疹熱　○創傷熱　○腫物熱　○寒熱

下痢病　○痢病　○泄瀉　○疝痛下痢　○腹痛下痢

疾病爽快ノ効　○氣附　○氣絶　○痰咳　○溜飲　○仙氣　○仙積　○頭痛
○小兒虫腹痛　○船車酔　○宿酔　○口中不淨　○眩暈

●用法

大人一度ニ三角半ツヽ一日五度用ユ十五歳以下ハ一度ニ一角半宛一日ニ五度用ユ乳兒ハ一度ニ四半分一角ヲ一日二三度白湯ニテ用ユ是ハ通常ノ用法ナリ蓋シ吐瀉霍亂等ノ如キ劇シキ病ニ罹ルトキハ一度ニ千金丹十角ヲ用ユヘシ且

農商務省商標專用特許

商標專用特許廣告

夫れ養老酒は予か鼻祖の根元にして今に連續したること數百年其名海外迄雷傳し然るに近來尋常の味淋酒を釀して妄りに養老酒の名稱を冒し招牌を掲け奸商するもの世上に尠からす其製の精粗其味の美惡人の能く知る所と雖とも遠地の人或は之に惑ふ事あらん幸ひに明治十七年六月第十九號御布告に基き出願せしに明治十八年十月農商務卿より商標登錄の特許を得るを以て江湖諸彥該商標又は養老酒の根元たる予か家を確認し陸續購求あらんことを伏て冀望す

岐阜縣美濃國養老山下高田町

商標有權釀造元　**土屋八十郎**

隔內勸弘堂의셔製은千金丹이라ㅎ는藥劑則本來부터 (姓號)

大日本帝國村雲宮女王殿下께오셔信用ㅎ오시는有名ㅎ므로今又陸軍의進用ㅎ는神効ㅎ藥이라都是萬病의奇特ㅎ効驗이비길데입스ㅣ毋論아모病의라도ㅎ번試驗ㅎ여보면그神妙ㅎ을면지다

症情錄　엇더ㅎ病이든지이약으로다스리로아니맛는병이업고또여긔긔록ㅎ여잇는증졍의는더욱셔치도을볼지다

●吐瀉 ●霍亂 ●腸胃熱 ●暑毒 ●食滯 ●胸痛 ●腹痛 ●瘧疾 ●傳染 ●四季風寒觸傷 ●咽喉症 ●風丹症 ●氣塞 ●運氣 ●陽毒 ●寒熱 ●痢疾(赤白痢通治) ●泄瀉 ●咳嗽 ●疝症 ●積氣(食積痰積幷治) ●頭痛 ●眩暈 ●酒滯

小兒虫腹痛　어린아희회비아리의먹이면즉차

船車醉　혹비을오리든지혹차을오리다셔취ㅎ는셰의먹으면즉효

水土不服　만일다방의오리두류ㅎ야그슈토가맛지아니ㅎ고토질든후의먹어도즉시치도을어들지라

口渴　별노다른증정업시구갈리나고입맛셔업는셰먹오면즉효

癰處觸傷發熱症　혹총긔가덧나셔열긔가발ㅎ고몸살리나는셰의먹으면즉효

도모지어느병의든지먹어효험을보되여긔적은병증여는더단이신효ㅎ고또脾胃을補ㅎ는되는이약우회다시업다이을지라

千金丹服用分等

十五歲以上者一日(나희)열다섯시너머셔。긔부가츙실ㅎ스람은。ㅎ로와。다섯번을

五回一回服三角半(먹나니)。ㅎ번의。숨각반식을먹으면。조ㅎ니라

十五歲以下者一日(나희)。열다셧시못되여셔는。긔부가츙실치못ㅎ고로。도수는。갓

五回一回服一角半(트되)。ㅎ번의。일각반식을먹오면。조ㅎ니라

乳稚者一日二三回(아셧。여셧살먹은。어린아희는。ㅎ로의。수숨ㅊ먹이되。ㅎ번의。

一回服半角(각식을먹이면。조ㅎ니라)

千金丹製本舖　香川縣高松市大字南新町

L MEDICINE.
KINTAN.
l only genuine.
known for Cough, Vomitting, Cordial,
, Seasick, Worms, Sickness resulting
, and Poisoned by water.
nd arrests those too often fatal deseases
cute fever. Interrmittent fever, Measles
or, Swelling fever, and Influenza.
ive in Colic, Pheumatism, and Breast

Cholera, Cholera morbus, Dysentery,

nine among ten is caused by the
akness of the stomach and intestines.
prevalent disease as cholera are also
the time of its prevalency there is only
taking Senkintan, and if its small
become strong, so that the infectious
ck them. Then, this Senkintan has a
dicine.
CTIONS.
at once, and 5 times a day.
ares and 5 times a day. To beby ⅓ of
es a day with hot water.
ted by vomitting or cholera morbus,
In the case of cooling their body and
eir breast is warm, many pieces of
into their mouth, and paste over their
mustard. If the medicine circulates well
he warmth will be produced and then
sease.
of Senkintan the most wonderful and

CURE, SAFE TO USE,
time of the fatal disease.
ge, and ride on a horse, you will be
ous remedy " Senkinatn."
le, and retail by the proprietor,
amats-shi Sanuki Japan.

ツヌタ來ル邪ノ過クシテ吐瀉二三度モ過サル內顏色變シ全身手足ニ到ル迄厥冷シ又タ屈曲シ呼吸……スルモ胸中溫カナルモノハ早ク此千金丹ヲ口內ニ注入シ極善キ芥子ヲ沸湯ニテ煉リ胸腹腰部ニ貼シテ……身ニ過ルキハ忽チ全身ニ溫ヲ起シ危篤ヲ救助スル〻千金丹ノ特異ナル主治ナリ

但此千金丹ハ諸病ニ効能最著明ナリト雖圧疾病最劇烈ナルキハ必ス醫療ヲ受クル〻尤モ緊要ナリ

○山間僻地或ハ旅行船車乘行軍ノ時ハ必ラス貯ヘ服用スヘキ〻最モ肝要ナリ

豐橋　煙火目錄

雷	口徑六インチ	一發
白菊	同	同
黄菊	同	同
鋼	四	同
群龍	六	同
紫烟柳	同	同
彩烟柳	同	同
黄烟柳	同	同
立田川	四	同
騎兵	六	同
黄烟白菊	同	同
諫鼓鳥	同	同
金星	四	同
天拜山	同	同
鹿	六	同
白烟柳	四	二發
烏	同	一
赤青雲連發	一尺半	同
龜	六	同
柳下ノ金魚	四	一發
象	六	同
夕顔	四	同
瀧門	六	同
黄龍連發	二	同
菊花ニ蝶々	六	同
白雨	同	同
黄白煙	同	二發
經氣球	大	拾二發
◎以上晝之部	計	四拾壹個
外ニ宮內省御用キリンビール瓶	打揚	三發
同　旗付經氣球		六個

但シ打揚順序ハ打揚玉及連發ヲ甲部トシ經氣球ヲ乙部トシテ之ニ點火ス

雷	六	一發
神奈川縣平山烟火出品	燒付	一個
白赤眞菊	四	二發
唐松	同	一
錦露	六	二發
柳ニ月	同	一發
はしわ	同	同
菊見ノ歸路	同	同
夏ノ夕	同	同
子持菊	四	同
柳ニ亂玉	六	同
紅露	四	同
滿月	六	同
露よゑき	四	同
白星	同	同
半輪半菊	六	同
三光星	四	同

一覆輪眞菊	六	同
一雨中狂獅々	四	同
一瓔珞	六	同
一秋ノ夕	四	同
一綠眞引火	同	同
一紫露三光	六	同
一花間ノ月	四	同
一都ノ錦	六	五發
一色火、	四	三個
一金雨フォンテインス	庭前花火	二發
一サキソン	同	同
一ガロベード	同	一發
一丸車火	同	同
一ピリックカスケード	同	同
一チヤイニスファン	同	同
一シヨアオフピールス	同	同
一菊桐御紋章	仕掛花火	一組
一ダイヤモンドスター	庭前花火	一個
一フロアリングアロー	庭前花火	同
一三角車火	同	同
一スパークリング	同	同
一カプライス	同	同
一メキシカンゼッツ	同	二個
一水中錦魚	同	一個
一アゼテクフォンテイン	同	三個
一スターマイン		
一富士山ノ景	仕掛花火	一組
◎以上夜之部	計	六拾個

(其外手花火有之)

番外一キリンビール	綠色火	一個
一同	變化色化	同

但シ打揚順序ハ仕掛花火、庭前花火、燒付ヲ甲部トシ打揚玉ヲ乙部トシテ之ニ點火ス

右之通リ第四回內國勸業博覽會出品審査ニ付明治二十八年五月二十八日鴨川河原下賀茂ノ傍鴨川ト高野川ノ分流中洲ニ於テ午後三時ヨリ實施致シ候也

神奈川縣下橫濱市太田町四丁目六拾番地
出品人　平山甚太
同縣下同市辨天通貳丁目貳拾八番地
出張店　丸亭藥店內出張

豐橋煙火目錄

晝之部

四寸	
白菊䌫	仙河佐太郎
色分連烟	
白菊	仙河佐十
經氣球	
黄菊青紫黑烟吹分	
柳下泉水詠	
莖附黄菊	小林吉藏
玄武開門	
雪中雁	
紫烟菊	瀧崎久兵衛
雪中騎馬旅行	
雨中玉生龍	
五寸	
黄菊	仙河佐太郎
春日秋ノ景	
雨中落雁	
黄菊	仙河佐十
鶴上福錄壽	
黄烟	小林吉藏
競馬	
雨中力戰	
寒菊	瀧崎久兵衛
奈良ノ秋	
廓ノ夕景	
柳中蝙蝠	

夜之部

四寸	
萩ノ露	仙河佐太郎
飛星	
藤架	
變色ノ星	仙河佐十
彩星飛遊	
淺黄星	小林吉藏
青開星	ゑき崎久兵衛
夜達磨	
秋夜ノ流星	
五寸	
淺黄星	仙河佐太郎
日本	
露野ノ殘月	
青星	仙河佐十
東淨樂師	
青紅交星紅變ノ白輪	
日月秋庭變連星後ノ彩星	
黄金星	小林吉藏
快川立田ノ月景	
菊花青星	ゑき崎久兵衛
晴夜曲亂天	

以上

明十日午後三時より十時まで
出町川原に於て　雨天順延

愛知縣三河國
渥美郡豐橋町
豐橋町

雷	口徑六インチ	一發
白菊	同	同
黄菊	同	同
綱龍	四	同
雅龍	六	同
紫烟柳	同	同
彩烟柳	同	同
黄烟柳	同	同
立田川	四	同
騎兵	六	同
黄烟白菊	同	同
諫鼓鳥	同	同
金星	四	同
天拜山	同	同
鹿	六	同
白烟柳	四	二發
鳥	同	一
赤青雲連發	一半	同
龜	六	同
柳下ノ金魚	四	一發
象	六	同
夕顔	四	同
瀧門	六	同
黄龍連發	二	同
菊花ニ蝶々	六	同
白雨	同	同
黄白煙	同	二發
經氣球	大	拾二發

◎以上晝之部　計　四拾壹個

番外　宮內省御用		
キリンビール瓶	打揚	三發
同　旗付經氣球		六個

但シ打揚順序ハ打揚玉及連發ヲ甲部トシ經氣球ヲ乙部トシテ之ニ點火ス

雷	六	一發
神奈川縣平山烟火出品	燒付	一個
白赤眞菊	四	二發
唐松	同	一
錦露	六	二發
柳ニ月	同	一發
はしわ	同	同
菊見ノ歸路	同	同
夏ノ夕	同	同
萩ノ寺繍リ	同	同
交眞菊	同	同
柳下ノ螢	六	一發
朝顔	同	同

雨天順延

一覆輪眞菊	六	同
一雨中狂獅々	四	同
一瓔珞	六	同
一秋ノ夕	四	同
一綠眞引火	同	同
一紫露三光	六	同
一花間ノ月	四	同
一都ノ錦	六 四	五發
一色火、	庭前花火	三個
一金雨フォンテインス	同	二發
一サキソン	同	同
一ガロベード	同	一發
一丸車火	同	同
一ピリックカスケード	同	同
一チャイニスファン	同	同
一シヨアオフピールス	同	同
一菊桐御紋章	仕掛花火	一組
一ダイヤモンドスター	庭前花火	一個
一フロアリングアロー	庭前花火	同
一三角車火	同	同
一スパークリング	同	同
一カプライス	同	同
一メキシカンゼッツ	同	同
一水中錦魚	同	二個
一アゼテクフォンテイン	同	一個
一スターマイン	同	三個
一富士山ノ景	仕掛花火	一組
番外		
一キリンビール	綠色火	一個
一同	變化色化	同

但シ打揚順序ハ仕掛花火、庭前花火、燒付ヲ甲部トシ打揚玉ヲ乙部トシテ之ニ點火ス

◎以上夜之部（其外手花火有之）　計　六拾個

右之通リ第四回內國勸業博覽會出品審査ニ付明治二十八年五月二十八日鴨川河原下賀茂ノ傍鴨川上高野

同縣下久良岐郡大岡川村大字蒔田
三百九拾四番地
製造所　平山煙火製造所

（京都六條活版製造所印刷）

晝之部

四寸
白菊蝶　仙河佐太郎
色分連烟
白菊　仙河佐十
經氣球
黄菊青紫黑烟吹分
柳下泉水詠
莖附黄菊　小林吉藏
玄武門
雪中雁
紫烟菊　瀧崎久兵衛
雪中騎馬旅行
雨中玉生龍

五寸
黄菊　仙河佐太郎
春日秋ノ景
雨中落雁
黄菊　仙河佐十
鶴上福錄壽
黄烟　小林吉藏
競馬
雨中力戰
寒菊　瀧崎久兵衛
奈良ノ秋
廓ノ夕景
柳中蝙蝠

夜之部

四寸
萩ノ露　仙河佐太郎
飛星
藤架
變色ノ星　仙河佐十
彩星飛遊
淺黄星　小林吉藏
青閃星　瀧崎久兵衛
夜遠磨
秋夜ノ流星

五寸
淺黄星　仙河佐太郎
日本
露野ノ殘月
青星　仙河佐十
東淨樂師
青紅交星紅變ノ白輪
日月秋庭變速星後ノ彩星
黄金星　小林吉藏
快川立田ノ月景
菊花青星　瀧崎久兵衛
晴夜曲亂天

以上

明十日午後三時より十時まで
出町川原に於て　雨天順延

愛知縣三河國
渥美郡豐橋町
豐橋町

農商務省商標專用特許

商標專用特許廣告

夫れ養老酒は予か曩祖の根元として今に連續したること數百年其名海外迄雷傳し然るに近來尋常の味淋酒を釀して妄りに養老酒の名稱を冒し招牌を揭け奸商するもの世上に尠からす其製の精粗其味の美惡人の能く知る所と雖とも遠地の人或は之に惑ふ事あらん幸ひに明治十七年六月第十九號御布告に基き出願せしに明治十八年十月農商務卿より商標登錄の特許を得るを以て江湖諸彥該商標又は養老酒の根元たる予か家を確認し陸續購求あらんことを伏て冀望す

岐阜縣美濃國養老山下高田町

商標有權
釀造元　**土屋八十郎**

姓號
閭內勸弘堂의셔製은千金丹이라ᄒᆞᄂᆞᆫ藥劑則本來부터
大日本帝國村雲宮女王殿下ᄭᅦ오셔信用ᄒᆞ오시ᄂᆞᆫ有名ᄒᆞ므로今又陸軍의進用ᄒᆞᄂᆞᆫ神効
藥어라都是萬病의奇特ᄒᆞᆫ効驗이비길ᄃᆡ업스ᄆᆡ毋論아모病의라도ᄒᆞᆫ번試驗ᄒᆞ여보면그神
妙ᄒᆞᆷ을알지라

症情錄　엇더ᄒᆞᆫ病이든지이약으로다스리로아니맛ᄂᆞᆫ병이업고ᄯᅩ여긔긔록ᄒᆞ여잇ᄂᆞᆫ증졍의ᄂᆞᆫ더욱셔셔치도을볼지다

●吐瀉토사●霍亂곽난●腸胃熱쟝위열●暑毒셔독●食滯식톄●胸痛가심아리●腹痛비아리●瘧疾학질●傳染젼병●四季風寒觸傷사계풍한쵹상●咽喉症인후증●風丹症풍단증●氣塞긔석●運氣운긔●陽毒영독●寒熱한열●痢疾(赤白痢通治)이질●泄瀉셜ᄉᆞ●咳嗽히소●疝症산증●積氣(食積痰積幷治)젹긔●頭痛두통●眩暈현훈●酒滯쥬톄

小兒虫腹痛　어린아ᄒᆡ회비아리의먹이면즉차

口渴　별노다른증졍업시구갈ᄒᆞ나고입맛시업ᄂᆞᆫ셰먹으면즉효

船車醉　혹ᄇᆡ을오리든지혹차을오리다셔취ᄒᆞᄂᆞᆫ셰의먹으면즉효

瘴癘觸傷發熱症　혹총긔가몃나셔열긔가발ᄒᆞ고몸살리나ᄂᆞᆫ셰의먹으면즉효

水土不服　만일다방의오리두류ᄒᆞ야그슈토가맛지아니ᄒᆞ여젼ᄌᆞᆯ곰식먹으면토질리드지아니ᄒᆞ고토질든후의먹어도즉시치치도을어들지라

도모지어느병의든지먹어효험을보되여긔적은병증여ᄂᆞᆫ되단이신효ᄒᆞ고ᄯᅩ脾胃을補ᄒᆞᄂᆞᆫ되ᄂᆞᆫ이약우회다시업다이을지라

千金丹服用分等
十五歲以上者一日(나희)열다섯시너머셔。긔부가충실ᄒᆞᆫᄉᆞ람은。ᄒᆞᆫ로와。다섯번을
五回一回服三角半(먹나니)ᄒᆞᆫ번의。숨각반식을먹으민。조흐니라
十五歲以下者一日(나희)열다섯시못되여셔ᄂᆞᆫ。긔부가충실치못ᄒᆞᆫ고로。도수ᄂᆞᆫ。갓
五回一回服一角半(트되)ᄒᆞᆫ번의。일각반식을먹으면。조흐니라
乳稚者一日二三回(가셧)。여섯살먹은。어린아회ᄂᆞᆫ。ᄒᆞ로의。수숨ᄎᆞ먹이되。ᄒᆞᆫ번의。
一回服半角(ᄉᆞ각식을먹이만)조흐니라

千金丹
香川縣高松市大字南新町

...UL MEDICINE.
...KINTAN.
...l only genuine.
... known for Cough, Vomitting, Cordial,
..., Seasick, Worms, Sickness resulting
... and Poisoned by water.
...nd arrests those too often fatal deseases
...cute fever. Intermittent fever, Measles
...er, Swelling fever, and Influenza.
...ive in Colic, Pheumatism, and Breast
...Cholera, Cholera morbus, Dysentery,
... nine among ten is caused by the
...akness of the stomach and intestines.
... prevalent disease as cholera are also
...the time of its prevalency there is only
...y taking Senkintan, and if its small
... become strong, so that the infectious
...ck them. Then, this Senkintan has a
...dicine.
...CTIONS.
... at once, and 5 times a day.
...ares and 5 times a day. To beby $\frac{1}{4}$ of
...es a day with hot water.
...ted by vomitting or cholera morbus,
... In the case of cooling their body and
...eir breast is warm, many pieces of
... into their mouth, and paste over their
...ustard. If the medicine circulates well
...he warmth will be produced and then
...sease.
... of Senkintan the most wonderful and
... CURE, SAFE TO USE,
... time of the fatal disease.
...ge, and ride on a horse, you will be
...ous remedy " Senkinatn."
...le, and retail by the proprietor,
...amats-shi Sanuki Japan.

ツ又タ來醫ノ遲クシテ吐瀉二三度モ過サル內顏色變シ全身手足ニ到ル迄厥冷シ又タ屈曲シ呼吸殆ント絶ントスルモ胸中温カナルモノハ早ク此千金丹ヲ口內ニ注入シ極善キ芥子ヲ沸湯ニテ煉リ胸腹腰部ニ貼シ千金丹ノ藥効全身ニ過ルトキハ忽チ全身ニ温ヲ起シ危篤ヲ救助スル亊千金丹ノ特異ナル主治ナリ
○○○但此千金丹ハ諸病ニ効能最著明ナリト雖モ疾病最劇烈ナルトキハ必ス醫療ヲ受クル亊尤モ緊要ナリ
○山間僻地或ハ旅行船車乘行軍ノ時ハ必ラス貯ヘ服用スヘキ亊最モ肝要ナリ

◎合名會社大倉組銃砲店販賣品概畧

◎舶來及自家工塲製造ノ二連元込獵銃各種
◎自家工塲製ノ新式村田形、レミントン形、專賣特許無鷄頭(ハンマレース)元折、無双銃 地板付元折等ノ元込獵銃各種
◎軍用銃各種、射的專用銃各種、猛獸用連發銃、其他各種
◎鑛山、銃獵、煙火、其他ノ火藥、
◎鑛山、水利土工用等ノ爆裂藥(ダイナマイト)、及其他ノ爆藥
◎水陸用導火繩、各種
◎各種ノ雷管、散彈、彈藥、獵銃用藥筒(カードリツチ)、コロス等各種
◎其他銃器彈藥火藥等ノ附屬品一式

右の品々堅牢精巧美麗なる特別良品を撰び精々廉價にて廣く販賣仕候間不相變御用向あらんことを奉希望候

但銃砲及附屬品之正價説明書御希望の方へは郵券貳錢添へ御申込次第早速呈上可仕候也

東京市京橋區銀坐二丁目九番地
合名會社 大倉組銃砲店

◎銃砲製造及販賣ニ就テ稟告

私儀多年銃砲ノ製造ヲ營業トシ江湖諸君ノ厚庇ニ依リテ創業以來益々繁榮ヲ來シ候ハ是レ偏ニ愛顧諸君ノ賜モノト深ク奉感佩候曩ニ第三回内國勸業博覽會ニ出品シテ審査ノ結果**有功賞牌ヲ拜受スルノ榮ヲ得タリ**爾來製造上益々經驗ヲ積ミ大ニ得ル所アリ專心營業ヲ勉强仕候處今又第四回内國勸業博覽會ノ盛擧アルニ會シ茲ニ自製各種ノ獵銃出品仕候冀クハ銃砲ニ精通スル諸君御熟覽ノ上御高評ヲ賜ハランコチ

私儀製造ノ銃砲ハ東京市京橋區銀座貳丁目九番地合名會社**大倉組銃砲店**ニ特約シ同店ニ於テ專ラ販賣仕候間銃砲營業者諸君並ニ江湖需用者諸君ハ何卒直接ニ同店ヘ御注文成下サレンコトヲ[illegible]諸君ニ謹告仕候

明治二十八年三月

東京銃砲製造人
岡本光長

石井商店販賣品廣告

販賣品種類

各國産 麻苧
仝 麻糸
仝 漁網
仝 績苧
仝 麻布

製造品種類

各國産麻苧製 漁網
綿糸製 漁網
綿糸製網袋用 綟子布

弊店義從來ヨリ右各品製造販賣罷在候所江湖諸君之御愛顧ヲ辱シ日增繁盛ニ趣キ候段難有奉鳴謝候隨テ御愛顧ニ酬ユル爲メ今般尚一層品質精撰シ價格ヲ低廉ニシ專意信切ヲ竭シ高需ニ可奉應候間愛顧諸君親ク舊ニ倍シ陸續御用向仰付被成下度奉希望候仍テ此事ヲ謹デ奉稟告シ候頓首

麻苧漁網 卸商 ⌒多
大阪市西區薩摩堀北ノ町
石井孝太郎

各位

磯部鑛泉八勝煎餅廣告

弊亭義は鑛泉應用鑛煎餅を製造發賣せし處江湖諸君れ御稱賛を以て日増に繁榮難有仕合に奉存候今回或る衛生家の好案に從ひ八勝煎餅を發賣せんとす此の煎餅ハ前元老院議官黒田清綱大人の磯部八勝に擬し調製したる品にて其の品位の高雅なるは勿論味ハ又格別にして老若の嗜及ひ愛子愛孫方の滋養食品として適當なるのみならす座なから磯部八勝に遊ふの感あり乞ふ伏て御好評を懇請す

上毛磯部鑛泉場半百亭主人 會田鐵百拜

磯部八勝

黒田清綱撰

横野夕照
むらさきの根はふ横のにわかねさす
夕日にほひてうくひすのなく

榛名晩霞
野やきせし煙と見へてはるな山
はるかにたてる夕かすみかな

妙義晴嵐
雨はれてあしたのとかに吹まけり
しら雲山れみねのまつ風

瀧山夜雨
瀧山のたきのひゞきの音きへて
ふるもさひしき夜半の雨かな

河原過雁
碓氷川なかるゝ水に影見へて
ひとつらまたる天つ厂かね

赤城秋月
晴あけてかけしらゝみと見ゆるかな
あかきの山の秋のよの月

長堤滊車
音たてゝつゝみ行かふ小くるまの
けむりもたへぬ君か御世かな

淺間暮雪
夕月の影かと見しは淺間山
たかねの雪のひかりなりけり

小包受取證

差出人當所氏名	受取人當所氏名	番號	目數
田中芳四ゟ	兵庫縣…河井貞一	第 市…號	四百…匁

受取證印 / 取扱者印 / 包裝…

小郵第七號

明治二十六年六月遞信省…

賞状

一等賞 大平蜜柑

二等賞 遠州蜜柑

三等賞

右者第六拾四回農産品評會出品優等ニ因リ之ヲ贈與ス

明治十八年二月二十七日

大日本農會頭二品勲一等能久親王

寫

三重縣伊勢國南牟婁郡尾呂志村通常會員

土井幹夫

農業家諸君に言す

我國は農を以て基となし古來聖賢の君主農事を奬勵するもの少なからす今や明治の聖代上には農學校、試驗塲等の設あり下にハ協會、組合等の擧ありて以て能く之か改良進前を冀圖せり抑も伊勢宇治山田は我國大廟の在る處日本國民の擧て尊敬來集するを以て農事の進歩を圖るに實に忽にす可からさるの地なれは神苑會に於ては農業館なるものを設け稼穡、園藝、養蠶、牧畜其他渾て農業に關するものを蒐集陳列し以て公衆の來觀に供するの美擧あり然れとも未た此等農用品を販賣するものなきは吾輩の遺憾と爲すもの幸に身を斯社會に置くを以て今回神苑會の許可を得て神苑會搆内農業館前に於て精良有益なる農用品を蒐集し正確と廉價とを以て汎く農家諸君の需用に應じ且つ農業館來觀諸氏に便し以て我國興殖の一助とせんことを期す世の農家諸君幸に愛顧せられんことを乞ふ

伊勢國度會郡宇治山田町大字豐川町
神苑會農業館前

明治廿八年一月

神農園

●穀菽種子 ●農書 ●圖畵
●蔬菜種子 ●農具 ●標本
●草花種子 ●肥料 ●摸形
●各種苗木 ●農人袋

右の外農業に關するもの一切御注文に應す販賣目錄御入用の方は郵券貳錢封入御申越を乞ふ遠地の御注文は郵便又は通運便にて確實に取扱申候

山田活版所大成舍印行

商標

御扇子調進處

TRADE MARK

THE FAN-MANUFACTORY. MATAJIRO, FUJITA.

ROKKAKU-TOMINOKOJI. KIOTO JAPAN.

NOTICE! WE DO NOT REDUCE OUR PRICES.

中啓扇 雪洞扇 御夏扇 舞扇 殿中扇 數島扇 書畫揮毫 用白扇 都乃錦 九重扇 六花扇 龜鶴扇 霽月花扇 豐年扇 五雲扇 色目扇 諸式慶賀 扇各種 諸寺境 内持參扇

京都六角通富小路
團扇堂 藤田又治郎

明治十年內國勸業博覽會

褒狀

新潟縣管下
越後國中頸城郡高志村

粟飴 大杉九郎右衛門

製法精良ニシテ風味美ナリ

右ノ事項ニ因リ褒賞アランヿヲ申請ス

審査官 主任 町田實則
審査官 列坐 武田昌大
仝 池田謙藏
審査部長 從六位 田中芳男
審査官長 正五位 前島密

右審査官ノ薦告ヲ領シ之ヲ褒賞ス

十一月廿日 内務卿從三位大久保利通

米國シカゴ府
コロンブス
世界大博覽會
優等賞牌受領

第三回內國勸業博覽會褒賞證

新潟縣
中頸城郡高志村
大杉九郎右衛門

翁飴 翁美

二種共ニ良品ナリ以テ製造ニ注意スルヲ觀ル其有功嘉賞ス可シ

有功賞

審査官 中川幸七
古川榮
村井純之助
坪井次郎

審査部長…
審査官長…

廣告

越後名産として世に知られたる粟飴…

Milchame. 乳飴 Fleischame. 肉飴

日英貿業雜誌

工業 化學 鐵器

…-GIO, TETSU-KI, KWA-GAKU.

…E PELHAM PRESS, LIMITED,

26, FLEET STREET, LONDON, E.C.

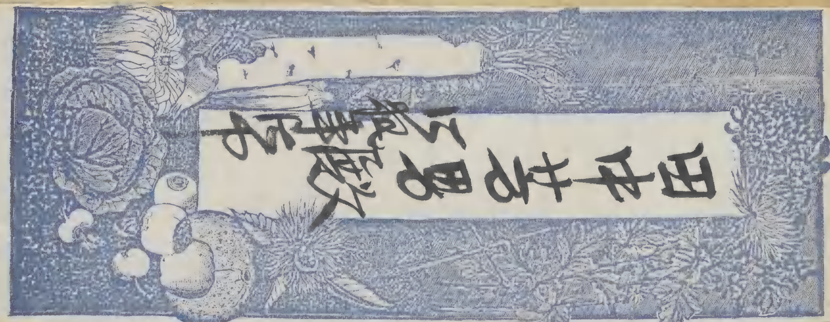
田中芳男

…Yoshio …

… Tokyo

Japan

8



園藝雜誌

毎月一回○發行內外國ノ園藝ニ關スル事項ハ細大漏サス記載ス○會員ノ質問ニハ學藝委員ノ設ケアリ之レニ答フヘシ○見本一冊代價金拾錢○會費一ヶ月金拾錢ノ割ニテ會員ヘ之ヲ交附ス○入會何時ニテモ妨ケナシ○爲替振込ハ東京新富町爲替取扱所宛ノヿ○郵券代用ハ一割増規則書要望ノ方ハ貳錢郵券ヲ添ヘ申込アルベシ

二十八年三月十

發行所

東京市京橋區新富町五丁目十七番地

日本園藝會

今般區內篤志ノ向ヨリ請求モ有之本會ニ於テ客歲十月以降當區內ニ滯在セラレシ近衛彈藥大隊ノ將校兵士八百有餘名ヲ聘シ飛鳥山公園ニ於テ豫餞會相催候ニ付御同意ノ諸君ハ來ル十三日午前九時ヨリ午後四時迄ニ本會事務所ニ於テ酒飯切符御請取被下度此段及御案內候也

明治廿八年二月十日

本鄉區兵事義會

宮內省領收証

明治廿八年二月十一日

式部職

領收之證

明治28年2月4日

九鬼家執事

回陽堂印房稟告

弊堂彫刻ノ諸印章ハ雅俗ヲ論セス文字ヲ正シ且彫刻ノ精工ナルト期日ヲ誤ラサルトニ注意仕ル處倍〻各位ノ御高評ヲ辱フシ弊堂ノ光榮之ニ過キス因テ聊カ謝意ヲ表スル爲メ一層勉強廉價ニ彫刻仕候間弥増ニ愛顧アランコトヲ奉希望候也

東京神田小川町十七番地(東明館前)

金銀玉石 水晶叢刻 象牙水牛 竹木各種

御印師 回陽堂 上野景文

大日本農會第十四回大集會及定期會議

一 三月三日午前八時會員參着

二 次て幹事長開會を告く

三 次て幹事前年來執行會務の要件を報道す

四 次て會員諸氏演説

五 正午休憩(午餐を供す)

六 次て午後正一時諸員着席

七 會頭殿下御令辭

八 次て招待諸君演説

ラミーに就て	澳國人	ゲヘルト君
農業上バクテリヤの効能	農科大學農藝化學教師ドクトル	ロイブ君
本邦の山林に就て	東京大林區署長	志賀泰山君
演題未定	農科大學教授理學博士	佐々木忠二郎君
同	農商務技師農學士農藝化學士	押川則吉君
同	貴族院議員子爵	谷干城君
同	農商務次官	金子堅太郎君

九 次て幹事長大集會散會を告く

右畢て幹事長特別會員に第十四回定期會議開會を告け參事半數(二名)及常置議員廿五名の改選を行ふ

(此日午後五時より芝公園紅葉館に於て會員中有志者の發企に係る本會員第六回懇親會あり同會へ御臨席被下候向は前以て本會事務所へ御一報を乞ふ)

拜啓陳者ボアソナード君不日歸國致候ニ付來ル廿七日内山下町帝國ホテルニ於テ送別會相催候間仝日午後正三時同舘ヘ御來臨被下度希望候敬具

但シ會費金壹圓五十錢當日御持參且御來會ノ有無ハ來ル廿五日迄ニ帝國ホテル送別會幹事粟塚省吾宛ニテ御一報相煩度候也

二月廿一日

送別會發起人（イロハ順）

磯部四郎	侯爵蜂須賀茂韶
春木義彰	原田種成
鳩山和夫	穗積陳重
星亨 伯爵大木喬任	
尾崎忠治	小野田元凞
渡邊驥	横田國臣
子爵田中不二麿	高島嘉右衛門
辻新次	南部甕男
名村泰藏	中村元嘉
野村維章	楠本正隆
九鬼隆一	粟塚省吾
黒川誠一郎	熊野敏三
山崎直胤	松岡康毅
兒島惟謙	清浦奎吾
菊池武夫	木下廣次
岸本辰雄	三好退藏
箕作麟祥	平山成信

田中芳男殿

農商務省專賣特許水霑紗絢機械發賣廣告

特許證寫

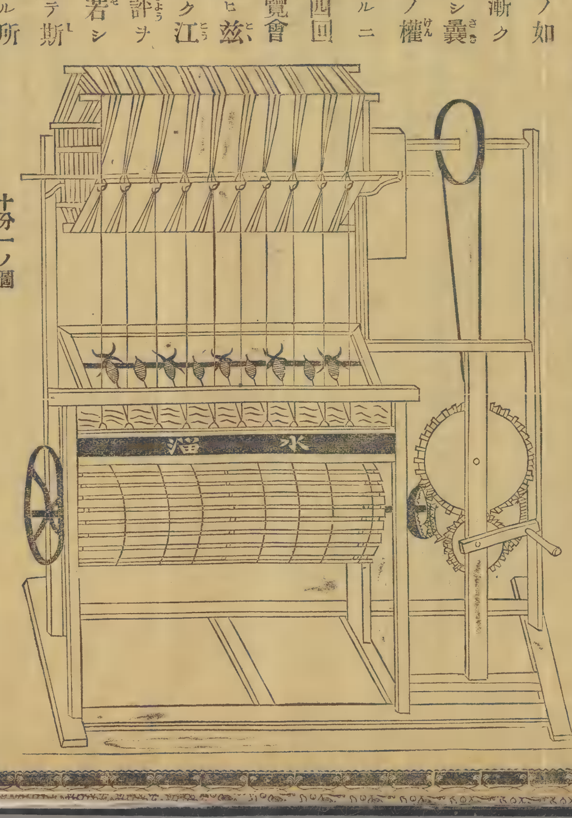
第一九八六号　發明者　堀内菊治郎

紗絢機械

農商務大臣伯爵後藤象二郎君印
農商務省特許局長　有賀長雄君印

定價金五圓五拾錢

今ヤ工業事業ノ日ヲ追ヒ月ヲ重テ旺盛ニ赴クニ際シ獨リ生糸紗絢機械ノ完全ナルモノナク又タ之カ發明スルモノナキヲ心竊ニ遺憾ニ堪ザルヲ以テ菊治郎不肖ヲ顧ミス圖ノ如ク設計多年漸ク本機ヲ案出シ曩ニ專賣特許ノ權ヲ得タリ然ルニ幸ヒ今日第四回内國勸業博覽會ノ盛擧ニ遇ヒ玆ニ陳列シ廣ク江湖諸彦ノ高評ヲ仰カントス若シ夫レ此ヲ以テ斯道ニ裨益スル所アラバ菊治郎當初ノ目的ヲ達シ得タリト謂フベシ



十分一ノ圖

次ニ聊カ本機ノ主要ナル点ヲ述ベン

第一　本機ハ運轉ニ隨ヒ水溜ヨリ自然糸ヲ霑シ普通機械ノ如ク時々水ヲ注グノ勞ヲ要セス

第二　一婦女一日凡二百目ノ糸ヲ紗絢ス

●追テ圖形ノ通リ御望ニヨリ大小共調製ス

製造販賣人　奈良縣式上郡柳本村　堀内菊治郎

取次販賣人　仝　國宇陀郡松山町　奥田龜藏

赤扇子

尾陽名產
赤扇子町
名古屋古本町通
本町三丁目
(又) 新助

磁器製造販賣
林又兵衛
岐阜縣美濃國
土岐郡下石村

美濃燒

美濃燒ハ陶磁器中日用ノ飮食器具ヲ專ラ製出シ價値頗廉ナレバ使用ノ廣キ又產額ノ多イナル了我國ノ第一位ニ居リ隨テ全國一般ノ陶器商業者一ヶ年總販賣額ノ過半ハ美濃燒ヲ以テシ且海外輸出モ年一年ニ增額シ就中磁盃德利ノ如キニ至テハ我縣下ノ特有物產ニシテ日ニ幾數万ノ注文ニ應スル了ハ容易ノ了ニ御座候間磁盃ハ勿論總テ我地方產出ノ陶磁器御用向ノ時ハ多少ニ不拘御下命ヲ伏テ希企仕候

紀念德利盃 各種 製造

明治廿八年七月廿九日

此呈ス博覽會紀念德利元價ハ一個金壹錢四厘
普通雲鶴二合德利元價ハ一個七厘五毛

廣告

一二枚組 十入 金拾錢
一仝 上 十半入 金拾錢五厘
但シ一算毎ニ壹錢ヲ增ス了
一四枚組 千筋 金貳拾錢
但シ百筋毎ニ金貳錢ヲ增ス了

右之外上等品別製巾廣物等御好に應じ此場にて直に製造致精々安價に差上可申候但し御商品物は此限にあらず多數によりて割引も可致候就ては綟り機械御入用の御方樣は精々安料に製造調進可仕候間續々御注文の程を伏て奉希上候也

第四回內國勸業博覽會器械館內
本舖 西口忠助
三重縣伊勢國奄藝郡一身田中之町百十四番地

明治廿八年 月 日

出張所 京都市御幸町通夷川上ル 雨宮榮

江湖愛顧各位御中

(三重縣津市西町明有舍印行)

拜啓陳者本月十五日臨時株主總會ニ於テ原案ヲ左ノ通修正滿場一致ヲ以テ可決致候處定款變更ニ要スル制規ノ株主出席ナキヲ以テ右可決ハ假議定トシ本月廿五日第二ノ臨時株主總會ヲ開キ確定議トスル了ニ相成候條同日午後一時本會社ヘ御參集相成度此段及御通知候也

追而本月廿五日第二ノ臨時株主總會ニ於テハ出席株主ノ多少ニ拘ラス過半數ヲ以テ本文ノ假議決ヲ認定シタルトキハ是ヲ確定議ト爲スヘキ義ニ有之候間此段申添候也

明治廿八年六月十七日

兵庫共濟株式會社
專務取締役 武岡豐太

株主 殿

議題

一會社資本金壹萬九千圓增加スル事

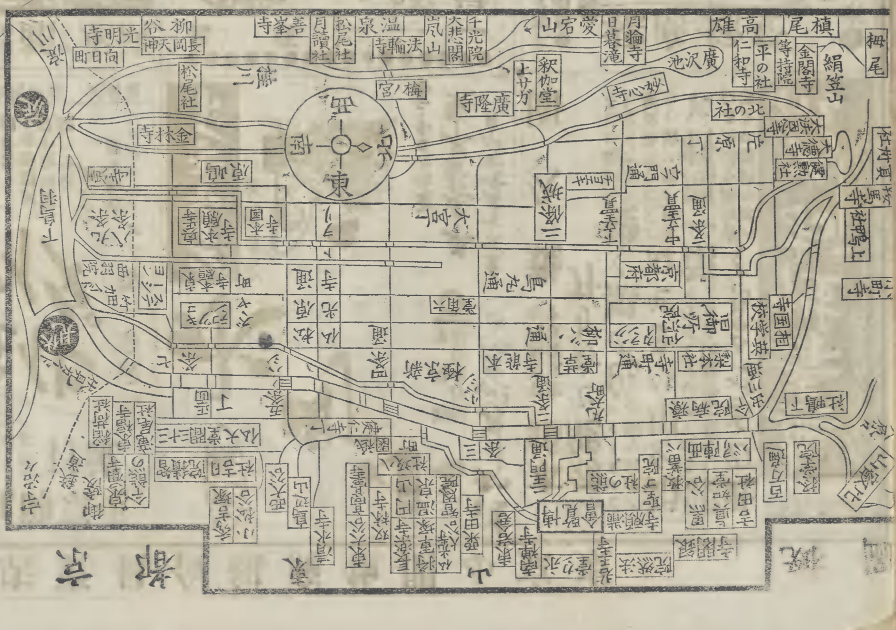
一右資本金增加ノ方法ハ現株式壹株ニ付金貳拾圓ヲ金參拾圓ニ增加スル事

一右增加ニ對スル壹株金拾圓ノ拂込法ハ左ノ通

金五圓 本年七月十五日限拂込

金五圓 此拂込期日ハ取締役會議ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ二ヶ月以前ニ株主ヘ通知シテ拂込マシム

右滿場一致ニテ可決ス



東京小間物商組合員賣店概圖

花に啼く鶯もヲヽお化粧〳〵と囀り水に住む蛙も貴孃方買たし〳〵と勸むる位ゐ如何さま御婦人方が小間物お化粧品を御覽になつてハ是やア所詮お素通りハ出來まじけれど博覽會場に陳列しある品ハ固より見本同樣にして御買求めにハ餘程御不便なり處で彼の飾退之が世に博覽會あり然る後に便利の小間物店ありイ[illegible]な學者落の駄洒落ハ扨置て兎に角皆樣方の御便利な樣にと此度東京の同業者申合せて此處に此自由販賣店を設け館内の陳列品ハ勿論其外現東京に流行する新形新製新工夫の諸品を始め金銀珠玉寶石蒔繪又ハ木製護謨細工など一々其種類を算へ立なバ宛然ら新編入のちやん的より猶多かるべきも先づ其大略を擧て申せバ櫛笄簪類。髷入。たぼ止。髱から紅。白粉。化粧水。石鹼。齒磨に至るまで凡そ小間物と云ひ化粧品と稱ふるの類ハ一切合切取揃へあり猶は今後新發明新流行の品々ハ其都度〳〵直に取寄せ日々に新たに又日に新らしきを專一とし殊にお直段の處も精々相働いて販賣致しますれバ當世流と古風とに拘らず總て修飾を成されんと思召す御方樣ハサア〳〵入らッしやい〳〵と口上の代理を賴まれて書の如し

痩々亭　骨皮道人　述

三條大橋ヨリ各所ヘノ里程表

名所	里程
二條離宮	二十一丁
相國寺	二十八丁
下加茂神社	三十一丁
修學院	一里二十八丁
京都府廳	二十丁
北野天滿宮	一里十六丁
平野神社	一里二十丁
今宮神社	一里九丁
金閣寺	一里二十三丁
御室仁和寺	一里二十八丁
嵐山	二里十丁
高雄山	三里十一丁
梅之宮神社	一里三十[illegible]丁
長岡天神	三里二十[illegible]丁
西本願寺	二十八丁
東本願寺	二十三丁
東福寺通天橋	一里十二丁
稻荷神社	一里十一丁
泉涌寺	一里
豐國神社	二十一丁
大佛妙法院	二十丁
三十三間堂	二十三丁
清水寺	二十二丁
建仁寺	十丁
西大谷	二十丁
四條大橋	六丁
五條大橋	九丁
東大谷	十五丁
八坂神社	十一丁
銀閣寺	三十丁
圓山	十五丁
南禪寺	十二丁
永觀堂	十五丁
黑谷	十八丁
眞如堂	二十一丁
大極殿	八丁
第四回博覽會	七丁
七條ステーション	三十一丁
帝國博物館	二十四丁
新京極	三丁半
宇治町	四里十六丁
伏見町	二里十八丁
比叡山	三里
鞍馬山	三里二十三丁
男山八幡宮	六里
愛宕神社	四里六丁
大悲山	八里十丁
柳谷	四里
大津町	二里二十五丁
向日町	三里二丁
[illegible]明寺	三里九丁

第四回内國勸業博覽會附屬水族部放養場之圖

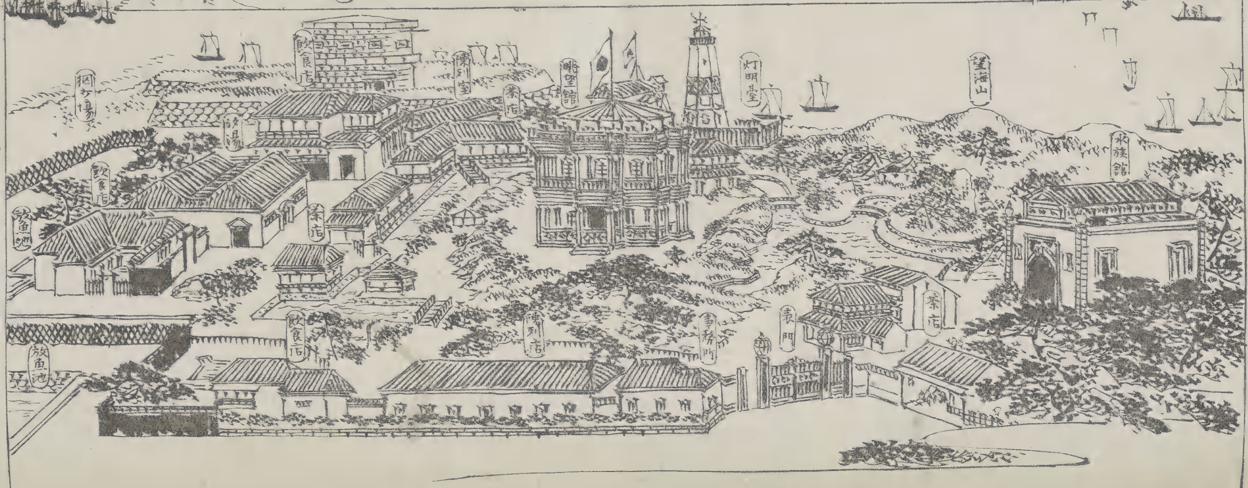
神戸市和田岬

第四回内國勸業博覽會附屬水族部ヲ神戸市和田岬ニ御設置ナリタルハ廣ク海中ノ生活物ヲ集メ衆人ノ觀覽ニ供セントノ旨意ニシテ其現場ニ建築セル水族館ハ規模宏壯我邦ニ未ダ曾テ之レ無キ處ノ完全ナルモノナリ又其放養場ハ三千餘坪ノ潮水池ニシテ中ニ二ヶ所ノ島アリ一島ハ壯麗ナル眺望館ヲ有シ一島ハ專ラ觀覽ノ所トス而シテ潮水清澄巨口細鱗游泳ノ状一顧ノ間ニ集マル實ニ一大壯觀ナリ

和田岬水族部順路

陸路車賃
神戸停車場ヨリ　八錢以内
兵庫停車場ヨリ　七錢以内

海路通ヒ船
神戸海岸通リヨリ　五錢
兵庫宮前濱ヨリ　三錢



專賣特許　第二二四五號　日本枕（やまとまくら）

爰に吾國從來の枕甚だ粗製にして其容ち賤く要所を憚らず紐を臺より小枕に縊り付始め和らかなるも漸時左右に凝結し或は紐きれ撞突の恐れあるも快しとする所なく譬へ金錢に飽かせ造るも唯古有の容を美にするの意に出で更に余効あるを知らず既に男子用の空氣枕縊け枕の如く種々の製有れども皆上より押せば下たに固塊し神氣を沓め安眠以て能く頭腦を養いしむる器といふに足らず夫れ腦髓の人身ま於けるや靈妙無窮の淵にして常に思志氣能を主宰す寐て髓腋を蜜釀し覺て智識を國家に活動成す小池と雖を其用極めて廣し則ち靈腋を作るの源也貴び以て愛養せさるべからず然るを身体の末に居す足部は頻りに高價の美物を履用し頭部は載せるに不備粗選の下品に出る當を得ざるの類にあらずや爰に於て吾愚多年寸心を勞し古風に泥まず其体用を一變し終に改良の局を結び番號の如く專賣特許の權を得たり故に製造の体裁及び有効是れ則ち改良に益有る所以を左に説明す夫愚が發明の枕たるや其容高尚を極め觸れて衆目に恥ず肩先きに透きを設け空氣を呼ぶま枕は上等野牛の革を夏とし極品絹ビロードを冬とするの類ひ中え精撰の蒲毛綿等を以て蓄るに勤めて内部の温和を要す両端に穴を穿ち鳩目を飾し爰に清薰を蜜藏す亦改良に眼目たる双金製の（ゼンマイハチ）を連ね縮張彈力の動きに應ド旬を吹發せしめ臭氣を攘ひ以て保養快樂に接するハ毫も疑ふ所にあらず尙中りを廢し裏底に小判形の金具を付け鷹容ちの螺線を以て捻ぢ止め小巾に布類の巻き其止めに針を用ひ汚れを防く富士の根に茄子を金畵し祝するに一富士二鷹三茄子とす婚姻の必用患者の良具其他御進物等頗る高尚に且珍なり婦女の飾りット抔ま障りなく快きを覺ゆ臺の品質は普通黒塗り上中下金蒔繪其余木地物え唐木を始め倭木の桐に至るまですべて御好みに應ず眞とに此の器は安眠養腦に理益あり衛生家の寵する所となり日に增し衆庶の愛顧を添うす故に調製方益々注意を加へ廣く販賣の道に歩するの際なり依て大方の諸君請う試みに續々御購求あり實物に就ひて其効益を知り玉はんことを謹言し以て冀ふる巳

枕ヲ切断シタル内部ノ圖

女枕

男枕

大阪市北區玉江町一丁目六十四番屋敷

製造本舗
特約販賣店　藤本ウタ

關西畜産協會設立之趣意

予輩ハ我邦畜産業者ノ互ニ氣脈ヲ通シ團結協同以テ本業改進ノ計圖ヲ盡サンヿヲ熱望セシヤ久矣先輩諸子亦玆ニ見ル處アリシカ去廿三年内國勸業博覧會開設ノ頃東京ニ於テ日本畜産協會ナルモノ成立シ本業進歩上有益ノ機關トナレリ然ルニ爾來熟々考察スルニ我カ關西地方ト東北諸縣トハ未タ關係親密ナラス氣脈貫通セサルモノアルヲ覺フ蓋シ土地遠隔ニシテ交通尙ホ頻繁ナラサルト我ガ生産地ニ於ケル商業ノ未タ發達セザルトニ加フルニ素來産業ノ狀体大ニ其趣ヲ異ニスルモノアルニ因ルナルベシ依テ惟フニ關西地方ニ在テハ暫ク別ニ關係密接ナル地區ニ據リ同志糾合互ニ氣脈ヲ通シ以テ本業改進ノ途ヲ講究スル爲メ關西畜産協會ヲ起シ以テ東西相應シ相助クルノ得策ナルニ如カズト卽チ爰ニ其案ヲ具シ汎ク關西地方ノ同感者ト協賛ヲ求ムルコト、セリ幸ニ多數ノ同盟アルアラバ速ニ集會ヲ催シ會則ヲ決定シ本會ノ成立ヲ公ニセンヿヲ企望ス今本會ノ目的ヲ約言スレバ小ニシテハ我畜産同業者各自本業上ノ利益ヲ進捗シ大ニシテハ國家ノ隆運ニ裨補セント欲スルニ在リ若シ夫レ本會ガ勉ムベキ至緊至要ノ事柄ト此會ノ爲メニ同盟者ノ享受スベキ利益ノ多少トハ玆ニ一々枚擧スルニ遑アラズ要ハ同盟者ノ熱心ニ本會ヲ利用スルト否トニ在テ存スベキ而已幸ニ高察アレ

京都　大坂　神戸　發企者

關西畜産協會規則案

第一章　名稱位置及目的

第一條　本會ハ關西畜産協會ト稱ス

第二條　本會ノ事務所ハ　　ニ設置ス

第三條　本會ハ關西地方畜産事業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二章　組織

第四條　本會ノ趣旨ヲ贊成シ本會ノ義務ヲ負擔スルモノヲ以テ會員トナシ本會ヨリ特ニ推撰スルモノヲ名譽會員トス

第五條　本會ハ創立ノ月ヨリ滿五ケ年ヲ一期トシ滿期ニ至リ繼續スルヤ否ヤハ其際議定スベシ

第六條　會員ハ入會ノ際本會費トシテ金貳圓ヲ納メ次年ヨリハ毎年金六拾錢ヲ納ムルモノトス

但シ入會ノ際一時金四圓ヲ納ムルモノハ一期間出金スルニ及バズ

第七條　會員ヘハ會員證ヲ付與ス

第八條　本會ノ趣旨規則ニ戻リタルモノハ役員及委員ノ協議ヲ以テ退會セシムルヿアルベシ

第九條　總テ退會者ヘハ既收ノ會費ヲ返附セス又本會ノ財産ニ關係ヲ有セザルモノトス

第三章　役員

第十條　本會ハ會頭一名主任幹事一名幹事　名ヲ互撰シ事務ヲ處辨シ別ニ府縣委員若干名ヲ置ク

第十一條　會頭主任幹事幹事ハ總會ニ於テ會員中ヨリ互撰ス委員ハ會頭ヨリ指名囑托ス

第十二條　役員ノ任期ハ二ケ年トス但シ滿期ニ至リ再撰スルモ妨ケナシ

第十三條　會頭ハ幹事中ヨリ會計員二名編輯員二名ヲ指名シテ事務ノ分擔ヲ委托シ又書記ヲ採用スルコトヲ得

第十四條　委員ハ各府縣ニテ一名乃至二名トシ其府縣ト本會トノ間ニ係ル事務ヲ處辨ス

第十五條　役員ハ名譽職トス但シ書記ハ相當ノ報酬ヲ給與ス

第四章　會務

第十六條　會員ハ常ニ其地方畜産上ノ景況ヲ本會ニ通報シ又本會及會員ノ照會ニ應答シ且畜類鑑定等ノ依頼ニ應ス

第十七條　本會ハ各地會員ノ通信其他畜産上有益ノ事柄ヲ輯メテ之ヲ會員ニ報導シ會員ノ照會ニ應答シ家畜ノ鑑定依頼等ニ應ズ

第十八條　毎年一回乃至二回會員ノ集會ヲ催シ本會々務ヲ議定シ及學術實驗ノ演説及談話會ヲ開ク

但本文ノ外臨時開會スルコトアルベシ

第十九條　漸次會務ノ整頓スルニ隨ヒ種畜ノ証明家畜品評會開設其他奬勵上ノ要件ヲ擧行ス

第五章　雜件

第廿條　本會解散ノ塲合財産ノ處分其他ノ權利義務執行ニ關シテハ總會ノ議定ニ依ル

第廿一條　通常事務及金錢出納ニ關スル書類エハ主任幹事之ニ署名ス

馬具類廣告

北海道物産共進會

札幌縣石狩國札幌區

革工 黑柳喜三郎

西洋形乘鞍

調製品質共ニ良好價格頗ル廉ニシテ產額亦タ多シ其功勞特ニ嘉賞スヘシ

一等賞

審査委員 鶴岡松五郎

審査委員 關友松造

會長從六位勳五等 佐藤秀顯

右ノ薦告ニ據リ金拾圓ヲ授與ス

明治十七年十月廿五日

札幌縣令從五位勳四等 調所廣丈

北海道物産共進會

札幌縣石狩國札幌區南二條西二丁目

洋鞍 黑柳喜三郎

製造品質共ニ良好ニシテ產額亦タ多シ其勞洵ニ嘉賞スヘシ

二等賞

審査委員 伊阪員正

仝 中村守重

會長正七位 廣田千秋

右ノ薦告ニ據リ金五圓ヲ授與ス

明治十八年十一月五日

根室縣令從五位勳五等 湯地定基

北海道物産共進會

石狩國札幌區南一條

二頭曳農馬具

一頭曳農馬具 黑柳喜三郎

三等賞

右審査委員ノ薦告ニ據リ之ヲ授與ス

明治二十年八月一日

北海道廳長官從三位勳三等 岩村通俊

北海道物産共進會褒賞

石狩國札幌區南貳條西貳丁目

乖馬具一式 西洋形 黑柳喜三郎

用革善良裁縫緻密價額亦甚廉ナリ以テ技術ノ熟達ヲ見ルニ足ル

二等賞

審査委員 函館 大經

審査第四部長 正八位 吉井豐藏

審査委員長 從七位 村上要信

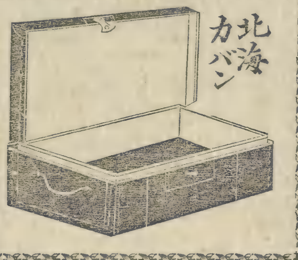
從七位 森山龍之助

正七位 吉田醇一

前記ノ薦告ヲ領シ茲ニ賞牌ヲ授與ス

明治二十五年八月廿五日

北海道廳長官從三位勳三等 北垣國道



北海道物産共進會褒賞

石狩國札幌區南貳條西貳丁目

貳頭曳農馬具

一頭曳農馬具 黑柳喜三郎

製作精功ニシテ能ク實用ニ適シ販額亦多シ其功勞尠シトセス

三等賞

審査委員 照井德治

永根平教

鈴木武良

審査第一部長正八位 南隱次郎

審査委員長正七位 吉田醇一

前記ノ薦告ヲ領シ茲ニ賞牌ヲ授與ス

明治廿五年八月廿五日

北海道廳長官從三位勳三等 北垣國道

一乘鞍壹組 代金八圓以上

一農馬具壹頭曳壹組 但シ象皮製ニテ尻廻除キ 代金八圓五拾錢以上

一農馬具貳頭曳壹組 但シ象皮製ニテ尻廻除キ 代金拾六圓五拾錢以上

一農馬具三頭曳壹組象皮製ニテ 但シ呼出皮付キ尻廻除キ 代金貳拾九圓九拾錢以上

一荷馬車馬具壹組 但シ尻廻除キ 代金八圓五拾錢以上

一壹頭曳乘馬車馬具壹組 代金拾五圓以上

一革着セ北海カバン壹個 代金七圓以上

一ズーク着北海カバン壹個 代金壹圓五拾錢以上

一帽子類 御好ニ應ズ

謹告

過る明治八年農馬具製造の職を以て舊開拓使に雇上られ專ら營業に從事罷在候處尙ほ汎く世間の御高需に相應ド度存念にて同十一年解雇を乞ひ御當地に於て農具其他總て皮製器具の營業を開き爾後十數年間各位の御愛顧御賞讚を蒙り御庇蔭に因り業務日に增繁昌致候段難有奉深謝候偖て馬具の中道遙鞍卽ち普通の乘鞍は使用の度數を重ぬるに從ひ兎角鞍骨に變形を生じて往々馬背に擦傷を相釀し候事少なからず弊店製造の乘鞍は多年の實驗と熟練とを積み右樣危害なく最も堅牢にして且つ安全なるは方各位の懇篤御熟知の處今回乘鞍其他馬具及ひ鞄等多分に製造致し非常の廉價を以て販賣仕候間陸續御購求の程伏して奉願上候

明治廿七年十一月

札幌區南二條西二丁目

黑柳喜三郎 敬白

神風の伊勢よ隣れる我が志摩の清き浮ふ生ひ出つる數限りなき海產ハいと世に高く知らるゝもそが製法の拙くておれぞ珍品妙味そこもてそやさるゝもろはなし

やつかれおれを憾みとしひごろ心を碎きつゝそか製法の試驗を積み案じ出せし其品はその數拾種を越もれとも皆永久保存に堪え色香ハ更ちなり風味なき世よ類なき佳良珍品月の莚よ花の宴そが卽席の料理にハ輕便貴重の妙味ぞと世上の高評あるもろあふ內地ハ更なり西洋我清國印度の國ゝに皆御土產の御用を受け加之弊堂の榮譽の花ハ博覧會に共進會品評會の諸會に開き褒狀賞杯數々の香果を結べるこれとても各位花客の御愛顧より尋ふしたまふ賜に待るになん

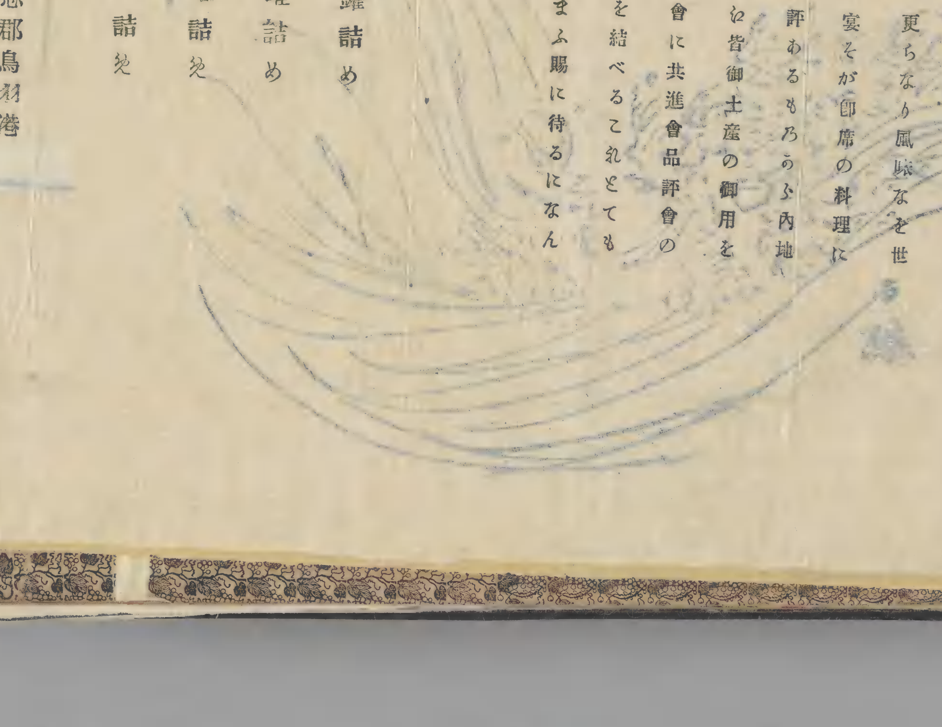
商標登錄 濵田守

魚類貝類 ちんゐい いのちいい鑵詰め

洗ひ糸若布 海参鑵詰め

志海名產若布糖漬 波の友 鯛味噌鑵詰め

特撰 鮑粕漬 めむ呉折詰め



諸海產製造處

志摩國荅志郡鳥羽港

阿部隆寬堂 敬白

帶革及諸革廣告

●諸機械用帶革
●電燈用リングベルト
●喞筒用革管

各種
地球印帶革極印
萬國一

一等品帶革極印
商標 BEST
弊家製品ニハ必ズ各上圖ノ如キ極印アリ請フ誤認ナカランコトヲ

右ノ外紡績、織物、鑛山、鐵道、電燈、用其他諸製造諸革數品

●右ニ圖畵スル壹等品帶革ハ從來汎ク需用家ノ愛購ヲ蒙リツヽアリ就中京都府管内ニ於テモ水利事務所第一絹糸紡績會社藤井紡績所京都撚糸場疏水撚糸會社等ハ皆ナ從來ノ華ニシテ其他各地著明ノ工場ニ使用セラレザルハナキナリ茲ニ列擧セントスルモ紙面限リアレバ之ヲ省キヌ且ツヤ內國勸業博覽會賞牌及各所ニ於テ受領シアル賞牌賞狀賞賛書等アレドモ是又猶幅狹隘悉クサントスルモ得ベカラズ時ニ明治廿六年コロンブス大博覽會ニ在テハ歐米各國仝製品ノ優等ナルモノト同一ノ賞牌ヲ受ク今其薦告書及亦タ其出品ナシタル結果左ノ如シ

日本
日部門
出品人 新田長次郎 壹七七九四號 製造
出品柔皮皮帶革及柔皮製環帶 第六百九拾七種 地名大阪 第百拾壹類
柔皮皮帶革 鑑定 柔皮製環帶
柔シ方良好革質强固ニシテ製造方ノ精良ナルヲ示ス
審查員 ジヨン、フランク
製造方善良ナリ
審查員 エッチ、アイ、キンボール
審查部長 天野
認可
仝 審查總裁 ジヨン、ボイド、セッチヤー
千八百九十四年六月十五日 書記 イ、ダブリユー

コロンブス大博覽會薦告書
譯文

拜啓貴家御製造ノ帶革之儀ニ付
御尋問ニ依リ回答ノ爲メ御通知
申上候先般シカゴ閣龍博覽會ヘ
御出品相成候帶革ハ優等品ト確
認セラレ居候就テハ歐洲ノ各
主ヨリ拙者共方ヘ貴家帶革
市場ヘ賣擴メ方ノ儀ニ付續々
會有之候間左樣御承引被下度
追而右御出品ノ見本ハ好評判
可有之候故將來御家業ノ御繁
ハ期シテ知ルベキ儀ニ御座候敬
具

八月十三日
横濱 ボラック兄弟商會
新田長次郎様

●曾テ長次郎自家事業ノ爲メ去ル廿六年桑港ヘ渡航シ市我高ニ至リ大博覽會ニ於ケル世界皮革ノ一斑ヲ查了シ進テ紐育ヲ經テ英佛等ヲ周歷ス其目的斯業商工ノ視察ヲナセリ其歸朝スルヤ大ニ諸般ノ改良ヲ加ヘ前載地球印品位ノ帶革ヲ製出シテヨリ江湖ノ品評比前ニ倍加セリ

●上來ノ記述誇言ニ似タレ圧敢テ否ラス卽チ需用諸君ノ眷顧深キト弊方之ニ酬ユルノ結果ニ依ルモノト御賢慮ヲ請フ多少ニ限ラズ御用命アランコトヲ但御命示次第速ニ價表ヲ呈送ス可シ

商標

電話七百四拾八番

大阪府西成郡難波村第千二百八十二番屋敷
帶革及諸革原料製造元 新田製革所

大阪府西成郡難波村第五千百六十番屋敷
帶革及諸革製作所 新田長次郎

東京市京橋區銀座一丁目第十一番地
關東地方販賣所 大阪新田長次郎出張店

附言
今回第四回內國勸業博覽會出品ノ物質ハ平常註文ニ應スルモノト同一ナリ願クハ前記諸工場ニテ御調査アリテ殊更ニ製作シタルモノニアラズ且取引上確實ナルヲ知リ賜ランコトヲ

確實正札附

廣告

優美高尚

意匠登錄天折扇	正價一本ニ付 四錢ヨリ
大極殿圖扇子	仝 四錢
大博覽會圖扇	仝 二錢五厘
日清戰爭狂畫扇	仝 三錢
意匠登錄願中ランプ傘	仝 廿錢ヨリ
專賣特許反射小衝立	仝 四拾錢ヨリ
專賣特許竹細工衝立	仝 三拾錢ヨリ

其他各種扇子團扇類種々

右物品精撰意匠斬新勿論廉價ヲ旨トシ發賣仕候間陸續御購求アランコトヲ冀望ス

御土産品御持用及裝飾用ニハ大適當

並ニ マニラ製上等葉紙巻煙草
米國最上等紙巻 スウィートフールドレス 販賣所

發賣所 京都市四條御旅町 石角支店
仝 仝寺町通佛光寺下ル 森眞賞堂

受販賣御望ミノ方ハ本店ヘ御來談アレ

製造本店 京都柳馬場佛光寺上ル 石角商店

梅田ステーションヨリ各所ヘノ道程

商品陳列所	四丁	高津宮	三[illegible]
大阪府廳	十五丁	中ノ島公園	八
川口	十八丁	天滿天神	十[illegible]
天保山	六十丁	造幣局	十[illegible]
阿弥陀池	二十丁	櫻の宮	廿[illegible]
湊町停車場	廿五丁	博物場	十[illegible]
難波ステーション	三十丁	大阪城	二[illegible]
今宮戎神社	四十丁	北御堂	十[illegible]
商業倶樂部	四十五丁	南御堂	十[illegible]
天王寺	五十丁	心齋橋	十[illegible]
住吉	二里半	道頓堀	二[illegible]
生玉社	三十三丁	新田製造[illegible]	[illegible]

出品者諸君必讀の告條

今回の第四回内國勸業博覽會は期せずして我日本帝國の大に膨脹せんとする間際に開かれ、出品者諸君に取りては各自製品の名譽を内外に輝かし將來一層廣大なる市場に之れを販賣する上に於て思ひ設けぬ好運を得られたることを申すまでもなし、左れば此際審査の上**賞牌賞狀を受けたる人々**は逸早く**其名譽を負へる物品**を世人に知らしめんとするの思ひ切なるべきは勿論、世人も亦た之を知らんことを希望するは當然の事なり、偖て其吹聽を最も速かに、最も廣く、又た最も効能ある樣に爲さんとすれば、新聞に廣告するに若くものなし、又た其新聞の中に[illegible]平生[illegible]の**機關**として世間に隱れなく、**廣く**[illegible]利とす

來者[illegible]者中に[illegible]**の中**[illegible]口稠密[illegible]中國九[illegible]の博覽[illegible]し且つ博[illegible]以來此に[illegible]毎日新聞[illegible]は更らに**一層の奮發**を爲し今度博覽會褒賞の授與式あるを機とし其受賞者諸君に限りては特に異例を開き**二割引**を以て其廣告の依頼に應ぜんとす、是れ專ら出品諸君が製品の上に負ひたる**名譽を四方に紹介**して博覽會の効能を一層大ならしめ又讀者平生の愛顧に酬ゐんとするの微意に出づるものなれば出品者諸君にして其廣告を望まるゝ向きは此意を諒し本社の**割引切符**(係員の印章あるもの)に料金を添へて直ちに申込みあるべし本社は其順序に從ひ最も体裁よく廣告欄内に載せて四方に配布することを怠らざるべし

明治廿八年七月

大阪市東區大川町五十五番屋敷(電話番號三百五十番)

合資會社**大阪毎日新聞社**

廣告料定價(普通定價五號活字廿二字詰一行ニ付十八錢)(特別割引二割)五號活字一行ニ付十四錢四厘

受賞廣告 **特別割引券**

第四回内國勸業博覽會出品者にして此券を持參せらるゝ人に限り特別二割引を以て廣告の依頼に應ずべし

明治廿八年七月

大阪市東區大川町五十五番屋敷

合資會社大阪毎日新聞社

注意 本文の割引切符を望まるゝ向きは各縣の事務所に出張せる本社員に就いて御請取りあれたし

梅田ステーションヨリ各所ヘノ道程

商品陳列所	四丁	高津宮	[illegible]
大阪府廳	十五丁	中ノ島公園	[illegible]
川口	十八丁	天滿天神	[illegible]
天保山	六十丁	造幣局	[illegible]
阿弥陀池	二十丁	櫻の宮	[illegible]
湊町停車場	廿五丁	博物場	[illegible]
難波ステーション	三十丁	大阪城	[illegible]
今宮戎神社	四十丁	北御堂	[illegible]
商業倶樂部	四十五丁	南御堂	[illegible]
天王寺	五十丁	心齊橋	[illegible]
住吉	二里半	道頓堀	[illegible]
生玉社	三十三丁	新田製造[illegible]	[illegible]

出品者諸君必讀の告條

今回の第四回内國勸業博覽會は期せずして我日本帝國の大に膨脹せんとする間際に開かれ、出品者諸君に取りては各自製品の名譽を内外に輝かし將來一層廣大なる市場に之れを販賣する上に於て思ひ設けぬ好運を得られたること申すまでもなし、左れば此際審査の上**賞牌賞狀を受けたる人々**は逸早く**其名譽を負へる物品**を世人に知らしめんとするの思ひ切なるべきは勿論、世人も亦た之を知らんことを希望するは當然の事なり、偖て其吹聽を最も速かに、最も廣く、又た最も効能ある樣に爲さんとすれば、新聞に廣告するに若くものなし、又た其新聞の中に就いても平生專ら**實業の機關**として世間に隱れなく、**廣く實業者に讀者を有する**ものに廣告するを最も便利とするは何人も能く知らるゝ處なるらん

大阪每日新聞は年來實業主義を以て世に立ち一般**實業者の機關**を以て自ら任ずるものなれば、其讀者も亦た隨て商工業者中に多數を占むるは勿論地方の上より言ふも自ら**日本商工業の中心**たる大阪に位地を占めて其讀者は全國到處に多きが中に取分け人口稠密にして**物貨集散の頻繁**なる名古屋以西又北陸地方より中國九州四國へ掛けて**最も多數の讀者を有し**殊に今回の博覽會に付ては世間に率先して**最も精細なる報道**をなし且つ博覽會をして首尾貫徹偉功を將來に貽さしめんことを期するより開會以來此に力を盡くすこと最も多きは世評の已に許す處なり、此に於て乎大阪每日新聞は更らに**一層の奮發**を爲し今度博覽會褒賞の授與式あるを機とし其受賞者諸君に限りては特に異例を開き**二割引**を以て其廣告の依賴に應ぜんとす、是れ專ら出品諸君が製品の上に負ひたる**名譽を四方に紹介**して博覽會の効能を一層大ならしめ又讀者平生の愛顧に酬ゐんとするの微意に出づるものなれば出品者諸君にして其廣告を望まるゝ向きは此意を諒し本社の**割引切符**（係員の印章あるもの）に料金を添へて直ちに申込みあるべし本社は其順序に從ひ最も体裁よく廣告欄内に載せて四方に配布することを怠らざるべし

明治廿八年七月

大阪市東區大川町五十五番屋敷（電話番號三百五十番）
合資會社**大阪每日新聞社**

廣告料定價〔普通定價五號活字廿二字詰一行ニ付十八錢
特別割引二割五號活字二十二字詰一行ニ付十四錢四厘〕

注意　本文の割引切符を望まるゝ向きは各縣の事務所に出張せる本社員に就いて御請取りあれたし

大日本帝國筑前玄海水産物販賣廣告

●小鯛　●中鰈　●小鰈　●貝柱　●白魚
●中はぜ　●小はぜ　●しらこ魚
●あなご　●鑵かに　●鰕其他種々

● ぎ…す…け…煮……尤も姿の儘

一今般弊店賣捌の品はぎすけ煮と稱し是迄各店にて賣捌き居(ツクダニ)と其類を全く異にし鑵詰瓶詰にて**輕便廉價**變味腐敗の恐れなきは此品の特色にして弊堂の充分保証する處**宴會茶席旅行**其他**四季**の御進物等には頗る適當の佳品に御座候へは左の定價表御一覽の上大方諸君多少に不拘陸續御註文御購求之程奉希上候敬白

定價表

鑵詰　拾錢ヨリ各種
瓶詰　拾五錢ヨリ各種
正味品掛賣ナレバ五錢ヨリ

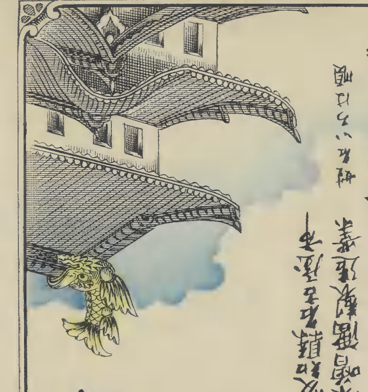
右の外牛肉、飯蛸、白魚、蛤、蜆、鰕ノ貝柱、あかがい、鑵詰及びつき出し用の海老煎餅たい粟餅も有升

九重銀婚式御献上品

京都市四條通大和大路西入南側
(四條芝居前)
阪　玄海堂支店

製造元　福岡市博多東中洲　宮野儀助
特約一手販賣　大阪市南區順慶町心齋橋西入南側　玄海堂本店
大阪賣　京都市四條通り大和大路西入南側　玄海堂支店

名古屋味噌



大日本水産品評會三等賞

丹後特産 袋烏賊

但シ食法ハ炭火ニ燒キ要セサルヲ度トス蓋シ末ニシテ食スルヲ宜トシ其他方法数多アレ茲ニ略ス

褒状

第三回内國勸業博覽會

天橋名産 女浪男浪

但シ用法ハ此侭ニテ食スヲ最モ佳トス吸物ハ沸湯ニ醤油ヲ加ヘ暫時ワケ置キ味ヘ二度酢ニテモ可ナリ又タ乙ニ有用ナリ

関西水産共進會賞状

我丹後國ノ水産物ハ富有ナルハ已ニ世人ノ知ル所ナルモ其製法ノ絶巧ナルニ至リテハ不幸ニシテ昔ヨリ世ニ知ラレズ僻在ノ故ニ多年ノ刻苦ト經驗ヲ積ミ茲ニ第三内國勸業博覽會ヘ出品シ幸ニ其製品ノ美佳味ノ好評ヲ博シ有功賞牌ヲ賜リ又第四回五回水産品評會ヲ始メ関西聯合共進會其他各會ニ於テモ優等ノ賞牌ヲ賜ワリ名声ノ光栄ハ四方ニ遍ネク就テハ目下開會中ナル第四回内國勸業博覽會ヲ機トシ天下ノ紳士諸君ノ我特産物ヲ良シトセラ得ルハ其佳味ノ好評ヲ博サセシ為メ同會ニ出品シ且ツ貴君ヲ設ケ大ニ勉強ヲ専ラ仕ル所ニ於テ價格ハ勿論貴君ノ依賴ニヨリ遠國ハ御注文ニ應シ製品ニ注意シ價格ハ勿論低廉ニ何卒御試験ノ上御購求アランコトヲ切ニ冀望ス

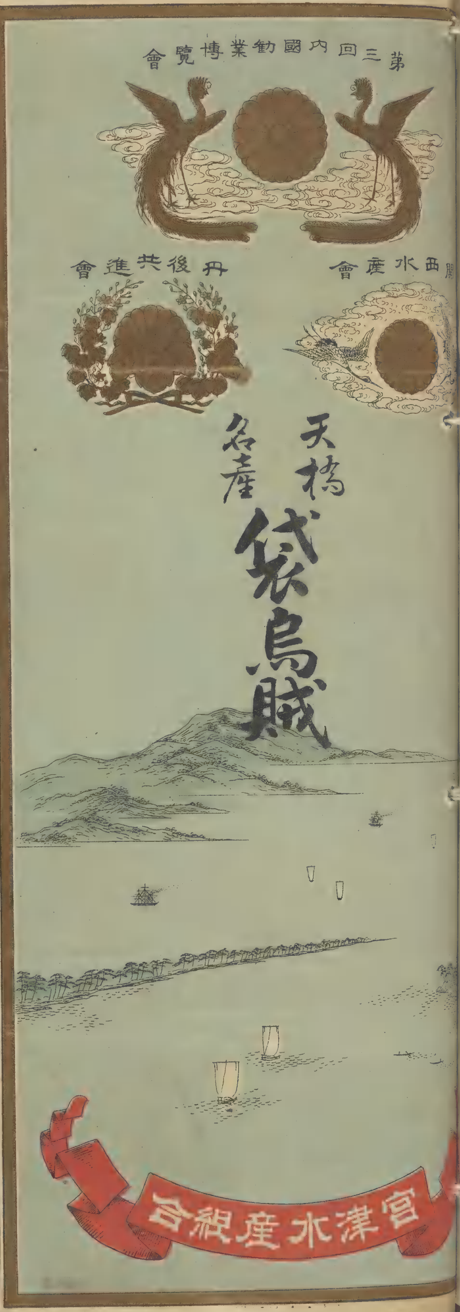
其他水陸産物各種

丹後國宮津港

丹後水産物改良製造家 前田庄助

博覽會ニ門東部 前田出張店

追テ遠方ノ御客様ハ郵便為換ヲ以テ御注文アレハ早速荷造御送付可仕候



南部鐵瓶 東北松山化石 華

宮内省御用 伏見宮殿下

皇國

奥州

三井石紫硯

奥州東山産三井石

製品 硯、硯屛、筆架、筆立、文鎮、墨載、水入、石盤、床額、柱隱、風鎮、掛物軸

種類 床飾、寫眞挾、花瓶、食卓、菓子皿、茶器、香爐、其他美術彫刻、諸器具ヲ製ス

皇國無比紫名石

發賣元 陸中國水沢町四百八十五番戸 三井石商會

目の雄壮にして鑛石珠玉の産に富み院内半田唐桑の寒水石砂鉄蜜鉢鍾乳石等枚擧に遑あらず名世に顕れざる所以なり乃ち其品質の佳良なる伊達藩属玉産地を發見しある之を藩府に領奉ある許さず三井山の所謂仙臺藩侯乃御留山と稱せら稍其質を同ふせす實に世に容易に得難き乃良品由にも潤利の良山あるを論ぜす東山の硯材石り嘗て高野長英先生の著述にも山なるあと先生の家大人は贈為天覽に號て見る眼睛あり故に有為の經世家の眼に着眼し遠く三百年前になり山石材の品質拔世の良硯材たるを以て藩政の御厩たる後に三井山ま于さて御留山となるに至り本邦硯材の定評高田斐の雨畑石長門の赤間石若狭の鳳只石近江の石等の如き人口に膾炙して産出に乏しからさまでも其質あるや柔軟なるざるは堅硬に過ぎるを得る難し獨り三井石の硯材に至りても時得の良質端渓にも駢馳して或は及ばざるを抜く雨畑赤間に比しては倶に仂たるを肯せざるありその良品たるを推して知るへし維新の革命藩政の後創業以来日猶淺きにも拘らず都鄙諸新聞の評を博し諸大家紳の賞賛を得文人墨士の綴を辱して日に月に業務の隆盛に趣き其石の佳良なるに因るとは雖も亦顧諸君の賜ものなりんばあらず依て今般販路擴張の為め獨り製硯のみならず卓絶の意匠家に謀り形状斬新高尚を撰び之を精妙なる工匠家に彫刻家に囑して精技を盡し實用品に装飾品に内外の需用に應ぜんとし左の品目を製作し廣く世界各國に販鬻を公に努んと欲す内外の業家諸君幸に購得の榮を垂されは信に弊會の慶福なりと云爾

都鄙諸新聞の高評貴紳諸大家乃賞状陸續有之も紙幅狹隘なるを以て之を畧す

岩手縣陸中國膽澤郡水澤町

全國一手 製造發賣元 三井石商會

品目

●硯○懷中硯○硯屛○筆架○筆立○筆洗○文鎮

○墨載○繭池○水入○風鎮○石盤○掛物軸○

額○床飾臺○花瓶○寫眞挾○洋燈臺○香爐○

立○位牌○卷煙草入○パイプ○將棊盤○柄杓

○菓子皿○菓子重○茶器○其外諸君の御好に應じ製品

○御進物用の硯其他製品ハ桐箱入にて販賣す

第三回内國勸業博覧會

丹後農産會

関西水産共進會

天橋名産

袋烏賊 女浪男浪 水鰑 千甘鯛 烏賊糀漬

用法

但シ食法ハ炭火ニ暖メ色ノ變ゼザルヲ度トス蔵末ニシテ食スルヲ宜シトシ其他方法數多アレドモ茲ニ畧ス

但シ用法ハ其儘ニテ食スヲ最モ佳トス又吸物ニハ沸湯ニ醤油ヲ加ヘ暫時カケ置キ味フベシ二度酢ニテモ可ナリ又すゝしノ肴ニ用テ可ナリ

廣告

抑モ弊店制品出之前記各種ハ弊店カ多年ノ刻苦ト經驗ニヨリ今ヤ吾ガ天ノ橋立ノ風景ト共ニ精良佳味ノ好評ヲ博シ弊店ノ光榮之ニ過ズ因テ将来倍々廣ク諸彦ノ貴需ニ應セシカ為メ清鮮ヲ撰ミ風味ニ注意シ價額ハ低廉ニ外粧ハ美麗ニ且ツ軽便ニ充分勉強仕候間遠國ヘノ進物用ニ御購求被下度其他酒宴茶席共ニ御試ミノ上前陳ノ過言ニアラザルコヲ是認シ給ヒ尚一層ノ御愛顧ヲ蒙リ度偏ニ奉懇願候也

其他 塩辛鑵詰類 諸魚品々

製造元 宮津港 宮津水産組合

鉄瓶 東北松山化石華

宮内省御用

伏見宮殿下御賞賛

奥州東山

皇國無比

三井石紫硯

抑も奥羽は地方の内地面積四分ノ一残占免山川自ら雄壮にして鑛石珠玉は産に富み院内半田銀鑛毛馬内は銅窯稲井雄勝は玄昌石津軽は瑪瑙唐桑は寒水石袴窯は鍾乳石等枚挙に遑あらざるも普く世は知る所なり然り而して獨り三井石は名世に顕れざる所以れも乃ち其品質は佳良なるを以てなり昔時は藩政之境土を封して其領内に偶々珪属玉産地は發見しあるも尊府は領奪抜要究して隠蔽し御留山と稱す人民に一摘は土石あるも許さず三井山も所謂仙臺藩侯乃御留山と稱せしにして満山盡く至寶の名石積疊為支那乃端溪も稍其價を同ふして寔に世に容易に得難処の良品なり嘗て高野長英先生の著述よ成りる山相秘録れ中にも端利の良山あるは論せず東山の硯材石山なるふと先生の家大人ま贈為天牘に就て見るも明瞭なり故に有為は經世家風に着眼し其遠く三百年前になりも雖も石材の品質稀世の良硯材あれを以て藩政の抑壓あるも遂に三井山をらさて御留山と爲るに至ん本邦硯材は甲斐の雨畑石長門の赤間石若狭の鳳凰石近江の高石等の如き人口に膾炙まて産出に乏しからさるも其性質や柔軟たるを得ざるや堅硬に過ぐを得る事難し獨り三井石の硯材に至りても時得の良賦端溪も駢既して或れ及ばざる所なり雨畑赤間に比してれ俱に位きるを肯せざるなりその良品あるを推して知るへし維新の革命藩政の後創業以来日猶浅処にも拘らず都鄙諸新聞の好評を博し諸大家学紳の賞賛を得文人墨士のを辱して日に月に業務の隆盛に趣きれ其石の佳良なる事因るも雖処亦願諸君の賜ふのんばあらず依て今般販路擴張の爲め獨り製硯の為あらず卓絶の意匠家に謀り形状新を撰び之を精妙なる工匠家彫刻家に附囑して精撰めて實用品に装飾し内外の需用に應ぜんし左の品目を製作し廣く世界各國に販賣を公に普く内外の愛客諸君幸に購得の栄を垂これ信に弊會の慶福なりと云爾

都鄙諸新聞の高評貴紳諸大家乃賞状陸續有之も紙幅狭隘なるを以て之を畧す

岩手縣陸中國膽澤郡水澤町

全國一手 製造發賣元 三井石商會

品目

●硯○懐中硯○硯屏○筆架○筆立○筆洗○文鎮

○墨載○硯池○水入○風鎮○石盤○掛物軸○

額○床飾臺○花瓶○寫真挾○洋燈臺○香爐○

立○位牌○巻煙草入○パイプ○将棊盤○柄杓

○菓子皿○菓子重○茶器○其他諸君の御好に應し製品

○御進物用の硯其他製品は桐箱入にて販賣す

天橋名産

第三回内國勧業博覧會

丹後農産會

関西水産共進會

袋烏賊

女浪男浪

水鰯

干甘鯛

烏賊糀漬

用法

但シ食法ハ炭火ニ暖メ色ノ變ゼザルヲ度トス截末ニシテ食スルヲ宜シトシ其他方法數多アレドモ茲ニ畧ス

但シ用法ハ其儘ニテ食スヲ最モ佳トス又吸物ニハ沸湯ニ醤油ヲ加ヘ暫時カケ置キ味フベシ二度酢ニテモ可ナリ又すゝしノ肴ニ用テ可ナリ

廣告

抑モ弊店製之出之前記各種ハ弊店カ多年ノ刻苦ト經驗ニヨリ今ヤ吾カ天ノ橋立ノ風景ト共ニ精良佳味ノ好評ヲ博シ弊店光榮之ニ過ズ因テ将来倍々廣ク諸彦ノ貴需ニ應セシカ為メ清鮮ヲ撰ミ風味ニ注意シ價額ハ低廉ニ外粧ハ美麗ニ且ツ軽便ニ充分勉強仕候間遠國ヘノ進物用ニ御購求被下度其他酒宴茶席共ニ御試ミノ上前陳ノ過言ニアラザルヿヲ是認シ給ヒ尚一層ノ御愛顧ヲ蒙リ度偏ニ奉懇願候也

其他
塩辛鑵詰類
諸魚品々

宮津港

製造元 宮津水産組合

廣告

農商務省特許 第二四〇九號

新規發明

兩脚規

定價 並製一本ニ付三錢 上製一本ニ付五錢

「コンパス」文廻ペン軸兼用

此新發明ノ**兩脚規**ハ所謂「コンパス」ニシテ且ツ本器ハ文廻及ヒペン軸ニ應用シ尚ホ其上製品ハ定規又ハ「インチ」目付ノ尺度ニ兼用シ實ニ一器以テ數器ノ用ヲ便スル新規有益ノ**特許品**ナリ

此新發明ノ**兩脚規**ハ短脚ノ下端ニ鉛筆又ハ毛筆若クハ「ペン」ヲ挾持シ環ヲ以テ強ク緊束シ長脚ノ内部ニ包藏セル切斷面楕形狀ヲナセル支杆ヲ長孔ニ穿通シ兩脚ヲ適當ノ距離ニ開キ該支杆ヲ下方ニ壓シ附クレバ摩擦ニ依テ固着スルヲ以テ位置變動ノ憂ナク一定ノ距離ニ於テ定止シ又支杆ヲ上方ニ壓シ上グレバ兩脚ヲ動カシ其距離ヲ變シ得テ「**コンパス**」又ハ**文廻**ニ使用シ其用終ラハ支杆ヲ脚ノ内部ニ縮盡シ又環ヲ以テ緊束スレバ**ペン軸**ニ應用シ得ル**特許品**ナリ

此新發明ノ兩脚規ハ小學校、中學校、師範學校、女學校、其他各種ノ學校教員生徒諸氏幷ニ陸海軍人、官衙、會社、銀行、商舘、又ハ職工等各位座右ニ一本ヲ備ヘ置カバ測量、圖面、圖畫、罫書、罫引、其他諸帳簿記入等一器ニシテ數器ノ用ヲ便スル實ニ輕便有益ノ**特許品**ナリ

此新發明ノ**兩脚規**ハ高價ナル舶來「コンパス」ニ優ルモ決シテ劣ラズ故ニ外國輸出ニ適シ且ツ價極テ低廉ニシテ尤モ堅固ナル**特許品**ナリ各地有名ノ文房書肆洋商店等ニアリ希クハ試ミニ御使用アランヿヲ望ム

明治廿七年十二月四日特許

德島縣德島市大字下助任村六百廿四番屋敷

發明人 藍商兼雜商 **淺野八呂**

本器ハ短脚ヲ彎形トナスヲ以テ厘毛ノ小圓形ヲ容易ニ畫クヿヲ得ヘシ然レヒ久シク用ヒ又ハ久シク保存セハ自然ニ直線トナリ脚ノ末端ニアル針尖ト鉛筆ト相密着セサル樣ナルモ計リ難シ然ラハ短脚ヲ火ニ暖メ彎形トナシ水ニ濡サンヿヲ且ツ「コンパス」ニ使用スルニハ自由ペンヲ短脚ノ末端ニ插入スレバ尤モ便利トナス然レヒ若シ自由ペンナク通常ペンヲ用ユルトキハ該短脚ノ末端ニ鉛筆トペンヲ抱持セシメ環ヲ以テ緊束シ使用アランヿヲ望ム

宮內省御用御鬢油所

農商務省特許商標 第八九號 登録商標

內外各國受領賞牌

調製發賣元

茨城縣水戸市馬口勞町

小泉川之屋本店

小泉茂兵衛

製造品種類

御用御鬢油類 種白絞種水油類
純良香水香油類 和洋蠟燭類
正眞丁子油類 生蠟晒蠟類
梅花椿水油類 各國產紙類
和漢洋香具類
麝香油及香油原料類
結晶香油束髮鬢油類
粧顏肉色白粉類
理化應用衛生白粉類
肉体白色膏理自浸類
元結水引類
煉香炷香匂袋類
京紅水白粉類
文房具類
繭糸及蚕種原紙類

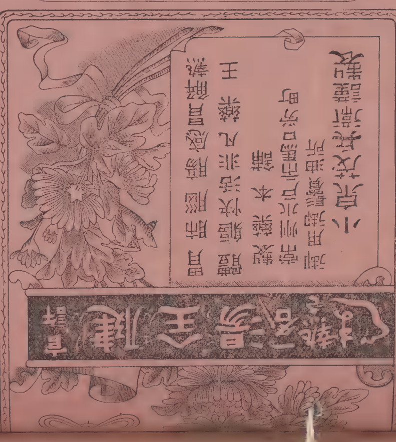
[illegible]

內外各國於博覽共進諸會受領賞牌有功協贊功勞等之金銀銅牌其餘名譽優等褒賞總數貳拾有餘回

健全湯特約賣弘元

松澤八右衛門

小泉茂兵衛



共進會 有功賞

明治拾三年京都博覽會ニ於テ有功賞

明治拾六年第二回製茶共進會四等賞

明治拾七年高知縣共進會ニ於テ二等賞

明治拾八年京都府博覽會ニ於テ有功銀牌

褒賞文（精製香味色緻スル所ナシ其有功著シク最モ表異ス可シ）

明治拾八年京都府下製茶品評會壹等賞

明治拾九年第二回關西聯合製茶共進會ニ於テ四等賞

明治廿年京都府下品評會壹等賞及金牌

明治廿一年山城物産會**壹等賞**銀盃

明治廿一年第三回關西聯合製茶共進會四等賞

明治廿三年内國勸業博覽會三等有功賞

褒賞文（香氣芳冽風味亦清美ナリ培養及製法ノ懇到ナルヲ徴ス其有功嘉賞ス可シ）

明治廿四年大日本農會ニ於テ**壹等賞**并書籍七冊

明治廿五年第四回關西聯合製茶共進會三等賞

明治廿五年京都市製茶共進會ニ於テ**壹等賞**

明治廿五年大日本農會ニ於テ二等賞

明治廿六年茨木縣共進會協賛賞及銀牌一個

明治廿七年四月富山縣博覽會ニ於テ壹等賞状金牌

右之外京都府全郡品評會及物産共進會ニ於テ**壹等賞**及木盃數個賜ル

弊店製造ノ精茶右之通各會ヘ出品毎ニ褒賞ヲ賜リ爾來一層改良奮發精撰ヲ加ヘ安直ヲ旨トシ販賣仕候間舊ニ倍シ御用向被仰付度奉願上候

茶問屋 〈り 山城國宇治新町 辻利兵衛 (印)

（印行所 京都市三條通東洞院東入 合資商報會社）

廣告

抑モ森林ノ盛衰ハ國家之消長ニ關シ固ヨリ至重至大ノ要務ナレハ進ンテ造林之基礎ヲ鞏固ニシ保護愛養ノ道ヲ講セサルヘカラス況ヤ人民日ニ增シ月ニ盛ニ鐵道ノ延長電線ノ架設年ヲ遂ヒテ多キヲ加ヘ爲メニ木材之需用ノ增加ヲ來スハ今ニ於テ前途需用供給ノ程度ヲ審案シ其長計ヲ立テサルヘカラス欠乏需用ニ應スルヿ能ハサルノ實況ヲ呈セン是レ小生ノ大イニ憂慮スル處ニシテ數年各府縣廳各郡衙御料局大林區署ヘ上伸シ我國著名ナル精撰杉檜種子苗木御注文ニ應シ年々數石調進スルヿ玆ニ年アリ尚ホ本年一層種子研究審査多量採集致置候間陸續御注文申込相成度精々廉價ニテ迅速調進可仕候敬白

要　旨

一杉檜種子御注文之節ハ其年九月ヨリ翌年四月迄申込相成度候也

一杉種子壹升量目貳百目檜種壹升目方百六十目

但シ多量ハ箱入堅固ニ荷作リ通運賃先拂

少量ハ木綿袋ニ入レ郵送ス郵送税三十目毎ニ貳錢

一種子代金郵便爲換ニテ送附ノ節ハ大和國大瀧局ヘ取組可被降事

一種子代金前金之事

但シ各府縣大小林區署御料局町村役場農會其他官名アル分此限リニアラス

定　價　表

一杉檜種子壹升ヨリ壹斗迄壹升ニ付價金四拾五錢

一種子壹斗以上五斗迄壹升ニ付價金四十錢

一種子五斗以上壹升ニ付價金三拾五錢

杉　檜　兩　種　同　直　段　之　事

一全國試作有志者ニ每年種子壹合宛無代價郵送税貳錢ニテ進呈ス人員一千人ヲ限ル

一種子請求者ニ限リ見本品進呈ス　　郵送税貳錢添付申込アリタシ

一吉野名産杉檜栽培解説書一部郵送税實費印刷費トシテ金五錢ツヽ送ラハ直チニ送附ス

奈良縣吉野郡川上村大字西河

吉野物産精良杉檜

種苗調進所　高貝儀三郎

各位

大々的快報

征清ノ皇軍ハ連戰連勝破竹ノ勢ヲ以テ今ヤ將ニ北京ヲ陷レントス

平和ノ戰塲ニ於ケル大捷者トシテ外貨ヲ吸收シ我邦ヲ滿福ナラシメントスルモノハ何者ゾ請フ左ノ廣告ヲ讀マレヨ

登錄商標

弊舖製造ニ係ル二尺巾一尺八寸巾縞木綿縮ハ江湖各位ノ諒知セラル、如ク高尚優美ニシテ染色ハ確實品質ハ精良ヲ極メ柄ハ時世ニ遲レザル樣種々ト意匠ヲ凝ラシ有ル故ニ夏季旅行ノ洋服或ハ諸製造場等ノ常衣服シヤツ又ハ單物幷ニ浴衣ニハ尤モ適當品ナルト內外各位ノ高評ヲ得年々製造高增加シ加フニ海外輸出モ日增隆盛ニ趣キ候ハ全ク各位ノ御愛顧ノシカラシムル處ト深ク奉謝候就テハ尚此際一層注意製造販賣仕候間舊ニ倍スル御看顧ヲ仰ギ度折柄第四回內國勸業博覽會ノ開設ニ際シ候間同會ニ出品ノ許可ヲ得會場ニ陳列シ有之候間新知ノ諸君ハ現品御一覽ノ上製造元並ニ下記販賣店ヘ續々御用被仰付度候敬白

西洋毛織物商
幷ニ幅廣縞木
綿縮製造販賣

東京日本橋區本石町十軒店

大瀧商店（電話千百九十一番）

販賣店

大阪賣店　大阪東區道修町四丁目　芝川新次郎

大阪東區平野町四丁目　澤田善助

京都寺町佛光寺上ル　近藤支店

大阪東區今橋四丁目　甲斐島彥太郎

株式會社東京築地活版製造所印刷

商標

大日本産科元祖醫 賀川大先生御方劑

産婦調血湯

産前産後の道大妙

定價表 壹服入金五錢 三服入金拾三錢 七服入金三拾錢

一凡そ婦人の疾病中最も多き者は子宮病及び血の道にして概ね薄弱なる婦人に多し今其發病原因の一二を示せば運動不足或ハ失望愁哀憂慮或は精神過勞房事過度或は月經不順等が第一誘因となりて終に血の道を起す種々の子宮病を併發して終に持病となり一生涯を病痾の間に終る殊に大切なる胎兒の生育に於大なる關係を及し加之早産或は流産を促し又難産に於ても非常の困難を生し將亦終身妊娠せさるもありて一家の斷絶を來すの不幸を見る等豈恐さるへけんや抑も我製出する産婦調血湯は人の重任を全から令す爲に一家の廢絶を來すの不幸を見る等豈恐さるへけんや抑も我製出する産婦調血湯はると共に其害延て子孫に波及し加之早産或は流産を促し又難産に於ても非常の困難を生し將亦終身妊娠せさる人の重任を全から令す爲に雷名を轟かされたる大日本産科元祖舊禁裏御所御典醫京都賀川大先生の御方劑にして今を去る遠く數百年の昔より經驗相傳せられし靈藥にして一たび本劑を世に公と成したる以來不治の難症を救ひ重症を全治せしむる事に枚擧するに遑あらず故に婦人藥王として其名聲滿天下に轟き上は貴顯御婦人方より下は日稼の御内儀方に至る迄用ひらるに至る是先生の方劑全きを得る故にして本舖の大光榮なり故に此病患の人々は重症に至らざる前に服用せば直に治すべく又難症と雖も本劑を連用せば積年の病苦を除き愉快なる壯健者となり天壽を全たふし得べくは未だ本劑を服用せざる御令婦は速かに用ひて其偉靈卓效を試みられんことを

主治功能

血の道症　手足腰廻り及下腹冷へ○筋はり痛み○心悸亢進○手足痲痺て自由ならず○腹の來痛み甚しく○咽喉に上り又は咽喉を絞掛け○全身を錐にて鑽るゝ如く痛み逆上又は耳鳴○氣のふさぎ頭痛又は通じ惡しく○胸先き惡しき等によし

産前産後諸病　つはり嘔吐○妊娠冷込○妊娠全身の水腫○妊娠腰及腹の痛○産後の水腫○産後の瘀血不下○産前後の眩暈等に大効あり

子宮痙攣症　子宮冷込○子宮腰より差込痛等によし

月經不順　月やく少く○又は多き人○或は月やく止りたる等に不思議の効あり

感冒症　産前後の感冒○流行感冒○頭痛○惡寒○發熱する諸病等によし

用法服量　輕症は一日に一服を沸湯一合に振出する三回跡水一合半入一合に煎じ用ゆ重症は服を同樣に用ゆべし

附言　右血の道子宮病にて三五年七八年諸藥を服し愈へがたき如何程むつかしき病症にても本劑を服せば治せずと云ことなし其効能に據り全快諸君より寄送ありし禮状數多あり實に救世の

注意　本劑の製造日に月に倍加隆盛なるを羨み近來世上に紛らはしき疑造藥を販賣する者あり御山城國片木原辻傳兵衛に篤と御注目の上御愛求あらん事を祈る

快復堂主 辻傳兵衛

正本家調劑所　山城國葛野郡片木原上之町

特約販賣店　京都市柳馬場四條上ル 田中庄兵衛　同四條御旅町 饗庭資生　同三條柳馬場角 川杉資善

◎本劑は全國到る所の藥店にあり最寄御求を乞

明治廿五年三月八日遞信省認可

讀賣新聞 附錄

明治廿八年三月四日 第六千三百二十號

◎濟遠號宇品に着す（三日午後一時二十分匹田鋭吉發）

今朝八時〇〇號ハ濟遠號を連れ宇品に着せり

◎平遠廣丙に就き（同上）

〇〇號ハ平遠を連れ〇〇號ハ廣丙を連れ明日宇品着の筈なり

◎伊東司令長官の歸朝（三日午後一時二十分廣島匹田鋭吉發）

伊東聯合艦隊司令長官ハ本日午前十時宇品に歸着して上陸し十一時廣島に至り直に大本營に參内せしに拜謁を仰られ優渥なる御辭を賜りたり

◎伊東司令長官上陸の摸（同上）

伊東聯合司令長官が宇品着の際小松宮參謀總長殿下を始めとして山縣陸軍大將・西郷海軍大將・樺山海軍中將外數百の將校出迎ひ司令長官ハ暫時長沼支店にて休憩中海陸軍樂隊凱旋の樂を奏し數萬の出迎ひ市民ハ司令長官万歳を呼べり

◎濟遠を觀る（三日午後二時廣島匹田鋭吉發）

余（匹田鋭吉）ハ今廻航委員長伊知地大尉の案内にて捕獲軍艦濟遠を見たり

二十一珊のクルツプ砲二門十五珊のクルツプ砲一門其他十二門の砲あり

水雷發射室の外ハ不潔にて大掃除を爲せる由煙筒を貫き右舷に抜けし砲痕あり我軍百尺崖より二十四珊を發射したる痕あり

◎第三師團進で敵を破る（三月三日午前十一時三十分大本營發 同 午後〇時四十分陸軍省着）

委細後報

二月二十八日午後七時小川第一軍參謀長發三月一日午前一時四十五分發左の報あり

第三師團ハ本日午前四時運動を起し藤本大隊ハ突貫を以トゥ山の敵で第六旅團敵を攻擊す此時藤本大側背に迫り河沿を占領又一部隊ハを攻擊してを占領す午後一時半ハ西烟台よ亘る一帶の今夜此線にせり

我死傷ハ將八敵の屍体の方面にあ路のみにて敵の兵數ハ依是を指揮を有し大部却せり

又午前九時屯より海城し來りしがを擊退せり千あり

（此電報ハ遲着）

て先づセキ
を擊攘し尋
ハ沙河沿の
隊ハ敵の左
八時全く沙
ぜり
大費屯の敵
十時半同地
に至り旅團
より大費屯に
の地域を占め
に前哨を配布
稜以下九十
津ハ第六旅團
ある一條の道
と五十五あり
ハ約一萬五千
津し砲八九門
部ハ北方に退
岡頭東部柳公
城に向ひ攻擊
我守備兵之
り其兵數約三

○第三師團再度の進擊

三月三日 午後一時四十七分發
三月三日 同 二時三十五分着
陸軍省 大本營 山内副官

三月一日午後七時半第一軍參謀より左の報あり

第三師團ハ本日（三月一日）午前八時出發乾線堡に向ひ前進せしに約二千の敵兵同地附近にて抵抗せしが前衛ハ和尙溝より來りし林大隊と共に之を攻擊し十一時四十四分全く該地附近を占領せり

其後前衛ハ續て龍臺子の敵を驅逐し師團ハ前哨をして臺子より官粉寺を經てリウシヨウコウトンに亘る線に配布し本隊ハ乾線堡に宿營す

敵の兵力ハ少くも五千にして北方に退却し其大部ハ前面數町にあり

本日の我死傷者五敵の死傷未だ詳ならず

此日風雪甚しく同日正午頃より止みたり

○李經芳ノ氏天津に向ふ

李經芳とフオースタ
氏ハ李鴻章の招請
り本日當地出發天津
向へり

○フ氏淸廷に和を勸む

フオースター氏ハ先
より頻りに淸廷に和
勸告し一日の躊躇ハ
百萬両の損失を招く
のありと痛言せり

○劉永福天津に召さる

北京の某官吏ハ淸帝
命を承けて目下臺灣
在る黑旗軍統領劉永
に電報を發し至急天
に來るべき旨を傳
り

○淸國雇外人

威海衛に在りし十
の外國人ハ目下芝罘
在り

發行所 東京…一丁目一番地 …
發行兼編輯人 …
印刷人 山…

商業資料第壹卷分類目錄

● 沿革由來

● 近古叢話

● 統計

● 商海偉人並ニ傳記

● 産業要錄並ニ商業敎育

● 經濟社會

發明製造人 千葉縣上總國長柄郡茂原町 板倉胤臣

[illegible]

此外、批評、海外近情、金融商況、等の各欄に加ふるに廣告欄を以て一冊二十八ページ、每號其材料の豐富なるとは天下隨一讀んで面白きことは日本類なし百讀千讀飽くを知らざるの珍寶にして、苟も商工家の坐右に備ふべき寶鑑なり

大日本大坂市東區內淡路町壹丁目三十八番屋敷（高倉筋北へ入西側）

商業資料
發行所 合資會社 大坂經濟社

發行人兼印刷人 永江爲政
編輯人 早川昌後

商業資料直接大賣捌所

日本大阪市東區心齋橋筋瓦町角 中村原阪急
同 大阪市東區淡路町五丁目 杉原出張所
同 大阪市北區中之島郵便局前 大阪方技書雄
同 東京市京橋區新橋一番地 梅原律書店
同 東京市京橋區銀座二丁目 上利日會舍
同 京都市佛光寺通烏丸 東日新聞屋
同 京都市新町通竹屋町 便新書房
同 神戸市多聞通裁判所前 石丸堂
同 大津市大津町 太田西陽舘
同 廣島市大手町二丁目 東向鋪
同 松山市榎町 社
英國マンチエスター、ツインスゲート二十三 ヘーウツド商社
米國紐育五十三丁目七十五 クインスライブラリー

大坂浪花橋 井上開運堂
南詰 溫故堂書房
同京町堀 船井新聞舖
神戸榮町 熊谷久榮堂
同元町 文明堂
尾道 學海堂
高岡 安部半助
山口 森岡新舖
博多 本田新聞舖
岸和田 原新聞舖
西之宮 小川自知堂
德島 清明堂
富山 共盛堂
仙臺 山名新聞堂
赤馬關 盛進堂
松江 上野又吉
新潟 文明堂
熊本 中澤支店
高崎 韓堂
盛岡 新聞會社
靜岡 靜岡新聞會社

京都寺町通 改進堂
同 今尾新聞舖
大津 澤新聞舖
姬路 矢內莊三郎
廣島 長谷川新聞舖
高松 宮脇開益堂
長崎 安中半三郎
伊丹 以文堂
多度津 石井弘榮舍
池田 塲川新聞舖
金澤 雲根堂
上田 源泉堂
札幌 玉振堂
岡山 鳩田書舖
甲府 柳正堂
長岡 目黑書店
函館 愛新軒
前橋 報測堂
米澤 高野義雄
濱松 林卯十郎

大坂 たゞこ（せんまゐぎり） 眞鶴チキウ

今般更に原質を精選し蒸氣藥罐を据附せんまゐ切と以て製剤善美とあせり。江湖の諸君舊倍の御購あらん事を敬望す

本家（眞鶴） 德嶋縣 眞鍋武三郎
（チキウ） 淡路國 眞鍋利三郎
元祖（製造元） 池田町 勝瑞龜太郎

販賣所 大阪北の町カネ通 薩摩堀 川畑清藏

本文廣告の（眞鶴）（チキウ）共、品質精良なりとの好評を得居候に付（當分の内）景物として（勝龜製）（勝瑞龜太郎氏精製）に限り（眞鶴）百目入十函に付便藥書壹百枚を景品として相添へ（チキウ）五匁入十函に付、壹便藥書五十枚を景品として相添へ。總て右の割合を以て、たとへ壹函つゝの御注文にても。當分の內景物品として特別に呈上仕候此際多少共御注文に相成度敬望仕候

大阪 西區さつま堀北の町（かね通） 川畑清藏

●本誌編輯の不完全を謝す

今回發行の「商業資料」第貳卷第壹號は例のページ數より增すこと八ページ、殊に本誌の擴張改良とは言ふもの、恰かも再刊にひとしき有樣にて編輯まちまちになり、材料配置の其當を失へるものなきにあらん、編者としても亦た自から其不完全なるを知る、蓋し活版印刷の變更、編輯人の交代等、勿卒の間往々混雜を生じたる結果に外ならず、然れども次號よりは果して大に其擴張と改良との實を見ることを得べし、これ編者が豫かじめ讀者に誓つて愈其愛顧に副はんと欲する所以なり、幸に諒察を垂れよ

商業資料 編者 敬白

○商業資料廣告料定價

一 五號活字一行二十二字詰に付 金 十 錢
但し二號、四號、六號活字は右五號活字に準ず
一 五回以上掲載の特約前金の分に限り相當割引の御相談可致候
一 本誌の廣告料は發賣部數の增加に從ひ漸次引上げ可申候事
一 本誌に掲載する廣告は當分每號三頁を以て限りとす故に廣告三頁以上に上る時は餘義なく御斷り申す事も可有之候
一 本誌に掲載する廣告は必ずしも本社に於て悉く責任を有する義にはあらず去れども所謂「ヤマコ」の廣告と認むる時は○○○○○○載御斷り可申候
一 本誌に掲載したる廣告は其次號の本誌へ目錄を掲げ可申候
一 廣告掲載の節は其掲載の本誌一部限り進呈可致候
一 本誌に掲載する廣告は每號發兌前、五日を以て締切り期とす故に此期日後の注文は余義なく次號に廻はすべく候
一 本誌廣告欄內の位置に付ては編者の都合あり豫かじめ御約束出來かね候

專賣特許桑刻器廣告

○ 舌代

日清の戰今や益々進んで北京城下の盟も當に日を期して待つ可き也此秋に當り我軍の憂ふ可き事は皚々たる朔北の氷雪に非ず閃々たる豚軍の彈丸に非ず寧ろ唯一の軍資也軍資足れば忠勇なる我軍は勇は益々勇猛は益々猛上は以て御壹人の憂を慰め奉り下は以て萬民敵愾の志を遂げしむるを得ん而して此重大なる軍資の責任は誰か尤も是を負ふ可き實に我國民中の實業家實業家中特に我養蠶家諸子の責任に外ならざるなり想ふて此所に至れば養蠶家諸子の責任や重且大益々奮勵努力して斯業の發達進歩を勉め及ぶ限り其經費を節約し其收入を增し報國の誠を致さゝる可らず其經費を節約し其收入の增加を計るは養蠶家諸子の夙に勉めて怠らざる所なりと雖も養蠶に於ては經費の他農業中比較的大なるを如何せん特に諸桑葉裁切の如きは全く不用の經費に屬するものなり今桑刻器の爲めに少しく桑葉裁切の不便不利なる諸點を陳述せん

人わり蠶兒蟻量五十匁を掃下し養蠶に從事せんか二眠には葉切の爲め全く一人の人を雇入れさる可らず三眠に在つては同しく二人以上の人を雇入れざる可からず是れ不便不利の第一點也手切は如何に精巧と雖も時に不揃を免れず其不揃は引て蠶兒養育の不齊を來し終には由々敷大事に至る可し是れ不便不利の第二點なり手切は飼育に熟練の者にあらざれば爲す能はず幼童婦女子は及ぶ可らず是れ其不便不利の第三點也以上の諸點は皆手切の不便不利なるものなり發明者夙に之を憂ひ有益にして輕便なる桑刻器を發明せんと欲し日夜思を焦し幾春の辛苦を重ね漸く昨年に至り本器械を發明し直ちに專賣特許を其筋に出願し本年二月に至り特許第二千四百七十九號を以て專賣特許を允許せられ同時に第四回內國勸業博覽會へ追加を以て出品し本年三月より大方養蠶家諸君へ販賣せり就ては益々世の養蠶家諸君の御眷顧を蒙り陸續御採用被下候へば發明者の幸榮之に不過候頓首

明治廿八年三月

發明者識

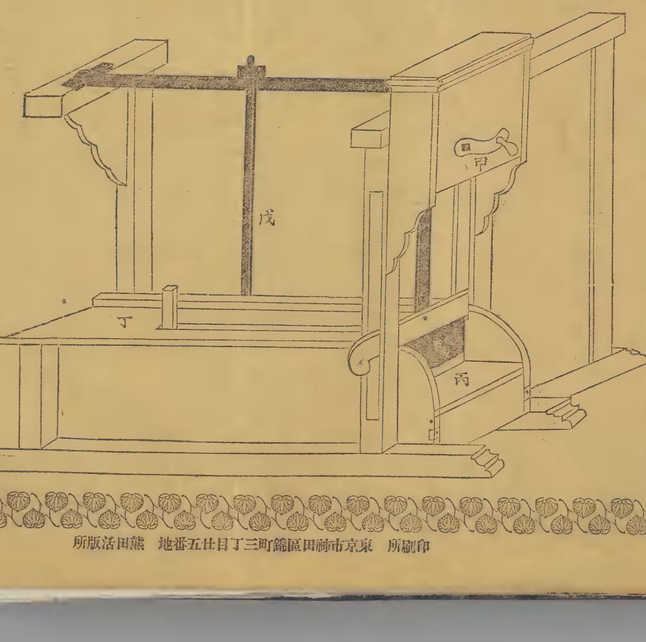
○ 發明履歴

發明者桑葉手切の困難にして不便不利なるを感じ桑刻器の發明に從事せしは一朝一夕の事に非ず昨明治二十七年に至り最も思を焦し改作數回昨年年末に至り初めて完全し直ちに專賣特許を其筋に請求し漸く本年二月に至り特許第二千四百七十九號を以て允許せられたるものにして桑刻器中最も輓近の發明品也

○ 効用

桑刻器の有益便利なる諸點は
一 手切より時間を節減す
一 手切より手間を節減す
一 手切は熟練の人にあらざれば切る能はず器械を用ゆれば幼童婦女子も精密容易に切葉するを得
一 切葉の精密ならずして分の一致せざるは蠶兒の發育を不揃にし飼育上最も憂ふ可き事也然るに本器を用ゆれば此憂なし
一 本器械は使用中隨意に切葉の大少を變ずるを得
一 本器械は周到緻密有益便利なれとも他の諸器械に比較しては廉價也

○ 使用法



發明製造人

千葉縣上總國長柄郡茂原町
板倉胤臣

印刷所 東京市神田區錦町三丁目廿五番地 熊田活版所

圖詞香并ニ涉史録

風來山人 軟石香 式亭三馬 瀬戸物大
安賞 六樹園 參引札 宇田川文海
ゆうだき 大鹽平八郎 學兵の頼末
近松門左衛門 助給 白玉翁豆腐
樂翁の物價論 書置
也有の借物雜
六樹園 番頭物 異見 法海舟 天狗論 炭賣翁
所 種彦の御膳海苔

碑漫錄并ニ雜門雜說

近松の職人づくし 八の字 八十八(蜀山人)
大阪の豐歳 順氣湯 青物の年
季文 算 飢饉ちよぼくれ 宇
貝原益軒 大濱 四時の好景
田川文海 人裝 堺
大阪平越中守 遺物 價論 七福神の名酒
松平越中守 參飯 報條 千里の
風來山人 よき小餅 浪花橋づくし 濡れ文
道も歩より 所 市川團十郎 煎餅
御書物所の 御酒論
風來山人の餅

士經濟談并ニ祝詞

自作地と小作地 各國貨幣制度
天王寺屋の家柄 朝四夕六 堂島の虎
の市場 淀屋の常安橋 三百年前の對外
思想 寛永以後の大坂人口 享保以來
の大坂米價 安政以來の餘約 國秀吉
の歌 早し 梅田枇杷 天氣觀測法
初午 樽の低き家 大阪の喰ひ發れ
琉子相傳 呂利日く 初賣(一字田川嵐
文海)の春景色 新年の詞 堂島紀念碑
一版物 保險 救助と業務 國家經濟十
出ツ井戸 梅田橋の夕涼 八軒屋と乞
二日宿 まかり出でたる 兵庫の地名 人逸話
食の寺 世 天滿の七不思議 西 名古の
濱滿 鉢 絹一反 万兵衛駒
濱 横丁 藩鉢と竹輪

前田正名 洋直之助 森下岩楠 鈴木
重造 有賀長之 成瀬隆蔵 菊地武德

第貳號 第三號 第四號 第五號 第六號 第八號 第九號 第拾號 第拾壹號

此外、批評、海外近情、金融商況、等の各欄に加ふるに廣告欄を以てし一大冊二十八ページ、毎號其材料の豐富なることは天下隨一讀んで面白きことは日本無類の百讀千讀飽くことを知らざるの珍書にして、荷も商工家の坐右に備ふべき寶鑑なり

大日本大坂市東區內淡路町壹丁目三十八番屋敷(高倉筋北へ入西側)

商業資料發行所 合資會社 大坂經濟社

發行人兼印刷人 永江爲政
編輯人 早川昌後

商業資料直接大賣捌所

日本大阪市東區心齋橋筋瓦町角 中村
同 大阪市東區淡路町五丁目 杉原
同 東京市北區中之島郵便局前 大阪
同 東京市京橋區銀座二丁目 梅原
同 京都市佛光寺通烏丸 上
同 京都市新町通竹屋町 東
同 神戸市多聞通裁判所前 便
同 大津市大津町 石
同 廣島市大手町二丁目 太
同 松山市榎町 東
英國マンチエスター、シインスゲート二十三 ヘーウツド商社
米國紐育五十三丁目七十五 クインスライブラリー

大坂浪花橋 井上開運堂
南誥 町堀 温故堂書房
同 京町 船井新聞舗
神戸榮町 熊谷久榮堂
同 元町 文明堂
尾ノ道 學半堂
高岡 安部新助
山口 森田新聞舗
博多 原新聞舗
岸和田 本田新聞舗
西之宮 小川知新舗
德島 清明堂
富山 共盛堂
仙臺 山名進聞舗
赤馬關 盛進堂
松江 上野ヌ吉
新潟 文明堂
熊本 中澤支店
高崎 韓聞堂
盛岡 共
靜岡 靜岡新聞會社

京都寺町通 改進堂
同 今尾新聞舗
大津 澤新聞舗
姬路 矢內莊三郎
廣島 長谷川新聞舗
高松 宮脇開爲堂
長崎 安中半三郎
伊丹 以文堂
多度津 石井弘榮舍
池田 壇川新聞舗
金澤 雲根堂
上田 源泉堂
札幌 玉振堂
岡山 鳩田書舗
甲府 柳正堂
長岡 目黑書店
函館 愛新軒
前橋 報測堂
米澤 高野義雄
濱松 林彌十郎

●本誌編輯の不完全を謝す

今回發行の「商業資料」第貳卷第壹號は例のページ數より增すこと八ページ、殊ニ本誌の擴張改良とは言ふもの、恰かも再刊ニひとしき有樣ニて編輯まちくニなり、材料配置の其當を失へるものあらん、編者としても亦た自から其不完全なるを知る、蓋し活版印刷の變更、編輯人の交代等、匆卒の間往々混雜を生じたる結果ニ外ならず、然れどもも次號より果して大ニ其擴張と改良との實を見ることを得べし、これ編者が豫かじめ讀者ニ春つて愈其愛顧ニ副はんと欲する所以なり、幸ニ諒察を垂れよ

商業資料 編者 敬白

〇商業資料廣告料定價

一 五號活字一行二十二字詰に付 金十錢
但し二號、四號、六號活字は右五號活字に準ず
一 五回以上掲載の特約前金の分に限り相當割引の御相談可致候
一 本誌の廣告料は發賣部數の增加に從ひ漸次引上げ可申候事
一 本誌に掲載する廣告は當分毎號三頁を以て限りとす故に廣告三頁以上に上る時は餘義なく御斷り申す事も可有之候
一 本誌に掲載する廣告に對し本社に於て悉く責任を有する譯にはあらず去れども業者所謂「ヤマコ」の廣告と認むる時は載御斷り可申候
一 本誌に掲載したる廣告は其次號の本誌へ目錄を掲げ可申候
一 廣告掲載の節は其掲載の本誌一部限り進呈可致候
一 本誌に掲載する廣告は毎號發兌前、五日を以て締切り期とす故に此期日後の注文は余義なく次號に廻はすべく候
一 本誌廣告欄內の位置に付ては編者の都合あり豫かじめ御約束出來かね候

廣告

大政頁たぞとゐぎり眞鶴チキウ

今般更ニ原質を精選し蒸氣籠罐を据附せんまゐを以て製造を美とあせり。江湖の諸君舊倍の御購あらん事を敬望す

本家(眞鶴) 德島縣 眞鍋武三郎
(チキウ) 淡路國 眞鍋利三郎
元祖(製造元) 池田町 勝瑞龜太郎

販賣所 大阪北の町カネ籠 薩摩堀 川畑清藏

本文廣告の(眞鶴)(チキウ)共、品質精良なりとの好評を得居候に付(當分の內)景物として(勝瑞製)(勝瑞龜太郎氏精製)に限り(眞鶴)百目入十函ニ付郵便葉書壹百枚を景品として相添へ(チキウ)五匁入十函ニ付。郵便葉書五十枚を景品として相添へ。總て右の割合を以て。たとへ壹函つ、の御注文ニても。當分の內ハ景物品として特別ニ呈上仕候此際多少共御注文ニ相成度敬望仕候

大阪 西區さつま堀 北の町(かね籠) 川畑清藏

專賣特許桑刻器廣告

〇舌代

日清の戰今や益々進んで北京城下の盟も當に日を期して待つ可き也此秋に當り我軍の憂ふ可き事は皚々たる朔北の氷雪に非ず閃々たる豚軍の彈丸に非ず寧ろ唯一の軍資也軍資足れば忠勇なる我軍は勇は益々勇猛は益々猛上は以て御壹人の憂を慰め奉り下は以て萬民敵愾の志を遂げしむるを得ん而して此重大なる軍資の責任は誰か尤も是を負ふ可き實に我國民中の實業家實業家中特に我養蠶家諸子の責任に外ならざるなり想ふて此所に至れば養蠶家諸子の責任や重且大益々奮勵努力して斯業の發達進步を勉め及ぶ限り其經費を節約し其收入を增し報國の誠を致さゞる可らず其經費を節約し其收入の增加を計るは養蠶家諸子の夙に勉めて怠らざる所なりと雖も養蠶に於ては經費の他農業中比較的大なるを如何せん特に桑葉裁切の如きは全く不用の經費に屬するものなり今桑刻器の爲めに少しく桑葉裁切の不便不利なる諸點を陳述せん

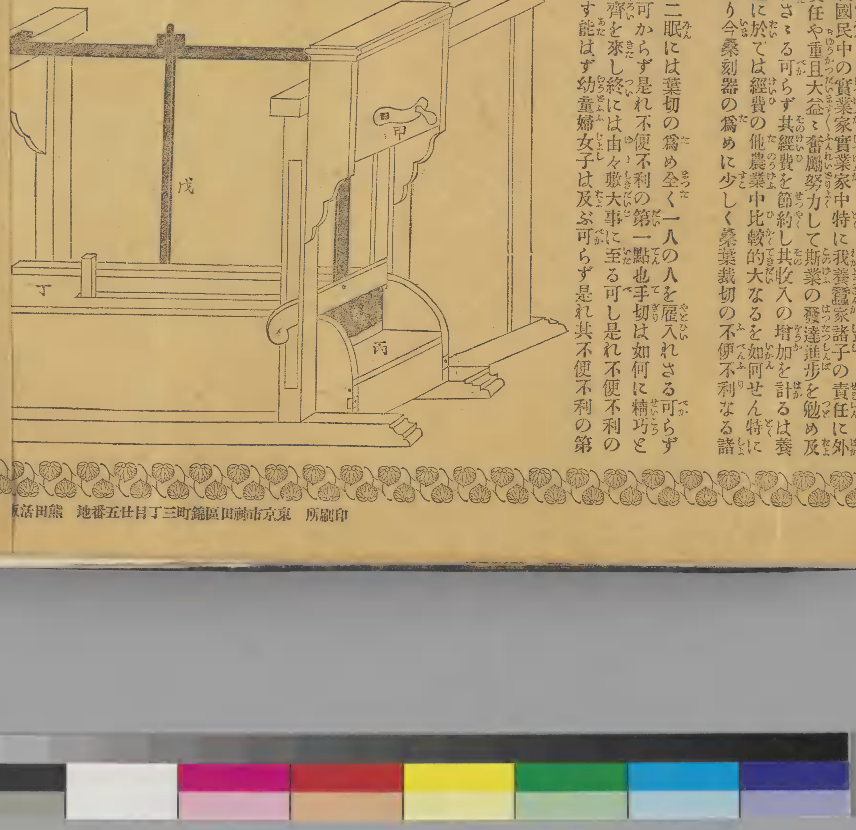
人あり蠶兒蟻量五十匁を掃下し養蠶に從事せんか二眠には葉切の爲め全く一人の人を雇入れさる可らず三眠に在つては同しく二人以上の人を雇入れざる可からず是れ不便不利の第一點也手切は如何に精巧と雖も時に不揃を免れず其不揃は引て蠶兒養育の不齊を來し終には由々敷大事に至る可し是れ不便不利の第二點なり手切は飼育に熟練の者にあらざれば爲す能はず幼童婦女子は及ぶ可らず是れ其不便不利の第三點也以上の諸點は皆手切の不便不利なるものなり發明者夙に之を憂ひ有益にして輕便なる桑刻器を發明せんと欲し日夜思を焦し幾春の辛苦を重ね漸く昨年に至り本器械を發明し直ちに專賣特許を其筋に出願し本年二月に至り特許第二千四百七十九號を以て專賣特許を允許せられ同時に第四回內國勸業博覽會へ追加を以て出品し本年三月より大方養蠶家諸君へ販賣せり就ては益々世の養蠶家諸君の御眷顧を蒙り陸續御採用被下候へば發明者の幸榮之に不過候頓首

明治廿八年三月 發明者識

〇發明履歷

發明者桑葉手切の困難にして不便不利なるを感じ桑刻器の發明に從事せしは一朝一夕の事に非ず昨明治二十七年に至り最も思を焦し改作數回昨年年末に至り初めて完全し直ちに專賣特許を其筋に請求し漸く本年二月に至り特許第二千四百七十九號を以て允許せられたるものにして……

桑刻 葉を丙なる箱に入れ左手にて板を壓し右手にて甲なる柄を回轉すれば乙なる庖丁は昇降を初め同時に戊なる爼板の上に積上げ丁なる板を以て強く壓し丁板より少しく狹く(大凡三四分)兩側を絕つ
一手 爼板は漸時前方に進み精密に桑葉を裁切す可し
一毛 廣狹は戊の下端に位するねぢを左右して任意に定むるを得



〇代價

一臺 甲號器械 一時に最小四厘にて十二貫目最大四分にて三十五貫目 金五圓五拾錢
一臺 乙號器械 用間に最小四厘にて四貫目最大四分にて十六貫目 金參圓五拾錢

發明製造人 千葉縣上總國長柄郡茂原町 板倉胤臣

明治廿五年四月七日特許拾五年間

第一五四八号

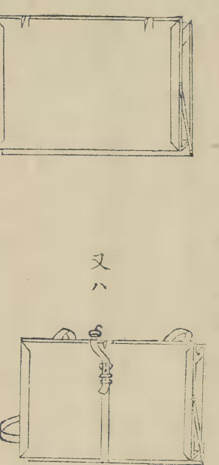
一見臺

發明者　近藤安政

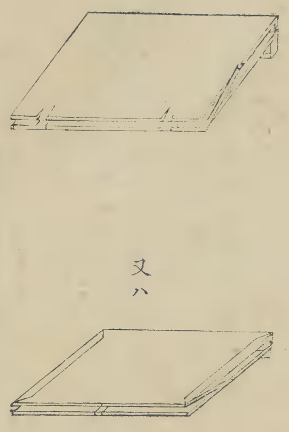
山梨縣西八代郡榮村發育舍理事
製造發賣人　森田新介

此見臺ハ昇學童女ノ体育發養ニ留意シタルモノニテ專ラ姿勢ノ端正ヲ養成シ併セテ平面瞰視ヨリ生スル諸病患ヲ救濟スルニ在リ名ハ見臺ト單稱スルモ實用最モ廣シ第一書物石盤双紙類ヲ挾ミテ「カバン」ノ代用トナシ第二講讀本見臺トシ第三筆算臺、第四描畫臺、第五筆墨宮、第六和洋習字臺、第七薄記速記其他斜面ヲ要スル机上ノ技藝ニハ適應ノ文具ナリ

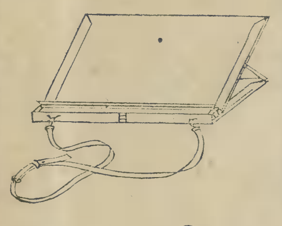
書物其他ノ學窓品ヲ挾ム圖



描畫若クハ薄記速記或ハ和洋習字臺ノ圖



講讀本ノ見臺又ハ筆算臺トナスキノ圖



○卸賣割引ハ充分相働キ候ニ付各府縣學校用品販賣店諸君至急御注文御申込アレ時宜ニ依リ一市内或ハ區域ヲ定メ一手販賣ノ約束ヲ爲スヿアルベシ

THE JAPANESE SOYA MADE AND SOLD

BY

T. IROKAWA & CO.

NOS. 8-15 SARUYE-CHŌ, FUKAGAWA, TOKIŌ, JAPAN.

TRADE MERK. TRADE MARK.

T.I.&Co.

DIRECTIONS.

This **Soya** is used in preparing any kind of dishes as well as a sauce to any prepared ones. It is best adapted as a stock for nearly all soups and gravies and for pouring on roasted meat or baked fish, etc. It can also be used as a seasoning to vegetables, fried, fish, smoked meats, or boiled fowls, etc, while as a sauce to all dishes it gives a highly fragrant and very pleasant flavor.

It is usually used by taking two spoonfuls or two spoonfuls and half, in proportion of one spoonful of salt, but the quantity of course varies according to the mode of cooking and the way of seasoning. We cannot lay down any fixed rule and therefore one should increase or decrease the quantity according to taste. In Holland turtle soup is considered a delicious dish and no doubt the nice flavor is due to the Japanese **Soya** which is used in preparing the stock.

Our **Soya** stands as the finest in Japan and it meets with approval wherever it is sent. Its usefulness lies not only in seasoning dishes but in making the plainest and most delicious viands and we beg the public to favor us with a trial.

In our culinary art the **Soya** is always an indispensable sauce for giving relish to fish, meet, vegetables, or whatever may be cooked.

On account of its extensive use there are many kinds produced in Japan, but the bulk of them are bad in quality and we rarely meet with one that is perfectly pure and genuine in its ingredients.

Our **Soya** is imcomparable and unrivalled by all others as to agreeableness of its flavor and purity of its ingredients, it is now much extolld by the public for its excellence.

In the International Exhibition held at **Amsterdam,** Holland, 1883, it obtained high public estimation and we have been awarded with a **Gold medal** for its excellent qualities. In the International Health Exhibition, **London** 1884, it was awardad witn a **Silver medal.** In the International Exhibition, which was held at **Barcelona,** in Spain, 1889, we had the honor of getting a **gold metal** and we were awarded with a **prize medal** in the Third National Industrious Exhibition held in **Japan.** 1890. Moreover, we have the honour of supplying our manufacture to the **Imperial Househol Department.**

The **Soya** is made by the fermentation of wheat, beans and salt and it is of course a harmless and very wholesome article and above all ours is unsurpassed by any other for its paratable flavor.

In its manufacture we take the utmost care in selecting the very best ingredients and very skilled labour is used.

It contains great nutriment and very effectual in promoting one's health. It is, therefore, a beneficial article even on a sanitary point of view.

We append here two analysiss one made at the Chemical Laboratory of St. Thomas Hospital London and other made by Lavandeyra Brothers, Consulting Engineers and Contractors, New York, and the testimonial from which one may fully judge how in-valuable it is to every household.

We also annex the brief directions for its use hoping that the public will favor us with many orders and keep it in every kitchen for use in their daily diet promoting thereby their health.

N.B.—Our goverment has now enacted the Trade Mark Regulations Act, but our trade mark hitherto used being too complicated and not easily distinguishable by customers, we have adopted a new one with which this article is labelled. It has been duly registered at our Goverment office.

Our manufacture being known as the finest and purest we kindly request the public to examine the trade mark on each bottle so that the chance of purchasing bad ones may be obviated.

ANALYSIS. I.

May 21st., 1884, London.

The Japanese **Soya,** called **"Shoyu"** which I have analyzed has the following composition.

Water	66 58	Organic Nitrogen	0. 769
Alcohol	Frace	Total Nitrogen	0. 944
Sodium Chloride	10 81	Albumi noids	4. 87
Potassium Chloride	4. 48	Ammonia Combined	0. 22
Potassium Sulphide	0. 67	Caromel and Gum	5. 38
Calcium Sulphate	0. 398	Other Extractive	4. 88
Phosphoric Acid	0. 47	Fixed Acids	0. 94
As Phosphoric of Lime	0. 87	Volatile Acids	None
Other Mineral matters	0. 83		100.00

There is no copper or leads; nothing if an injurious character.

Albert. J. Bernays.

Opinion of the Japanes Soya.

It is distinctly of the nature, substance and quality a demanded.

Of a red-brown colour, pleasant odour as of same vetch or pea, perfectly clear; it is agreeable to sight.

The sauce belongs to the **Soya** species and is made with sufficient skill. The albuminoids and phosphates are rarely present. There is no trace of copper or lead, nor of any injurious substance whatsoever. The chlorides are in the form of the chlorides of sodium and potassium.

Albert. J. Bernays.
Public Analyst.
Chemical Laboratory, St. Thomas Hospital.
London.

ANALYSIS. II.

New York, May 24th.,1884.

The solid matters are all in solution; the color is dark brownish red; saltry taste and agreeable smell.

Specific gravity at 65° Farenheit=1194

Results of Analysis in percentages.

Solid Matters 32.56 percentage of these	Nitric substances mostly Albumen	8. 72%
	Fatty substances	8. 85
	Starcle Sugar	2. 35
	Sodium Chloride	18. 89
Water and Volatile substances 67.44 percent.	Potasse	0. 95
	Phosphorie Acid	0. 45
	Lime	0. 36

Lavandeyra Bros,
Covsulting Egineers and Contractors.,
No. 1, Broadway
Washington Building
New York.

專賣特許 銅壺五徳附 製造販賣所

東京市京橋區三十間堀三丁目一番地 瀨沼定次郎

功益

一第一徳 便利徳用ナルヿ在來五徳ト違ヒ炭火ノ費用半量ニシテ火力ハ銅壺ノ周圍及ヒ底ヲアブル仕掛ナレバ湯ノ沸キ方速キヿ普通五徳ノ比ニアラズ

一第二徳 銅壺附着ノ爲メ鐵瓶丼ニ燗銅壺ノ兼用ヲナス而巳ナラズ銅壺ハ自由ニ掛ケハヅシ得ルニヨリ水入換其他掃除等自在ナリ

一第三徳 銅壺ヲ取ハヅシタル時ハ附屬ノ五徳輪金ヲ掛ケ置クベシ圖ノ如ク二ツ穴ノ連續五徳トナル

一第四徳 若シ炭火ノ度力強キ時ハ火力ヲ減スル爲メ火氣抜キ回轉設置アリ火力度ノ強弱自由ナリ

一第五徳 燒物ヲスルニハ丸網ヲ付テアル故食物ヲ燒ハ自在ナリ而テ網ハ自在居地ヲ別ニスルヿ出來ルニ付俗ニ土瓶敷ノ代用ヲナスナリ

取扱方

此五徳使用方ハ先ツ火鉢ノ灰ヲ平ニナラシ火鉢ノ大小ニヨリ中央ニ据ヘルカ亦ハ違筋ニ据ヘ可成適宜ノ居地ニ据ヘ置ベシ灰ノカブリ方ハ五徳臺ノ下端ヲ五六分位ヲ適度トナシ据込ミ又銅壺ノ附タル底部ノ灰ヲ五徳ノ境迄四五分低クナラシタル上ニ銅壺ヲ据居クベシ左スル時ハ火氣充分ニ銅壺ノ周圍ニ利用シ沸キ方速カナルノミナラズ炭火ノ保チ宜シキヲ得ルナリ

謹言

一弊舗儀ハ從來ヨリ鑄鐵製銅壺五徳付發明ノ元祖ナリ未ダ日尚淺シト雖四方諸君ノ御高評ヲ忝フシ日ニ月ニ進歩擴張ニ至リ候段奬勵ノ幸榮不斜奉鳴謝候然ルニ方今當店發明ノ同種類ナル五徳ヲ僞造ナシ加之甚敷麁惡ノ物品ヲ販賣ナス者有之ガ爲メ御使用者ニ却テ不滿足ヲ與フ依テ弊店正實ノ德義ヲ破リ候至所ニ付茲ニ忝クモ這般農商務省之專賣特許ヲ得テ發賣セル(鑄鐵製特許有益銅壺五德附)ト稱スル新器有益ノ五徳ヲ發明致シ世ニ廣ク御使用者ニ對シ便利經濟ノ道ヲ聊カ供セントス四方諸君舊ニ倍シ陸續實用上有益五徳ノ名稱ニ背カザルヿヲ御試用之程伏而奉希候敬白

品名	寸法	代價
第壹號無地共蓋付	長一尺 巾五寸	金四拾六錢
第貳號仝	長一尺五寸 巾一尺五分	金五拾五錢
第參號仝	長一尺二寸 巾六寸	金六拾五錢
第壹號釜瀬戸付	長一尺 巾五寸	金五拾五錢
第貳號仝	長一尺五寸 巾一尺五分	金六拾五錢
第參號仝	長一尺二寸 巾六寸	金七拾六錢

品名	寸法	代價
第壹號網付	長一尺 巾五寸	金五拾五錢
第貳號仝	長一尺五寸 巾一尺五分	金六拾五錢
第參號仝	長一尺二寸 巾六寸	金七拾六錢
第壹號上等唐金蓋付	長壹尺 巾五寸	金壹圓拾錢
第貳號上等	長一尺五寸 巾一尺五分	金壹圓三拾錢
第參號上等	長一尺二寸 巾六寸	金壹圓六拾錢

但シ（第壹號釜瀬戸付ハ代九錢增）（○第貳號仝代拾錢增）○第參號仝代拾壹錢增ノ事
（第壹號網付ハ代九錢增）（○○第貳號仝代拾錢增）○○第參號仝代拾壹錢增ノ事
（第壹號唐金蓋ハ代拾八錢增）（○○第貳號仝代廿錢增）○○第參號仝代廿貳錢增ノ事

△右ニ記載セシ物品ハ無地共蓋代價ノ外ニ增加ノ定價トナル

明治廿八年第三月定價改正

特約大販賣所

日本橋區本石町三丁目
芝區三島町 木爪屋
日本橋區本町二丁目
芝區三田二丁目
京橋區本材木町三丁目
日本橋區松嶋町廿五番地
麻布區飯倉町三丁目廿九番地
淺草區馬道五丁目八番地
同區公園第七區三號地
神田區美土代町三丁目十二番地
麹町區麹町五丁目角
京橋區南傳馬町三丁目八番地
深川區森住町拾七番地
下谷區上野三橋町七番地
深川區高橋通リ東元町一番地

伊阿鷄中向湯伊名特永島藤山號栗
藤藤塚嶋山川勢古許瀬津田井原
常重卯平辰屋屋陳岡儀
太兵兵次孝次清十長列近治三藤菊
郎衛衛郎吉郎七郎舘造助屋郎八造

地方

和歌山市湊紺屋町三丁目一番地
愛知縣名古屋末廣町
長野縣下肥前國早岐中町
群馬縣下前橋市竪町
神奈川縣下小田原新玉町三丁目
熊本縣下熊本市上通町四丁目
埼玉縣下熊谷本町
横濱市吉田町一丁目
美濃國大垣俵町
横濱市吉田町壹丁目
金澤市大手町
千葉縣下長柄郡茂原町通リ二丁目
神奈川縣下小田原新玉町三丁目
愛知縣三河國岡崎中傳馬町
神奈川縣下三浦郡横須賀元町三番地
相州三浦郡浦賀町田中廿八番地
神戸市東川崎町二番地

竹近一荒曾高釜三粟伊益矢池小鴨釜黑
內藤瀬井根橋屋河田勢野浦田松坂屋原
善禎田藤屋屋儀德屋
之清三友忠專兵甚兵太榮次英十三增辰庄好
助八郎七藏太衛衛助郎吉郎六造七二

(東京京橋區采女町文英社印刷)

大日本帝國宮城縣牡鹿郡之產

志び

ふし

商標

製造元　宮城縣牡鹿郡田代濱　阿部久八郎

弊店製造の鮪節は我宮城縣の重なる產物にして全國に冠たるは江湖諸君の御存じの所に候處
頃日は其製造高甚だ僅少にして之に加ふるに器械の不完全と猶未熟練なると運搬の便利缺くる
酬相償はず遂に中絶の姿にてありしが弊店大に之を遺憾とし製造法改良に苦心從事する茲に數十年
便利も開け從つて販路も廣まり遂に今日の如き盛大に至れり尤も明治十三年勸業博覧會に出品
辱ふし明治十七年開設の我國水產共進會の元祖ある本縣牡鹿桃生本吉三郡聯合水產共進會よりハ
け宮城岩手九郡聯合水產共進會よりハ都合五回大日本水產會に於ける四回の品評會及ど第三回內國勸業
に於てハ何れも出品の度毎に賞與を得特に第三回內國勸業博覧會に於てハ宮內省の御買上を蒙
の如きハ誠に弊店の光榮にして製造改良に苦心從事仕候結果と自ら信し居候然れ共御愛顧諸君の
る亦實に大なりと奉存候自今御厚意に酬へんか為め一層改良に改良を加へ其上品質を撰び價格ハ低廉を
賣仕候間何卒今後益御購求之程奉願上候

代價表

疊數	寸法	圓	圓	圓	圓
一疊	巾三尺 長六尺	一、〇〇〇	一、〇五〇	一、一〇〇	一、一五〇
	巾三尺一寸五分 長六尺三寸	一、一〇〇	一、一五〇	一、二〇〇	一、二五〇
二疊	巾六尺 長六尺	二、二〇〇	二、三〇〇	二、四〇〇	二、五〇〇
	巾六尺三寸 長六尺三寸	二、四〇〇	二、五〇〇	二、六〇〇	二、七〇〇
三疊	巾六尺 長九尺	三、三〇〇	三、五〇〇	三、六〇〇	三、八〇〇
	巾六尺三寸 長九尺四寸五分	三、六〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇	四、一〇〇
四疊	巾六尺 長十二尺	四、四〇〇	四、六〇〇	四、八〇〇	五、一〇〇
	巾六尺三寸 長十二尺六寸	四、八〇〇	五、〇〇〇	五、二〇〇	五、五〇〇
四疊半	巾九尺 長九尺	五、二〇〇	五、四〇〇	五、七〇〇	五、九〇〇
	巾九尺四寸五分 長九尺四寸五分	五、六〇〇	五、九〇〇	六、一〇〇	六、四〇〇
六疊	巾九尺 長十二尺	六、九〇〇	七、二〇〇	七、六〇〇	七、九〇〇
	巾九尺四寸五分 長十二尺六寸	七、五〇〇	七、八〇〇	八、二〇〇	八、五〇〇
八疊	巾十二尺 長十二尺	九、六〇〇	一〇、一〇〇	一〇、六〇〇	一一、〇〇〇
	巾十二尺六寸 長十二尺六寸	一〇、四〇〇	一〇、九〇〇	一一、四〇〇	一一、八〇〇
十疊	巾十二尺 長十五尺	一二、〇〇〇	一二、三〇〇	一三、二〇〇	一三、八〇〇
	巾十二尺六寸 長十五尺七寸五分	一三、〇〇〇	一三、三〇〇	一四、二〇〇	一四、八〇〇
十二疊	巾十二尺 長十八尺	一四、四〇〇	一五、一〇〇	一五、八〇〇	一六、六〇〇
	巾十二尺六寸 長十八尺九寸	一五、六〇〇	一六、三〇〇	一七、〇〇〇	一七、八〇〇

由多加織説明摘要

名稱	敷物 由多加織
特許	明治廿六年九月ヨリ十五ヶ年間
發明者	石川縣寺西豐太郎
原料	緯……稻藁絲　經……紡績絲
染料	理學上ノ考按ニ成タル技術ニ因リ變脱ノ憂ナキ色素
品撰	我國特得ノ美術意匠ヲ應用シ古代紋樣ヲ描出ス
創種	巾壹尺五寸ヨリ拾貳尺マデ長ハ百貳拾尺マデ各種
産業	明治廿六年十月十五日
販額	昨一ヶ年壹万四千九百廿八疊本年豫算七萬貳千疊
商路	海外輸出ヲ專ラトシ海内ハ未ダ東京大阪ノ両地ニ過ギズ
勢	昨一ヶ年ノ製品ハ既ニ賣却シ盡シ本年豫算高モ又既ニ其八部ハ賣約濟

本品ノ長所
- 高尚　優美　低價　堅牢
- 普通緞通ノ如ク臭氣ヲ發セザルヿ又ハ塵埃ニ汚レザルヿ
- 取扱ニ輕便ナルヿ
- ヅック或ハ華莚ノ如ク靴ニテ辷ルヿナク踏心ヨキヿ
- 壁張天井張ニ利用シ得ラル丶ヿ

本業ノ長所
- 原料夥多ニシテ時價變動尠ナキヿ
- 歐米各國ニ稻藁ノ甚尠キヿ
- 殆ト廢物利用ニ頼テ外國貨幣ヲ吸収スルヿ
- 割合ニ多數ノ職工ヲ要スルガ故ニ貧民ニ利便ナルヿ

右之通

明治二十八年一月

製造元　兵庫縣攝津國川邊郡伊丹町三百九十番地ノ一
寺西由多加織合名會社
業務擔當社員　田中頼之助
社員　寺西豐太郎

内國販賣元　大阪市東區平野町栴檀木橋筋角
大阪販賣店
主任　松原龜六

京都一手販賣店　京都二條通河原町東入北側
㊉田村商店

(大阪圖書社印刷)

蔬菜果物貯藏品廣告

肉喰の消化を補ふ喰品中必要の需用品なれとも夏季の蔬菜を冬季に賞翫し又遠き航海に之を提帶せしむるは貯藏鑵詰之外なく亦遠方へ遞送するにも荷造りの手數を要せす損敗之憂なく亦我國人海外に在留あるに國産の喰品を慕ふ事の常なるも蔬菜の季候至れば慕はしく是天然季候之然らしむる處なれば海外在留之御見舞等にも印度洋を直行し暑寒の度を變ずる憂なきによりて歐米諸國への御携帶品御進物には是に増るものなし依て暑寒の折抦湯治旅行の御携帶品に必要なり總して湯治場は海邊亦は山隔に在るがために鮮魚はもとより最も多く蔬菜に乏しきは諸君皆能知り賜ふ所なれば其餞別御見舞等に至極輕便なり且又家庭に於ては臨時客來之饗應を補ひ和風洋風の調理に適用して其便利なる事擧て數へ難し弊店は明治之初年に此製造業の必要なるを感じて種々試驗を遂け後同七年に製造法を發明し同十年内國勸業博覧會に出品せしに數萬數へ難き陳列品之内我製造品之外に勸農局御買上の名譽を得之而已にて忝くも龍紋賞牌を賜り其後東京府勸業課雜誌第十八號に余が製造法を詳細に説明せられ御記載ありしより忽ち製造法の内地に弘りたる我國果物蔬菜貯藏品製造の元祖たる弊店の榮譽是而已ならず各府縣博覧會に於ても數多之賞牌を賜り續て明治十四年第二回勸業博覧會に於有功賞牌を賜亦廿三年第三回内回勸業博覧會に於ても改良の著しき名譽あつて有功賞牌を賜り亦左之名譽賞を賞勳局より賜りてより諸君之御愛顧も日に月に増繁榮仕候に付倍々製造に改良を加へ元質の良品を相撰販賣仕候間各地方取次所に於ても品物に異變無之を保證致置候に付中川製と御尋被下名所能々御吟味の上御購求被成下候樣願上候也

> 第三回内國勸業博覧會審査官　中川幸七
>
> 夙ニカヲ鑵詰製造ニ盡シ明治十三年綿糖共進會審査員ト爲リ殊ニ本年第三回内國勸業博覧會審査官ト爲リ周到綿密能ク職務ニ服シ其勞少ナカラズ依テ爲其賞銀盃壹個下賜候事
>
> 明治廿三年十一月一日
>
> 賞勳局總裁從二位勳一等伯爵　柳原前光
>
> 賞勳局副總裁從三位勳一等子爵　大給恒

飲料果物水は内外無比にして暑中之御進物等には最もよろし

日本最初蔬菜果物貯藏鑵詰製造元
海軍諸軍艦喰量御用品調進所
東京銀座三丁目壹番地
中川幸七

月　日
横濱太田町四丁目
港月堂

かゝり候、來原、中村、餘り周布風を學び大人振り後進を導くこと不能るが患なり、中谷は自
妙、山口にて一世界をなせかし、要之諸人才器齷齪天下の大事を論ずるに不足、吾が長人

品目

○果物罐詰之部

桃
ぶどう
みかん
柚子
梨子
橙
きんかん
りんご
各種ジャム

○飲料果物水之部

いちご水
ぶどう水
あんず水
みかん水
れもん水
林檎水
リモナーデ水
梨子水
白桃水

證明書

富山市　三塚兼太郎

右本人之製作ニ係ル改良貳號犂實業者ヲシテ乾田試用セシメタルニ在來之犂ヨリ土少掛ニシテ人馬勞力ヲ要セス最モ農事改良ニ適當ノ良器具タル事ヲ證明ス

明治廿八年三月廿七日　上新川郡弓庄村長　柳瀬劑 ㊞

證明書

富山市　三塚兼太郎

右本人ノ製作ナル改良犂管内實業者ヲ集會シ乾田及沼田ニ實驗セシニ在來ノ犂ニ比スレハ特ニ深耕土小掛ケニシテ人馬ノ勞力ヲ減シ極改良適當ノ良器タル事特ニ證明ス

明治廿八年三月廿九日　富山縣上新川郡相ノ木村長　石原三郎 ㊞

證明書

前文意同シ

明治廿八年三月廿五日　富山縣上新川郡舟橋村長　稻田健義 ㊞

證明書

前文意同シ

仝年三月廿九日　富山縣上新川郡上條村助役　杉木周造 ㊞

證明書

前文意同シ

仝年三月三十日　富山縣上新川郡太田村役場 ㊞

證明書

前文意同シ

仝年四月二日　富山縣婦負郡富川村役場 ㊞

證明書

前文意同シ

仝年四月四日　富山縣婦負郡宮川村役場 ㊞

證明書

富山市大字鍛冶町　三塚兼太郎

右本人製作ニ係ル第貳號犂ヲ以テ本村大字中名村ニ於テ實業者數拾名集合シ乾濕両田ニ使用ノ經驗セシニ在來ノ犂ニ比シ細掛ニシテ人馬ノ勞力省減シ克ク深耕ニ適セリ依テ之ヲ證明ス

明治廿八年四月四日　富山縣婦負郡熊野村役場 ㊞

證明書

富山市鍛冶町貳拾七番地　三塚兼太郎

右本人ノ改良製作ニ係ル第貳號ノ犂當管内實業者ヲシテ實地經驗セシメタルニ在來ノ犂ヨリハ一層土小掛ニシテ深耕セラルヽ可ク且ツ人馬ノ勞力ヲ要セザルヲ以テ最モ農事上改良ニハ良器ト認ム依テ此ニ證明ス

明治貳拾八年四月二日　富山縣婦負郡速星村役場 ㊞

證明書

前文意同シ

明治廿八年三月廿八日　富山縣上新川郡寺田村役場 ㊞

成蹟書

前文意同シ

仝年三月廿九日　富山縣上新川郡東三鄉村役場 ㊞

證明書

前文意同シ

仝年四月一日　富山縣婦負郡鵜坂村役場 ㊞

證明書

前文意同シ

仝年四月二日　富山縣婦負郡千里村役場 ㊞

成蹟書

前文意同シ

仝年四月四日　富山縣婦負郡杉原村役場 ㊞

此他村役場等ノ御試用證明書數十通受ルモ同意文ナルヲ以テ爰ニ其幾通ヲ載スル而已

農事改良ニ第一緊要タル弊場製ノ深耕犂ハ鋤起ニ淺深ノ地波ニナラズ土小掛ニテ好ク投開シ牛馬輕ク牽キ使用者勞力ヲ要セザルヿ恰モ遊手然トシテ耕スカ如シ而シテ土地ニ應シ深耕ノ增收ヲ得ルヿ農事試驗場ノ成蹟ニ徵シ著明ナル處也然リ請フ農業諸氏御試用ノ爲購求セラレンヿ但シ小掛ニ深耕シテ疲勞セサルカ故每一日凡七八百歩ヲ耕スニ容易ナリ

製工場 ㊂ **深耕堂　三塚兼太郎** 敬白

富山縣富山市かじ町二十七番地

助と申水戸の豪士あり羽倉の三至錄に久保善助とあるは此人也丁巳墨使登營の節信田蓮田と共に墨使を討たんとを謀る、両田は獄死、堀江は今に東口揚屋に在（此人の事は追々工子杉へ遺候御聞及も存候）此人殊の外神道を尊び　天朝を尊ぶ人なり、毎々被申候事に神道を明白に人々の腹へ入る如く書を著し、天朝より開板して天下へ御頒示被成度と頻に祈念仕被居候、僕の心得には教書のみ天下に頒ても天下の人心一定と申様には難参に付京師に大學校を興し上天子親王公卿より武家士民まで入寮寄宿等も出來候様致し乍恐　天朝の御學風を天下の人々に知らせ天下の奇材異能を　天朝の學校え貢し候様致候得は天下の人心一定仕るに相違無し、併急に京師へ大學校を興すと申ては只今の時勢迚も〳〵出來ぬ事と誰しも可存候得共是に亦策あるべし、小林民部より承り候今學習院は學職方は公家なり儒官は菅清家と地下の學者と混して被相務定日ありて講釋有之、是日は町人百姓迄聽聞に出候事勝手次第勿論堂上方御出座なり然れば學習院の基に依り今一層致興隆候得ば何様にも出來可申、扨學問の筋目を糺し候事が誠に肝要にて朱子學じやの陽明學じやのと一偏の事にては何の役にも立不申、尊攘皇夷の四字を眼目として何人の書にても何人の學にても其所長を取る様にすべし、本居學と水戸學とは頗る不同あれども尊攘の二字はいづれも同じ、平田は又本居とも違ひ癖ある所も多けれども出定笑語玉襷等は好書なり、關東の學者道春以來新井、室、徂徠、春臺等、皆幕府に佞しつれども其内に一二ヶ處の取るべき所はあり、伊藤仁齋などは尊王の功も無けれども人に益ある學問にて害なし、林子平も尊王の功なし攘夷の功あり、各神牌を設くべし、兼て御話申候高山、蒲生、對馬の雨森伯陽、魚屋の八兵衛の類は實に大功の人なり、右諸家の書を聚め長を拔取人物格別功あるは學習院中へ神牌を設くる等の評議は中々大議に付天下の人物を聚めねば不出來、人物聚らずとも諸國へ京師より人を遣し豪傑の議論を聞聚め京師にて大成すべし、此議論中に天下の正論大に起るべし、又水戸日本史の後も無之天朝六國史の後も闕く　天皇の御諡號も光孝天皇までなり、其後の帝紀御撰述諡號御定等、勅諚にて學習院被仰付度事なり、尤も是は書籍と人物と大に學習院に集りたる上の事なり

學習院興隆の事

一　天下有志の者出席を免し給ふべき事
（居寮寄宿を免す）

一　天下有用の書籍献上を免し給ふべき事
（古書近世書に不限）
但神代の神々式内の神々も時宜を酌て院中に祭るべし、其以下菅公、和氣公、楠公、新田公、織田公、豊臣公、近來の諸君子に至るまで其功徳次第神牌を立るなり
向に御相談申候尊攘堂の本山ともなるべし
人物集り書籍集りたる上にて神道を尊び神國を尊び天皇を尊び正論斗拔取一書として天下に頒つべし
（○安比の人滿原某神代卷跋、松苗十八史畧序、此二篇小子深く心服仕る論なり）

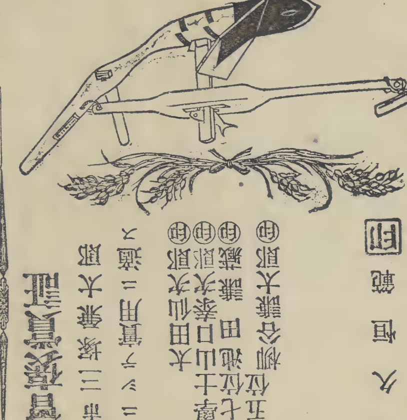
一　院中に史局を設け六國史以下の闕を補ふ事

右等の趣向を眼目として御工夫を御こらし可然候、他日御出國出來候はゞ先大原公父子へ御謀り公卿方の御論御伺、又關東下向堀江とも御相談被成天下同意の人々申合そろ〳〵京師にて御取建可然、尤も潮城鯖江等威權を振ふ間は少し御見合可被成候、近年の内両權仆るべし京師も九條公御辭職あらん、其後よき關白ありて關東と御一和の事も調候はゞ其節妙なり其内夷事も日々鷸深く相見候に付好機會の出る事もあらん、何分京と關東との形勢を熟覧してどうも六ヶ敷は最前の論の如く吉田にてなすなり妙なれば學習院へ出るなり、此所は足下の眼中にあれば委くは難申候、堀江何卒出牢させ度ものなり、僕より勝野保三郎へ申遣置候山口三輶など好策なきかと申遣置候、堀江出牢と御聞被成候はゞ早速諸事御通信可然、可學可賴別封一通御覽此人の心中察給へ
僕天下の士を多く見候得共無學にして篤志なること如此人は多く見不申實に奇人なり、
僕出國以來五箇月に相成候得共小田村久阪等一書もなし足下は在獄なればせん方なし、僕においては不苦事には候得共諸友の疎濶は志の薄き故かと大に懸念致候此事兄出牢せば一論あるべし、作間、彌二、德民などのこと甚だ懸念なり、此三人は決して變せぬに相違はなくと存候、岡部是亦不可棄、此四人兄幸愛之、福原は長進と察候何如にや、佐世も心にかゝり候、來原、中村、餘り周布風を學び大人振り後進を導くことを不能るが患なり、中谷は自妙、山口にて一世界をなせかし、要之諸人才器齷齪天下の大事を論ずるに不足、吾が長人
[illegible]淺念淺念、足下久阪を[illegible]なり、高杉大に長進とは察候共此也

改良深耕犂

證明書
富山市鍛治町二十七番地　三塚兼太郎
犂
右本人ノ請求ニ依リ之ヲ實驗スルニ本縣在來ノ犂ト比シ特ニ勞力ヲ要セズ深耕ニ適當スルモノト認定ス依テ之ヲ證明ス
明治廿七年五月十九日
富山縣農事試驗場㊞

證明書
富山市　三塚兼太郎
犂
右本人ノ請求ニ依リ農業者數十名ヲシテ本村大字小泉村字南田ニ使用セシメタルニ在來ノ犂ニ比シ人馬ノ勞力ヲ要セズ克ク深耕ニ適セリ依テ之ヲ證明ス
明治廿七年十月廿九日
富山縣上新川郡堀川村長　高安健三郎㊞



勞力を要せざる深さ程度左の如し
第一號　極深起
第二號　五寸迄
第三號　四寸迄
號外　三寸迄

富山市設博覧會褒賞証

犂　富山縣富山市　三塚兼太郎
銅牌　製作堅牢ニシテ實用ニ適スルヲ見ル
審査員　農學士　太田仙次郎㊞
正七位　山口泰次郎㊞
審査員長　從五位　池田謙藏㊞
勳五等　柳谷謙太郎㊞
右薦告ニ依リ之ヲ授與ス
明治二十七年六月十五日
總裁　富山縣知事　正五位勳五等　德久恒範　印
副總裁　富山縣　富山市長　正八位　前田則邦　印

大日本農會參事　正七位　深水池田謙藏君讃詠
三塚犂のために
百姓たち金かすきなら此犂て　すきて取るへし　わけもなきもの
深水しるす

證明書
富山市　三塚兼太郎
犂
右本人ノ請求ニ依リ實業者數名ヲシテ本村領内乾田ニ試用セシメタルニ在來ノ犂ニ比シ勞力ヲ要セズ深耕ニ適スルモノト認ム依テ之ヲ證明ス
明治二十七年十一月十一日
富山縣射水郡打出本江村役場㊞

證明書
富山市鍛治町二十七番地　三塚兼太郎
犂
右本人ノ製作ニ掛ル第貳號犂本村大字布目村ニ於テ業者數拾名ヲ集合シ小職之ヲ實驗スルニ本村在來ノ犂ニ比シ土細ニ掛リ特ニ人馬ノ勞力ヲ要セズ深耕ニ適當スルモノト認定依テ之ヲ證明ス
明治廿八年三月廿三日
富山縣婦負郡倉垣村長　村上吉重郎㊞

證明書
富山市鍛治町二十七番地　三塚兼太郎
犂
右本人ノ製作ニ係リ明治二十八年三月二十日本村大字下野村早田ニ於テ近村ヨリ農民數十名ヲ集メ使用セシメ所在來ノ犂ニ比シ人馬ノ勞力ヲ省キ良結果ヲ得タリ茲ニ之ヲ證明ス
明治二十八年三月二十二日
富山縣婦負郡神明村役場㊞

にても十分の議論せす、歸國大に殘多事共なり

未十月廿日

子遠兄　足下

松陰

嗚呼是れ渾身たゞ熱血、天地を動す積誠、鬼神を泣かしむる眞情、一藩を鼓舞し、海內を感化し、維新中興の首唱者たりし吉田松陰先生が從容國に殉したる一週前、之を同囚堀江克之助に托して入江子遠に寄せたる書面なりとは爲すなり、之を一讀する者、如何に松陰先生が死に垂んとするに際し其志の國家に在り、尊攘に在り、維新中興に在りたるかを察するに足らん、書中に所謂堀江なるもの水戶藩の人、嘗て人を助けて父の仇を復したるともある男子にて、彼は出獄後人の殺す所と爲りしと云へり、先生が此人を推稱すること以上の如くなるに據れば彼も亦眞實の人物たるや疑ふべくもあらず、先生は『留魂錄』に於ても

「堀江常に神道を崇め天皇を尊び大道を天下に明白にし異端邪說を排せんと欲す、謂らく天朝より敎書を開版して天下に頒布するに如すと、余謂らく敎書を開版するに一策なかるへからす、京師に於て大學校を興し上天朝の御學風を天下に示し天下奇材異能を京師に貢し、然る後天下古今の正論確議を輯集して書となし天朝御敎書の餘を天下に分つときは天下の人心自ら一定すへしと、因て平生子遠と密誓する所の尊攘堂の議を合せ堀江に謀り是を子遠に任することに決す、子遠若し同士と內外志を協へ此事をして少しく端緒あらしめは吾志とする所も亦荒せすと云へし、去年勅諚綸旨等の事一跌すと雖、尊皇攘夷苟も已むへきに非ざれば又善術を設け前緒を繼續せすんばあるへからず、京師學校の論亦奇ならずや」

と云ひ堀江を推せり、亦以て先生の志を天下の仁人豪傑に屬するの深くして且つ切なるを知るべきなり、品川子此事を余に語て云ふ『此書面は先師が堀江に托して之を入江は寄せたるものなれども如何なる故にや入江に達するに至らざりければ入江は生前之を視るに及ばすして逝けり、先年予は始めて此書面を水戶より獲たるものなり』

『尊攘は先師の志にてありき先師は死生を以て尊攘の目的を達せんとしたりき、而して志を得ずして死したり、先師が尊攘の大義を唱ふるや藩議の礙ぐる所と爲るに拘らず、小人の沮む所と爲るに拘らず、獄舍に投せらるゝに拘らず、斷頭塲裏の露と爲るに拘らず徹頭徹尾其志を變せざりき、而して同志の動もすれば躊躇逡巡するや之を鞭ち之を叱し、身を以て之に率先したり、口に尊攘を唱へて實行無きものを視るや『尊攘非不可爲、吾之非尊攘也、尊攘自期而非尊攘、吾事已矣、然則何如、其由積誠始乎』と云て自ら無用の言を言はざるを誓ひ、快事を聞かざれば飮食せざるを誓ひたり、入江子遠が要駕の擧に與するや『防長絕無尊攘之人、雖吾不復言尊攘也、然則防長唯一人而已矣、切勿自輕焉』と云て之を激勵したり、其百計跌き萬策破れて獄舍に投せらるゝや、其胸中に沸騰する熱血、積誠、眞情の餘瀝を濺き將て同志に與へ併せて天下の仁人豪傑と共に天下の事を成さんとを同志に繰返して言へり、彼の『尊攘堂』設立の目的も亦此志に外ならず、後來久坂、入江、高杉の如き、又は木戶の如き、或は一身を以て國家に殉し、或は隻手を揮て妖雲を驅り、終に維新中興の始を成したるもの、是れ豈先師の皷舞作勵に由るにあらずして何ぞや』

『今や皇國征淸の偉業を奏し赫々たる宏謨八荒を掩ふに至れるもの、皮相より之を視れは誠に現代文武の將帥宰相の力に由るものゝ如くなれとも其實は嘉永癸丑外患內憂並びに迫りしより、先帝躬を以て天下に率先し、我國民天賦の大和魂を激發し、志士身を殺し仁人國に殉し、頹波を挽き天日を回し、由て以て皇政を復興したる賜なるのみ、彼の徒に目前の功名に汲汲として先輩志士の苦心を忘るゝものゝ如き、豈共に國事を談ずるに足らん哉』

談此に至て子は愴然たるもの之を久うし『顧みれば先師死せしより既に三十七年、我師友と仰ぎし久阪も高杉も入江も前後相繼て逝きぬ、彼を懷ひ此を憶へば寸腸万斷予も亦自ら我死所を知らざらんとす、予不肖先師の志を成すこと能はざれども同志皆歿して其志を繼ぐもの無ければ、責めては先師及び先輩同志に報ゆるの一端として『尊攘堂』設立の擧ありし所以也』と云ひ自ら感慨に堪へさるものゝ如くなりき

西鄕南洲、木戶松菊、大久保甲東、の諸士は尊攘の大義を奉じて以て中興維新の始を成しぬ、今の志士たるもの、如何にして其終を成すべきか、古の所謂尊攘とは王政を復し外侮を禦ぐと云ふに在りと雖、今の所謂尊攘とは帝業を恢にし外政を振ひ、光威を宇內に輝かし此帝國の擴大を謀るにあらずや、嗚呼思甫先生品川子爵が『尊攘堂』設立の目的、豈獨り殉難志士の神牌を祭り英雄豪傑の靈魂を吊すと云ふに止らん哉

紫山　川崎三郎　謹て識す

尊攘堂

A Short History of the Raw Silk Manufactured by the Yonetake Gumi.

The Manufacture of the Yonetake raw silk, was at first commenced in the 11th year of Meiji (1878), and it was in the 20th year of Meiji (1887) that this Association was formed, and Rules elaborated. At that time members numbered only one hundred, but it has been increasing year by year. In the 23rd year of Meiji (1890), they were more than four hundred, and in the following year, they enlarged their operations, and the number of members was doubled. In the 25th year of Meiji (1892), it has further increased to one thousand and five hundred, and four thousand and five hundred work women were employed.

The amount of raw silk manufactured in the 25th year of Meiji (1892), was a little over 25,000 catties, but next year, on account of a large number of persons who wishes to join the Association, it is estimated that the quantity will be increased by 50 per cent. on the previous year.

The machines used by this Association, are hand machines of the most improved kinds.

One package of the raw silk contains 56 skeins.

The trade marks are as follows.

1st class. 國光 *(nation bright) in two Chinese characters.*
2nd class. A heraldic dragon.
3rd class. A golden tortoise.

As in spinning the silk, climate bears great importance, this is commenced at the **Hange** *(1st July), and finished during about one hundred days.*

Each member spins from the cocoons produced individually and is not allowed to buy from others.

On account of the shortness of the time thus required in manufacturing, the task of preserving the silk is not only easy, but gives great facility in making selections, and owing to these courses, the silk manufactured by this Association is of most excellent quality, even and bright.

The Yoriawase or Hidariyori (left twisting) of the silk is a new invention of this Association; the thread is thus twisted two or three times more and its tenacity is greatly increased by this means.

The uniformity of denier is due to the strict observance of the Rules by members, and the rigorous examination.

The Agewaku (an instrument for reeling silk) is constructed in convenient places, at the rate of one to every ten houses of the members of the associations. There each member brings his silk, and the gathering is brought before the General Superintendent, who strictly examines and classifies the silk according to quality, which is divided into three classes as first, second and third, and respective trade marks are put on each. They are exported, and the silks of inferior qualities are sold for home consumption.

The incomparable qualities of the silk manufactured by this Association, are its pure whiteness and glossness, and possessing great tenacity.

It generally happens that to retain whiteness, causes the loss of tenuity, or to have tenuity affects the colour. But after an experience of more than ten years, this Association at present produces silk of most excellent qualities complete in every way, having overcome all the defects.

The proof of having attained the present perfectness, is readily shown by the patronage, this Association receives from foreign firms, and the annual increase of orders that are given to them.

The silk of this Association is manufactured to suit the Lyon's market, and the agent of this Association in Yokohama is Gosaburō Yoshino: his business name is Yamamoto.

The silk manufactured in the years 23rd (1890) and 24th (1891) of Meiji, were sold to Mr. Robison, a merchant No. 3 Yokohama, and that of this year was sold to a firm of No. 206 Yokohama. Messrs Varenne & Co.

The present condition of prosperity of this Association, is mostly due to the important and untiring assistance rendered by a well known expert, Mr. Jiunchiū Otaka, and also to the strict observance of the Rules of the Association by all its members. In view of exhibiting raw silk of this Association to the Columbian World's Fair, I humbly presents the above brief history of the growth of the Yonetake Assoiation.

Sayemon Yonetake,

General Superintendent of the Yonetake Association,
Shiraishi, Ōshiū, Japan.

January, 26th year of Meiji.

米竹組生絲之記

一米竹組蠶絲ハ明治十一年ニ濫觴シ廿年ニ至リ堅メテ組合ヲ立テ規約ヲ定メ組員一百餘人爾後年々ニ進歩シ廿三年ニハ四百餘人廿四年ニ擴張シテ八百餘人廿五年ニハ一千五百人ト成リ製絲工女四千五百餘人ニ至レリ但シ一千五百戸ニメ工女ハ戸毎ニ多寡不同ナリ

一廿五年製絲額和量二萬五千餘斤廿六年ニハ新加組員ノ申込多ク製絲額五割許ヲ增スノ目的ナリ

一製造スル器械ハ座繰ニテ數回工夫改良セシモノナリ

一荷作リハ一括五十六本一本必ス一綛ナリ

一商標ハ（一等書國光 二等書丸龍 三等書金龜）ナリ

一製法ハ天時ノ適度ヲ專一トシ半夏（七月一日）ニ始メ大凡一百日間ニ終ル繭ハ戸別自家收品ニ限リ之ヲ製シ他ヨリ買入ヲ禁ス製造ノ日數短カキ故ニ繭ノ貯藏モ容易ニシテ撰リ別ケモ精密ニスルヲ得製絲ノ均一光澤純良ナル皆之ニ原因スルナリ

一絢合即チ「左捻ヨリ」ノ數ハ他ノ製ニ比シテ其數二三倍多シ彈力ノ強キハ之レニ因ル是ノ「左リ絢合ヨリ」ハ本組ノ新工夫ナリ

一デニール一定ニシテ異同ナシ是レ亦工夫シテ約束ヲ嚴明シ組員堅ク守リ撰繭正確ナルニ起リ各自檢査届クニ依ル

一揚枠所ヲ十戸ニ付キ一ケ所最寄便宜ニ設置シ製絲ヲ持チ寄テ揚返シ統轄人ノ所ニ集メ統轄人一々鑑定品別シテ等級ヲ定ム等級ハ一等二等三等ト商標ヲ附シ輸出品トス等外ハ留メテ内國用ニ供ス

一本組製絲ノ獨得無比ノ長所ハ純白ニシテ光澤善ク彈力強キ是レナリ蓋シ製絲ノ純白ヲ勉ムレハ彈力弱キノ忌ミ有リ彈力強キヲ求ムレハ光澤ヲ鈌クノ嫌ヒ有リ普通ノ製絲此ノ兩個ノ忌嫌ハ其一ヲ免レザルモノトス本組十餘年研究シテ純白ニシテ光澤アル彈力強キ細大均一デニール一定シ絢合十分ナル製絲ヲ成就シタリ此レ絲質ノ本然ヲ全フセシモノナリ

一製法右ニ述ルカ如ク完全ノ域ニ達シタルノ證ハ廿年以後頗ル外客ノ愛顧スル所トナリ多ク前約シテ輸出販賣セリ
其販路ハ左ノ如シ
總テ歐洲法朗西國里昂府向キニテ賣込問屋ハ横濱山本號吉野五三郎ナリ
廿三年廿四年兩年製品ハ横濱三番商館ロビソンへ賣渡セリ
廿五年製品ハ横濱二百六番商館へ賣渡セリ

右ハ本組座繰製絲ノ要略ナリ蓋シ本組ノ業茲ニ至ルハ始メヨリ斯業ニ老功ナル尾高惇忠氏ノ指教參畫ニ賴リ研究練磨ノ功ト團結鞏固ノ誠ヲ以テナリ今ヤ米洲博覽會ニ出品スルニ方リ是ヲ附記ス乞フ覽觀ノ諸彦之レヲ諒スルヲ祈ル

明治廿六年一月

大日本奥州白石聯合製絲米竹組
統轄人 米竹清右衛門 謹記

改良品 朝鮮支那國行 小石アル故 籾細キル故
別製 由印番付 代金貳圓五拾錢〔堺ヨリ大阪川口迄運賃九錢〕

大阪ヨリ汽船ニテ 朝鮮國〔釜山迄四十錢 仁川迄六十錢〕 支那國〔上海迄壹円 香港迄三円〕

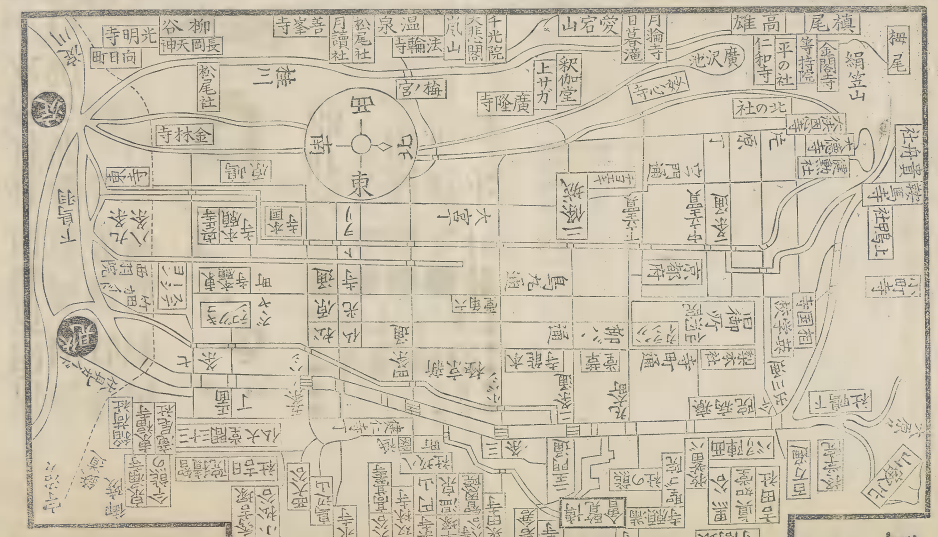
各港路汽船運賃表

〔日清事件ニ付當分間運賃確定追テ減額スベシ〕

港名	籾	麥	乙丙
麗嶋 田助 油津 伯耆國境 安來 米子 濱田 平戸	七十錢	八十五錢	三十五錢
延岡 細嶋 御莊 長洲 土々呂	六十錢	七十五錢	二十五錢
三角 百貫	三十五錢	四十五錢	十七錢
唐津 早岐 呼子 諸富 若津 万里 博多 大川 長崎	五十五錢	七十錢	二十五錢
高知	五十錢	六十錢	二十五錢
日出 守江 宇和嶋 佐賀關 吉田 貝塚 別府 川ノ石 大分 八幡濱 俵津	四十二錢	五十五錢	二十錢
中津 宇之嶋 杵築 臼杵 佐伯	五十三錢	六十五錢	二十五錢
島原 江崎 温泉津 萩	五十五錢	七十錢	二十五錢
尾ノ道 今治 宇品 三原 三ヶ濱 郡中 竹原 丸龜 長濱 呉 新居濱 音戸	三十錢	四十五錢	十五錢
高松 笠岡 多度津 小豆嶋 鞆津 玉嶋 福山 須本 岡山	三十二錢	四十五錢	十五錢
德山 忠海 馬關 久賀 下松 門司 室積 岩國 大畠 室津 柳井 福川 三田尻	四十五錢	六十錢	二十錢
播州諸港及古川	三十錢	四十錢	十五錢
和歌山 和船	十五錢	二十錢	七錢

堺市車之町東一丁立花貫全堂印行

京都概圖



三條大橋ヨリ丁程表

二條離宮	二十一丁
相國寺	二十八丁
下加茂神社	三十一丁
修學院	一里二十八丁
京都府廳	二十丁
北野天滿宮	一里十六丁
平野神社	一里二十丁
今宮神社	一里九丁
金閣寺	一里二十三丁
御室仁和寺	一里二十八丁
嵐山	二里十丁
高雄山	三里十一丁
梅之宮神社	一里三十四丁
長岡天神	三里二十八丁
西本願寺	二十八丁
東本願寺	二十三丁
東福寺通天橋	一里二丁
稻荷神社	一里十一丁
泉涌寺	一里
豐國神社	二十一丁
大佛妙法院	二十丁
三十三間堂	二十三丁
清水寺	二十二丁
建仁寺	十丁
西大谷	二十丁
四條大橋	六丁
五條大橋	九丁
東大谷	十五丁
八坂神社	十一丁
銀閣寺	三十丁
圓山	十五丁
南禪寺	十二丁
永觀堂	十五丁
黑谷	十八丁
眞如堂	二十一丁
大極殿	八丁
第四回博覽會	七丁
七條ステーション	三十一丁
帝國博物館	二十四丁
新京極	三丁半
宇治町	四里十六丁
伏見町	二里十八丁
比叡山	三里
鞍馬山	三里二十三丁
男山八幡宮	六里
愛宕神社	四里六丁
大悲山	八里十丁
柳谷	四里
大津町	二里二十五丁
向日町	三里二丁
醍醐寺	三里九丁
萬福寺	三里六丁

合語 純良藥品賣捌處 前神彰榮堂

御しい小水
おろ下町

王大之磨齒

大日本帝國農商務省御登録濟

●別製大瓶一箱十二本入●定價一瓶廿五錢●大瓶一箱十本入●定價一瓶十三錢●中瓶十五本入●定價一瓶八錢●小瓶一箱卅本入●定價一瓶五錢

●此小町水は第一きめをこまかにしておしろいの毒をけし●ひゞ●そばかすふきでもの●顔手足のあれ●こしわをのばし夏日にやけず●あせもかくひ等の憂ひなき事は普く世人の賞賛せらるゝ良品なり

品質齒質ヲ強固ニ齒色ヲ潔白シ光澤ヲ其香氣ナラシメ優ルモ事又他ニダイヤモンドの命名に背かず

●袋入二錢●小箱三錢●大箱五錢●瓶入十錢●鏡付大箱十錢●鏡付鑵入十五錢●高等名木箱入卅錢

●●新製小町水おしろい
水おしろい花くらべ
箱詰瓶數定價も小町水と同じ
大瓶一箱十五本入
小瓶一箱三十本入

●へちまざらし雪月花一箱廿五本入
●水おしろい
●淺匂ひ入小町洗粉定價大袋五錢小袋壹錢

●松本陸軍軍醫總監
●順天堂大先生
●先正四位勳二等
●大方劑
●利水散
三日分十二錢
七日分廿五錢
●天眞丹
五十五粒入五錢
百二十粒入十錢
二百六十粒入廿錢
●通の振出し
四回用量五錢
麻袋入二錢
●風ぐすり
麻袋入二錢
●無臭肝油
一瓶五十錢

新工夫輕便 懷中たんぽ

定價
小形十錢
大形廿錢
別製大形四十五錢

●効能水氣●脹まん●かつけ
特効藥なり
●効能氣のふさぎ●めまい●胸腹痛其外懷中良藥
●効痛氣●食滯●溜飲●寸白
●のぼせ其外大便不通藥
●効能●引風感冒發熱の妙藥
●効能肺病●血液病●皮膚病●子宮病腺病等なり

温石の火勢の如く猛烈ならずして懷中によく寒夜の明るまで保ちて疝氣すバく●冷ばらなどよれ甚しき効あり旅中にハ別して欠くべからざる良品なり

海陸動功紀念 帝國萬歳 宮內省御用 連勝紀念
分捕たやぼん 定價十錢
意匠最も斬新にして勇壯活潑ならしむる効あり
金鷄石鹸 定價十五錢
意匠最も優美にして勳功紀念となる寫眞を添ゆ
支那占領石鹸
●レスピラートル 一名呼吸器
定價二十五錢ヨリ壹圓五十錢マデ各種
牡丹香水 一瓶五十錢
●チンス入

賣藥化粧品類問屋
宮內省御用達
東京市日本橋區馬喰町壹丁目六番地
岳陽堂 平尾賛平
〔電話六百五十二番〕

米國女史コールベー氏ノ書簡寫

To the Public,

I have used a tooth powder prepared by Mr. J. Mayegami of Osaka, for a year or two with much satisfaction and have also continually recommended and given it to my friends.

Used in connection with a little pure soap I consider it a most excellent dentifrice and gladly give my testimony to this effect

A. M. Colby
25 Concession
Osaka.
May 14, 1888.

大阪市內ハがはきにて御注文の節現品御送附の上はがき代返上全國中賣捌處なき地方より代價十錢以上御注文の節は遞送無料にて直に御送附仕候

登録商標 M

ゼーエム印齒磨廣告
一名前神はみがき

瓶入	箱入	袋入
八錢	三錢	二錢
十二錢	四錢	ヨリ
十六錢	五錢	
五十錢	十錢	
	五十錢	

齒牙は幼時より老後に至るまで一日も注意を怠るべからず、怠たれば齒列を惡くし病を起し早く腐れ脫て食物の消化を妨げ顏貌を醜くするなどの事あり、而して注意の第一は毎日好き齒磨粉を用ひて淸潔にするにあり、然に世間に販賣する齒磨散を見るに、其製多くは粗雜にして往々至險なる材料を用ひて、恬として顧慮するところ無きは比々是なり、ドクトル、フランシス氏も、「人誰か齒牙を愛せざらんや、然るに世間には烏賊甲、浮石、木炭等の如き溶解せざる物質を混化して製造せる磨齒粉を用ひて毫も怪しまざるは誠に驚く可き愚昧なり、蓋は彼の溶解せざる物質の如きは或は一時齒牙を純白に磨勵き得るの効あるべきも、その粉末の齒牙の間隙に殘り、多くの時日を經過するも、依然として溶解せざるより遂に不測の病を釀生して齒牙の本質を傷害する事誠に鮮少ならざる者なればなり」と言へり、故に弊堂は夙にドクトルアダムス氏及びドクトル、フランシス氏の說に從ひ、總て舶載の純眞品のみを用ひて本邦未曾有の勵齒粉を調製し之を販賣する事年久しかりしが其齒牙を純白にし齒齦を堅固にして動搖せしむることなく併せて口中の惡臭を去りて精神を爽快ならしむるは實に豫想の外に出で、一度用ゆれば最早他品を用ゆる能はずと云ひ、又た齒牙の病に長く苦みたる人はこのはみがきを用たる以來其病苦を全く免れたりと云へるなり、內國人は勿論、外國人に至るまで皆嘆稱して措かず特に大阪居留地に在る米國女史コールベー氏の如きは慇懃に明治廿一年五月右に揭ぐる所の書を寄せて余は前神君の精製に係る西洋はみがき粉を一兩年の間試用せるに頗る能く齒牙を養ひ之をして堅固ならしめたるは余が實に經驗に依て保證する所なれば、余は余の友人に向つて此のはみがき粉を用ゆべきを勸告し、且余も亦繼續て之を用ゆるを喜ぶものなりと、西京に在る第三高等中學校敎師元齒科專門醫たりしギユリキ氏も亦本年(廿四年)二月左記の如く書を寄せて余輩は在阪以來試用たれば、此はみがきの精良安全なるを世に向つて心より保證する事を喜ぶものなりと謂へり、加之ならず帝國大學其他公私立學校學生諸君多く之を賞用し中には自他購得の便宜を計り各地販賣處設置の爲助力を賜ふ向きも尠しとせず斯く內外上流諸君の稱讚して世に試用を勸め居るは之が品位の知るべき事實の一たらん唯願くは大方の諸君、右に告白する所を疑はずして之を試用し以て其齒牙を堅固にして且淸潔ならん事を謀り給はゞ啻に弊堂の光榮なるのみならず、抑亦諸君が其洪福を此のゼーエム印齒磨散に感謝すべきの時期あるを信じて疑ざるなり

請合純良藥品賣捌處
大阪高麗橋通心齋橋筋南
前神彰榮堂

The present condition of prosperity of this Association. is mostly due to the important and untiring ...

大阪市内ははがきにて御注文の節現品御送附の上はがき代返上全國中賣捌所なき地方より代價拾錢以上御注文の節は遞送無料にて直に御送附仕候

米國女史コールベー氏書簡ノ寫

To the Public.

I have used a tooth powder prepared by Mr. J. Mayegami of Osaka, for a year or two with much satisfaction and have also continually recommended and given it to my friends.

Used in connection with a little pure soap I consider it a most excellent dentifrice and gladly give my testimony to this effect

A. M. Colby

25 Concession

Osaka.

may 14. 1888.

登録 商標

ゼーエム印齒磨吉

一名 前神はみがき

瓶入	七錢ヨリ	種々
箱入	三錢ヨリ	種々
袋入	貳錢ヨリ	種々

ゼーエム印齒磨の効用

此のゼーエム印齒磨は純良なる舶來の原料を以て製造を鄭重にし粉末極めて緻密なれば、にこれを用ゆるに少しも齒牙を損せずして齒色を純白にし、齒齦を固め、口中の惡臭を去り、芳香馥郁として精神を爽快にし氣鬱を散ぞるの功あり。從來一たび此の齒磨を用ゐし人は、もはや他の齒みがきを使用する能はぞとの賞讃を得たり。試みに左の一項を讀みて其聲價のあるを知り玉へ

ゼーエム印齒磨の名譽

此齒磨は從來西洋はみがきと稱へ販賣せしに去る明治廿一年五月圖らぞも米國の貴孃コールベー女史これを使用し其功用の尋常ならざるを知られたれば賞讃の餘り、別項の書簡を寄せられたり又同廿四年二月第三高等中學校教師ギエリキ氏亦此齒磨を試用し非凡の效力ありとて是亦別掲の手簡を送りて大に其効力を賞揚せらる、に至れり

又帝國大學第三高等中學、同志社大學、札幌農學校等の學生諸氏は殊に此齒みがきの功用を説きて廣く佳評を傳へられしより各地の學校教員學生諸氏より續々愛購の命を賜はるに至りたるのみならぞ去五月七日の朝日新聞紙上博覧會漫評中に「東京の齒磨もこれに及ばざるべし」云云の評言を揭げらる、に及びて層一層の價聲を揚げ隨て業務の繁盛を極むるは弊堂の名譽といふべし

婦人用旅行持

博覽會の販賣店并休憩所

今回第四回勸業博覽會正門前大阪賣店中通りへ「ゼーエム印齒磨」販賣店を出し且其東隣へ休憩所を設け常に清潔なる水を備へて試用の便に供したり。乞ふ博覽會御觀覽の後御休憩ありて御試驗あらんことを

「ゼーエム印齒磨」は其裝置をも美麗にし且御婦人持、御旅行用等に供する爲め「瓶入」「サ

(明治二十五年三月十七日遞信省認可)

弊店開業繼續百年ニ相當スルヲ以テ聊カ祝意ヲ表スル爲七月一日ヨリ十二月卅一日迄正價八拾錢以上御購求ノ御來客樣ヘ紀章進呈

金銀白銅紀章進呈仕候

十三四五才のでつち數名入用おせわ被成下候

一刄物類御用ヒ相成候上刄アマク切惡ク候得バ何時デモ御取替申候刄カケ刄キレ先折等請合不申候

一代呂物御不用之節ハ刄カケ先折ヨゴレサビ等出來不申候內御戻被下候得バ外品ヲ以テ御引替申候右出來候上御戻ニ相成候共戻リ請取不申此段御斷申候但シ相應直段御引下相成候上ハ御取替申候

一諸方ヱ賣入一切出シ不申候並ニ御得意廻リ等決テ致不申候間御入用ニ候得バ直ニ御注文被下度候

一大阪市東區本町橋東詰府立大阪博物場並ニ北區堂島田簑橋北詰商品陳列所共一月一日ヨリ十二月卅一日迄年中休ミナシ年々開場有之候ニ付出品致シ有之其外諸方博覽會ニ出品仕候間御縱覽之節何卒御購求被成下度希望仕候　一御送金被成下候節ハ大阪川口郵便局ヱ御振込ミ被下度候

正吉總鋼本燒料理庖丁發明製造履歷

祖父則チ初代吉田源正吉ハ紀伊殿御用御刀鍛冶畠山大和介源朝臣正光ノ弟子ニシテ天明年ヨリ傳習シ寛政年ニ開業シテ關西向地成總鋼本燒料理庖丁ヲ發明製造シ數多ノ料理調理人其他利器使用スル職工人等ニ交際シ日用食物調理普通諸物品裁裂切刻ミ等實地適用恰好効用保チ方等ヲ經驗製造シ好結果ヲ得日本全國料理調理人其他利器使用諸君ノ高評信用ヲ得タリ且舊江戶地方ヨリ需ニ應シ關東向江戶形總鋼本燒料理庖丁ヲ發明製造シ清綱ト稱シ文化年ヨリ輸送シ販路ヲ擴メ名譽ヲ得タリ其後我父則チ二代目吉田源正吉ノ世ニ至リ購求者ノ需ニ應シ江戶形ニ限リ正綱ト改稱シ正ノ極印打込ムヲノ方ヲスリ脫シ杉ムヲトシ文政年ヨリ輸送シ大井ニ販路ヲ擴メタリ其後世ニ杉ムヲ正綱ノ名譽日本全國ニ及ヘリ然ルニ我父及拙者世ニ至リ贋造僞名スル者續々多キニ至リ正吉清綱正綱正印ハ料理庖丁利器等ノ普通名稱ノ如ク相成候ニ付先般農商務省ノ認可ヲ得㊞正吉ノ商標ヲ附シ以テ該眞僞ヲ分ツ若前圖ノ如キ商標ナキ物品ハ假令正吉ノ名義アルモ正品ニ無之候○明治元年ノ頃迄ハ專ラ料理庖丁ヲ製造セシカ逐次發明スル所有以テ遂ニ現ニ販賣スル如キ物品ヲ製造シ得ルニ至ル普通ノ利器製造者ハ普通ノ鐵煉鋼或ハ西洋鋼ヲ用フ該鋼タルヤ美ニシテ各種アリ其用ヒ方モ自由ニテ大ニ便利ナリ亦製造法ニモ輕便ナル製造法種々アリ然リト雖モ實用ニ適セス保チ方等不良ト信ス自分カ製造ス利器ニ於テハ家傳ノ秘方ト數年間晝夜苦心シ憤發勉強シ金錢雜費ヲ惜マス原質ノ精良撰ミ注意加ヘ改良調製シ功用便益ヲ計リ時用保チ方等頗ル良シキヲ得タリ尙可相成廉價ヲ以テ精々相働キ候間陸續御購求被成下度願上候

發明年歷 壹百年	正吉 清綱	元祖 初代	吉田源正吉　安政三丙辰五月四日沒ス 年八十二才
改良年歷 六拾五年	正綱 正印	元祖 二代	吉田源正吉　明治七甲戌四月十八日沒ス 年六十八才
改良年歷 參拾年			

正吉當時三代目　大阪市西區靱南通五丁目三拾五番邸　吉田眞七源正吉

の面白い、今年源平にせう。とは少坊チャアよろ

身は

めしが

かはしる

もかお

るかな…

る哉

り

たかな

かお

北濱の日本生命保險會社へ御心です子ー、叔母「勿論のことで、よく行屆きますから私共も限ります。なさいヨ、今度取られチャい

ば

りつ♪

勝つた方はお祝ひなされ「日本帝國萬歲……

水泡ニ歸セン

皇室進呈紀章

開業繼續百年ニ相當スルヲ以テ聊カ祝意ヲ表スル爲七月一日ヨリ十二月卅一日迄正價八拾錢以上御購求ノ御來客樣ヱ

金銀白銅紀章進呈仕候

（幹店）十三四五才のでつちも數入用おわせ被成下候

一刃物類御用ヒ相成候上刃アマク切悪ク候得バ何時デモ御取替申候刃カケ刃キレ先折等請合不申候
一代呂物御不用之節ハ刃カケ先折ヨゴレサビ等出來不申候內御戻被下候得バ外品ヲ以テ御引替申候
右出來候上御戻ニ相成候共戻リ請取不申此段御斷申候但シ相應直段御引下相成候上ハ御取替申候
一諸方エ賣人一切出シ不申候並ニ御得意廻リ等決テ致不申候間御入用ニ候得バ直ニ御注文被下度候
一大阪市東區本町橋東詰府立大阪博物場並ニ北區堂島田簑橋北詰商品陳列所共一月一日ヨリ十二月卅一日迄年中休ミナシ年々開場有之候ニ付出品致シ有之其外諸方博覽會ニ出品仕候間御縱覽之節何卒御購求被成下度希望仕候　一御送金被成下候節ハ大阪川口郵便局ヱ御振込ミ被下度候

正吉總鋼本燒料理庖丁發明製造履歷

祖父則チ初代吉田源正吉ハ紀伊殿御用御刀鍛冶畠山大和介源朝臣正光ノ弟子ニシテ天明年ヨリ傳習シ寬政年ニ開業シテ關西向地成總鋼本燒料理庖丁ヲ發明製造シ數多ノ料理調理人其他利器使用スル職工人等ニ交際シ日用食物調理普通諸物品裁製切刻ミ等實地適用恰好効用保チ方等ヲ經驗製造シ好結果得日本全國料理調理人其他利器使用諸君ノ高評信用ヲ得タリ且舊江戶地方ヨリ需ニ應シ關東向江戶形總鋼本燒料理庖丁ヲ發明製造シ淸綱ト稱シ文化年ヨリ輸送シ販路ヲ擴メ名譽ヲ得タリ其後我父則チ二代目吉田源正吉ノ世ニ至リ購求者ノ需ニ應シ江戶形ニ限リ正綱ト改稱シ正ノ極印打込ムヲノ方ヲスリ脫シ杉ムヲトシ文政年ヨリ輸送シ大ヰニ販路ヲ擴メタリ其後世ニ杉ムヲ正綱ノ名譽日本全國ニ及ヘリ然ルニ我父及拙者世ニ至リ贋造僞名スル者續々多キニ至リ正吉淸綱正綱正印ハ料理庖丁利器等ノ普通名稱ノ如ク相成候ニ付先般農商務省ノ認可ヲ得正吉ノ商標ヲ附シ以テ該眞僞ヲ分ツ若前圖ノ如キ商標ナキ物品ハ假令正吉ノ名義アルモ正品ニ無之候○明治元年ノ頃迄ハ專ラ料理庖丁ヲ製造セシカ逐次發明スル所有以テ遂ニ現ニ販賣スル如キ物品ヲ製造シ得ルニ至ル普通ノ利器製造者ハ普通ノ鍛煉鋼或ハ西洋鋼ヲ用フ該鋼ダルヤ美ニシテ各種アリ其用ヒ方モ自由ニテ大ニ便利ナリ亦製造法ニモ輕便ナル製造法種々アリ然リト雖モ實用ニ適セス保チ方等不良ト信ス自分カ製造ス利器ニ於テハ家傳ノ秘方ト數年間晝夜苦心シ憤發勉强シ金錢雜費ヲ惜マス原質ノ精良撰ミ注意加ヘ改良調製シ功用便益ヲ計リ時用保チ方等顯ル良シキヲ得タリ尙可相成廉價ヲ以テ精々相働キ候間陸續御購求被成下度願上候

發明年歷壹百年	正吉淸綱 元祖初代	吉田源正吉	安政三丙辰五月四日沒ス年八十二才
改良年歷六拾五年	正綱正印 元祖二代	吉田源正吉	明治七甲戌四月十八日沒ス年六十八才
改良年歷參拾年	正吉當時三代目	大阪市西區報南通五丁目三拾五番邸 吉田眞七源正吉	

日本生命保險株式會社廣告

(圭) 大坂本社 大阪市東區北濱三丁目十五番屋敷(電話二二三番)
(圭) 東京支社 東京市日本橋區瀬戸物町十一番地(電話千七番)
(圭) 京都出張所 京都市下京區烏丸通り四條上ル箏町十三番戸
(圭) 名古屋出張所 名古屋市茶屋町六十一番戸

當會社の資本金は參拾萬圓にして積立金は五拾餘萬圓なり

當會社の資本金及積立金は國債證券地方債證券に代へて日本銀行へ保護預けとなすを以て確實堅固なり

當會社の保險金は八百七十餘萬圓にして此被保人員三萬千六百人なり、又當會社が契約に基き既に拂渡したる保險金は拾九萬六千圓なり

當會社の代理店は內國到る處に設置し目下二百二ケ所の多きあり故に被保人は保險料拂込に便利なり

皇軍連戰連勝帝國の占領地は將に東亞の大半に及ぼさんとす此の如き慶瑞なる新正を迎ふるは實に空前の盛事と奉祝賀候、降て弊社明治廿二年開業以來日増に盛運に赴き候に付ては猶本年より役員一同益々奮勵して斯業の進歩を謀り聊か涓滴の微衷を盡し度存候條舊に倍し御愛顧を給り度先は新年の祝詞旁如此に御座候謹言

日本生命保險株式會社

社長	鴻池善右衞門
副社長	片岡直温
取締役	弘世助三郎
同	松本誠直
同支配人兼	泉清助
取締役	土居通夫
同東京支社長兼	谷謹一郎
監查役	岡橋治助
同	西田永助
同	竹田忠作

新作 保險かるた

昨年のお正月にはお祖父さまい狂言を御覽なすッたでせうは軍國のことですから皆さま分れて歌かるた取でも致しま此かるたはいつもの百人一首し變つてますから、お嬢様もンも氣を付けて下さいな。サしいか讀みますヨ。

我いのち保險してこそたしかなれ　世を思ふゆへに物思ふ…

けふこそは保險を受けて喜ばし　人しれずこそ思ひそ…

君はまだ保險せぬかと勸むるも　いかに久しきものと…

若くとも生命保險を怠るな　けふをかぎりの命と…

末のため拂ひつゞける保險料　長くもかなと思ひけ…

養老の保險をあての隱居料　人の命のをしくもあ…

わづらひて保險のなきをくやみけ…　かこち顔なる我なみ…

山師等の立てた會社に入る人は　くだけて物を思ふ頃

娘「お叔母さん私のお母さんは… 這入て入らッしゃるから安… 彼の會社は評判の堅い會社で… や迄もなく當世は日本生命に…

叔母「サア皆さん能くお取りな… けませんヨ、

勝軍ふるさと遠くながむれ…　富士の高峰に雪は降…

ドタバタ〳〵

誰樣がお取りなすッたサア…「一同聲をそろへて…

確實ナル會社ヲ擇ラベ然ラザレバ爾ノ深慮ト慈愛ハ

○中形親王 專賣特許吾妻染謹告

今回勸業博覽會ニ出品セル專賣特許あづま染中形ハ白地ニ特種ノ光澤アル黑色ノ形摸樣ヲ染出セル高尚優美ノ浴衣地ニシテ其染色ノ堅牢ナルコト幾回洗濯ヲナスモ決シテ变色ノ憂ヒナキハ誓ツテ保証スルモノナリ殊ニ両面形摸樣ノ鮮明ニシテ能ク符合シアル事我專賣染ノ特有ニシテ各需要諸君ノ最モ好評ヲ博シ日ニ増シ販路擴張ヲ見ルハ我發明者及ヒ發賣店ノ光榮トスル處ニシテ益々品質ヲ精撰シ洽ク愛顧各位ノ貴需ニ應ゼント爰ニ賣店ヲ開設シ今回出品セシ同一種ノ精品ヲ廉價ニ販賣セントス江湖ノ諸君續々御購求アランヿヲ

○再伸 多數御用向ノ節ハ東京發賣本社又ハ京都大阪有名關東呉服木綿問屋ニ特約店アリ御便利ヲ謀リ當賣店ヨリ紹介可仕候

第四回內國勸業博覽會前東京府笠井中村賣店

あづま染製造所 東京市小石川區茗荷谷町 笠井染工場

特約發賣本店 東京中形金巾裏地木綿問屋 東京市日本橋區富澤町 中村合名會社

別表小包郵便料

	二百目迄	四百目迄	六百目迄	八百目迄	一貫目迄	一貫二百目迄	一貫五百目迄
二十里迄	六戔	八戔	十戔	十二戔	十四戔	十七戔	二十戔
四十里迄	七戔	十戔	十三戔	十六戔	十九戔	廿三戔	廿七戔
六十里迄	八戔	十二戔	十六戔	二十戔	廿四戔	廿九戔	三十四戔
八十里迄	九戔	十四戔	十九戔	廿四戔	廿九戔	三十六戔	四十三戔
百里迄	十戔	十六戔	廿二戔	廿八戔	三十四戔	四十二戔	五十戔
百五十里迄	十二戔	十九戔	廿六戔	三十三戔	四十戔	四十九戔	五十八戔
二百里迄	十四戔	廿二戔	三十戔	三十八戔	四十六戔	五十六戔	六十六戔
二百五十里迄	十六戔	廿五戔	三十四戔	四十三戔	五十二戔	六十四戔	七十六戔
三百里迄	十八戔	廿八戔	三十八戔	四十八戔	五十八戔	七十一戔	八十四戔
三百里以外	廿一戔	三十二戔	四十三戔	五十四戔	六十五戔	七十九戔	九十三戔

第一條 小包郵便料ハ小包郵便物ノ重量及其差シ立郵便局ヨリ配達郵便局迄ノ里程ニ從ヒ別表ニ依リ之ヲ徵收ス

第二條 郵便局市外ニ送達スル小包郵便物ハ其重量ニ從ヒ別ニ左ノ郵便料ヲ加徵ス
小包郵便一箇重量六百目迄二戔 同一貫目迄四戔 同一貫五百目迄六戔

第三條 小包郵便物ノ容積及重量ハ左ノ制限ヲ超過スルヿヲ得ズ
容積長サ曲尺二尺、重量一貫五百目

第四條 小包郵便物ノ登記價額ハ金百五十圓ヲ超過スルヿヲ得ズ

第五條 價額登記小包郵便物ノ保險料ハ登記金額一圓迄金七錢トシ金一圓毎ニ金一錢ヲ加フ

第六條 通常小包郵便ノ損害ニ對シテハ重量百目ニ付キ金拾錢ノ割合ヲ以テ之ヲ賠償シ其一部分ノ損害ニ對シテハ此制限內ニ於テ其損害ノ多少ニ從ヒ賠償ス

第七條 價額登記小包郵便物ノ損害ニ對シテハ其登記金額之ヲ賠償シ其一部分ノ損害ニ對シテハ登記額內ニ於テ其損害ノ多少ニ從ヒ賠償ス

附則

第八條 小包郵便物ヲ取扱フ郵便局ハ遞信大臣隨時之ヲ告示ス

…本標本ハ本邦陶磁器用著名ナル原料ヲ試驗シタル結果ニシテ原料土石類ノ理學的性質及燒成的試驗等ヲ施ス

大阪市內ははがきにて御注文の節現品御送附の上はがき代返上全國中賣捌所なき地方より代價

The present condition of prosperity of this Association, is mostly due to the important and untiring assistance

大阪市内ははがきにて御注文の節現品御送呈の上はがき代返上全國中賣捌所なき地方より代價

第四回內國勸業博覽會及平安遷都紀念大極殿之圖

機械工藝部
機械科(發動機「蒸氣機關瓦斯機關水車等ヲ云フ」其他製造機械類ノ製作業)
電氣工業科 當分實施セス)
各科ニ於テハ其專門ニ係ル學理幷實業及補助學科タル數學物理學圖書等ヲ授ク故ニ授業ノ一半ハ教場ニ於テ一半ハ各實驗工塲ニ於テ爲スモノトス
教員養成所ハ東京工業學校長ノ管理ニ屬シ徒弟學校及工業補習學校ノ教員タラントスル者ヲ養成スル所ニシテ本科速成科ノ二科アリテ本科生徒ノ修業年限ハ二ヶ年ニシテ其一部ハ地方長官ノ薦擧ニ係リ他ノ一部ハ競爭試驗ニ合格シタルモノヨリ選拔ス又速成科生徒ノ修業年限ハ一ヶ年ニシテ悉皆地方長官ノ薦擧ニ係ルモノヨリ選拔スルモノトス本所本科速成科所定ノ教科左ノ如シ

本科
金工科 鑄造、板金工、鍛工、仕上
木工科 大工、指物、金工小細工等、木器製造等
染織工科 前揭東京工業學校科目ニ仝シ
窯業科 仝上
應用化學科 仝上

速成科
金工 鑄造、板金工、鍛工、仕上
木工 鏇工、指物、金工小細工等、木器製造等
染色工 染色實驗
機織工 機織實驗
陶器工 陶磁器製造實驗

附屬職工徒弟學校ハ職工タラントスル兒童ノ入學シテ實地ノ業ヲ執リ且補助タル學科ヲ授クル所ニシテ三ヶ年ヲ以テ卒業スルモノトス其教科ハ左ノ如シ
木工科 大工、指物ノ業
金工科 鍛冶鑄物仕上ノ業
工業教員養成所本科生徒入學ノ資格ハ年齡滿十七歲以上滿二十五歲以下ノ男子ニシテ尋常中學卒業以上ノ學力ヲ有スルモノ又同所速成科生徒入學ノ資格ハ年齡滿三十歲以下ニシテ徵兵現役ノ義務ナク尋常小學三年級以上ノ讀書算ヲ爲シ得且其志望スル學科ノ工業ニ三ヶ年以上從事シタルモノタルヘシ
附屬職工徒弟學校徒弟入學ノ資格ハ年齡滿十二歲以上滿十五歲以下ニシテ尋常小學三年級以上ノ讀書算ヲ爲シ得ルモノタルヘシ
工業教員養成所生徒及附屬職工徒弟學校ノ徒弟タルヘキモノハ工業家ノ子弟ナルトキハ教育ノ効更ニ多キモノトス是レ其工業ノ素養アルヲ以テナリ又夫ノ稟性理化學數學圖書等ヲ嗜好スルモノヽ如キハ入學後學業ノ成績ニ於テ實ニ工業教育上望ム所ノモノナリトス
本校生徒ハ汎ク全國ヨリ募集スルノ主旨ヲ以テ尋常中學優等卒業生ニ限リ無試驗入學許可ノ制ヲ設ケタリ
工業教員養成所及附屬職工徒弟學校規則ノ詳細ヲ知ラント欲スル者ハ貳錢郵劵封入本校ヘ照會セラルヘシ

發行所 東京市日本橋區藥研堀町三十三番地 東京工業學校
印刷者 東京市日本橋區藥研堀町三十三番地 仁科信厚
印刷所 東京市日本橋區藥研堀町三十三番地 仁科衞舍

東京工業學校出品概說

本校ノ出品ニ係ル物品ハ其數少シトセス茲ニ一々之カ解說ヲ揭クレハ徒ラニ繁雜ニ涉ルヲ以テ今各科中主要ノ物品ニ就キ概說スル左ノ如シ

染織工科

染織工科ハ染色及機織ノ學理ト實地製造トヲ教授ス即チ染色ニ於テハ纖維染料ノ理化學的性質及媒染劑ノ性質製造ヨリ纖維ノ練晒浸染捺染ノ方法等各般ノ技術ヲ實驗シ以テ學理ノ應用ヲ示シ機織ニ於テハ織物ノ組織意匠及機械ノ構造ヨリ織成及分解ノ方法等ヲ實驗スル所トス其教授順序ノ概略ハ實驗品ニ就テ觀ルヘシ今本科出品中主要ナルモノヲ概說スレハ左ノ如シ

一 アニリンブラック染額
本標本中綿繻子アニリン黑染ハ絹綿兩纖維ヲ生糸ノ儘織成シタル後精練シテ之ヲ鹽化アニリンニテ黑色ニ染メタルモノナリ
一 織物浸染額
本標本ハ綾織教授ノ順序ヲ示シタルモノナリ
一 織物分解表額
本標本ハ織物ノ組織方ヲ分解表示シタルモノナリ
一 紋織物額
本織物ハ其傍ニ付著セル意匠圖ニ依テ織成シタルモノニシテ其意匠ハ意匠紙ニ放大ニ描キタルモノナリ
一 絹縮緬地額
本標本ハ染料ヲ撰テ浸染セルモノニシテ種々ノ透色アリ其日光及雨ニ堪ユルハ組織ノ緻密ナルト撥水性ヲ纖維ニ付著シタルニ依ル

窯業科

窯業科ハ陶器磁器石器玻璃セメント煉瓦漆灰及窯業上所用顏料等ノ學理ト實地製造法トヲ教授ス乃チ本邦所產各原料ノ理化學的性質及燒成試驗等ヨリ成坯陶磁器ノ製造法築窯法等ヲ授クル所トス而シテ陶磁器ニ關スル意匠ノ如キ之ヲ授クト雖製品ノ形狀及意匠ノ如キニ至テハ修業年限ノ短キカ爲メ專ラ力ヲ化學上ノ實驗ニ用フルヲ以テ十分ナラサルノ憾ナキ能ハサルナリ其授業順序ノ概略ハ實驗品ニ就テ觀ルヘシ今本科出品中主要ナルモノヲ概說スレハ左ノ如シ
一 陶磁器原料燒成試驗標本
本標本ハ本邦陶磁器用著名ナル原料ヲ試驗シタル結果ニシテ原料土石類ノ理學的性質及燒成的試驗等ヲ施ス

（明治二十五年三月十七日遞信省認可）

日出新聞號外

明治廿八年
十月廿五日

最近電報

●將校下士卒の賞功
（十月二十五日午前六時二十分東京發至急報）

左の通り御沙汰ありたり

陸軍歩兵少尉 田中 實
陸軍歩兵少尉 金子爲次郎
陸軍歩兵少尉 高木 赳夫
陸軍歩兵少尉 小林 越路
特務曹長 西 確衞
特務曹長 田原音次郎
特務曹長 荒井常太郎
曹長 上原吉太郎
一等軍曹 田邊 源八
一等軍曹 小池安三郎
一等軍曹 小藤 勘藏
一等軍曹 谷口三之助
一等軍曹 千本木庄吉
一等軍曹 田中 佐一
一等軍曹 深澤 藤作
一等軍曹 鈴木 良吉
二等軍曹 荒木七次郎
二等軍曹 小山六太郎
二等軍曹 小島長次郎
二等軍曹 佐藤 廣吉
上等兵 加藤金太郎
上等兵 小山順次郎
上等兵 武井竹次郎

授金鵄勳章敍功七級
（賜年金百圓）

上等兵 三原 久次
一等卒 難波 吉次
一等卒 内藤藤太郎
一等卒 柴田善太郎
一等卒 土方 元吉

右の外有井一等軍曹以下三百六十八名は勳八等に敍し白色桐葉章を授けられ倉田一等卒以下百二名は勳八等に敍せられ瑞寶章を授けられたり

●三浦公使の免官
（十月廿五日午前六時三十分東京發至急報）

左の通り辭令ありたり

特命全權公使子爵 三浦梧樓
免本官

●退韓者の繫獄
（十月廿五日午前六時四十分東京發至急報）

退韓者岡本柳之助氏外二十名に對し廣島地方裁判所は拘留狀を發し昨日拘引の上監獄署へ護送したり罪名は兇徒嘯集及び謀殺の二罪被告件事なり

發行兼印刷人 古谷義平
編輯人 米倉軌重
京都市三條通東洞院東入曇華院前之町第十七番戸内第一號
發行所 日出新聞社

（明治二十五年三月十七日遞信省認可）

日出新聞號外

明治廿八年
五月一日

●伊東全權辦理大臣の出發

全權辦理大臣伊東巳代治氏は愈々本日午後四時二十五分七條發の滊車にて神戸に赴き今夕は同地一泊明日廣島に出で更に宇品より乘船先づ大總督府所在地に至り其れより直ちに日清兩國條約交換の地と豫定されたる芝罘に向ふと云ふ

京都市三條通東洞院東入曇華院前之町第十七番戸内第一號
發行所 日出新聞社
發行兼印刷人 古谷義平
編輯人 米倉軌重

日出新聞號外

（明治二十五年三月十七日遞信省認可）

明治廿八年十月九日

最近電報

●親任式（十月九日午前十時八分東京發至急報）

本日午前宮中に於て親任式を行はせられ左の通り任ぜられたり

宮中顧問官兼內藏頭從四位勲三等 白根專一

任遞信大臣

遞信大臣兼大藏大臣正三位勲一等子爵 渡邊國武

任大藏大臣

●京都大坂両府知事の更任（同上）

本日左の通り辭令ありたり

京都府知事正四位勲三等 渡邊千秋

任內藏頭（叙一等）

大坂府知事從三位勲二等 山田信道

任京都府知事（叙高等官一等）

從三位勲三等 内海忠海

任大坂府知事（叙高等官一等）

發行兼印刷人 古谷義平
編輯人 米倉軌重
京都市三條通東洞院東入臺華院前之町第十七番戸內第一號
發行所 日出新聞社

日出新聞號外

（明治二十五年三月十七日遞信省認可）

明治廿八年十月十三日

●劉永福降る（十月十三日午後二時三十五分東京發）

劉永福は英國領事を經由して市街及び住民を救護し部下の兵を清國本地に送還せんとの條件を以て我海軍に參降を申込みたりと上海及香港各駐在本邦領事より其筋へ電報ありたり

發行兼印刷人 古谷義平
編輯人 米倉軌重
京都市三條通東洞院東入臺華院前之町第十七番戸內第一號
發行所 日出新聞社

日出新聞號外

（明治二十五年三月十七日遞信省認可）

明治廿八年七月十一日

●勸業博覽會褒賞授與式

第四回內國勸業博覽會褒賞授與式は豫定の通り本日午前九時 御名代山階晃親王殿下御臨場擧行せられ十時卅分を以て式終りたり當日賜りたる 勅語左の如し

第四回內國勸業博覽會出品の審査全く畢るを告ぐ列品の精良なる前回に勝り殖産興業の道逐次旺盛に赴くは朕の深く嘉みする所なり今爰に褒賞授與の典を擧げしむ汝等臣民其れ益々奮勵して敢て怠ること勿れ

●勸業博覽會受賞者

名譽賞（金牌）

一生絲 機械製 宮城縣 佐野製絲場

一石炭 三池炭山 福岡縣 三池炭山鑛業人 三井三郎助

一銅 足尾銅山及附屬古河鎔銅所 栃木縣 足尾銅山鑛業人 古河市兵衛

一北海道有珠郡拓地成績表 北海道 從五位勲四等男爵 伊達邦成

一製茶業 靜岡縣 茶業者

計五

名譽賞（銀牌）

一洋紙 各種 東京府 王子製紙株式會社

一活字 同 東京築地活版製造所

一天秤分銅 同 守谷定吉

一大日本農會規定及成績表其他付屬書類 同 大日本農會

一刺繡觀音圖 京都府 西村總左衞門

一白磁櫻花紋花瓶青華松鶴花瓶 同 清風與平

一綿絲 大阪府 大阪紡績株式會社

一再製茶四種 神奈川縣 大谷嘉兵衞

一燐寸 兵庫縣 大阪兵庫燐寸製造業組合聯合會

一煎茶 同 山本龜太郎

一競進社養蠶改良方案 埼玉縣 競進社

一高山社養蠶方案幷統計表 群馬縣 養蠶改良高山社

一羽二重及組合規約 福井縣 福井縣絹織物組合

一錦莞莚 岡山縣 磯崎眠龜

一食鹽 同 野崎武吉郎

一遠海漁業成績 山口縣 玉江浦漁業總代 藤崎幾左衞門

一米質改良組合規程及成績 同 防長米改良組合取締所

計十七

進歩賞 二百一点

妙技賞 百六十三点

有功賞 四千七百五十一点

協贊賞 四十九点

褒狀 一万二千五百四十八点

發行兼印刷人 古谷義平
編輯人 米倉軌重
京都市三條通東洞院東入臺華院前之町第十七番戸內第一號
發行所 日出新聞社

日出新聞號外

十月廿三日

●劉永福遁る（十月廿三日午前零時五十三分東京發至急報）

上海電報に依れバ劉永福は遁れて厦門の近傍に到着し黑旗軍は我軍に降參せしとの事なり

發行兼印刷人 古谷義平
編輯人 米倉軌重
京都市三條通東洞院東入臺華院前之町第十七番戸內第一號
發行所 日出新聞社

The present condition of prosperity of this Association is mostly due to the important and acti…

（明治二十五年三月十七日遞信省認可）

日出新聞號外

明治廿八年 十月二十日

最近電報

●劉永福降參の公報（十月廿日午后四時五分 東京發至急電報）

劉永福降參の公報只今大本營へ到達せり

●降參の始末（十月廿日午後四時五十五分 東京發至急電報）

劉永福降參の始末に付き大本營へ到達せる電報左の如し

本月十日劉永福は我に向け和を講ぜんとし要旨極めて不遜なる書を英國公使に托したるにより同公使は同國軍艦ピック號にて澎湖島に來り之を有地聯合艦隊司令長官に交附せり依て有地中將は十二日劉永福又は劉永福の正當なる代理人と平安沖に吉野艦に於て會見せんとを約せり此に於て十一日高島臺灣副総督は本職に代り劉永福の送りし書に對し答書を有地中將を經て劉永福に送り其要求を拒絶せり十三日(?)劉永福は復た英人二人に前同樣の書を托し近衞師團長のもとに送り來りしが近衞師團長は又斷然之を斥けたり

十月十九日　在臺北府臺灣総督　樺山資紀

發行兼印刷人　古谷義平
編輯人　米倉軌重
京都市三條通東洞院東入壘華院前之町第十七番戸內第一號
發行所　日出新聞社

（明治二十五年三月十七日遞信省認可）

日出新聞號外

明治廿八年 十月八日

●大院君王宮に侵入す（十月八日午后二時三十分 東京發至急報）

大院君は訓練韓兵二大隊を率ひ王宮へ侵入せんとし少しの抵抗を受けたるも終に突入せりとの電報其筋へ達したり

電報簡短にして其詳細を知り難けれども廿六日發の郵信に近日奇怪の風說種々京城に行はる云はく金宏集暗殺せらるべし〇〇にては其事を某々に命じたりと又云ふ宮中にては李埈鎔に入城すべき旨を傳へたりと又云ふ此頃大院君邸に出入する韓在宇なるものを捕へたるは餘程意味あることなりと此郵報に依れば京城の混雜を想ふべきのみならず既に兩三日來の電報にて閣員中金嘉鎭の更迭あり安駉壽の辭職せしあり金総理の股肱兪吉濬の地方に出づるあり府中と宮中との折合宜しからざるとの說あり閔泳駿の歸れる等韓廷動搖の兆は一にして足らず此等の事情よりして推せば何人か再び大院君を擁して閔氏を抑へんとしたるに非らざるか尚は後報を俟つ

京都市三條通東洞院東入壘華院前之町第十七番戸內第一號
發行所　日出新聞社
發行兼印刷人　古谷義平
編輯人　米倉軌重

商標 對州 千金丹

定價
十五角入　金三錢
二十五角入　金五錢
五十五角入　金拾錢

主治
●下痢　●留飲　●氣絶　●眩暈　●中暑
●口中不淨　●船車酒醉　●頭痛　●腹痛

効能及用量
●下痢症には一日三回五片づゝ用ゆべし
●船、車、酒醉には一片づゝ數回用ゆべし
●氣絶、眩暈、氣鬱等は其際適宜用ゆべし
●胸痛、積氣、溜飲、腹痛等の症は毎朝夕或は數回一二片づゝ用ゆべし
●毎朝之れを用れば口中の不淨を去る
●頭痛は唾にて双方の米嚙へはるべし
●切傷は嚙くたき傷處につくれば止血痛を去るべし
●旅行の節必ず貯へ服すべし風土の異る地に至るも中暑霍亂の憂なし
●平生之れを服用すれば流行病に傳染する憂なし

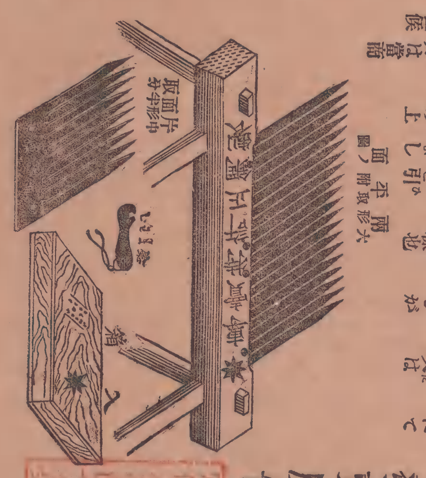
抑此千金丹は弊舖累代相傳の神劑にして對馬國嚴原に於て調劑發賣せしこと若干年內外花主の愛顧と信用とを蒙り業務旺盛なりしに家務の都合あり明治十五年店を長崎に移し商業も亦轉易するの止を得ざるに至りき然るに世運革新賣藥の如きも温古知新日を競夜に爭ひ其極突飛迷進江湖に愛顧家の多數なる本劑の如き能書に巧言を喋々し外粧に虛飾を重ね驅病救急の實は第二段とし唯利を獲るを專一にする向なきにしもあらず弊舖轉業以前の花主諸君中往々此弊を訴へ且際業務を復舊し名實匹敵の調劑に丹誠を凝らし內外の嗜好家に滿足を與ふべき旨恩獎の示諭を賜ふこと數回弊舖に於ても時務上大に感發する所あり前段花主の恩諭に謝し併せて新顧客の愛劑を禱る爲め先般藥舖を再興す能書の如きは最前に異ならず唯胃頭其効驗の著明なるものを略揭す請幸に江湖愛顧の諸大家本劑を服用翫味ありて世間獲利專門家の翻品と比較せられて優劣の等差を判定し賜もん事を希ふ

官許　元祖本舖　對馬國下縣郡嚴原國分町　榮壽堂　横松直治謹製
分舖　大阪南區道頓堀竹田横町　横松榮壽堂

各府縣有名なる賣藥店に大取次所あり略す

登録商標 專賣特許稻扱發賣廣告

一 特許稻扱は櫛歯状の鋼板二枚を四つの鋲釘にて臺木に取附るものなり
一 特許稻扱は舊式の稻扱の如く取附のゆるぎ又は歯並のゆがみなどの氣遣ひなし
一 故に特許稻扱は一挺にて右又は左又は裏表と取かへの自在なるが都合四度新規の働きをなす
一 特許稻扱の形式並に使用法は舊式稻扱と同様也
一 特許稻扱の効能は舊式の稻扱に倍す
一 特許稻扱は秋收の後は臺木より取外し油を引き縮に入れて仕舞置べし
一 特許稻扱は勸業農社長林遠里翁が實地試驗の上完全無比の改良稻扱たることを證明せらる
一 各地方に於て區域を定め特約一手專賣御望の方は當商會へ御引合ひ被下候はゞ規則に基き御相談可仕候



製造發賣元 大阪市東區南農人町二丁目（百八拾九番屋敷）

稻扱商會

日曜の月日なり

製元 阿部隆寛堂

大日本志摩國鳥羽港 濵ゆ今本舗

SENKIN TAN

Prepared only and sold by

OXAUCHI KANKODO,

(The druggist)

Minami Shinmachi

Takamatsu-shi Sanuki,

Kagawaken Japan

This is the best remedy for indigestion, and the startling cure for Cholera.

Look! Look! Full directions are given with each envelopement

大日本帝國陸軍御用 征清義軍ノ出陣ニ際シ御買上御用ヲ拜命セリ委細ハ能書ニアリ

二十切入 定價金五錢

登録商標 御敕拜領

Proved by Princess Murakumo 御用藥

官許 危篤救助

千金丹

讃岐國高松市南新町

本舗 岡内勸弘堂

5 五

効能之大意

健胃○溜飲○腸胃○下痢○船車酒酔○氣附○腹痛一切尚委しきは在中能書を熟讀なる上服用給ふ可し

商標

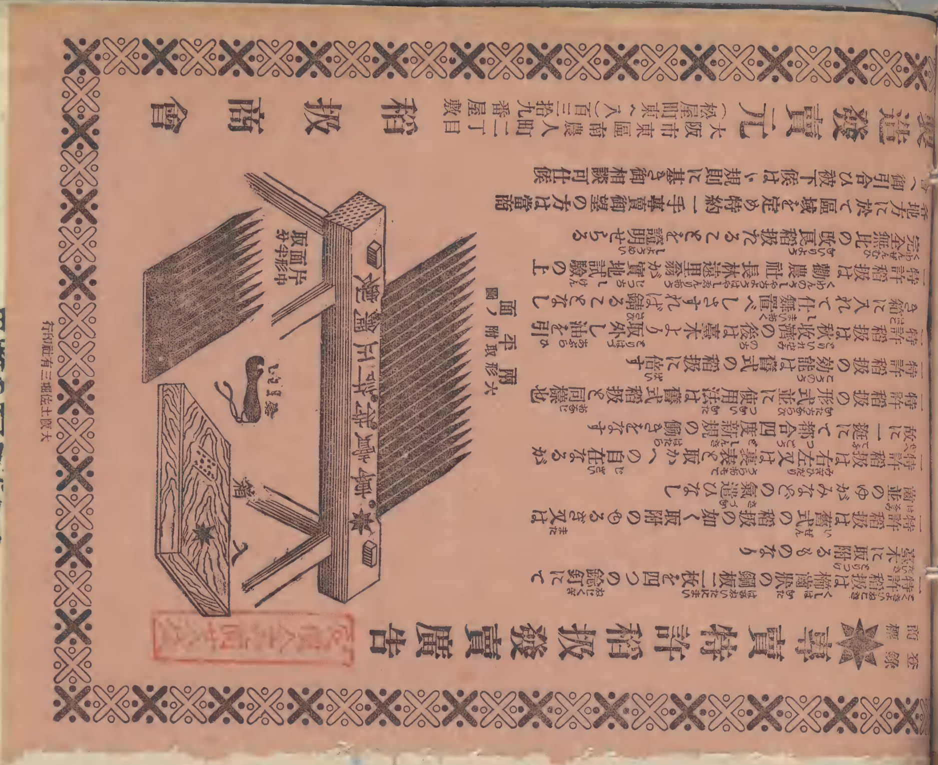
千金丹

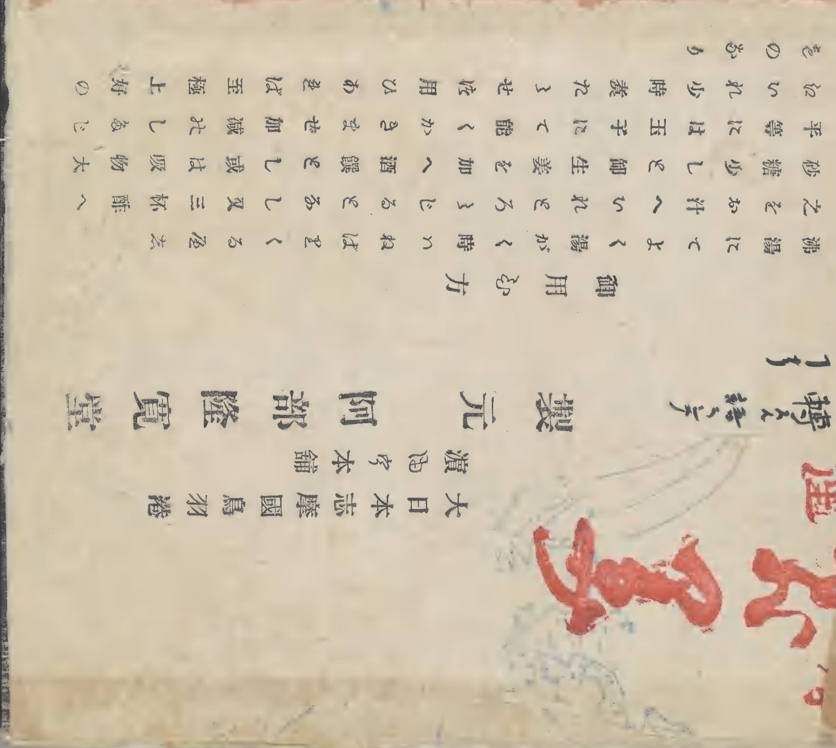
販元

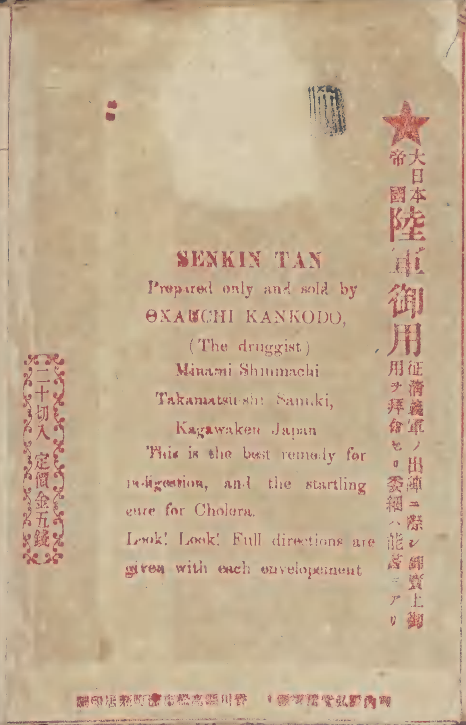
横松直治謹製

榮壽堂

The present condition of prosperity of this Association is mostly due to the







The present condition of prosperity of this Association is mostly due to the …

明治廿五年三月八日遞信省認可

讀賣新聞 號外

明治廿八年二月十七日

○我軍甯海を占領す

（十七日午前十一時三十分大本營發 同零時二十分陸軍省着）

二月十三日午後六時十分旅順發左の報あり

第二師團の獨立騎兵ハ昨十日九時敵の抵抗なく甯海州(威海衛と芝罘の間)を占領せり

其報告に據れバ昆家屯以東にハ敵なし

土人の言に敵ハ八九兩日に於て昆家屯より二部に分れ大部ハ福山縣小部ハ煙台の方向に逃れ去れりと

又甯海州人民ハ我に對し不穏の状なく却て我

○威海衛軍港の收領丁汝昌等の自殺

（十七日午前十一時卅五分大本營發海軍省着）

新納海軍少佐より左の事を報告すべき旨申來る

昨日司令長官ハ敵の軍司に向ひ請求通り允るをに依り軍港を開放すべし而して本日午前十時までに再び來り報ぜよと命ぜしに今朝其時刻前に來り報じて曰く

昨夜丁提督劉歩蟾(定遠艦長)チヨウブンセンハ自殺したり跡の事ハ總べて英人マックルウアに委任したりと云ふ依て司令長官ハ右マックルウアに今一の書簡を發し掛合中なりと

明治廿五年三月八日遞信省認可

讀賣新聞 號外

明治廿八年二月二十日

○敵艦受取濟と爲る

二月廿日午后〇時三十五分發

伊藤海軍次官　大本營

二月二十日中村常備艦隊參謀長崎發電左の電報持ち來れり

本日午前全艦隊威海衛港に入港劉公島砲臺水雷艇鎭遠・濟遠・平遠・廣丙・鎭邊・鎭中・鎭北・鎭南・鎭西・鎭東其他官衛受取濟となり鎭遠・濟遠・平遠・廣丙にハ回航員を乗船ぜしむ

準備整ひ次第鎭遠ハ一と先づ旅順口に其他ハ本邦に回航せしむる筈

各所砲臺及水雷衛所ハ旅順口海兵衛の兵員を

志ん板ましんゑ暦

遞信省認可 (明治二十五年三月二十二日)

やまと新聞號外

明治二十八年一月三十一日

○威海衛總進撃

一昨二十九日午後十時十分上海發の飛電に曰く

日本軍隊は威海衛の偵察を廿八日を以て終へ翌廿九日より海陸總進撃に掛りたり三十日は大劇戰ある可しと聞込めり

田庄臺を經て牛莊に達し未だ一度も戰ひを爲さざる者にて二千五百人ありと

敵の第一線は前進する模樣あり

之を要するに牛莊方面守備の敵兵は漸く勢ひを増す者と知られたり且つ右戰報中敵の第一線前進の模樣とは彼等殊勝にも我軍に對し逆襲を試みんとする事を指せしが牛莊方面に大劇戰の起る期も愈よ切迫したるが如し

○酒肴の下賜

(三十日午後三時廣嶋特派員發)

小松參謀總長宮には昨日大本營高等官へ酒肴を下賜せられたり

○[illegible]

外務書記官は九時何れも船に行き今使節と會談中にして使節は後刻上陸する筈

○請和使の上陸

(三十日午前十一時十五分神戸發)

正副使節及隨行員四名午前十時十分フオスター氏と共に端艇にて米利堅波止場より上陸ホテルに入る警察よりは正服の巡査七十名を道筋に出し警戒頗る嚴重也

○請和使廣嶋に向ふ

右の三公報は何れも海軍大勝の偉蹟を示す者なれど尙ほ昨夜來當社に着したる私電は左の如し

發行兼印刷人 奥隅欣二
編輯人 橋本己之治
發行所 東京市京橋區尾張町二丁目一番地 やまと新聞社

…水雷艇隊は月入り後東口防材の切れ目より入り敵艦隊を襲撃し定遠は確に破壊し靖遠も或は底を破りしやの疑ひあり我水雷艇隊破損第八號水雷艇機關室を打たれ機關部員悉く死傷其他は歸途防材の切れ目に逢ひ淺瀬に乘り揚ぐ且つ敵の發射を受け過半沈沒鈴木少尉外二名凍死、一名負傷、第八號(七ヶ)水雷艇、第十四號水雷艇は防材又は暗礁に觸れ舵又水進器破損、第

(三日)は第二遊擊隊第三第四遊擊隊は劉公島、日嶋砲臺を砲擊し筑紫一彈を受け即死二名、負傷數名あり敵艦隊も灣内を運轉し東岸砲臺を砲擊せり同夜(三日)は水雷艇を以て進入を試みたれども防材堅固警戒非常に嚴重然し少しく防材を破壞するを得たり今夜(四日)も亦防材の破壞を試むる筈、又本日西口砲臺に海軍より人員を出し敵艦隊を砲擊せしむるに着手せり目下東口砲臺にて使用し得る大砲は二十四

○定遠外諸艦擊沈の模樣

(昨夜十時發廣島特電)

四日の拂曉第二第三水雷艇隊都て十隻にて敵艦を襲擊し九號艇は敵の水雷[illegible]

…軍を喜び迎へるものゝ如し

艦隊は一昨夜より東口の防材取除けに從事し今夜も之を爲す筈なり

本日艦隊より劉公島東端の砲臺を砲擊し南岸陸地砲臺より敵の軍艦を砲擊す

二月十一日 威海衛 東條中佐

此電報は貔子窩亮甲店間は傳騎に依る

右情報は去る十二日原田大佐發敵艦白旗を揭げ云々の電報以前に於ける戰況にして電線障碍等の爲に遲着せるものなり

十三日午後一時 龍睡灣 黑井海軍大尉

○清國乞和使の任定

(十七日午後一時五分廣島西田鐵吉發)

北京より或る筋へ達したる電報によれば新任乞和使は張邵以外の人物たりとの事は既に確定したるも其李鴻章たるや恭親王たるや又其他の者たるやは未だ秘密なる由

發行兼編輯人 湊利吉
印刷人 山崎二郎
發行所 東京銀座一丁目一番地 合名會社日就社

…以て守備し居れり康濟は武裝を解き丁汝昌の柩を回送せしむる爲め彼れに與へたり

十七日 威海衛港 伊東聯合艦隊司令長官

發行兼編輯人 湊利吉
印刷人 山崎二郎
發行所 東京銀座一丁目一番地 合名會社日就社

逓信省認可（明治二十五年三月二十二日）

やまと新聞號外

明治二十八年二月九日

日本帝國 海陸軍大勝 萬々歳

●我水雷艇の奮進

二月九日午前一時五十五分廣島發 同三時 海軍省着

伊東海軍次官 大本營

左の電報は今朝江戸丸持歸り坪井旅順口海根據地司令長官發電す

四日夜第一水雷艇隊は西口を警戒し第二及び第三水雷艇隊は月入り後東口防材の切れ目より入り敵艦隊を襲擊し定遠は確に破壊し靖遠も或は底を破りしやの疑ひあり我水雷艇隊破損第八號水雷艇機關室を打たれ機關部員悉く死傷其他は歸途防材の切れ目に逢ひ淺瀬に乗り揚ぐ且つ敵の發射を受け過半沈沒鈴木少尉外二名凍死、一名負傷、第八號（七ッ）水雷艇、第十四號水雷艇は防材又は暗礁に觸れ舵又水進器破損、第

發行兼印刷人 奥隅欣二
編輯人 橋本己之治
發行所 東京市京橋區尾張町二丁目一番地 やまと新聞社

●出羽參謀長の報告

九日午前四時四十分廣島發 同 六時廿五分海軍省着

伊東海軍次官 大本營

去月三十日第三號水雷艇は港内に進入を試みたれども占領砲臺にて敵の水雷艇と見違ひたるものと見え砲擊烈しく、又た一日は打合せを爲し置き進入の筈の處ろ非常の暴風荒となり目的を達せず艦隊は去る一日一時榮城灣に引揚げ翌日少しく風和ぎたる故出港、水雷艇砲艦凡て無事、水雷艇砲艦は素より本艦の如きも大砲、艦体總て氷を以て張り閉ぢ其厚さ三吋乃至五吋に至れり昨日（三日）は第二遊擊隊第三第四遊擊隊は劉公島、日嶋砲臺を砲擊し筑紫一彈を受け即死二名、負傷數名あり敵艦隊も灣内を運轉し東岸砲臺を砲擊せり同夜（三日）は水雷艇を以て進入を試みたれども防材堅固撲滅非常に嚴重然し少しく防材を破壊するを得たり今夜（四日）も亦防材の破壊を試むる筈、又本日西口砲臺に海軍より人員を出し敵艦隊を砲擊せしむるに着手せり目下東口砲臺にて使用し得る大砲は二十四

沖合通行の際同港内にて頻に砲聲あり陸上より港内に彈丸飛散するを見る（敗兵の乱暴ならん）港内には英、獨、米、佛、露等の軍艦あるを見たりといふ よつて實況分り次第更に報告すへしと雖も如何にも不審に堪へざるに付き併せて至急報告す

二月七日午後九時

伊東聯合艦隊司令長官

右の三公報は何れも海軍大勝の偉蹟を示す者なれど尚ほ昨夜來當社に着したる私電は左の如し

●定遠外諸艦擊沈の模樣（昨夜十時發廣島特電）

四日の拂曉第二第三水雷艇隊都て十隻にて敵艦を襲擊し九號艇は敵の水雷

軍を喜び迎へるものゝ如し

艦隊は一昨夜より東口の防材取除けに從事し今夜も之を爲す筈なり

本日艦隊より劉公島東端の砲臺を砲擊し南岸陸地砲臺より敵の軍艦

十三日午後一時 龍睡灣 黒井海軍大尉

○清國乞和使の任定（十七日午後一時九分廣島西田鉄吉發）

北京より或る筋へ達したる電報によれば新任乞和使は張邵以外の人物たりとの事は既に確定したるも其李鴻章た

以て守備し居れり

康濟は武裝を解き丁汝昌の柩を回送せしむる爲め彼れに與へたり

十七日 威海衛港

伊東聯合艦隊司令長官

發行兼編輯人 湊利吉
印刷人 山崎二郎
發行所 東京銀座一丁目一番地 合名會社[illegible]社

り總攻擊に着手せし…愈ゝ事實なるべし大快報の到る期は實に刻下に迫れり

●牛莊方面の敵情

一月三十日午後 一時三十七分發 二時十五分着

兒玉陸軍次官 大本營

廿九日午後三時三十分發伊瀨地第一師團參謀長より左の報あり

在飛雲塞内山參謀より廿九日午後一時[illegible]平發の電報を以て左の報あり

我に對する敵は增加兵を得たる者の如し其兵力等は詳ならざれども土人の言に據れば南陽のリ某（李承先の）或ひはリウ某（劉盛休の）二万の兵を率ゐて牛莊に在りと

又別報に依ればリコウキウ老勝營五營を率ゐて牛莊に在り此の兵は湖南の兵にして南京駐在の者にて清曆十二月廿三日

●師[illegible]の補職（廿九日午後七時廣島特派員發）

昨日山澤陸軍中將は第四師團長に土屋陸軍少將は第九旅團長に補せられ留守第五師團長事務取扱心得を命ぜられたり

●請和使神戸に着す（三十日午前二時十分神戸發）

請和使張蔭桓等の一行は只今當港に到着し今朝上陸の筈、井上外務書記官は隨員山田鄭兩名を隨へ面會に赴けり

水上警察署にてはボート三艘バッテーラ三艘を出して警戒す

●使節と會談（三十日午前十時三十五分神戸發）

フオスター氏は八時半井上

（三十日午後三時廿六分神戸發）

請和使節及びフオスター氏は午後一時廿五分ホテルを出て直ちに尾張丸に乗込み只今廣島へ向け出發す井上外務書記官も同船に乗込めり又當地より警部一名巡査二名警戒として乗込む一行中官吏十四名ありフオスター氏は今朝北京總理衙門へ使節着の電報を發したり

●不埒の米國人（三十日午後三時廣島特派員發）

昨日上海發の電報に曰く曩に神戸に於て間諜の疑嫌に依り取押へられし爆發藥發明者米國人は目下威海衛に在りて敵の爲めに盡力し現に此頃當地（上海）より空中魚雷爆發藥の原料數多を取寄せたりと

六號水雷艇は小銃彈四十六發ホッチキス砲一發を、第十號水雷艇は小銃彈十發の命中を受け其他の水雷艇も多少發射を受けたるならん併し何れも死傷なし

昨夜第二、第三水雷艇隊西口を警戒し第一水雷艇隊は月入り後東口防材切れ目より進入し第廿三號小鷹及び第十一號水雷艇隊にて七發の水雷を發し致遠(鎮遠ならん)威遠及び砲艦一艘を沈沒せしめたり水雷艇は船人共に無事なり

第八號水雷艇、第十四號水雷艇は昨日八重山を以て旅順口に曳のしめたり

艦隊は絶えず港外に運動警戒し居りしが明日(七日)は陸上砲臺と協同し日島及び劉公島端の砲臺を破壞せんとす

西口砲臺は使用の見込なくして其方面の我陸戰隊は歸艦せり東口砲臺は參謀長より四日附にて報告せし者の外に廿四珊砲二門、十五珊砲一門、十二珊砲二門、我兵にて使用することゝなれり

二月六日午後四時 威海衛沖にて

伊東聯合艦隊司令長官

拇三門、二十一拇二門、十五梅一門なり去月三十日二十四拇一門は敵の艦隊砲擊の爲に破壞され海軍兵即死二名、重傷一名、輕傷一名あり

二月四日 威海衛沖にて

出羽聯合艦隊參謀長

◎又一報

二月八日 午後四時五十分廣島發 同六時五十五分海軍省着 大本營

伊東海軍次官

左の電報は只今九時西京丸持來り坪井旅順口鎮守司令長官の發電なり

昨日電報せし通り敵の砲臺砲擊の際敵の水雷艇十餘隻出で來る因て第一遊擊艦隊をして之を追はしめ水雷艇十二隻及小蒸汽二隻を芝罘鄰灣の龍門港まで追詰め陸岸に於て破壞若くは乘揚げ用ゆべからざるに至らしめたり又鮫嶋第一遊擊隊司令官よりの報告に依れば芝罘

艇に紛れて敵艦定遠に近寄り水雷二發を發射して定遠を擊沈めたり而して九號艇も沈められ即死四名負傷四名あり二十二號艇も坐礁し死傷者あり五日の夜第一水雷艇隊三隻にて又敵艦を襲擊し來遠威遠外一艦を擊沈せり

◎芝罘砲臺の攻擊

(八日午後六時上海發特電)

日本兵は昨夜(七日)芝罘の東方十哩の地點に上陸し芝罘の東砲壘を攻擊中なり

◎砲聲に就て

芝罘港內砲聲に就き昨夜十一時半廣島發の特電は左の如し

伊東中將の報告中芝罘邊の砲聲とあるは清の敗兵が芝罘通過のとき食物缺乏の爲に居留地に乱入し外國兵と戰ひしならんとの取沙汰あり

明治廿五年三月八日遞信省認可

讀賣新聞 號外

明治廿八年二月十三日

◎丁汝昌遂に降を乞ふ

(十三日午後二時四十分廣島西田銀吉發)

只今敵の砲艦一隻白旗を揭げ來りて丁提督より軍艦兵器砲臺等は總て差出すに依り陸海軍人及西洋人平民の生命を助けられんことを願ふ旨申來れり

十三日正午十二時

旅順 新納海軍少佐

發行兼編輯人 湊利吉
印刷人 山崎二郎
發行所 東京銀座一丁目一番地 合名會社日就社

(二月八日午後二時廣島西田銀吉發)

五日の夜第一二の水雷艇隊は岸に沿ひて威海衛に進入し四百米突の距離にて三發を放ち定遠鎮遠を擊ち沈めたり水雷艇は水雷を發射して歸航の際敵艦より砲擊を受け一艘は楫を擊たれ六名行衛知れずとあり船は旅順に歸れり又一艘は淺瀨に乘上げ艇長は海に落ち凍ゑんとしたれど助かり八名負傷あり此際來遠も大怪我にて傾けり六日の朝陸上より之を望むに他の敵艦は尚ほ依然たりと中村侍從武官より報あり

發行兼編輯人 湊利吉
印刷人 山崎二郎
發行所 東京銀座一丁目一番地 合名會社日就社

明治廿五年三月八日遞信省認可

讀賣新聞 號外

明治廿八年二月廿六日

◎李鴻章來朝の期

(二十五日上海)

媾和大使に任命せられたる李鴻章は去二十四日に參內して清帝に謁せり

李鴻章は二十七日に天津に歸り完全なる全權を帶び來月三日に天津を出發し日本に來ることに決せり

フオスター氏は先頭天津に赴き北京に入り專ら媾和事件に付き諮問を受け居れり

發行兼編輯人 湊利吉
印刷人 山崎二郎
發行所 東京銀座一丁目一番地 合名會社日就社

日出新聞號外

明治二十八年
一月十日

●蓋平を占領す

（一月十日午後五時二十九分廣島發）

今一日正午十二時金州廳發にて大本營に達したる公報左の如し

本日午前五時三十分より攻撃を始め同九時三十分蓋平を占領す敵兵は海山塞の方向に退却し目下追撃中なり彼我死傷未詳

一月十日　　大山大將

發行兼印刷人　古谷義平
編輯人　米倉軌重
京都市三條通東洞院東入臺華院前之町第十七番戸内第一號
發行所　日出新聞社